

平田一雄氏  
富岡村の士 昭和五年飛行第五聯隊第四中隊入隊八月發動機修業十二月航空兵上等兵令原隊第二中隊除す七月充員召喚上海に地隊近及び劉河鎮大場鎮附近の戰に參加四月二十五日まで上海に對陣四月内地歸還旋す五月召集解除飛行學校に勤務する



大野甲子雄氏  
富岡村の士 昭和五年歩兵第七十三聯隊機關銃隊入隊六月上等兵命十一月歸休除隊精勳章善行證書附與青訓指導員同村分會役員として努力する



平岡正二氏  
富岡村の士 昭和五年歩兵第一聯隊機關銃隊入隊十二月上等兵命善行證書附與する青年團分團長同村分會役員たり



砂川末久氏  
富岡村の士 昭和七年一月歩兵第一聯隊第九中隊入隊同八年七月歸休除隊八年度豫備召集の爲め原隊に應召褒賞休暇精勳章善行證書附與する



萩野與八氏  
富岡村の士 昭和七年近衛歩兵第四聯隊第六中隊入隊十二月上等兵命八年三月皇后陛下御誕辰に當り守衛勤務洒肴料下賜五月沼津御用邸儀仗兵として差遣八年六月伍長勤務に昇進十一月歸休除隊精勳章善行證書並に下士適任證書附與青訓指導員として盡力する



平岡總章氏  
富岡村の士 昭和七年近衛歩兵第一聯隊第五中隊入隊八年十一月歸休除隊善行證書附與する同村に於ける青年の中堅たり



神谷清氏  
富岡村の士 昭和五年歩兵第一聯隊第十一中隊入隊六年七月歸休除隊精勳章善行證書附與する同村分會班長たり分會の爲めに盡力する



小澤頌雄氏  
富岡村の士 昭和六年野戰重砲兵第四聯隊第六中隊入隊十二月上等兵命觀測手七年十一月歸休除隊精勳章善行證書附與同村分會班長に任ぜられ所澤飛行學校に勤務せらる



仲孟雄氏  
富岡村の士 昭和六年歩兵第一聯隊第二中隊入隊七年七月歸休除隊射擊精勳章精勳章善行證書附與する同村分會役員として分會の向上發展に努力する



石井久平氏  
富岡村の士 補充兵にして同村分會班長現任分會の爲めに大に盡力する



島崎治作氏  
富岡村の士 補充兵にして同村分會役員及青年團役員たり



大澤萬兵衛氏  
田面澤村の士 大正八年十二月鐵道第一聯隊第二中隊入隊九年四月西伯利亞出征浦鹽に上陸ニコリスク、スバスカヤ並に各地に轉戰武勳赫々たり凱旋戰役の功に依り戰役從軍記章叙勳八等瑞寶章授賜せらる大正十一年十月除隊同十三年授白色桐葉章賜同村分會役員盡力せらる

神山信榮氏

田面澤村の士 大正十年歩兵第六十六聯隊第四中隊入隊十一月八月第三中隊編入十二年十二月除隊す精勤章善行證書附與同村分會副長に就任分會事業に努力せらる



古川金治郎氏

田面澤村の士 昭和三年歩兵第一聯隊第三中隊入隊十一月御大禮大慶第一日御儀の際酒饌料下賜四年十一月除隊同六月十上等兵命七年二月編成下合機關銃第二大隊要員として應召三月上海派遣地の戦闘に参加し武勳赫々凱旋五月召集解除され七年三月酒肴料下賜精勤章善行證書附與同村分會長に就任せられ分會の爲めに貢献せらる



田島豊吉氏

田面澤村の士 昭和三年歩兵第七十三聯隊第三茂山守備隊要員として入隊國境警備に服し四年十二月上等兵命滿洲事變に参加各地轉戦し善行證書射擊章附與せらる青年團評議員同村分會第五班班長並に青訓指導員として盡力さる



山崎丁二氏

田面澤村の士 昭和三年補充兵として歩兵第四聯隊第四中隊入隊同八年九月召集解除さる六年九月勤務召集に應召さる青年團賛助員同村分會班長及幹事たり



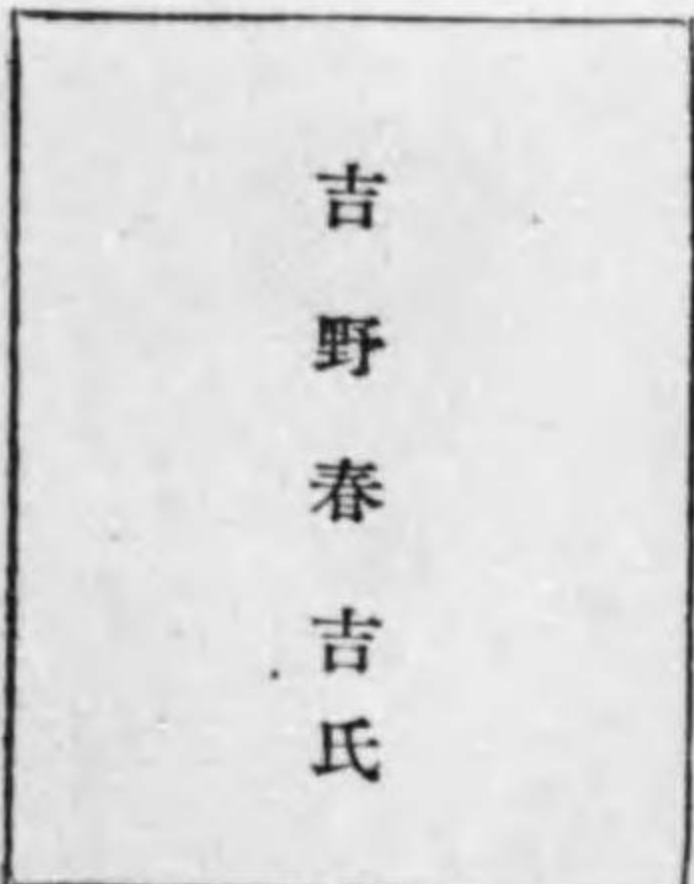
小澤善作氏

田面澤村の士 昭和五年歩兵第一聯隊第三中隊入隊十二月上等兵命同日伍長勤務昇進六年七月歸隊除隊八年九月任官歩兵伍長す精勤章善行證書附與同村分會役員並に青訓指導員囑託さる



吉野春吉氏

田面澤村の士 昭和五年工兵第一大隊第一中隊入隊十一月現役免除々除さる八年度勤務演習に應召同村分會役員として盡力せらる



山下喜平治氏

田面澤村の士 昭和六年野戰重砲兵第七聯隊第四中隊入隊七年十一月歸隊除隊す昭和九年度勤務演習の爲め原隊に應召九年五月砲兵上等兵命精勤章二回善行證書附與同村分會班長現任青年團副團長の士たり



高橋家治氏

田面澤村の士 昭和七年歩兵第一聯隊第三中隊入隊上等兵命在隊間成績拔群褒賞休暇四回精勤章三回善行證書及賞狀附與せらる除隊す同村青訓指導員囑託せられ村内に於ける模範青年たり



永根保之助氏

奥富村の士 昭和二年騎兵第十三聯隊機關銃隊入隊三年十一月御大禮大慶第一日御儀の際酒饌料下賜十二月上等兵命精勤章善行證書附與せらる同村分會副長に就任盡力せらる



松本鍋藏氏

奥富村の士 昭和六年歩兵第一聯隊第七中隊入隊七年四月上等兵命精勤章二回善行證書褒賞休暇附與せられ七年七月除隊す青年團副支部長にして運動副部長同村分會班長及理事青訓指導員等の各重職にある士なり



栗原文治氏

奥富村の士 昭和七年野戰砲兵第四聯隊第三中隊入隊八年五月神戸出帆大連着山海關、玉田、海城等各地戦闘に参加し十一月内地歸還凱旋す十二月除隊同村分會役員たり大に盡力さる



田邊清作氏

水富村の士 昭和三年野戰重砲兵第三聯隊第六中隊入隊四年十一月歸隊除隊精勤章二回四年十一月善行證書附與さる同村分會役員として分會の爲めに盡力さる



松村 要一氏



水富村の士 昭和七年野戦重砲兵第七聯隊第一中隊入隊十二月上等看護兵命八年七月除隊精勤章並に看護長適任證書附與同村分會評議員消防組救護班員たり

飯島 嘉助氏

水富村の士 昭和六年野戦重砲兵第四聯隊第三中隊入隊十二月上等兵命七年十一月歸隊除隊七年五月精勤章十一月善行證書並に下士適任證書附與さる昭和九年同村青訓指導員囑託盡力さる

長谷川 百壽氏

柏原村の士 大正十年歩兵第六十六聯隊入隊十一年四月二等看護兵命宇都宮衛戍病院編入十一年十二月上等看護兵命精勤章善行證書看護長適任證書附與同村分會理事及班長たり入間郡花卉園藝組合長に推さるゝ名望家たり

岡田 秀雄氏

日東村の士 昭和九年同村分會役員として分會の爲めに盡力せらる尙八年より青年團役員たり

長島 平吉氏

日東村の士 昭和九年四月より同村分會役員として盡力せられ青年團役員たり

山下 清司氏



日東村の士 昭和三年騎兵第十六聯隊第四中隊入隊三年度岩手縣地方に施行の特別騎兵演習並に特別大演習に参加十二月上等兵命四年十一月歸隊除隊六年度勤務演習に應召さる四年十一月善行證書下士適任證書附與同村分會役員現任盡力せらる

奥富 榮一氏

日東村の士 昭和五年歩兵第四十九聯隊へ幹部候補生として入隊昭和九年四月任歩兵少尉叙正八位被らる同村分會副長に就任分會の向上に努められ並に青訓指導員囑託さる尙青年團副長たり

奥富 伸雄氏

日東村の士 昭和五年騎兵第十三聯隊第一中隊入隊十二月上等兵命六年十一月歸隊除隊八年度勤務演習の爲め近衛騎兵聯隊に應召精勤章二回六年十一月善行證書附與せらる同村分會役員青年團副長たり

長島 由松氏

日東村の士 大正十二年歩兵第六十六聯隊第二中隊入隊十二年九月關東大震災の際東京地方で嚴勤務に従事十三年十一月歸隊除隊す昭和七年度勤務演習の爲め歩兵第一聯隊に應召精勤章褒賞附與同村分會役員として盡力さる

今井 正美氏

日東村の士 同村分會役員現任せられ鋭意分會事業の向上發展に盡力せらる

山崎 勝氏

日東村の士 昭和九年同村分會役員に就任分會の向上に盡力さる

會川 又次氏

太田村の士 大正十四年歩兵第六十六聯隊第六中隊入隊同年五月一日軍備整理に依り歸隊除隊す昭和三年度勤務演習の爲め歩兵第一聯隊に應召十一月一等兵命昭和九年六月勤務演習の爲め歩兵第一聯隊に應召さる同村分會役員として分會事業の向上に努められ同村青年會役員たり



水村 新吉氏  
太田村の士 昭和三年九月輻重兵第一大  
隊第二中隊入隊十一月歸休除隊同村分會  
役員現任せられ青年會役員たり



瀧島 秀五郎氏  
太田村の士 昭和五年歩兵第七十三聯隊  
第一中隊入隊六年十二月混成第三十八旅  
團編成下令滿洲出動の爲め羅南發奉天着  
及七年一月錦州に着同地附近警備に従事  
し五月五日密安に着警備を終へ歸還し十  
月廿日歸休除隊予善行證書附與同村分會  
役員並に青訓指導員として盡力さる



牛窪 佐重氏  
太田村の士 昭和五年横須賀重砲兵聯隊  
第五中隊入隊一月青訓修了者檢定に合格  
十月觀測手十二月上等兵命六年十一月歸  
休除隊五年六月下士適任證書附與昭  
和八年度勳賞演習の爲め原隊に應召さる  
同村分會役員並に青訓指導員として盡力  
せらる



落合 藤造氏  
太田村の士 昭和七年第一聯隊第十中隊  
入隊十二月上等兵命八年七月歸休除隊予  
十月勤務演習に應召七年度聯隊銃劍術競  
技會に於て當中隊成績優秀の爲め三日間  
褒賞休暇を附與せらる第一師團秋季演習  
に於て表彰さる八年七月善行證書下士適  
任證書附與同村分會役員青訓指導員とし  
て盡力せられ青年會體育部長たり



橋本文雄氏  
太田村の士 昭和七年羅南衛成病院看護  
兵要員として歩兵第七十三聯隊第九中隊  
入隊八年一月羅南衛成病院復歸八月一等  
看護兵命九年二月第十四旅團派遣並に歸  
還輸送清津に於て兵站衛生勤務に従事九  
年六月歸休除隊予精勤章二回善行證書附  
與さる



齋木 新平氏  
藤澤村の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
第七中隊入隊通信修業十一年十一月歸  
休除隊酒肴料下賜十年六月精勤章十一年  
十一月善行證書附與さる同村分會役員と  
して盡力さる



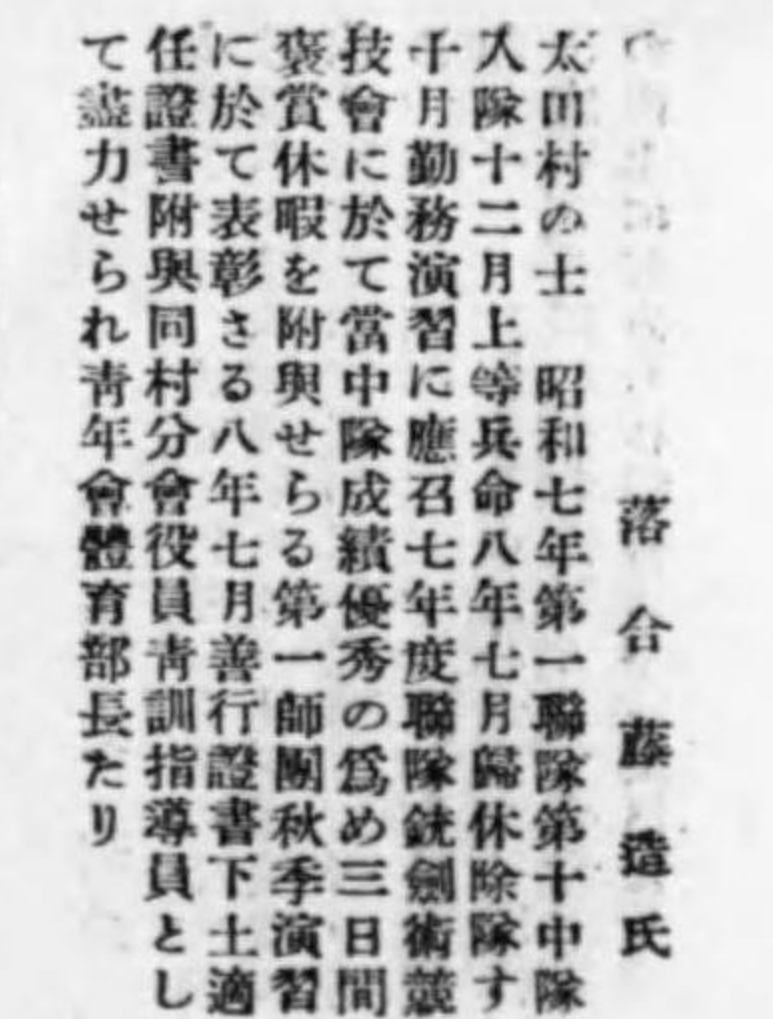
小澤 庄藏氏  
藤澤村の士 昭和三年野戰重砲兵第四聯  
隊第三中隊入隊三年度秋季演習に参加十  
二月大禮觀兵式特別大演習に参加御紋  
葉下賜精勤章二回四年十一月善行證書並  
に下士適任證書附與せらる昭和八年十月  
任砲兵伍長同村分會役員として盡力せら  
れ前青訓指導員たり



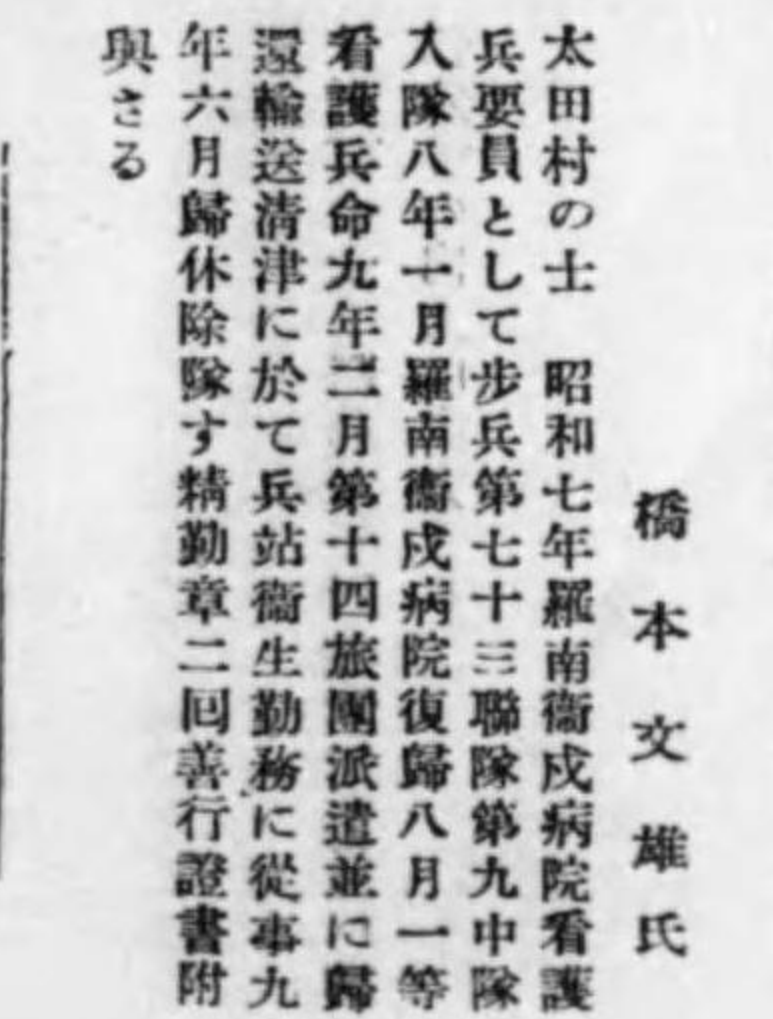
石田 七郎氏  
藤澤村の士 昭和四年横須賀重砲兵第三  
中隊入隊七月陸軍重砲兵學校に分遣十二  
月上等兵命五年一月伍長勤務昇進五年十  
一月歸休除隊昭和五年十一月精勤章善行  
證書並に下士適任證書附與八年四月任砲  
兵伍長同村分會役員として盡力せらる



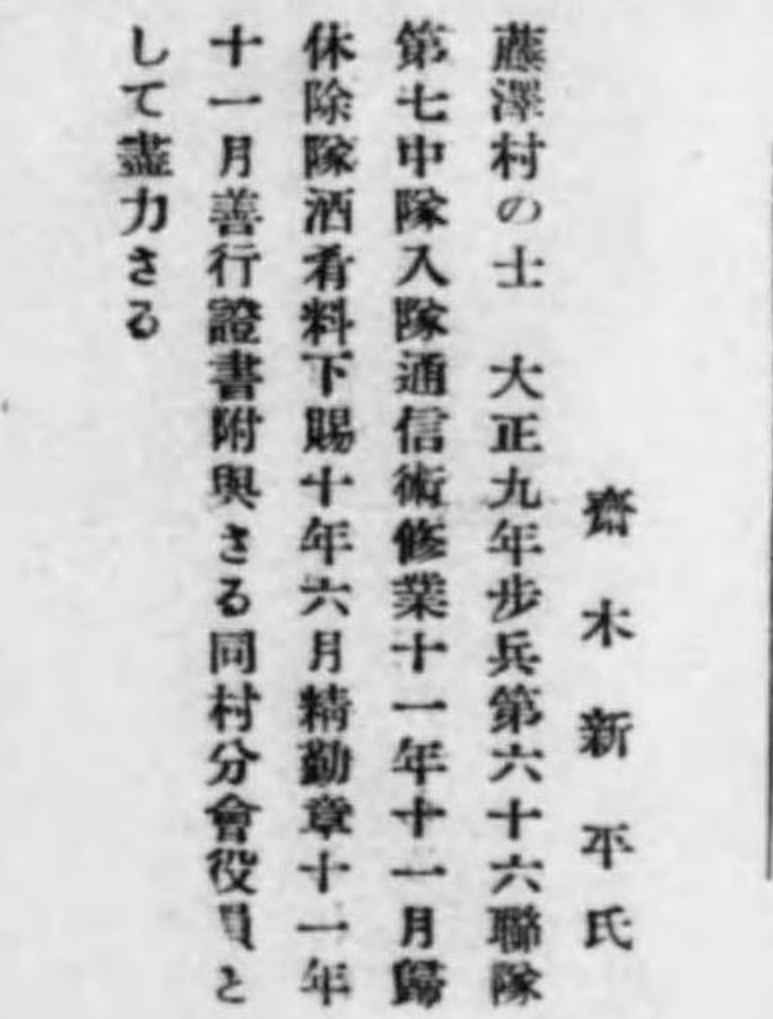
橋本 時藏氏  
藤澤村の士 昭和七年野戰重砲兵第四聯  
隊第二中隊入隊十二月上等看護兵命八年  
七月歸休除隊八年七月善行證書衛生部下  
士適任證書並に精勤章二回附與同村分會  
役員として分會の爲めに努力さる



宮岡 一郎氏  
入間村の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
入隊十年十二月伍長勤務命十一年八月歸  
休除隊下士適任證書附與せられ同村分  
會各役員勳賞昭和二年分會長に就任並に  
青訓指導員を兼ね盡力さる昭和三年十月  
任歩兵伍長現分會長の職にあり以て責務  
を完了しつゝあり昭和八年其の功を認め  
られ在郷軍人分會等閣下より功勞章を授  
與せらる



田口 常吉氏  
入間村の士 昭和五年近衛歩兵第一聯隊  
第三中隊入隊六年六月上等兵命六年八月  
天皇皇后兩陛下成子厚子兩内親王殿下御  
同伴那須御用邸御駐營の際儀仗兵として  
派遣され酒肴料下賜十一月歸休除隊特別  
恩賜金下賜精勤章二回善行證書附與さる  
同村分會評議員青訓指導員として盡力せ  
らる



齋藤 進一氏  
入間村の士 昭和五年近衛歩兵第二聯隊  
第十中隊入隊六年六月上等兵命十二月歸  
休除隊さる十一月精勤章小銃射擊徽章善  
行證書並に下士適任證書附與八年十月任  
歩兵伍長青訓指導員囑託盡力さる



齋藤 進一氏  
入間村の士 昭和五年近衛歩兵第二聯隊  
第十中隊入隊六年六月上等兵命十二月歸  
休除隊さる十一月精勤章小銃射擊徽章善  
行證書並に下士適任證書附與八年十月任  
歩兵伍長青訓指導員囑託盡力さる



齋藤 進一氏  
入間村の士 昭和五年近衛歩兵第二聯隊  
第十中隊入隊六年六月上等兵命十二月歸  
休除隊さる十一月精勤章小銃射擊徽章善  
行證書並に下士適任證書附與八年十月任  
歩兵伍長青訓指導員囑託盡力さる



齋藤 進一氏  
入間村の士 昭和五年近衛歩兵第二聯隊  
第十中隊入隊六年六月上等兵命十二月歸  
休除隊さる十一月精勤章小銃射擊徽章善  
行證書並に下士適任證書附與八年十月任  
歩兵伍長青訓指導員囑託盡力さる



橋本 要作氏  
入間村の士 昭和七年歩兵第一聯隊第一  
中隊入隊八年六月上等兵命同日伍長勤務  
昇進十一月歸休除隊予精進章八年十一月  
善行證書下士適任證書附與同村分會役員  
青年團支部長として盡力さる



栗原 勉氏  
入間村の士 同村分會役員現任分會の爲  
め盡力せられ並に青年團賛助員たり



近藤 源吉氏  
福岡村の士 聯合分會副長の要職たり



相谷 太郎氏  
三ヶ島村の士 昭和五年獨立守備歩兵第  
三大隊入隊六年六月上等兵命同日伍長勤  
務に昇進同六年九月滿洲事變に參加し千  
山驛、接省堡、大王屯、驛子、將軍地  
嶺等各附近に於ける討伐並に戰闘に參加  
し武勳赫々凱旋七年七月除隊予七年六月  
任歩兵隊長六年十月七年七月兩度待從武  
官御差遣酒肴料下賜勳章善行證書附與  
滿洲事變に關し守備隊司令官褒贈下より  
表彰狀附與青年團副長青訓指導員たり



甲田 義英氏  
入間川町の士 大正六年近衛歩兵第四聯  
隊入隊精勤勳章善行證書並に下士適任證書  
附與せられ大正八年歸休除隊予昭和三年  
任歩兵隊長 同町分會副長たり並に青訓  
指導員囑託す昭和八年四月同町分會長に  
就任し分會の向上と會員指導に盡力せら  
れ其の他町農會組合長社會教育委員統計  
調査員等の各重職にあり名士たり



西村 喜八郎氏  
加治村の士 歩兵伍長にして分會役員と  
して盡力せらる



小 熊 榮 一 氏  
加治村の士 分會役員として盡力せらる



關 藤 常 三 良 氏  
東吾野村の士 分會役員として盡力せら  
る



鈴 木 榮 壽 氏  
鶴瀬村の士 分會役員として盡力せらる



松 本 浩 二 氏  
川越市の士 歩兵第六十三聯隊第七中隊  
に入隊昭和八年十一月推されて同市第五  
分會長に就任し銳意分會向上に務めらる  
名士なり



長 谷 部 勇 太 郎 氏  
川越市の士 明治四十三年第十四團歩  
兵第六十六聯隊第一中隊入隊同市第五分  
會副班長現任努力せらる



倉 田 治 作 氏  
川越市の士 大正二年歩兵第三十聯隊留  
守隊第二中隊入隊十二月滿洲派遣の爲め  
宇品港出帆第九中隊に編入大正三年度秋  
季演習に參加大石橋方面に出張十一月内  
地歸還十一月除隊予善行證書附與同市第  
五分會副班長現任盡力さる



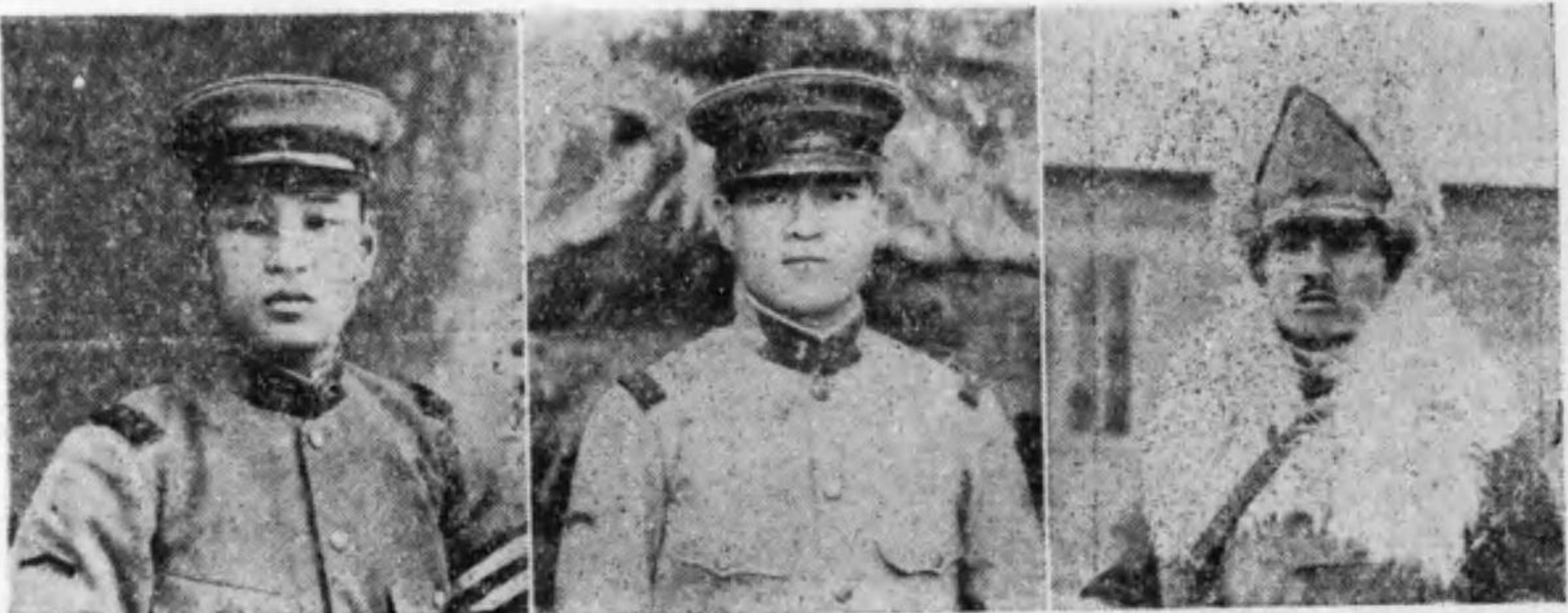
南  
崎  
玉  
郡  
ノ  
部



塚田敏雄氏  
 葛蒲町の士 大正十年歩兵第三聯隊第六  
 中隊入隊十二年九月東京南部警備隊に在  
 つて戒嚴勤務に従事十一月歸休精勤章善  
 行證書附與分會役員として九ヶ年勤績せ  
 られ現分會理事たり

成田一男氏  
 葛蒲町の士 大正十五年野戰重砲兵隊第  
 三聯隊第二中隊入隊七月觀測手命昭和二  
 年十一月歸休昭和二年七月富士裾野に於  
 ける特別陣地攻防演習参加に付き御煙草  
 下賜精勤章善行證書附與分會役員

田島芳太郎氏  
 葛蒲町の士 昭和二年歩兵第三聯隊機關  
 銃隊に補缺として一月二十八日入隊二年  
 十一月愛知縣下施行特別大演習参加十二  
 月上等兵伍長勤務命三年七月歸休精勤章  
 善行證書下士適任證書附與分會役員



小泉利一氏  
 葛蒲町の士 昭和四年獨立守備歩兵第三  
 聯隊第三中隊入隊五年十二月上等兵六年  
 九月十八日滿洲奉天參加營口占領を初め  
 牛莊千山接官堡大王屯砲子將軍屯各地  
 戰闘參加陸令延期千山雲黑林昌圖法庫  
 門紅寶山大沙嶺三家子前小臺大武愛各地  
 戰闘參加吉敦線鞍山大石橋警備八年四月  
 八日任歩兵伍長現分會班長青訓指導員た  
 り

日下直氏  
 葛蒲町の士 昭和六年歩兵第三聯隊第九  
 中隊入隊七月一等兵七年一月上等兵同年  
 七月歸休精勤章善行證書附與青訓指導員  
 として奮闘せらる

駒保雄氏  
 葛蒲町の士 昭和六年朝鮮羅南歩兵第七  
 十三聯隊第十中隊入隊七年九月上等兵六  
 年十二月より七年十月迄原隊に在て滿洲  
 本變に關する勤務従事十一月歸休六年度  
 秋季演習中良く奮勵せしに依り褒賞休暇  
 一日附與精勤章二回善行證書附與分會役  
 員兼旗手たり





押田 二氏

葛西町の士 昭和六年獨立守備歩兵第三聯隊  
大正十一年一月十日騎兵第十三聯隊機關銃隊入隊二月習志野衛戍病院復歸七月看護學卒業十五年七月歸休精勤章善行證書附與分會役員に就任せらる



山口秀太郎氏

鷺宮町の士 大正八年近衛歩兵第三聯隊第八中隊入隊十年二月石橋少佐從卒命八月兩陸下日光田母澤御用邸駐劄同儀仗兵服務同上により酒肴料下賜十一月東京府下利奈川縣下特別大演習加酒肴料下賜同月歸休に際し特別恩賜金貳圓五十錢下賜精勤章善行證書附與消防小頭分會役員



倉持市右衛門氏

鷺宮町の士 大正十年氣球隊中隊入隊三年愛知縣下師團對抗演習に獨立氣球第一中隊として參加十四年九月特別航空演習參加酒肴料下賜十一月上等兵精勤章三回善行證書附與分會役員弟正一氏野戰重砲兵次第要職氏北海道二十七聯隊入隊北滿守備に服す一家三名の軍族を送り賞勳局より表彰狀附與せらる



折原吉之祐氏

鷺宮町の士 大正十四年一月十日騎兵第十三聯隊機關銃隊入隊二月習志野衛戍病院復歸七月看護學卒業十五年七月歸休精勤章善行證書附與分會役員に就任せらる



島村寅次郎氏

鷺宮町の士 昭和二年歩兵第三聯隊第十中隊入隊十一月愛知縣下施行特別大演習參加御紋菓下賜三年七月歸休五年十一月勤務演習應召中上等兵に進級分會旗手歴任青訓指導員分會役員消防小頭たり



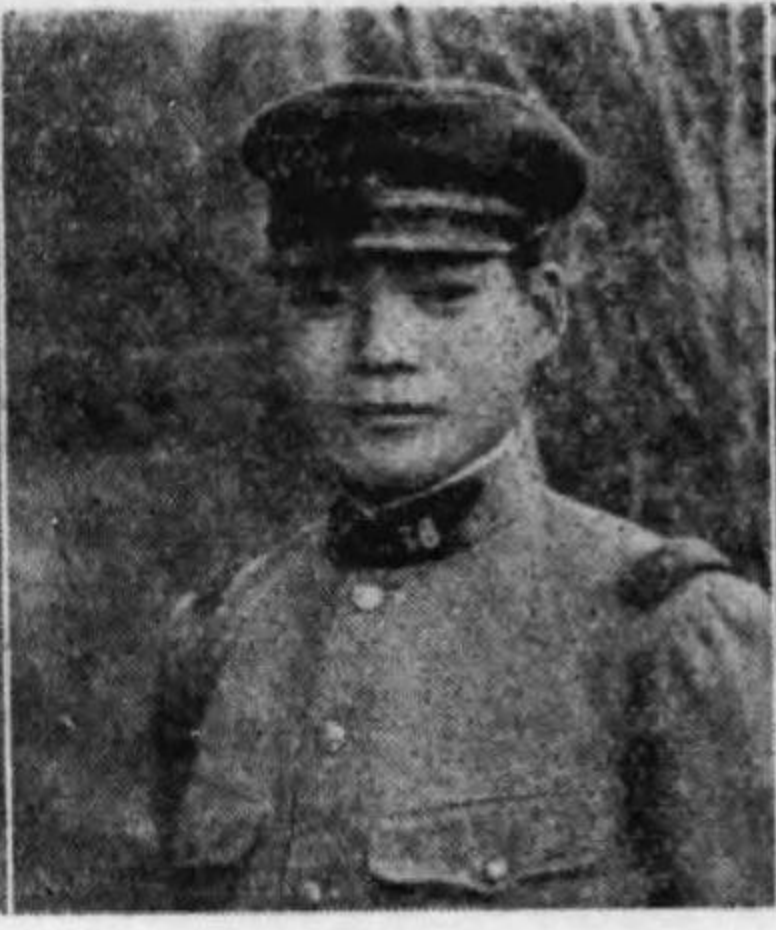
坪井英則氏

鷺宮町の士 昭和三年十二月幹部候補生として近衛歩兵第一聯隊入隊七年三月任歩兵少尉四月正八位に敘れる八年四月本町在郷軍人分會副會長に就任消防小頭加須町埼玉共同無盡株式會社に勤務せらる



橋本清吉氏

鷺宮町の士 昭和四年野戰重砲兵聯隊入隊五年十二月歸休精勤章取優等賞狀善行證書附與七年十二月勤務演習應召中砲兵上等兵に進級分會旗手たり



押田徳治氏

鷺宮町の士 昭和六年歩兵第七十六聯隊第十一中隊入隊七年四月滿洲派遣部隊に屬し羅南發朝鮮國境通過奉天着哈爾濱着吉林省烏吉寧着同地警備五月同地に於て戰闘參加面波着警備寧安着警備十月上山峯國境通過羅南着隊八年五月歸休滿洲出征軍士



木下 豪氏

越ヶ谷町の士 昭和七年十二月幹部候補生として近衛歩兵第四聯隊に入隊終末試験合格現軍曹の階級にあり本町青訓指導員前途有望の士



關根忠藏氏

粕壁町の士 昭和四年十二月獨立守備歩兵第三大隊第三中隊入隊六年九月十八日滿洲事變に従事營口占領參加牛莊山後官堡大王屯中所取庄各地戰闘參加十二月上等兵陸令服務延期昌圖法庫門前煙臺子紅寶山三家子尤甸家子大武營各地戰闘參加酒肴料三回下賜除隊後分會班長



豊田治兵衛氏

川柳村の士 大正八年歩兵第三聯隊第八中隊入隊九年九月青島守備十年五月原隊歸十一月上等兵歸休後青年團副支部長消防小頭農事組合幹事青訓指導員本村在郷軍人分會長其の他の要職にあり



加藤嘉右衛門氏

川柳村の士 大正八年近衛歩兵第三聯隊第十中隊入隊九年十一月上等兵十年二月年度東京下賜神奈川縣下陸軍特別大演習參加酒肴料下賜十月二十日任兵伍長十一月勤務演習應召中上等兵に進級分會旗手歴任青訓指導員分會役員消防小頭たり



豊田傳次郎氏  
川柳村の士 大正十一年近衛歩兵第三聯隊第一中隊入隊歸休後多年分會役員歴任現分會副會長として盡瘁せらる



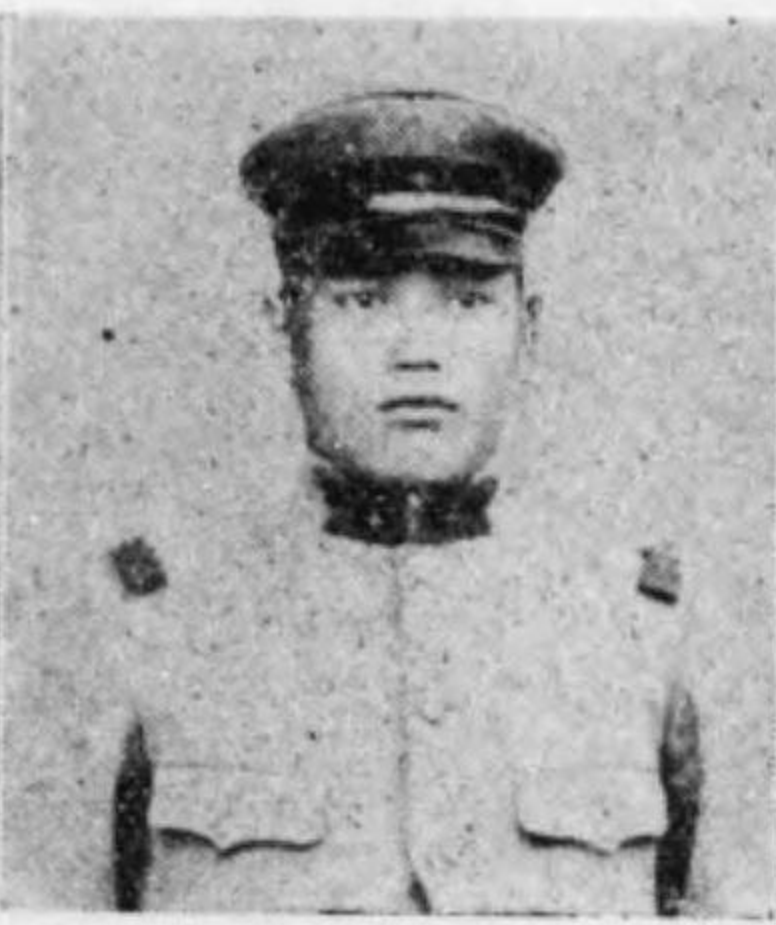
渡邊昌次氏  
川柳村の士 昭和四年臺灣歩兵第二聯隊第四中隊入隊五年十一月三日より同月二十八日迄霧社蕃人討伐の爲第一線部隊參加六年四月上等兵精勤章發行證書附與霧社事件の功勞に依り金三十圓を賜ふ



豊田正嘉氏  
川柳村の士 昭和六年近衛歩兵第四聯隊第二中隊入隊青訓檢定合格東京第二衛戍病院復歸七月看護學卒業十二月上看護兵七年七月歸休精勤章二回善行證書衛生部下士適任證書附與青訓指導員たり



森茂之氏  
櫻井村の士 昭和四年歩兵第三聯隊第十中隊入隊十一月水戸地方施行特別大演習參加御杖葉下賜精勤章附與分會班長たり



栗原將雄氏  
大袋村の士 大正十四年横須賀重砲兵聯隊第五中隊入隊十月通信手命十二月上等兵同日伍長勤務上等兵十五年十一月歸休重砲兵通信褒賞徽章並に賞狀善行證書下士適任證書附與前分會役員



小林茂一郎氏  
大袋村の士 昭和二年近衛歩兵第四聯隊第七中隊入隊三年十一月大饗儀行酒儀料下賜四年五月歸休に際し特別恩賜金下賜精勤章善行證書附與昭和二年十二月御大典特別觀兵式參列八年度より分會班長として盡瘁せらる



濱野淳一郎氏  
大袋村の士 昭和四年騎兵第十六聯隊第四中隊入隊八月陸軍騎兵學校教導隊分遣第一中隊編入五年度騎兵特別演習參加の爲め千葉縣下出張十二月騎兵上等兵五年十月原隊歸十一月歸休騎兵學校教導隊長より賞狀附與軍刀術賞狀附與前青年團團長現分會旗手班長



新坂正喜氏  
大袋村の士 昭和四年近衛歩兵第三聯隊第十一中隊入隊五年十二月上等兵六年五月歸休に際し酒肴料下賜精勤章二回善行證書下士適任證書附與青訓指導員一家三名の軍士を送る名譽の家庭たり



田口俊一氏  
新和村の士 大正十年現役志願輻重第一大隊第三中隊入隊十一年七月上等兵候補八月第一中隊編入十二月上等兵各日教育掛命十二年九月東京南部警備隊に在て戒嚴勤務に服す十一月歸休精勤章二回褒賞依暇善行證書下士適任證書附與昭和六年九月任輻重兵伍長消防部長分會會長其の他の要職にあり



大倉大郎左衛門氏  
新和村の士 大正十年騎兵第十六聯隊第一中隊入隊十二年三月上等兵十二年九月五日より十月七日迄千葉警備隊に屬し十月八日より同月十四日迄東京南部警備隊に屬し戒嚴勤務に服す十二年十一月歸休後消防十三ヶ年間役員農友會支部長歴任感謝狀二回附與青訓指導員分會副會長の要職に在り



田口市郎氏  
新和村の士 大正十二年近衛歩兵第三聯隊第一中隊入隊七月兩陸下日光田母澤御用邸御駐留同儀仗兵服務同上勤務に依り酒肴料下賜九月二日より十一月十五日迄原隊に在て戒嚴地區内戒嚴勤務に従事十一月上等兵歸休に際し酒肴料下賜精勤章二回善行證書三種射擊徽章附與分會副會長消防小頭たり



出野岩吉氏  
新和村の士 昭和二年近衛歩兵第三聯隊第三中隊入隊二年十二月二日御大禮觀兵式參列四年五月歸休に際し特別恩賜金下賜班長歴任會計理事として盡瘁せらる



小林 壽氏  
大山村の士 大正十四年十二月朝鮮羅南歩兵第七十三聯隊第一中隊入營十五年四月一日歩兵通信昭和二年十月善行證書附與歸休昭和五年一月以降分會班長五年七月理髮試驗合格分會の爲鋭意盡瘁せらる



山岸 茂平氏  
大山村の士 昭和二年近衛騎兵聯隊第一中隊入隊九月一等兵十二月上等兵三年十一月御禮の爲近畿地方に出張大饗に付き酒饌料下賜十二月二日大禮觀兵式參列精勤善行證書騎兵科下士適任證書附與大禮記念章授與青訓指導員分會理事兼務副會長たり



伊藤 福太郎氏  
大山村の士 昭和三年歩兵第三聯隊第五中隊入隊千葉縣下出張十一月大饗酒饌料下賜十二月二日代々木練兵場に於て大禮觀兵式參列同月上等兵四年七月歸休六年七月勤務演習應召中任歩兵伍長歸休後青年團理事歷任分會班長青訓指導員大禮記念章授與せらる



關根 秀雄氏  
綾瀬村の士 昭和三年歩兵第三聯隊第三中隊入隊十二月代々木練兵場に於ける大禮觀兵式參列四年十一月茨城縣下施行特別大演習參加上等兵精勤善行證書輕機關銃射擊徽章附與青訓指導員

加藤 善作氏  
栢間村の士 昭和三年近衛騎兵大隊第一中隊入隊三年度岩手縣下特別大演習參加十一月大饗酒饌料下賜十二月大禮觀兵式參列四年度水戸地方特別大演習參加九月上等兵十一月歸休精勤章二回善行證書附與青訓指導員分會副會長

栢間村の士 大正九年歩兵第三聯隊第六中隊入隊十年東京府下神奈川縣下施行特別大演習參加十一年八月歸休分會班長評議員歷任消防小頭出荷組合副組合長青訓指導員分會長其の他の要職にあり

坂巻 信吉氏



折原 清右衛門氏  
栢間村の士 大正十年野砲兵第十八聯隊第七中隊入隊十一年騎砲兵大隊第一中隊編入十二月上等兵十二年一月伍長勤務命九月二日自至廿七日迄東京南部警備隊に在て戒嚴勤務從事十二月附歩兵伍長十三年十一月陸軍歩兵軍曹十四年滿期分會理事



折原 啓太郎氏  
栢間村の士 大正十五年朝鮮羅南歩兵第七十三聯隊入隊現歩兵曹長第六中隊勤務氏の兄勝行大正元年兵にして青島守備勤務勳八等瑞寶章金壹百圓授與一家三名の軍族を送り賞勳局より賞狀を賜う清右衛門氏の末弟なり



秋間 喜作氏  
栢間村の士 昭和二年歩兵第七十四聯隊第六中隊入隊六月陸軍歩兵學校教導隊分遣第一中隊編入十月上等兵十一月大禮觀兵式の爲東京に出張四年五月原隊歸爲下關釜釜山上陸同月除隊善行證書附與分會役員歴任せらる



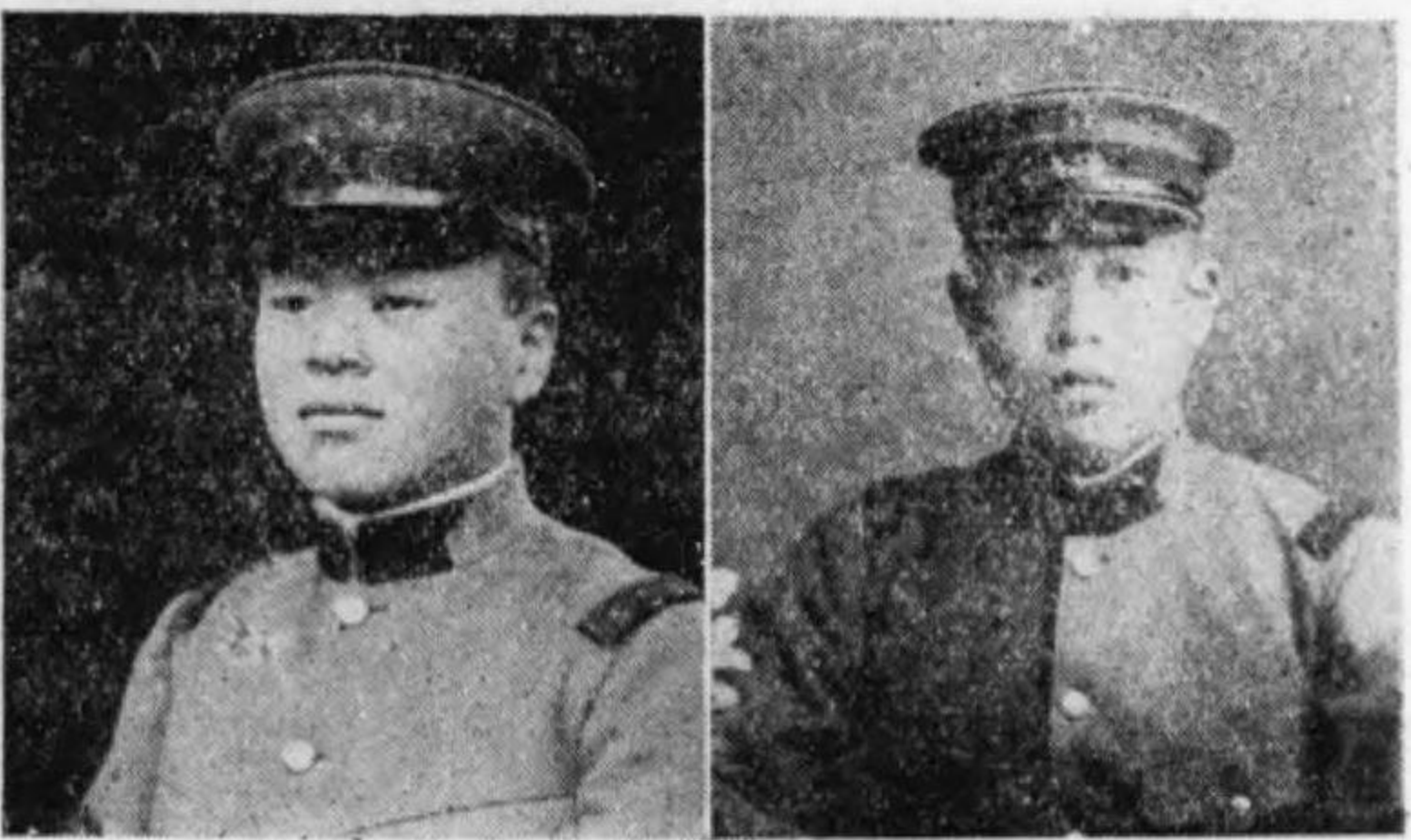
遠藤 近太郎氏  
川通村の士 大正十二年歩兵第三聯隊第十一中隊入隊同年九月二日自至十一月十五日戒嚴地區内に於て原隊に在り戒嚴勤務從事十一月上等兵十三年十一月歸休精勤善行證書下士適任證書附與農事組合副會長青訓指導員本村分會長昭和七年九月任陸軍歩兵伍長



繪野 澤與一郎氏  
川通村の士 大正十五年野砲重砲兵第二聯隊第四中隊入隊通信卒榮昭和二年十一月歸休精勤章附與青年團支部長歴任三期間分會理事として盡瘁實弟忠男氏昭和七年兵にして金剛乘組の海軍兵二名の軍士を送る



宮野 清氏  
川通村の士 大正十五年野砲重砲兵第四聯隊第二中隊入隊昭和二年十一月歸休精勤章褒賞休職善行證書附與分會班長として盡瘁せらる



利根川 文亨氏  
 川通村の士 昭和四年十二月近衛歩兵第四聯隊機關銃隊入隊五年六月陸軍歩兵學校分遣教導隊機關銃隊編入十二月上等兵六年五月原隊歸隊除隊に際し特別恩賜金下賜勳章二回善行證書下士適任證書附與分會旗手歴任青訓指導員本村分會副會長たり

松岡 貞治氏  
 川通村の士 昭和五年歩兵第三聯隊第一中隊入隊二月東京第一衛戍病院復歸七月陸軍士官學校に派遺十二月上等看護卒六年一月第一衛戍病院復歸六年七月歸隊勳章二回善行證書衛生部下士官適任證書附與青年會役員分會班長



町田 九藏氏  
 篠津村の士 昭和六年獨立守備歩兵第三大隊第三中隊入隊六月大石橋着九月十九日滿洲奉天に従軍營口牛莊接官堡紅寶山大沙嶺三家子小煙臺尤甸家武鎮教化鞍山大石橋湯地安奉線大房樓鳳凰三角地帶遼河恥庄子間房岫巖山奉積塔各地戰闘討伐警備に服務し八年五月滿期

金子 喜作氏  
 篠津村の士 昭和六年十二月近衛歩兵第三聯隊に幹部候補生として入隊九年五月十九日見習士官命青年團幹部青訓指導員前途有望の士名望家たり

内山 富夫氏  
 日勝村の士 昭和四年現役兵として騎兵第一聯隊第二中隊入隊四年九月一等兵十一月上等兵七年五月原隊勤務演習應召勳章善行證書射擊徵章附與青年團支部長分會旗手歴任中部教育會より表彰狀附與

姪 間 春 一 氏

篠津村の士 大正七年歩兵第三聯隊第九中隊入隊九月陸軍歩兵學校教導隊分遣第三中隊編入千葉縣四ツ街道附近師團假設道演習參加十一月上等兵九年九月原隊歸十月伍長勤務命昭和三年十二月任步兵伍長消防部長養實行組合長區長分會長の要職にあり



野口 英作氏  
 日勝村の士 昭和六年朝鮮羅南歩兵第七十三聯隊第三中隊入隊十二月混成第三旅團編成下令滿洲に派遺七年一月錦州攻略の爲奉天藩錦州掃蕩警備錦州第二師團警備十二並に討伐混成足立大隊に屬し錦州警備十二並に討伐混成足立大隊に屬し十月羅南着同月上等兵出戰地錦州倒憲兵隊轉出教化警備寧安道構築護寧安警備十月羅南着同月上等兵出戰地錦州倒流河熱河大凌河石峯黒貝峯各地戰闘參加せらる

黒 須 寛 之 氏

三箇村の士 大正八年歩兵第三聯隊に幹部候補生として入隊大正十二年三月任歩兵少尉正八位に叙らる昭和三年十二月御大禮觀兵式に參列四年本村在郷軍人分會長に就任せられ青訓開設以來本村及明論館青訓指導員縣知事より表彰賞授與其の他の要職にあり

坪 井 勝 政 氏

三箇村の士 昭和二年十二月一日近衛歩兵第四聯隊第九中隊入隊通信修業三年十月千葉縣下秋季演習參加十二月上等兵四年五月歸隊勳章善行證書附與特別恩賜金下賜歸隊後青年團辯論部長青年團々長本村青年農事研究會分會監事青訓指導員各要職にあり



岡田 源柔郎氏  
 江面村の士 昭和二年近衛歩兵第四聯隊機關銃隊入隊昭和六年本村分會長に就任せられ消防小頭青訓指導員其の他の要職に在り

兄 恩 田 長 藏 氏  
 弟 同 治 助 氏  
 湖止村の士 長藏士大正十五年野戰重砲兵第四聯隊第一中隊入隊八月選拔照準手命十二月上等兵昭和二年十一月歸隊勳章二回善行證書下士適任證書附與分會班長治助士昭和三年野戰重砲兵隊第三聯隊第二中隊入隊昭和七年度上海事件に付き出征せらる

小野 寺 和 助 氏  
 平野村の士 大正十三年野砲兵第二十五聯隊第五中隊入隊砲兵學校分遣清津港發神戶港上陸教導隊高射砲兵隊編入十四年十月上等兵十五年七月原隊歸選拔照準手命十月歸隊褒賞休暇善行證書附與分會役員積年に依り鈴木莊六閣下より表彰賞附與せらる



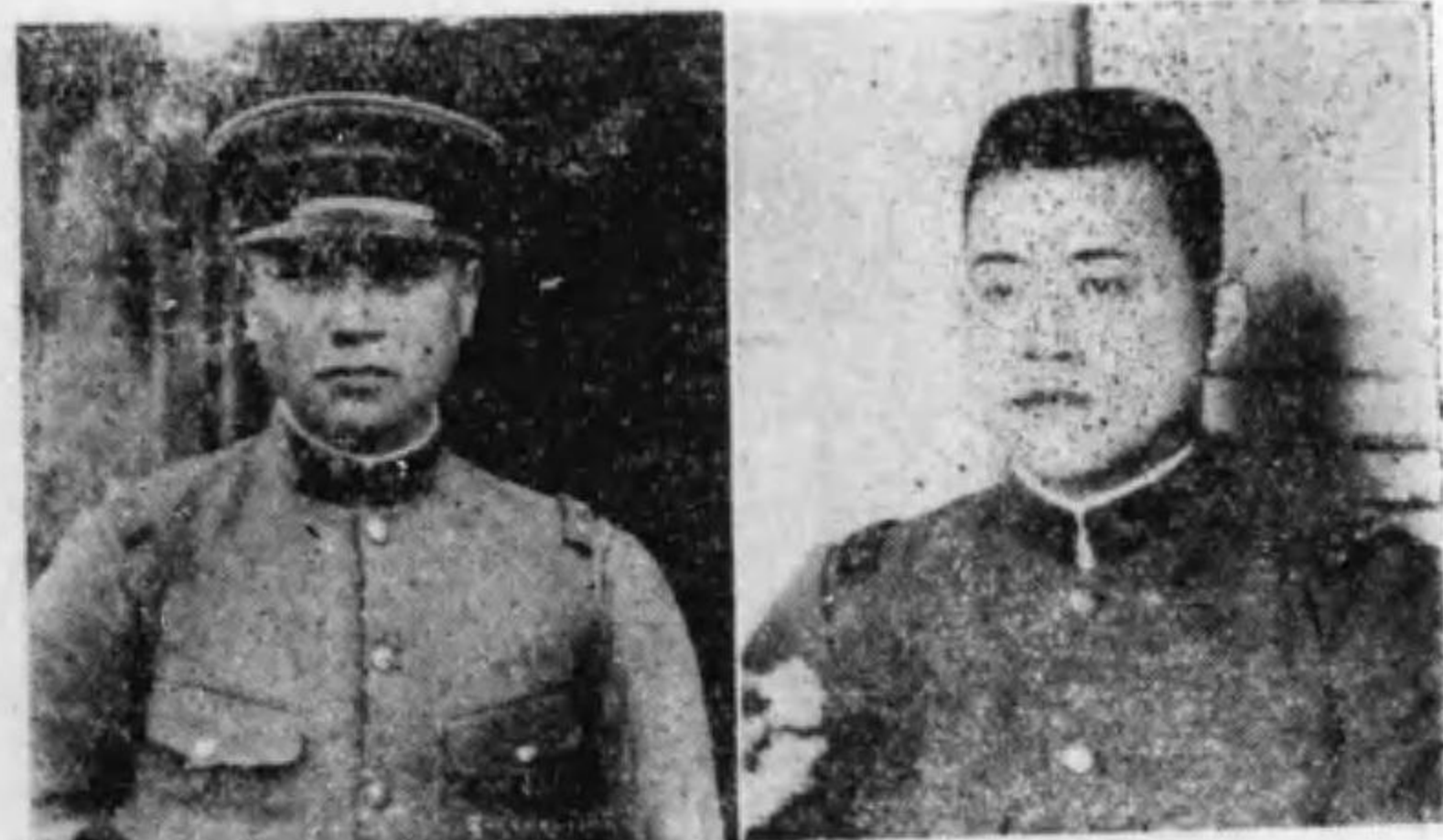
木村龜太郎氏  
 内牧村の士 大正十年歩兵第三聯隊第四中隊入隊第二中隊編入替十一月上等兵十二年五月伍長勤務命九月二日自至十一月十五日東京南警備隊に屬し戒嚴勤務從事十一月歸休特勳章二回善行證書下士適任證書附與昭和三年十二月小禮觀兵式に參列白川陸相閣下より記念品授與消防小頭衛生組長青訓指導員分會副會長の各要職にあり



關根武雄氏  
 清久村の士 昭和六年朝鮮第七十六聯隊第七中隊入隊十二月混成第三十八旅團編入滿洲派遣隊南發七年一月二日錦州攻撃參加自至十月白石礮大陽和尚溝錦西綏中興城牡丹江放牛溝官地横道河子の各地討伐戰間に參加京城發國境上山峯通過原隊着十月三十日歸休

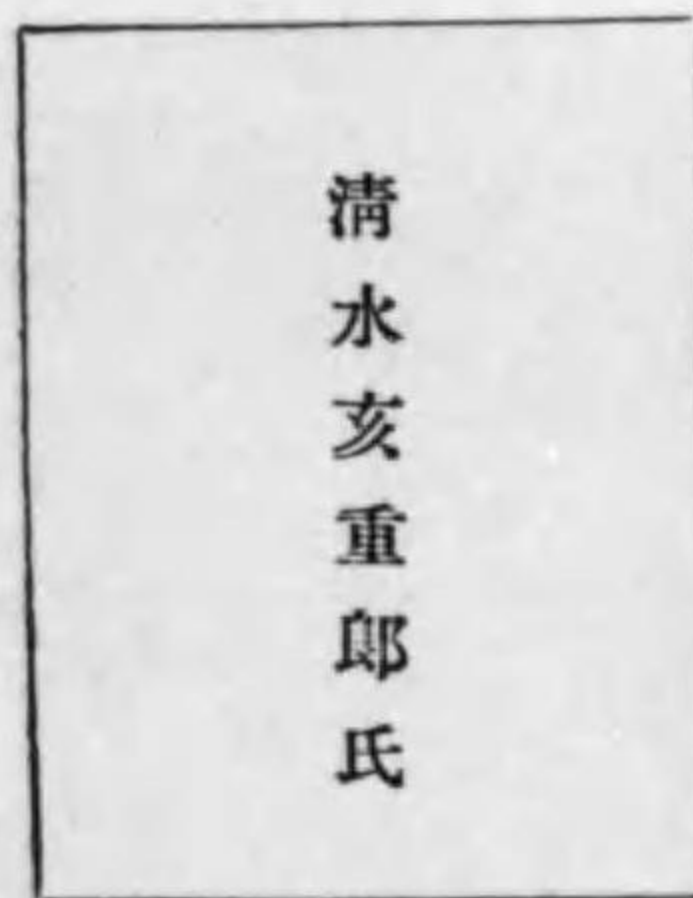


齊藤武之氏  
 豊春村の士 大正十四年横須賀海兵團入團春日乘組南洋に回航十五年馬公基隆廻航昭和二年馬公馬尼刺船航三年九月矢矧轉勤楊子江流區利根指定上海陸戰隊勤務十二月普通善行章一線附與酒饌料下賜四年一月漢口陸戰隊勤務同年海軍戰技參與成績優秀賞品附與四月一等水兵三年度支那事變の功に依り金三十圓授與分會監事たり



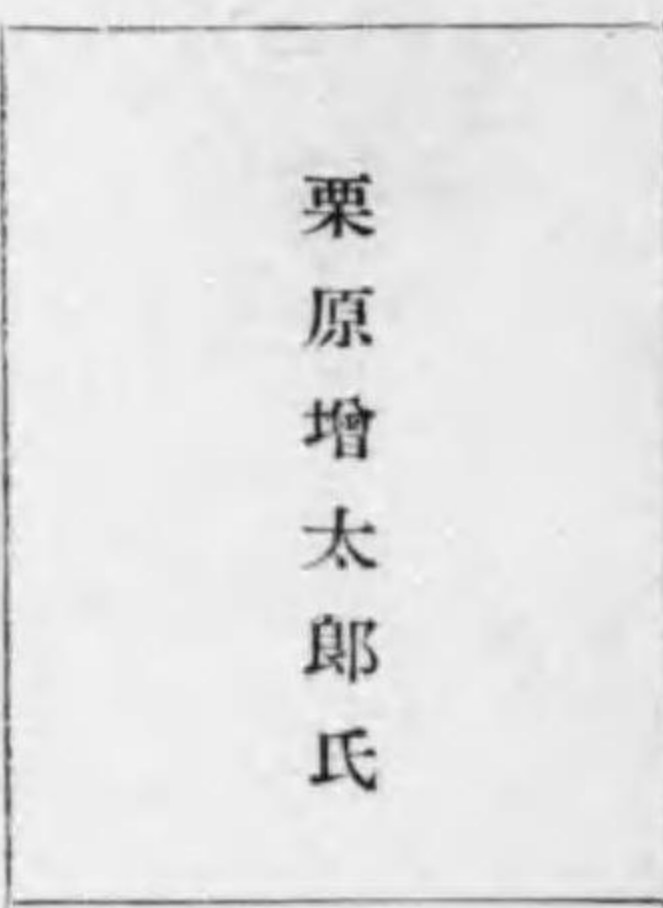
町田慶三郎氏  
 和土村の士 昭和六年騎兵第十四聯隊第四中隊入隊七年六月編成下合騎兵第一旅團軍司令部に編入十一月神戸港出帆十五日大連上陸 東州通過十一月六日訥河戰開參加八年六月内地歸還爲海拉爾發歸東州通過大連發字品港凱旋十七日着隊滿期善行證書騎兵科下士適任證書附與現青訓指導員

森田勝司氏  
 武里村の士 昭和二年歩兵第三聯隊第九中隊入隊八月一等兵十一月愛知縣下施行特別大演習參加御紋葉下賜十二月上等兵昭和三年七月歸休青訓指導員



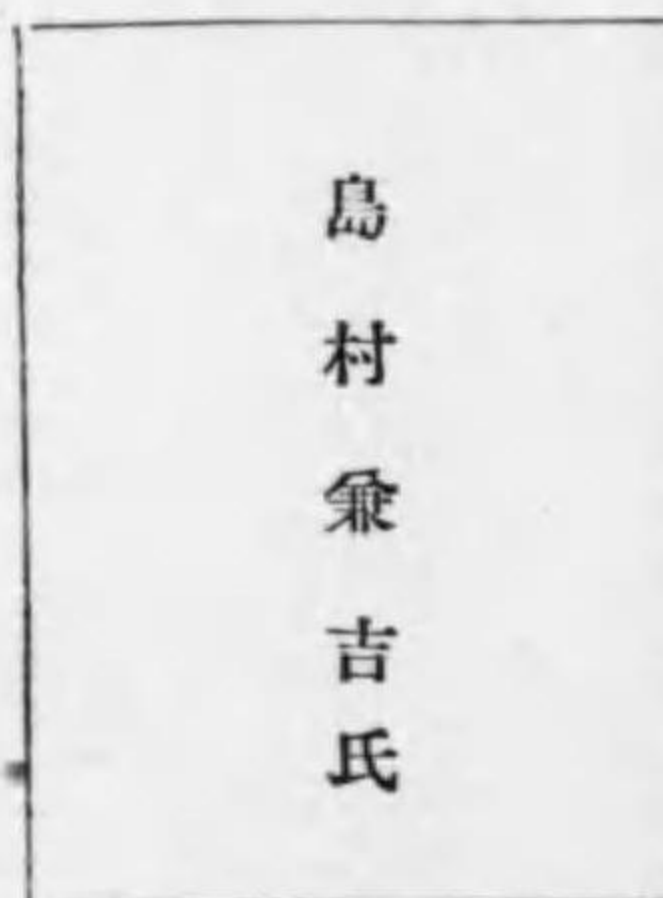
清水亥重郎氏

和土村の士 分會長として盡力せり



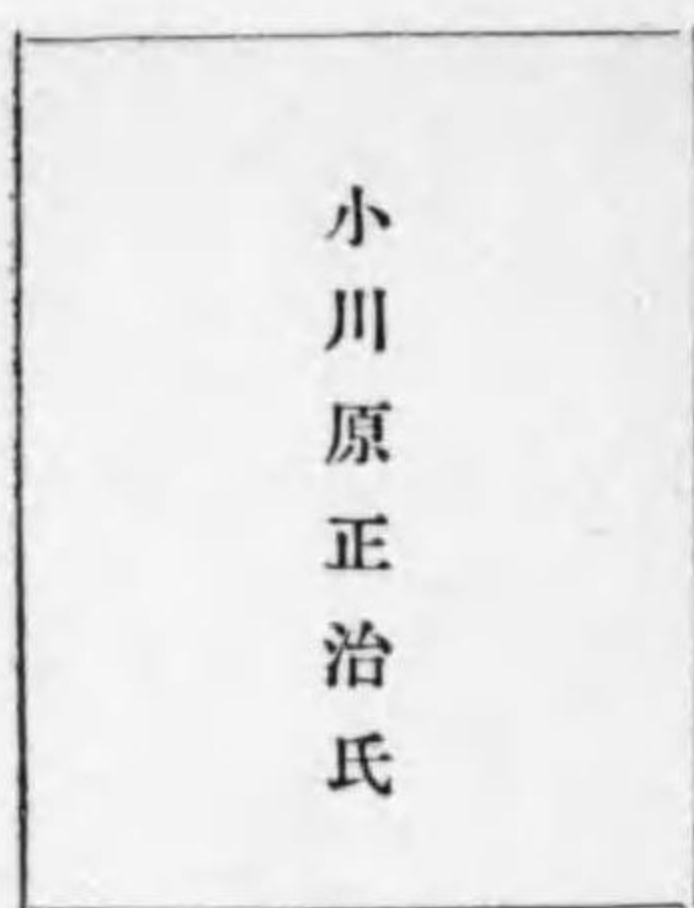
栗原増太郎氏

河合村の士 大正八年歩兵第三聯隊第九中隊入隊九年十一月上等兵命十年一月伍長勤務昇進十年度神奈川縣下施行せらるゝ特別大演習に參加十一月除隊第三種射擊徽章九月精勳章十年十一月善行證書並に下士適任證書附與同村分會副長に就任盡力せられ消防小頭の要職にあり



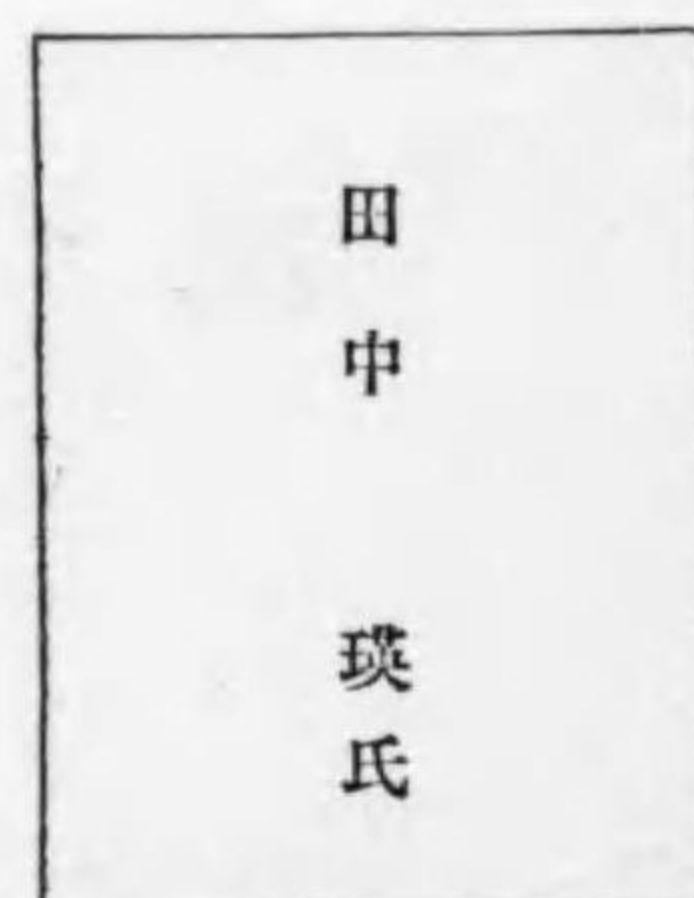
島村兼吉氏

綾瀬村の士 大正十五年十二月朝鮮歩兵第七十三聯隊第十一中隊入隊昭和二年十二月上等兵伍長勤務命三年六月歸休精勳章善行證書褒賞休暇下士適任證書附與青訓指導員



小川原正治氏

河合村の士 分會役員として盡力せらる



田中瑛氏

黒濱村の士 大正十二年朝鮮羅南歩兵第七十六聯隊第三中隊入隊十四年十月歸休分會役員歴任昭和八年二月十八日日本村在郷軍人分會長に就任其の他の要職にあり



岩崎重治氏

小林村の士 昭和六年野戰重砲兵第二聯隊第三中隊入隊十二月上等兵七年二月動員下令字品港出帆上海上陸三月三日上海附近戰開參加五月十五日復員六月三日大阪港凱旋十一月京阪地方特別大演習參加御紋葉下賜十二月歸休精勳章二回下士官適任證書附與出征軍士

北  
埼  
玉  
郡  
ノ  
部



羽生町入隊の士  
 除隊後、精進寺に  
 勤行し、昭和十  
 一月、大東支隊  
 に入隊し、海軍  
 少佐に昇進。戦  
 中、南洋に戦い、  
 戦後、復員し、  
 現職。佐賀県立  
 大東高等学校教  
 諭。

渡邊 每吉氏

羽生町の士 昭和六年野重砲兵第二聯  
 隊に入隊し、昭  
 和七年、大東支  
 隊に入隊し、海  
 軍少佐に昇進。  
 戦中、南洋に戦  
 い、戦後、復員  
 し、現職。佐賀  
 県立大東高等学  
 校教諭。

田代 安男氏

羽生町の士 昭和六年野重砲兵第二聯  
 隊に入隊し、昭  
 和七年、大東支  
 隊に入隊し、海  
 軍少佐に昇進。  
 戦中、南洋に戦  
 い、戦後、復員  
 し、現職。佐賀  
 県立大東高等学  
 校教諭。

高山 貢氏



羽生町の士 昭和六年野重砲兵第二聯  
 隊に入隊し、昭  
 和七年、大東支  
 隊に入隊し、海  
 軍少佐に昇進。  
 戦中、南洋に戦  
 い、戦後、復員  
 し、現職。佐賀  
 県立大東高等学  
 校教諭。

中田 秀雄氏

羽生町の士 昭和六年野重砲兵第二聯  
 隊に入隊し、昭  
 和七年、大東支  
 隊に入隊し、海  
 軍少佐に昇進。  
 戦中、南洋に戦  
 い、戦後、復員  
 し、現職。佐賀  
 県立大東高等学  
 校教諭。

武笠 龍雅氏

羽生町の士 昭和六年野重砲兵第二聯  
 隊に入隊し、昭  
 和七年、大東支  
 隊に入隊し、海  
 軍少佐に昇進。  
 戦中、南洋に戦  
 い、戦後、復員  
 し、現職。佐賀  
 県立大東高等学  
 校教諭。

（舊姓山下氏）峯 岸 余吉氏



種足村の士 大正七年歩兵第三聯隊第十  
二中隊入隊八年十一月軍旗衛兵命九年三  
月通信衛卒上等兵命九年十一月除隊十  
一月善行證書下士適任證書附同村分會  
各役員勤績せられ現分會副議長並に郡聯合  
分會理事に就任消防小頭の職にあり酒造  
元として村内名望家たり



種足村の士 大正七年工兵第十九大隊第  
一中隊入隊十月馬取坂修習の爲め騎兵第  
七聯隊分遣隊南島里方面出動十月間島事  
の爲め電信街及理春方面出動十月間島事  
入隊に電信街及理春方面出動十月間島事  
命勳章二回善行證書附同村分會各役員勤  
八年勳章二回善行證書附同村分會各役員勤  
年二月勳章二回善行證書附同村分會各役員勤  
瑞瑞所に配屬軍需品陸上輸送隊編入上海  
瑞瑞所に配屬軍需品陸上輸送隊編入上海  
瑞瑞所に配屬軍需品陸上輸送隊編入上海



種足村の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
第二中隊入隊十一月宇都宮衛隊病院に  
轉出看護學修業十一月宇都宮衛隊病院に  
年二月勳章二回善行證書附同村分會各役員勤  
三月野戰豫備病院第三編入宇都宮衛隊病院  
淞上陸後上海監青路野戰病院輕復病室に  
勤務其の他各地に出張七年三月復員下令  
内地に凱旋解除同村分會評議員として  
盡力さる



種足村の士 大正十四年近衛歩兵第三聯  
隊機關銃隊入隊七月看護學卒業十一月師  
團對抗演習に参加十二月上等看護卒命十  
五年七月除隊勳章七月善行證書並に衛  
生部下士適任證書附同村分會評議員七  
ヶ年現班長就任消防小頭の要職にあり



種足村の士 大正十四年歩兵第三聯隊第  
十中隊入隊上等兵命十五年十一月除隊精  
勳章善行證書並に下士適任證書附同村  
分會理事並に青訓指導員として努力せら  
る十四年度銃剣術競技會に於て中隊長大  
隊長より賞状授與十五年度特別射撃大會  
に於て中隊長より賞状並に賞品授與せら  
る



種足村の士 昭和五年幹部候補生として  
近衛歩兵第四聯隊第二中隊入隊十月軍曹  
の階級に進み昭和八年十月見習士官命同  
月原隊に召集九年三月任官陸軍歩兵少尉  
叙正八位同村分會理事に就任同村小學校  
訓導にして分會の爲めに盡瘁さる

小川賢一氏

細野辰一氏

萩原與三郎氏

榎本梅治氏

池内圭二氏



種足村の士 大正九年近衛歩兵第三聯隊  
第六中隊入隊十月大演習参加酒肴料下賜  
月英皇太子殿下御來朝の際儀仗衛兵服  
善行證書附同村分會副議長並に郡聯合  
行組合長勤績せられ現分會副議長並に郡  
代の要職にあり同村分會副議長並に郡  
表彰より一家五名の軍人を送り木杯壹  
と表彰授與せられ現分會副議長並に郡



種足村の士 大正十年近衛歩兵第三聯隊  
第三中隊入隊十一月四月英國皇太子殿下  
御來朝の際近衛團觀兵式に参列十二月  
上等兵命十二年九月關東大震災の際戒嚴  
勤務に從事十一月除隊酒肴料下賜善行證  
書下士適任證書附同村分會各役員勤務  
せられ現常務理事並に青訓指導員青年團  
顧問北埼玉郡教育會頭より教練指導に勤  
め表彰授與せられ模範軍人たり



種足村の士 大正十三年騎砲兵大隊第一  
中隊入隊十二月除隊勳章十一月善行證  
勤務昇進十一月除隊勳章十一月善行證  
書並に下士適任證書附同村分會各役員勤  
に付賞状授與昭和八年八月伍長任官同村  
分會監事たり昭和七年一月賞勳局長總正  
四位勳二等下條閣下より一家三名軍族を  
送るに付き表彰授與せられ名譽の家  
庭なり

松永誠作氏

加藤義一氏



種足村の士 昭和八年十二月補缺として  
旭川歩兵第七聯隊機關銃隊入隊九年三  
月滿洲事變に出征熱河省守備に派遣五月  
大杖子匪賊討伐に参加三月上等兵候補者  
命六月トチカ方而攻專演習に参加國境浦  
邊附近守備六月應急出動に對する現役に  
依り第三大隊凌源部隊に配屬目下現役兵  
に在りて滿洲各地に渡り勇躍さるゝ士な  
り

小川克二氏



中條村の士 大正七年歩兵第三聯隊第五  
中隊入隊九月臨時朝鮮派遣第二大隊編入  
の爲め宇品港出帆釜山陸州着守備同  
九年九月賊徒討伐の爲め間島西來洞附近  
に出動陸軍省令に依り在營延期十年一月  
歸休除隊勳章附與消防小頭たり大正九  
年十二月戦功に依り金九拾圓並に從軍記  
章授賜

小林留八郎氏



中條村の士 大正十二年横須賀重砲兵聯  
隊第二中隊入隊通信手十二月上等兵命伍  
長勤務に昇進九月關東大震災の際同隊に  
在て戒嚴勤務に從事十三年十一月除隊精  
勳章十一月重砲兵通信賞章十一月善  
行證書並に下士適任證書附同村分會副  
分會長に就任並に青訓指導員農事組合長  
の要職にあり同村分會副議長並に郡聯合  
者を送り表彰さるゝ名譽の家庭なり

井桁毎次郎氏







木元計恵氏  
星宮村の士 大正八年近衛歩兵第四聯隊に入隊す同村分會長五ヶ年を始め各役員勤績盡力せらる同村消防組頭の要職にあり忍署管内消防聯合會總裁より特別功勞表彰瑞玉縣消防協會總裁より功勞表彰並に徽章授與愛國及國華保險會社代理店として村内名望家たり



河野富三郎氏  
星宮村の士 大正十二年歩兵第三聯隊第一中隊入隊十一月上等兵命十二年九月關東大震災の際戒嚴勤務に従事十三年五月横濱警備として派遣十一月除隊精勤善行證書附同村分會副長に就任せられ並に青訓指導員囑託青年團支部長の要職にあり十三年十一月聯隊銃劍術競技會に於て聯隊長より表彰授與す



村田順祥氏  
星宮村の士 昭和三年横須賀重砲兵聯隊第二中隊入隊六月富士裾野に於ける演習及び十月秋季演習に参加十一月大禮觀兵式に參列十一月茨城縣下に於ける特別大演習に参加し酒肴料下賜除隊す精勤章並に善行證書通信優等徽章授與青年團副支部長並に體育部長青訓指導員の要職にあり盡力せらる



山田玄八氏  
星宮村の士 昭和五年千葉鐵道第一聯隊第四中隊入隊六年七月靜岡縣に於ける演習に参加六年十一月除隊精勤章十一月善行證書附同村分會評議員たり秋父鐵道省勤務さる



大澤正一氏  
星宮村の士 昭和六年歩兵第七十三聯隊第五中隊入隊十二月滿洲派遣の爲め羅南出發奉天着錦西大凌河右岸等各地の討伐三月班吉附近及沈家臺東西曹屯附近の戰闘に参加し各地に轉戰參加九月原駐地に歸還十月上等兵命八年四月除隊精勤章四月善行證書附同村分會副長に就任す二月御下賜品酒肴料下賜さる



鈴木房之丞氏  
新郷村の士 大正七年歩兵第七十三聯隊第四中隊入隊八年三月羅南出發山守備九年四月羅南及茂山地方朝鮮騷擾鎮定に勤務從事九年十月匪徒討伐の爲め間島に出動各地戰闘に参加し十二月歸還除隊す精勤章善行證書附與十二月戰功に依り勳八等瑞寶章並に金百五拾圓從軍記章授賜同村分會役員九ヶ年現監事たり

齊藤 弘氏

新郷村の士 昭和七年補充員召集の爲め輻重兵第一大隊に應召第一牽引自動車隊に編入三月字品出帆吳淞港上陸軍需品輸送に従事酒肴料下賜上海各地の戰闘に参加し四月内地歸還す五月召集解除さる

柳島 忠光氏

新郷村の士 昭和七年二月補充員召集の爲め輻重兵第一大隊に應召第一牽引自動車隊に編入三月字品出帆吳淞港上陸軍需品輸送に従事上海に於ける各地の戰闘に参加し三月酒肴料下賜同月内地歸還す五月召集解除さる

早川 一郎氏

新郷村の士 昭和七年二月補充員召集の爲め輻重兵第一大隊に應召第一牽引自動車隊に編入字品出帆吳淞港上陸軍需品輸送に従事三月酒肴料下賜上海各地の戰闘に参加し四月内地歸還す五月召集解除さる



島田貫一氏  
新郷村の士 昭和五年第一補充兵編入同七年二月動員下令補充員召集の爲め歩兵第十五聯隊に應召三月大阪出帆吳淞港上陸劉家巷着各地守備上海各地の戰闘に参加し三月御紋菓入御下賜品並に酒肴料下賜内地歸還五月召集解除さる



新井忠國氏  
新郷村の士 昭和七年騎兵第十四聯隊第三中隊入隊六月編成下令神戸出帆大連に上陸六月太平山通北祭家店附近戰闘に参加し七月十三戸東北方約三里無名部落並に泥々河右岸追擊戰闘に参加し其の他各地に轉戰數回討伐等各地に参加して武勳赫々十二月内地歸還す十二月上等兵命除隊す善行證書附與せらる



杉田昌平氏  
手子林村の士 縣立不動岡中學校出身昭和六年幹部候補生として近衛歩兵二聯隊第九中隊入隊十月軍曹進級九年七月見習士官任同村分會長に就任並に青訓指導員主任囑託分會發展に努力さる任步兵少尉叙正八位村内に於ける名望家に同村に於て醸造元たる主たり





志多見村の士 昭和六年横須賀海兵團入  
團三月青訓修了者檢定に合格五月軍艦  
島に乗組を命七年九月及八年一月七月前  
後三回南洋廻航遠洋航海に發八年度海軍  
特別大演習に参加御紋葉下賜一等機關兵  
命九年二月普通善行證一線附與十月橫濱  
機關檢定に参加賞狀三種賞與五月滿期  
青年團副支部長の要職にあり



志多見村の士 昭和六年獨立守備步兵第  
三大隊三中队入隊五月青訓修了者檢定に  
合格九月事變に出征營口山接官堡附近に  
一を始王屯城子對面山昌圖及法庫門七年  
一月十里河大沙嶺三家子附近戰闘に參加  
し其の他に轉戰十數回及各地討伐戰備  
等に參加八年十一月伍長任官八年十二月  
除隊す七年十一月伍長任官八年十二月  
精勤章七章並に健康表彰狀善行證書附  
與せらる



高柳村の士 昭和六年歩兵第七十三聯隊  
機關銃隊入隊十二月より七年十月まで羅  
南に在りて滿洲事變に關する勤務に従事  
十月復員完結各地警備七年四月モザン地  
方警備八年五月除隊善行證書附與青年團  
監事分會評議員の要職にあり



高柳村の士 昭和三年騎兵第十五聯隊第  
四中隊入隊三年度特別騎兵演習並に岩手  
縣下施行特別大演習に参加十二月大禮觀  
兵式に參列上等兵命四年十一月除隊精勤  
章善行證書附與同村分會專務理事並に青  
訓指導員囑託青年團副團長の要職に在  
り盡力さる



高柳村の士 昭和三年歩兵第三聯隊第十  
中队入隊十一月御大禮大饗第一日御儀の  
際酒肴料下賜御大禮行幸の際原宿驛に於  
て儀仗衛兵に服務十二月上等兵命大禮觀  
兵式に參列四年七月除隊す精勤章二回善  
行證書並に下士適任證書附與大禮紀念章  
授與同村分會理事專務指導員囑託盡力さる



高柳村の士 大正十三年野戰重砲兵第一  
聯隊入隊七月野戰重砲兵學校に分遣十四  
年七月原隊復歸十一月除隊上等兵命精勤  
章善行證書附與昭和三年御親閱式に參列  
同村分會前專務理事現在副分會長に就任  
並に青訓主任指導員囑託青年團支部長た  
り昭和九年年度御親閱式に參列す



共和村の士 縣立不動岡中學出身大正八  
年一年志願兵として輜重兵第一大隊第一  
中队入隊九年十一月軍曹進級十年八月見  
習士官任十二年輜重兵任少尉叙正八位昭  
和四年三月任中尉五月叙從七位同村分會  
長に就任青訓指導員囑託前北埼玉郡聯合  
分會理事の要職にあり村忠魂碑建設委員  
長として盡力さる、村内名士なり



共和村の士 大正八年近衛歩兵第三聯隊  
第八中队入隊同年十一月上等兵命特別  
恩賜金下賜精勤章附與十四年十一月師團  
對抗演習に参加同村分會副長に就任並に  
青訓指導員囑託努力せらる



共和村の士 大正七年野砲兵第十六聯隊  
第二中队入隊九年年度選拔照準手十月上等  
兵命十二月伍長勤務昇進十年十一月除隊  
精勤章十一月善行證書並に下士適任證書  
附與同村分會副長就任並に青訓指導員囑  
託さる昭和二年十月久通宮殿下より酒肴  
料下賜せらる氏は分會の發展に努力せら  
る



共和村の士 大正十二年現役志願兵とし  
て歩兵第三聯隊第一中队入隊十二年九月  
より戒嚴に關する勤務十三年五月横濱警  
備に派遣十一月除隊十一月輕機關銃第三  
種射擊徵章附與同村分會現副長就任消防  
小頭三年忠魂碑建設委員として努力せら  
る



川俣村の士 大正十二年一年志願兵とし  
て近衛歩兵第三聯隊第二中队入隊九月關  
東大震災の際戒嚴勤務に従事十三年四月  
見習士官命昭和元年三月任陸軍歩兵少尉  
叙正八位大正十五年御大葬式に全國青年  
代表者として參列昭和三年度御親閱式に  
參列大禮紀念章授與青年團長羽生郡支部  
長同村分會理事現副分會副長並に青訓指  
導員教官消防小頭の要職にあり盡力さる



川俣村の士 昭和三年騎兵第十六聯隊第  
四中隊入隊三年度岩手縣地方施行特別大  
演習に参加十二月上等兵命四年十一月除  
隊精勤章取術徵章十一月善行證書並に下  
士適任證書附與中隊各軍刀術競技會に於  
て聯隊長中隊長殿より賞狀授與同村分會  
班長青訓指導員の要職にあり



早川 辨之助氏  
川俣村の士 昭和四年野戦重砲兵第四聯隊第四中隊入隊七月陸軍野戦砲兵學校に  
分遣四年度特別大演習に参加十二月上等  
兵命五年度特別砲兵演習参加十月原隊復  
歸十一月除隊精勤章二回觀測褒章徵章並  
に賞狀十一月善行證書下士適任證書附與  
同村分會班長青訓指導員たり



瀨島 英氏  
原道村の士 明治四十三年重砲兵第一聯  
隊入隊大正二年任伍長陸軍學校分遣  
令野戦重砲兵第二聯隊第一中隊九月須賀下  
帆野山灣上陸山砲兵隊に參加十月青  
務曹長任曹長十月山砲兵隊に參加十月  
記章並に功勳章功勳章功勳章功勳章  
指導員表忠魂碑七級勳功勳章功勳章  
にあり表忠魂碑七級勳功勳章功勳章  
にあり表忠魂碑七級勳功勳章功勳章  
にあり表忠魂碑七級勳功勳章功勳章



岡田 桂一氏  
原道村の士 縣立不動岡中學校卒業昭和  
五年幹部候補生として近衛騎兵聯隊第二  
中隊入隊六年十月軍曹進級八年六月見習  
士官命昭和九年三月騎兵少尉任官叙正八  
位同村分會副長に就任し青年團支部長消  
防小頭青訓指導教官の要職に在る名望家  
なり



横山 清一氏  
川邊村の士 昭和二年歩兵第七十五聯隊  
入隊國境警備勤務銃城守備隊に着三年十  
月上等兵命十二月伍長勤務昇進五月除隊  
精勤章四年五月善行證書並に下士適任證  
書第三種射擊章附與四年度射擊大會に於  
賞狀授與四年五月銃剣術競技大會に於  
聯隊長殿より賞狀授與同村分會班長青訓  
指導員として盡力さる



島 喜重氏  
川邊村の士 昭和四年近衛歩兵第三聯隊  
第五中隊入隊四年度茨城縣下施行特別大  
演習に参加大觀式に五回参列五年六月  
上等兵命同日伍長勤務命五年十一月除隊  
恩賜金下賜精勤章二回善行證書並に下士  
適任證書附與青年團副團長同村分會理事  
青訓指導員同村兵事係りの要職にあり公  
共に盡瘁さるゝ士なり



木村 嵩氏  
川邊村の士 昭和四年騎兵第十五聯隊第  
三中隊入隊十二月上等兵命五年十一月除  
隊精勤章二回射擊章十一月善行證書並に  
下士適任證書附與五年十月射擊大會に  
大會に於て聯隊長殿より賞狀授與五年  
四月中隊軍刀衛戍技會に於て木村壺個中  
隊長より授與青年團長並に副團長同村分  
會班長の要職にあり



酒卷 忠氏  
原道村の士 大正十年歩兵第三聯隊第九  
中隊入隊十一年五月滿洲獨立守備隊要員  
として横濱出帆大連上陸歩兵第一大隊第  
三中隊編入各地守備勤務同十三年四月交  
代歸還原隊復歸十四年四月除隊上等兵命  
同村分會副分會長に就任並に青訓指導員  
囑託せられ分會發展努力せらる



中島 良助氏 (舊姓今成氏)  
原道村の士 大正十年野砲兵第一聯隊第  
三中隊入隊十二年九月關東地震の際第一  
上等兵命十二年九月關東地震の際第一  
南警備隊に屬し戒嚴勤務に服す十二月  
十一月除隊精勤章二回勳章功勳章功勳  
に下士適任證書附與同村分會班長青訓指  
導員として盡力せられ消防分會協成協  
齊調査員として盡力せられ消防分會協  
衛氏一家より六名軍人を送り賞狀局より  
銀杯壹個授與さるゝ名譽ある士なり



小堀 龜太郎氏  
川邊村の士 大正十五年歩兵第三聯隊第  
九中隊入隊十二月上等兵命昭和二年愛  
知縣下施行特別大演習参加十一月除隊精  
勤章善行證書並に下士適任證書附與十月  
勤務演習に應召四年度茨城縣下施行特別  
大演習参加十一月青年團會計係の要職に  
あり分會の爲め努力さる



阿部 新一氏  
川邊村の士 昭和六年歩兵第二聯隊第九  
中隊入隊二月青訓修了令大坂出版局上  
陸黃龍着地並に南洋護衛隊編成第九  
討伐及警備九月派南翔守備隊改組第九  
昂々溪富拉爾基附近戦闘に參加其他各  
旋に轉任十二月伍長勤務命十二月内  
三回下賜せらる



岡田 彌作氏  
利島村の士 大正六年朝野野砲兵第二十  
五聯隊入隊九年支那開島事件に出陣開島  
漁洲村等戦闘及各地に轉戦參加戰功に依  
り勳七等叙せられ砲兵特務曹長に進級し  
昭和二年豫備役編入同村分會班長並に聯合  
分會評議員に就任さるゝ村内名望家たり

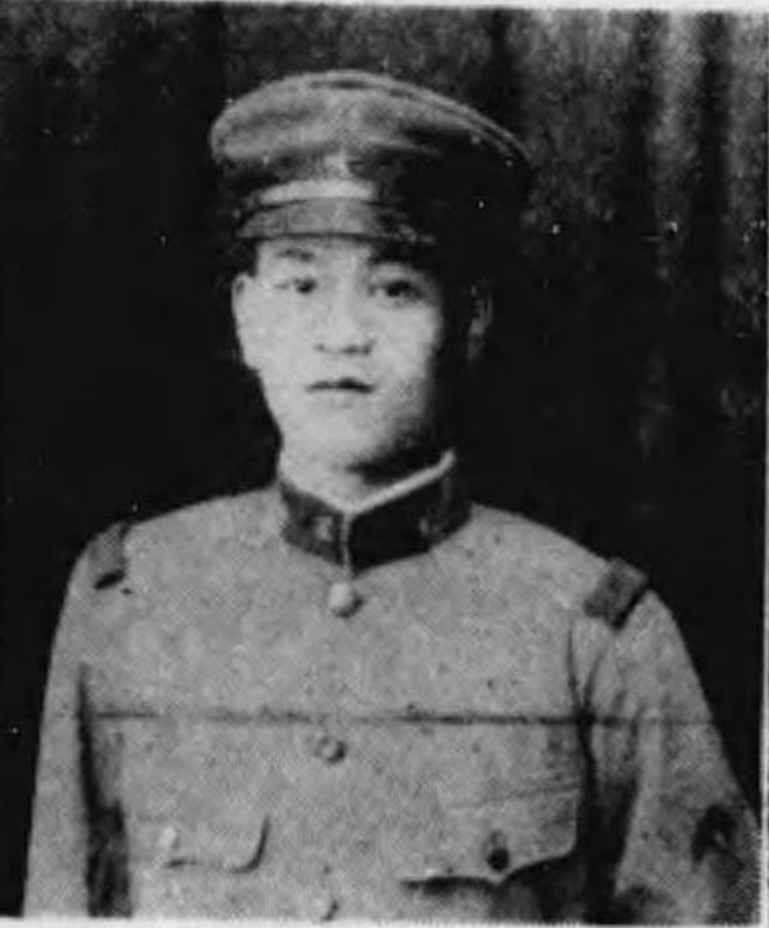


平井 新太郎氏  
利島村の士 大正六年横須賀重砲兵第一  
聯隊第三中隊入隊九年三月上等兵命十一  
月除隊善行證書附與同村分會前理事現副  
分會長就任分會の爲めに努力さるゝ名士  
たり



佐藤勝之助氏

利島村の士 昭和三年騎砲兵大隊第二中隊入隊十二月上等兵命四年二月伍長勤務昇進十一月除隊照準徽章善行證書並に下士適任證書附與青年團副支部長青訓指導員として盡力さるゝ士



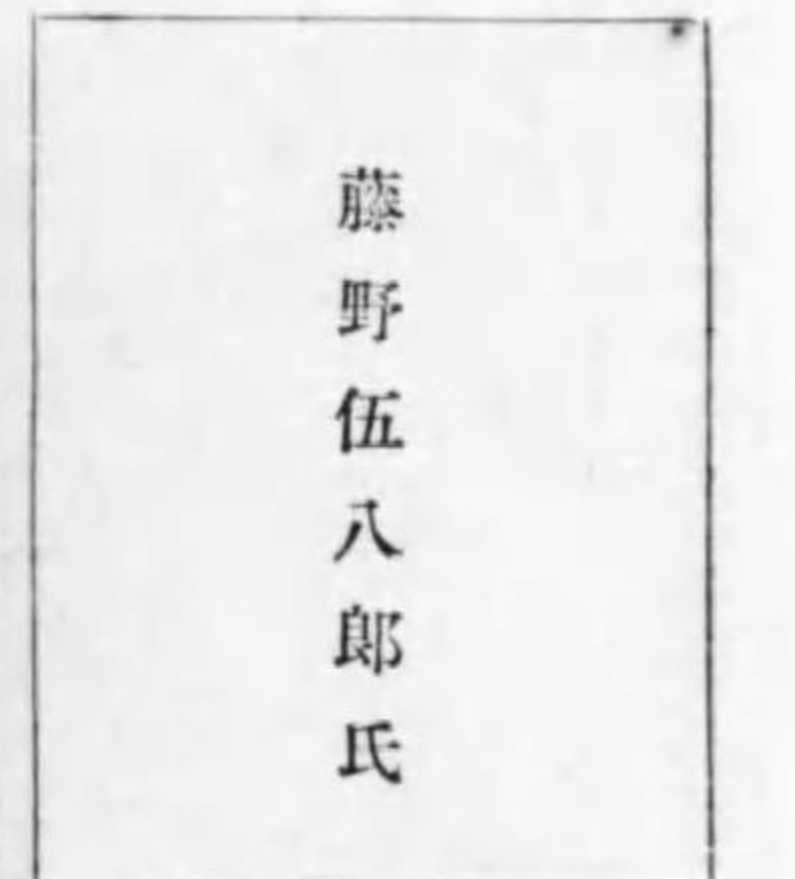
谷津恒市氏

利島村の士 昭和六年獨立守備步兵第三大隊第三中隊入隊九月駐屯地守備隊中隊長勤務昇進十一月除隊照準徽章善行證書並に下士適任證書附與青年團副支部長青訓指導員として盡力さるゝ士



羽鳥喜八氏

須賀村の士 大正五年近衛鐵道隊第六中隊入隊七月駐屯地守備隊中隊長勤務昇進十一月除隊照準徽章善行證書並に下士適任證書附與青年團副支部長青訓指導員として盡力さるゝ士



藤野伍八郎氏

須賀村の士 昭和七年充員召集の爲め編重兵第一大隊に應召第一牽引自動車隊に編入宇品出帆吳淞上陸軍需品輸送に従事三月御紋章附煙草並に酒肴料下賜上海各地の戦闘に参加し四月内地に凱旋五月召集解除さる



石井芳松氏

須賀村の士 大正七年歩兵第三聯隊第十中隊入隊九月青島守備隊第二大隊に派遣十一月上等兵命各地の守備に勤務し九月交代内地歸還十一月除隊精勤章善行證書並に下士適任證書附與同村分會役員勤務現分會長に就任消防部長兼置組合監事の要職にあり忍警察管内消防聯合會總裁並に消防聯合會會長より表彰授與せらる



柴田茂氏

須賀村の士 縣立不動岡中學出身昭和三年幹部候補生として近衛歩兵第一聯隊第六中隊入隊十二月大禮觀兵式に特別大演習に十一月茨城縣下に於ける特別大演習に参加十二月豫備隊編入六年八月見習士官命九月召集解除七年三月歩兵少尉任官叙正八位同村分會長に就任せられ並に青訓主任指導員として努力さるゝ名望家たり



小磯基一氏

須賀村の士 昭和二年近衛歩兵第三聯隊機關銃隊入隊八月歩兵學校教導隊隊に分遣二年度名古屋地方に於ける特別大演習に参加三年五月原隊復歸上等兵命酒肴料下賜善行證書附與青年團長青訓指導員同村分會班長兼理事現青年團顧問の要職にあり



小林濱次氏

須賀村の士 昭和四年騎兵第十五聯隊第一中隊入隊十二月上等兵命五年一月伍長勤務昇進十月特別騎兵演習に参加五年十一月歸休精勤章五年十一月善行證書並に下士適任證書附與青年團支部長並に部長同村分會班長兼理事青訓指導員の要職にあり努力せらる



小磯喜傳次氏

須賀村の士 昭和七年歩兵第三聯隊第十一中隊入隊二月青訓修了者檢定に合格十二月上等兵命八年七月除隊精勤章輕機關銃第一種射擊徽章善行證書並に下士適任證書附與青年團支部長青訓指導員たり



梅沼元春氏

岩瀬村の士 大正六年歩兵第三聯隊第二中隊入隊七月駐屯地守備隊中隊長勤務昇進十一月除隊照準徽章善行證書並に下士適任證書附與青年團副支部長青訓指導員として盡力さるゝ士



堀口恵八氏

岩瀬村の士 大正十三年横須賀海軍團入團十二月横須賀海軍病院轉勤四月四月教育修了に付き復歸四月依命海軍病院轉勤十五年十一月依補充交代軍艦日進轉勤す昭和二年十一月一等看護兵命十一月歸休普通善行證書一線服役優等證書並に技術證明書授與同村分會副長に就任農事組合長消防小頭の要職にあり



上原傳吉氏

岩瀬村の士 昭和四年歩兵第三聯隊第六中隊入隊四年度茨城縣下に於ける特別大演習に参加御紋章下賜五年七月除隊上等兵命精勤章善行證書附與青年團副團長青訓指導員として盡力せらる



山口啓之助氏  
 岩瀬村の士 昭和七年勳賞下令充員召集の爲め輜重兵第一大隊應召第一率引自動車隊に編入宇品出帆吳淞上陸軍需品輸送に従事三月酒肴料下賜上海附近及各地の戦闘に参加し四月内地歸還原隊復歸五月四日召集解除さる同村分會班長青年團長の要職にあり



海老原隆治氏  
 三俣村の士 縣立不動岡中學校出身昭和三年幹部候補生として近衛歩兵第一聯隊第七中隊入隊十二月大禮觀兵式に參列四年度茨城縣下に於ける特別大演習に参加六年八月見習士官命七年三月陸軍歩兵少尉叙正八位同村分會前分會副長にして現在分會長に就任青訓主任指導員消防小頭の要職にあり分會發展事業の向上に努力さる



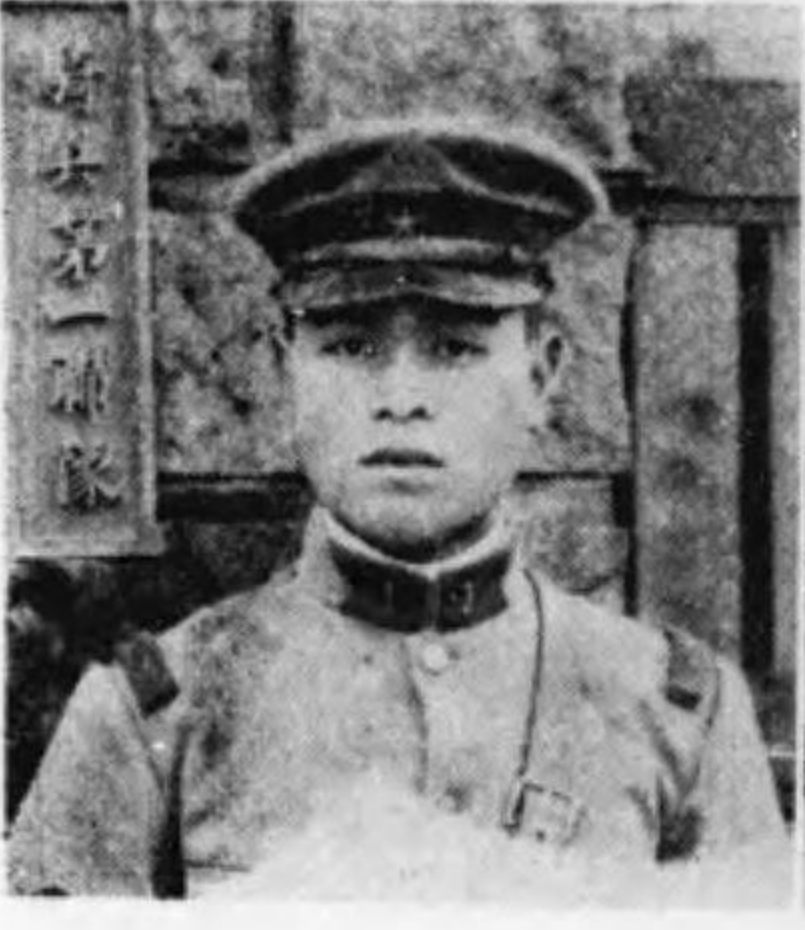
矢島正善氏  
 三俣村の士 縣立不動岡中學校出身東京聖學院中學出身昭和七年陸軍士官學校豫科入學九年九月本科入學現在士官候補生として砲兵軍曹の階級にあり澄宮殿下様と同期生にして日々御懇切なる御言葉拜受御下賜品下賜前途有爲の青年士官たり



加藤榮一氏  
 三俣村の士 昭和六年歩兵第三聯隊第三中隊入隊十二月上等兵命七年七月除隊精勤章二回七月善行證書並に下士適任證書附與七年度聯隊射撃手競技大會に於て賞狀第二種射撃章授與青年團支部長及評議員同村分會監事青訓指導員の要職にあり努力さる



藤村一太郎氏  
 屈巢村の士 分會役員として公共に盡力せらる



朝見鏡司氏  
 屈巢村の士 昭和五年騎兵第一聯隊第一中隊入隊同六年十一月善行證書附與除隊同村分會班長たり現農林省農事試験場に勤務せらる



槍田光義氏  
 三俣村の士 大正十年騎兵第十五聯隊機銃隊入隊十一月上等兵命十二年九月關東大震災の際千葉警備隊に屬し戒嚴勤務に服す十一月除隊賞休二回精勤章二回善行證書並に下士適任證書附與六年七月任職同地方馬一齊調査員村教育會長表及授與郡聯合會青年團支部長表並に木杯一等賞勳章より一家四名軍族を送り表彰ソノ一等賞勳章より一家四名軍族を送り表彰露軍有勳者なり同村分會副會長計主任青訓指導員要職にあり



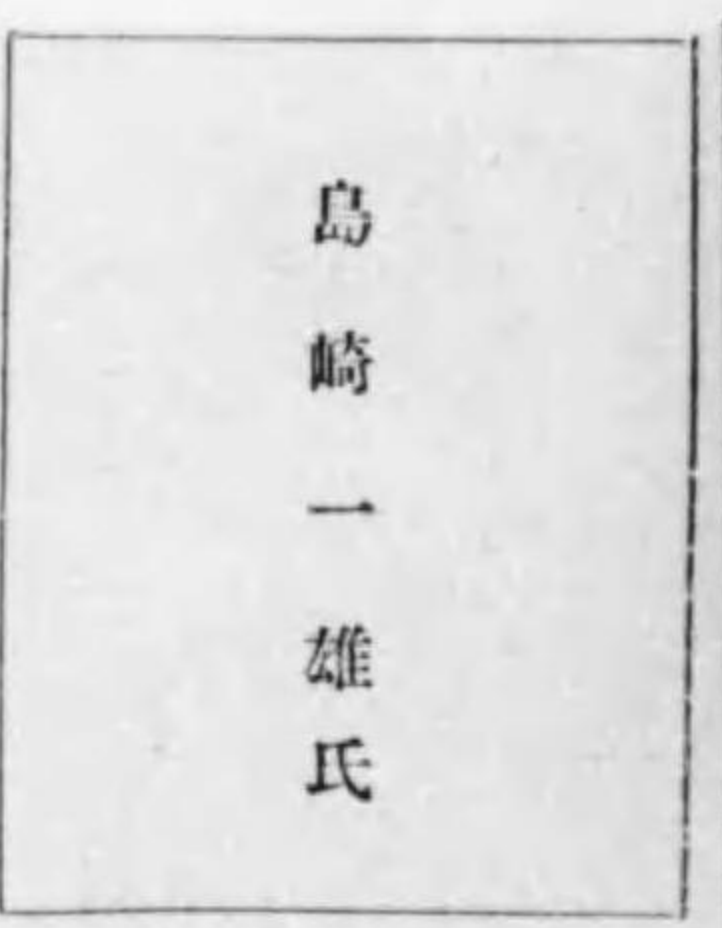
矢島義雄氏  
 三俣村の士 大正十四年所澤近衛氣球隊第一中隊入隊九月特別航空演習に参加十五年十一月除隊精勤章三回善行證書附與青年團副團長分會監事たり青年團役員勳章に付感謝狀授與弟喜代司氏は現在横須賀海兵團に入團中一家より四名の軍族を送り賞勳局より表彰狀木杯壹個授與さるゝ名譽ある家庭なり



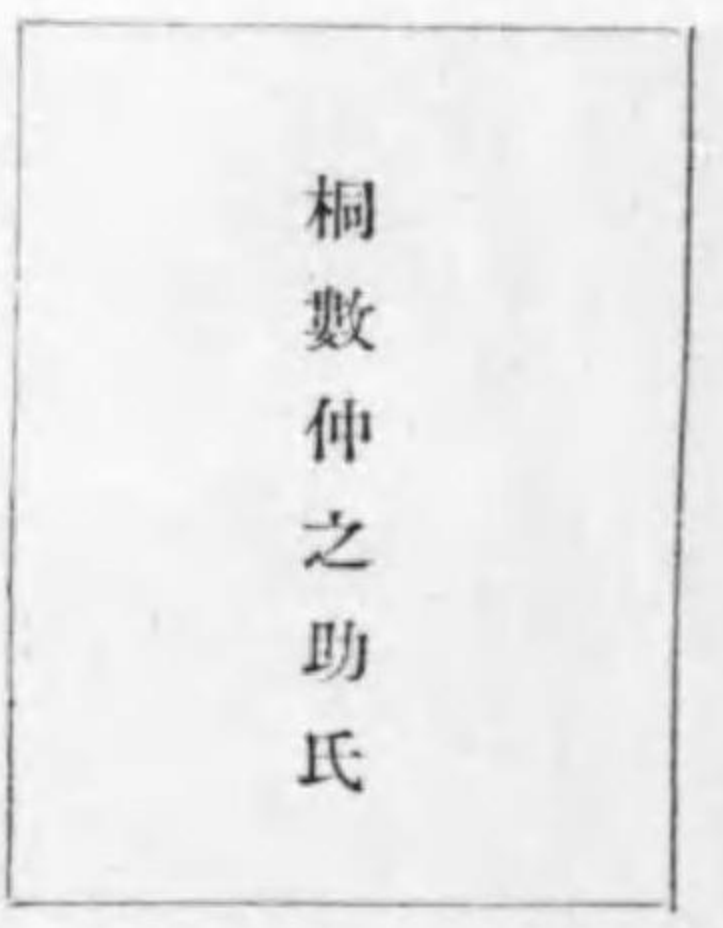
新井保次氏  
 三俣村の士 昭和五年歩兵第三聯隊第六中隊入隊十二月上等兵命六年七月除隊精勤章七月善行證書並に下士適任證書附與同村分會班長及監事青訓指導員青年團評議員の要職にあり昭和七年賞勳局總裁正四位勳二等下條康廣殿より一家より六名軍人を送り表彰さるゝ名譽ある家庭なり



武井忠雄氏  
 屈巢村の士 昭和五年歩兵第三聯隊第一中隊入隊十二月上等兵命六年六月精勤章七月善行證書並に八月下士適任證書附與除隊同村分會幹事青訓指導員囑託さる



島崎一雄氏  
 屈巢村の士 昭和二年歩兵第三聯隊第七中隊入隊同四年六月善行證書附與除隊同村分會副長に就任盡力せられ並に同村區長國勢調査委員衛生土木委員囑託さる



桐數仲之助氏  
 屈巢村の士 昭和二年横須賀重砲兵聯隊第一中隊入隊九月馬取扱ひ修業の爲め野戰重砲兵聯隊に分遣精勤章同三年十二月善行證書附與除隊同村分會班長たり

關口千代吉氏

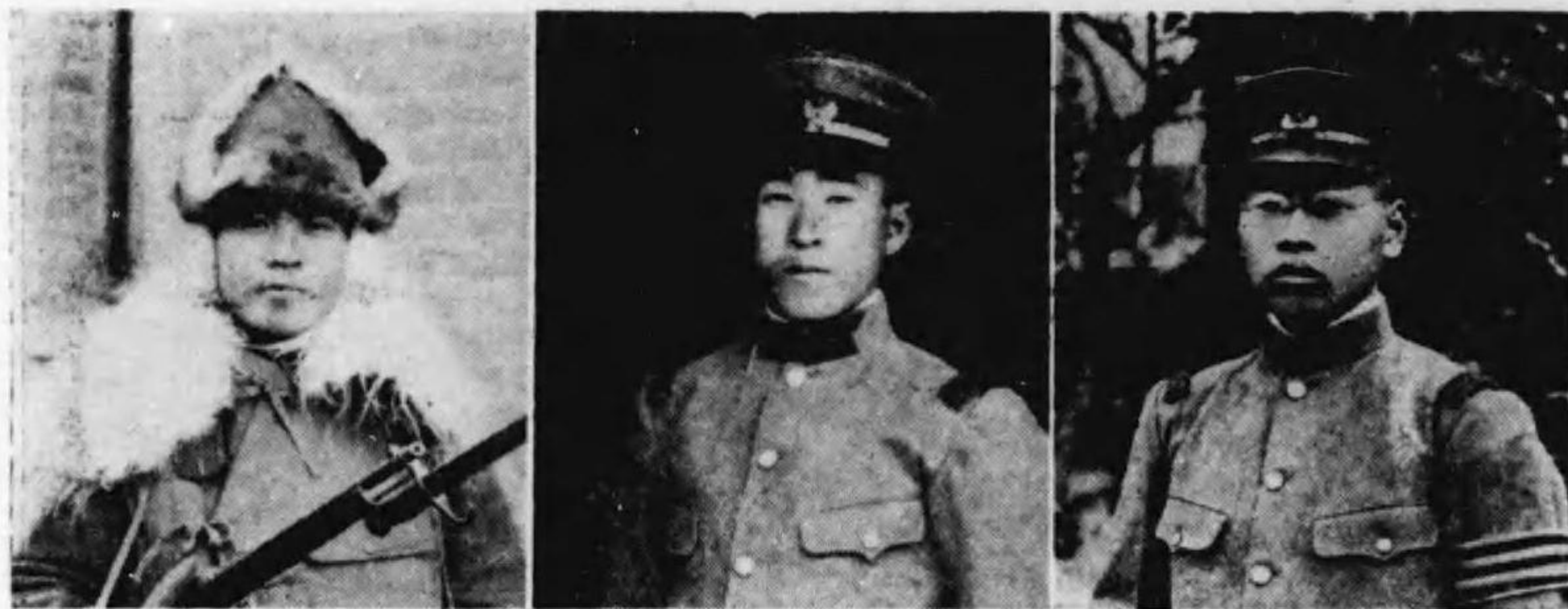
屈巢村の士 昭和六年横須賀重砲兵聯隊  
第五中隊入隊同七年精勤章附與七年十一  
月除隊同村分會評議員たり

齋藤忠治氏

大越村の士 縣立熊谷中學校出身昭和三年  
年幹部候補生として近衛歩兵第一聯隊第  
六中隊入隊十二月大禮觀兵式參列十月軍  
曹進級四年度茨城縣下施行特別大演習參  
加十一月除隊六年八月見習士官命七年三  
月任陸軍歩兵少尉叙正八位同村分會副分  
會長就任青訓主任指導員の要職に在り盡  
力さるゝ士

石川直行氏

大越村の士 大正十四年近衛歩兵第三聯  
隊第五中隊へ一年志願兵として入隊昭和  
元年十二月見習士官命四年三月任陸軍歩  
兵少尉叙正八位同村分會長並に聯隊分會  
理事に就任同村助役及兵事係青訓指導員  
等要職に在りて自治團體各公共に努力さ  
るゝ縣内に於ける名家たり



青木榮之助氏

田ヶ谷村の士 大正十三年近衛歩兵第三聯  
隊第七中隊入隊十四年一月上等兵命八月  
天皇皇后兩陛下日光田母澤御用邸御駐籠  
の際儀仗衛兵として派遣酒肴料下賜十一  
月師團對抗演習に參加除隊善行證書附與  
同村分會副會長に就任せられ並に青訓指導  
員囑託盡力せられ昭和九年五月帝國在郷  
軍人會長鈴木閣下より功勞表彰さる

江口義治氏

村君村の士 大正十二年近衛野砲兵聯隊  
第二中隊入隊九月關東大震災の際戒嚴地  
東京北部警備勤務十三年一月皇太子殿下  
御成婚式に際し禮砲發射酒肴料下賜十一  
月除隊善行證書附與同村分會長並に聯合  
分會評議員就任盡瘁さる

峯崎孝三氏

村君村の士 昭和六年歩兵第三聯隊第二  
中隊入隊十二月獨立守備隊兵員補充の爲  
め守備歩兵第一大隊第二中隊編入下關出  
帆釜山上陸滿洲事變に従事七年三月農安  
附近六月十三家子南方七月通遼江口九月  
白省子各附近戰闘に參加し御下賜品四回  
酒肴料二回下賜八年五月上等兵命五月除  
隊精勤章善行證書附與青年團研究會長の  
職にあり



田村安治氏

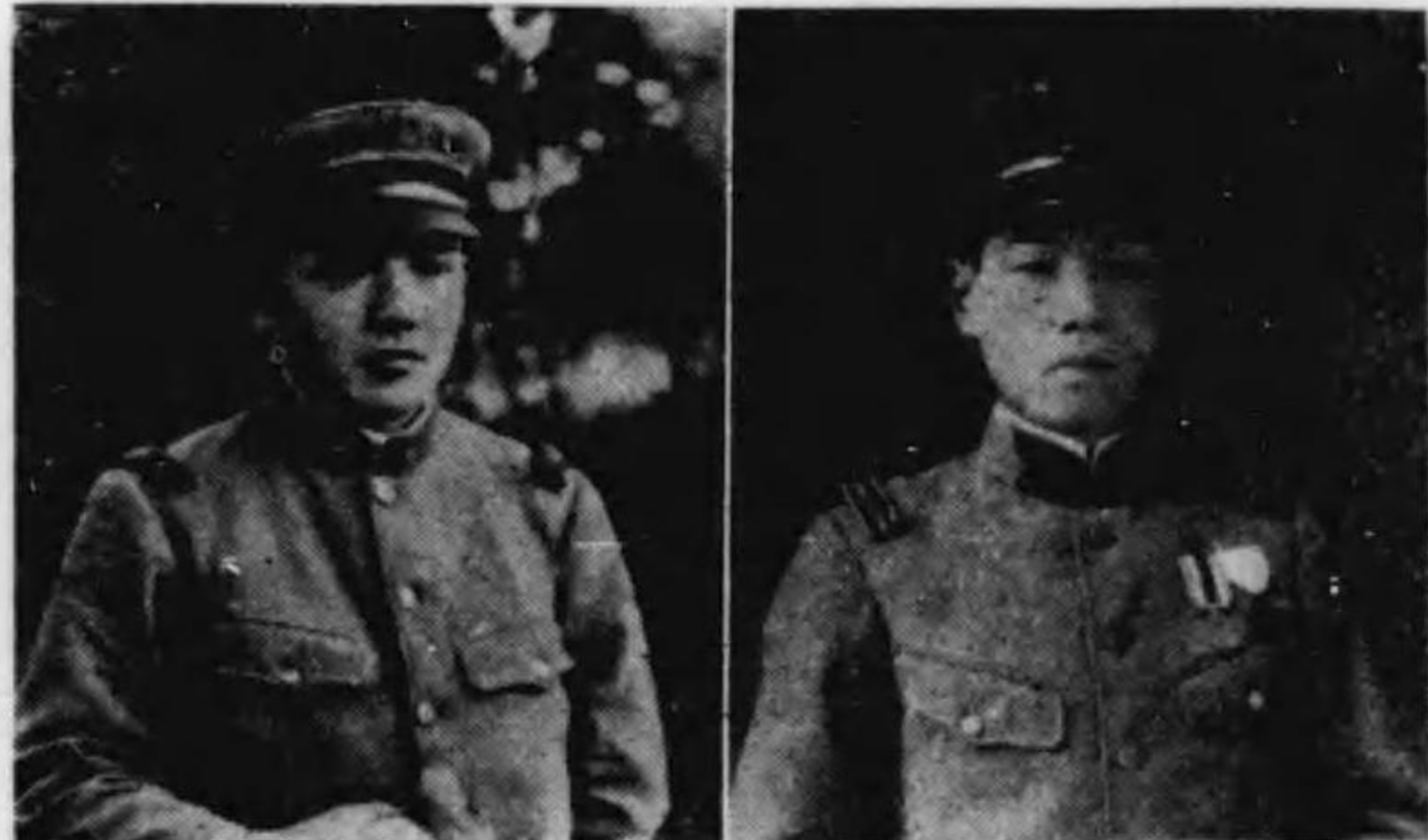
水深村の士 昭和六年歩兵第七十三聯隊  
機關銃隊入隊十二月滿洲派遣の爲め羅南  
發奉天着七年一月錦州攻撃に參加錦西附  
近遼忠再省新臺門高家嶺下九門臺大溝吉  
林省小コンチム等各地の戰闘に參加し  
其他轉戰數回九月羅南に歸着七年十一月  
除隊善行證書附與九年三月滿洲國建國功  
勞章授與さる

加村徳太郎氏

水深村の士 昭和六年歩兵第三聯隊機關  
銃隊入隊十月獨立守備歩兵第一大隊に轉  
屬下關出帆釜山上陸守備地公主嶺着十二  
月滿洲事變勤務に従事通遼三江口白唐子  
五道崗子鄭家屯石砬子溝等各地に於ける  
戰闘に參加七年十二月上等兵命八年五月  
除隊善行證書附與九年三月滿洲國建國功  
勞章授與さる

吉野精三郎氏

田ヶ谷村の士 大正九年近衛歩兵第三聯  
隊第一中隊入隊軍曹任官同村分會長に  
就任勤績せられ屈巢村小學校訓導奉職す  
氏は専ら分會の發展事業の向上に努力さ  
るゝ村内に於ける名望家たり



門井藤吉氏

大桑村の士 大正元年一年志願兵として  
東京麻布歩兵第三聯隊第三中隊入隊大正  
五年三月任官歩兵少尉叙正八位同十一年  
三月任陸軍歩兵中尉叙從七位大正三年同  
村分會長就任せられ現在勤績聯合分會評  
議員村會議員青訓指導教官其他自治團  
體に盡瘁さるゝ村内の名士たり

門井善之助氏

大桑村の士 昭和四年野砲重砲兵第二聯  
隊第四中隊入隊七月通信手命十一月除  
隊精勤章附與昭和七年二月動員下合原隊  
召集宇品港出帆上海上陸二月北附近陣  
地偵察二月陸港上ガ北附近江灣ビヨ  
コ一鐵戰闘及各地警備に參加其の他  
各地に轉戰及各地警備に參加五月内地  
歸還凱旋除隊嚴父忠誠氏は日露戰に従  
軍し白色桐葉勳章勳功勳勳功勳勳功勳  
上海實戰談話師として青年團より銅金火  
鉢寄贈さる

吉澤照次氏

井泉村の士 大正四年一年志願兵として  
歩兵第三聯隊第三中隊入隊昭和三年三月  
任陸軍歩兵中尉叙從七位同村分會長に就  
任同村會議員の要職に在り公共に盡瘁さ  
るゝ村内名士なり





中島 暉 氏

井泉村の士 大正九年工兵第十九大隊第一中隊入隊八月陸軍工兵學校教導隊に分遣十一月上等兵命十一月交代の爲め歸隊八月伍長勤務十月除隊十一月第四種射撃章精勤章十一月十月下士適任證書附與七月任工兵伍長同村分會副議長並に青訓指導員主任として努力さるゝ士



鹽原 梅之丞 氏

樋澤川村の士 大正七年一年志願兵として近衛歩兵第四聯隊第五中隊入隊十年九月見習士官命十一月三月任陸軍歩兵少尉叙正八位同村分會長に就任昭和三年度御親閲式並に大觀兵式に參列大禮記念章授與現北埼玉郡聯合分會副議長にして同村收入役の重職にあり村内に於ける名士なり

山下 恒 雄 氏

井泉村の士 昭和三年近衛砲兵聯隊第四中隊入隊四年度特別大演習に參加十一月任砲兵伍長十一月除隊同村分會班長監事並に青訓指導員の要職にあり分會發展に努力さる



齊藤 武 衛 氏

三田ヶ谷村の士 昭和六年獨立守備歩兵第三大隊第三中隊入隊十二月青訓修了檢定に合格父二郎附衛門臺宇海屯附近戰地並に八月連高附近各地に轉戦十數回各編成改訂に依り大隊武勳章八十二年二月官差除隊精勤章二回善行證書附與待從功勞章授賜

小管 眞 六 氏

不動岡町の士 昭和五年電信第一聯隊第七中隊入隊十月關東軍司令部無線電信要員に轉屬十一月神戸出帆大連に上陸旅順無線電信要員命六年九月滿洲事變に參加服役延期十二月除隊七月工兵上等兵命精勤章二回善行證書附與同村青訓指導員囑託青年團副團長たり



島海登一郎 氏

井泉村の士 昭和五年獨立守備歩兵第四大隊第三中隊入隊六月守備地着六月十二月伍長勤務命九月滿洲事變出動鳳城關を始名地に轉戦十數回參加鐵道守備及十月葛河附近兵團討伐に參加六月伍長任從武官御差遣酒肴料二回下賜六月與六月滿洲事變に精勤章三回善行證書附與六月長任從武官御差遣酒肴料二回下賜六月守備隊停止せしめ敵を撃退せし爲め獨立守備隊司令官陸軍中將森閣下より表彰狀授與す



大谷 治 吉 氏

星河村の士 昭和四年臺灣歩兵第二聯隊第三中隊入隊十一月秋演習に參加臺灣中隊入隊十月秋演習に參加臺灣南出動マヘボ社著戦間に參加通信班編入臺灣六隊七月臺灣勳章十一月善行證書附與隊長瑞章並に金六拾圓授賜青年團支部分長青訓指導員囑託青年團長より表彰さる士なり



根岸 愛 治 氏

太井村の士 熊井中學校出身昭和七年電信第一聯隊第九中隊入隊九月混成第十四旅團通信無線要員として編入小樽出帆釜山陸奉天着十月東邊道匪賊討伐大興安戰間に參加十二月御下賜品下賜八月一月皇太后陛下より御下賜賜る八月一月海拉爾及奉天に駐屯待命熱河作戦に參加山海關警備九年五月上等兵命内地歸還除隊す精勤章並に善行證書附與さる

關口 一 之助 氏

崎玉村の士 大正十年東京第一衛戍病院に編入三月看護學修業歸休昭和七年二月動員下令東京第一衛戍病院に應召三月宇品出帆吳淞上海各地の戰闘に參加上海紡績會社附近に於て看護兵として勤務に従事し同月復員下令内地歸還召集解除さる回村分會班長消防小頭たり

中田 仁 作 氏

加須町の士 大正十二年一年志願兵として歩兵第三聯隊第十一中隊入隊十三年十月見習士官命昭和二年三月任陸軍歩兵少尉叙正八位昭和九年三月任歩兵中尉叙從七位昭和三年度御親閲に參列大禮記念章授與同村分會各役員勤続せられ現在分會長並に北埼玉郡聯合分會理事加須支分會支部長に就任せられ分會の發展に努力さるゝ名士たり

長島 昂 氏



中島村の士 陸軍歩兵中尉に任官せらる北埼玉郡聯合會長並に中島村分會長の要職にあり同村分會發展の向上に努力さる村内に於ける名士なり

田島 賢 吉 氏

下忍村の士 昭和六年一月歩兵第七十三聯隊第三守備隊要員として入營七年四月七日滿洲事件爲三長守備隊出動部隊に屬し滿洲國土城着大王洞發三水坪着滿洲國宮地方戰闘參加十月閉門附近大小馬溝附近三水坪大小玉石洞各地戰闘及討伐參加出征軍士

兒玉郡ノ部

關口博氏

下忍村の士 昭和六年六月一日朝鮮第七十六聯隊機關銃隊入隊滿洲事件爲錦州攻略參加を初戰闘として張相公附近錦州附近大凌河班口塔敦化黑石嶺嶺嶺嶺近ゴンチム窩安黑貝嶺前河各地の戰闘及討伐に參加の勇者七年十月上等兵八年四月歸休精勤章善行證書褒賞善行證書附與

橋本嘉太郎氏

下忍村の士 北河原村の出身にして大正七年航空隊入隊八年十月兵庫縣下特別大演習參加四月至七月戰闘に關する勤務に従事十年歸休昭和七年二月五日充員召集飛行隊五聯隊應召字品港出航上海上陸同地會戰劉河鎮大場鎮各地戰闘參加四月八日召集解除西比利亞事件に依り金四十五圓及從軍記章授與再度の出戰勤務者自動車自轉車業經營せらる

小早瀬春次郎氏

下忍村の士 昭和六年六月一日朝鮮第七十六聯隊第五中隊入隊十二月混成旅團編入滿洲事變の爲羅南發新義州國境通過奉天着四月錦西連興城附近討伐參加以降哈爾濱着海林警備七年一月一日奉天集中錦州攻撃及警備戸波支隊に屬し錦西討伐小嶺子紅螺峴白石嘴邊門萬門鮑家牡丹江後控古放牛溝山市拉河の各地戰闘攻撃及討伐參加せらる出征軍士



山田要太郎氏  
本庄町の士 大正十二年歩兵第六十六聯隊第六中隊入隊十二年九月東京地方震災に付き治安維持の爲戒嚴地東京に出張二十九日原隊歸十一月歸休昭和二年八月上等兵に進級精勤章善行證書附與青訓開始以來青訓指導員分會理事として多年盡瘁せらる

細野重雄氏  
本庄町の士 昭和四年六月朝鮮第七十三聯隊第二中隊入隊五年六月上等兵十月伍長勤務命十一月歸休精勤章善行證書下士適任證書附與七年七月歩兵三聯隊に應召中任歩兵伍長青訓指導員歴任雙組副助官勳委員養實行組合長分會理事第一種二種別擊章授與せらる

櫻井博美氏  
秋平村の士 大正十三年横須賀海兵團入團四月金剛乗組昭和二年三月支那に廻航五月海軍一等水兵十一月戦技優等成績第一種賞狀附與特別大演習参加御紋葉下賜同月普通善行章附與同月滿期青年團顧問兒玉郡海軍部長本村在郷軍人分會長の要職にあり



海北条司氏

秋平村の士 昭和五年陸軍候補生として近衛歩兵第四聯隊に入隊六年十月軍曹銓衡會議可決九年三月任歩兵少尉正八位に叙せらる分會役員たり

安久澤勝三氏  
秋平村の士 大正十四年歩兵第六十六聯隊第二中隊入隊十四年度軍整に依り五月歸休歸休後分會役員として盡瘁せらる

中島恵治氏  
大深村の士 昭和六年歩兵第六十三聯隊第七中隊入隊十二月上歩兵七年四月三聯隊第八旅團補隊充て滿洲派遣教化寧安三河各地戦闘参加十一月國境通過横道八旅團戦闘参加十一月國境通過原歸着出陣戦闘参加八月五月歸休除隊中隊大勝カッブ附與一家三名の軍族を送る名譽の家庭



中島好雄氏  
大澤村の士 昭和六年近衛歩兵第三聯隊  
機關銃隊入隊青訓檢定合格六月一等兵十  
二月上等兵歸休に際し酒肴料二圓五十錢  
下賜勳章二回第一種射擊徽章善行證書  
附與青訓指導員分會旗手たり



上田清氏  
大澤村の士 昭和六年朝鮮歩兵第七十六  
聯隊第七中隊入隊七月四月混成三十八旅  
團編成滿洲派遣羅南發新義州通過奉天着  
哈爾濱着吉林省梅林着牡丹臺安各地討  
伐參加十月國境上山峯通過八年五月歸休  
除隊出戰務七年五月牡丹溝於牛溝官地橫  
道河各地戰闘參加せらる



黒澤嶽五郎氏  
大澤村の士 昭和七年現役兵として歩兵  
第三聯隊第十一中隊入隊青訓檢定合格七  
年十月進級八年七月歸休勳章二回善行  
證書附與分會役員



田端百太郎氏  
松久村の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
第十一中隊入隊東京府下神奈川縣下特別  
大演習參加酒肴料下賜軍整に依り十一年  
八月歸休除隊少年赤十字團顧問愛國婦人  
會相談役本村役場に奉職現本村在郷軍人  
分會長其の他の要職にあり



矢島直夫氏  
松久村の士 昭和三年近衛輜重兵大隊第  
二中隊入隊三年度岩手縣下施行特別大演  
習參加大演習に付き酒肴料下賜十二月  
上等兵同月二日大禮觀兵式參列四年七月  
伍長勤務命十一月茨城縣下特別大演習再  
度參加同月歸休除隊勳章二回善行證書  
下士適任證書附與青訓指導員分會役員



鈴木正夫氏  
松久村の士 昭和七年十二月歩兵第五十  
七聯隊に幹部候補生として入隊現軍曹の  
階級に有り前途有望の士



松村定吉氏  
東兒玉村の士 大正五年歩兵第六十六聯  
隊に入隊十一月上等兵七年十二月任伍長  
大正八年三月編成下合十四師團青森發  
浦鹽上陸駐屯を始めて各地轉戰  
警備に服す十一月軍曹同月浦鹽春局  
會寧南經字品港凱旋十二月東亞地  
方震災に當り戒嚴勤務に従事す西伯利  
事勤務戰役の功に依り叙勳七等青色桐  
葉章金五百五十圓從軍勳章捷記章授  
與酒肴料下賜事務適任證書附與現青訓指  
導員分會副會長の要職にあり



萩原長平氏  
東兒玉村の士 大正十五年横須賀重砲兵  
第二中隊入隊十二月上等看護兵昭和二年  
七月歸休勳章善行證書看護長適任證書  
附與昭和四年度茨木縣下施行特別大演習  
參加御紋葉下賜同年十一月任三等看護長  
十一月勤務演習中成績優秀に付き表彰狀  
附與現分會副會長其の他の要職にあり



岡村信義氏  
東兒玉村の士 昭和二年歩兵第三聯隊第  
七中隊入隊十一月愛知縣下特別大演習參  
加御紋葉下賜十二月上等兵三年七月歸休  
勳章二回善行證書下士適任證書附與現  
青訓指導員有望の士嚴父由藏氏日露役從  
軍者一家三名の軍族を送る名譽の家庭た  
り



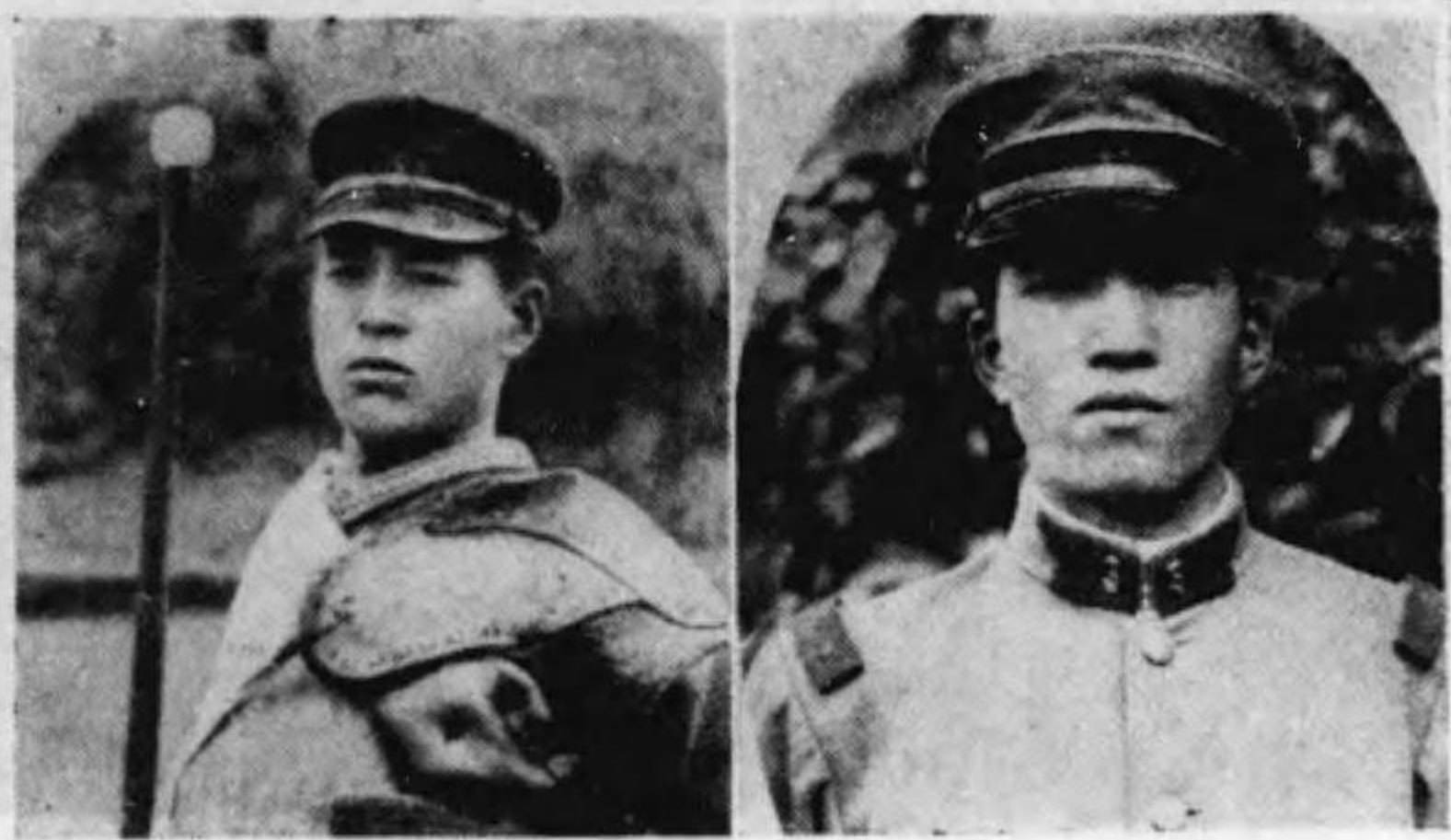
高橋義治氏  
東兒玉村の士 昭和四年六月近衛歩兵第  
三聯隊第七中隊入隊青訓檢定合格十一月  
茨木縣下特別大演習參加十月上等兵五年  
十一月歸休勳章二回善行證書附與分會  
役員



下山式太郎氏  
東兒玉村の士 昭和六年六月朝鮮第七十  
三聯隊九中隊入隊七年四月上等兵十月伍  
長勤務命十二月二十八日より羅南に於て  
滿洲事變に關する勤務從事八年十一月卅  
日歸休除隊下士官優秀者銃劍術競技會賞  
狀特別射擊賞狀善行證書下士官適任證書  
附與第五班長たり



淺見博氏  
東兒玉村の士 昭和六年横須賀重砲兵隊  
第六中隊入隊七月一等兵十二月上等兵七  
年十一月歸休除隊勳章三回通信褒賞徽  
章二回善行證書砲兵科下士適任證書附與  
第六班長たり



東見玉村の士 昭和七年歩兵第三聯隊第九中隊入隊七月一等兵十一月上等兵勤務十二月上等兵八年七月歸休精勤章二回特別射擊徽章善行證書附與分會役員

柳澤 佐一氏

共和村の士 昭和二年歩兵第三聯隊第三中隊入隊十一月愛知縣下施行特別大演習參加十二月上等兵三年七月歸休善行證書下士適任證書附與歸休後分會役員歷任置業組合青年團聯合會理事長愛國婦人會相談役青訓名譽會長分會長其の他の要職にあり

岩本甚太郎氏

田島五郎氏

共和村の士 昭和五年歩兵第四聯隊に幹部候補生として入隊八年十月見習士官九年三月任歩兵少尉分會副會長



共和村の士 昭和五年騎兵第十五聯隊第一中隊入隊十月騎兵特別演習參加爲千葉縣に出張六年八月歸休精勤章二回人馬衛生成績優等に付褒賞休暇第二種馬術徽章善行證書下士官適任證書附與第六班長青訓指導員

木村忠重氏

共和村の士 昭和六年騎兵第十四聯隊第二中隊入隊六年十二月上等兵七年六月編成下令神戸港出帆大連大平山蔡家店長發屯遼河訥河幹豐鎮蘇生拜泉遼山屯各地戰闘參加歸休せらる精勤章善行證書下士適任證書附與分會旗手班長青訓指導員

田牛安太郎氏

共和村の士 昭和六年朝鮮第七十六聯隊第九中隊入隊滿洲事變參加羅南發奉天經哈爾濱濱波面經寧安着同地齊備一面波及歸兒坂河牡丹江の各地討伐戰闘參加精勤章善行證書大隊聯隊銃劍術優秀賞狀附與八年五月歸休除隊

岩上金七氏



須田 健氏

神保原村の士 昭和三年歩兵第三聯隊第十一中隊入隊十一月二十九日大禮行幸還行の際儀仗兵勤務十二月上等兵十二月二日大禮觀兵式參列四年四月伍長勤務七月歸休精勤章二回善行證書第一種射擊徽章下士官適任證書附與大禮紀念章授與分會役員



松本 延雄氏

神保原村の士 昭和六年歩兵第七十六聯隊第十中隊入隊十二月混成第三十八旅團編入滿洲事變參加羅南發七年一月自至九月錦西紅山張林公大凌河白石翁高橋綏中興城頭臺子陳英溝前衛兵大子一面波待避段地東端披河大道河寧安の各地討伐戰闘參加二十七日國境上山峯通過原隊着十月上等兵精勤章善行證書附與青訓指導員たり



木村 忠仁氏

仁手村の士 昭和五年騎兵第十五聯隊機關銃隊入隊十月特別騎兵演習參加十二月上等看護兵六年七月歸休精勤章善行證書附與並に聯隊長より秋季演習中士の模範たる行爲により隊内一名の落伍者も出ざる成績推奨せられ表彰せらる分會役員



小林 米司氏

旭村の士 昭和六年歩兵第三聯隊第十中隊入隊十二月上等兵伍長勤務十一月十一中隊編入七年七月歸休精勤章善行證書下士適任證書附與八年八月任歩兵伍長埼玉縣教育會旭支部委員分會旗手青訓指導員第三班長

久米原 治作氏

藤田村の士 大正十四年歩兵第六十六聯隊機關銃隊入隊軍整に依り五月歸休昭和七年二月二十三日編成下令第二大隊要員として召集三月六日大阪港發十一日吳淞上陸上海着同地警備四月二十二日内地歸還二十八日宇品港凱旋五月十五日召集解除酒肴料下賜分會役員

飯島 仲次郎氏

藤田村の士 昭和四年六月朝鮮歩兵第七十三聯隊入隊五年六月上等兵十一月歸休精勤章善行證書下士官適任證書附與青訓指導員たり



松本 衛作氏  
藤田村の士 昭和四年歩兵第三聯隊機關銃隊入隊十一月茨城縣下施行特別大演習參加十二月上等兵五年七月歸休青訓指導員たり



並木 半藏氏  
加美村の士 大正十四年宇都宮野砲隊入隊群馬縣相馬原射擊演習に參加十一月栃木茨城縣下秋季演習參加十二月上等兵十五年十一月長野縣下秋季演習參加伍長勤務命歸休精勤章善行證書下士官適任證書附與九年八月高射砲隊照空手として野戰砲兵學校に分遣六ヶ年分會役員現副會長



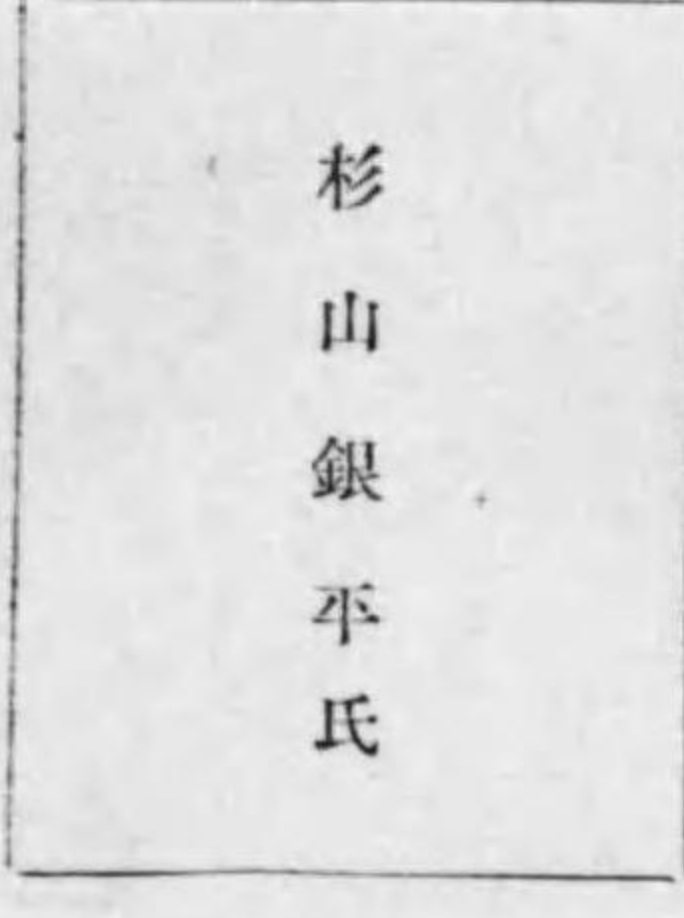
内田 朝治氏  
加美村の士 昭和四年歩兵第三聯隊第二中隊入隊所澤及金屋村方面出張習志野二回富士裾野一回下志津二回各演習地出張茨城縣下施行特別大演習參加御紋菓下賜精勤章善行證書附與



内田 始次氏  
加美村の士 昭和六年近衛歩兵第四聯隊第一中隊入隊青訓檢定合格八月一等兵十二月上等兵歸休に際し特別恩賜金二圓五十錢下賜精勤章善行證書附與



坂本 英雄氏  
七本木村の士 昭和五年近衛歩兵第四聯隊に幹部候補生として入隊九年三月任歩兵少尉青訓指導員分會副會長として銳意盡瘁せらる



杉山 銀平氏

七本木村の士 大正十五年朝鮮羅南第七十六聯隊に入隊現分會長として盡瘁せらる



飯塚 里治氏  
七本木村の士 昭和七年歩兵第三聯隊第三中隊入隊七年七月一等兵十一月上等兵八年五月第一中隊編入替七月歸休精勤章二回善行證書下士官適任證書附與分會旗手役員青訓指導員



飯島 武夫氏  
青柳村の士 昭和四年野砲兵第一聯隊第一中隊現役志願として入隊同年埼玉群馬栃木茨城東京府下特別大演習參加御紋菓下賜十月一等兵十二月上等兵五年十一月歸休善行證書附與第一班長青訓指導員八年十二月原隊に調教手として應召せらる



關口 良雄氏  
青柳村の士 昭和五年野戰重砲兵第七聯隊第二中隊入隊同年十月栃木縣下特別砲兵演習參加十月選拔照準手命十二月上等兵伍長勤務命六年十一月歸休照準優等徽章善行證書下士官適任證書附與八年八月任砲兵伍長分會役員



堀越 久三郎氏  
丹庄村の士 大正十五年歩兵第三聯隊第一中隊入隊同年十二月上等兵昭和二年六月伍長勤務命十一月愛知縣下施行特別大演習參加同月歸休精勤章二回褒賞休暇善行證書第二、三種射擊徽章下士官適任證書附與青訓指導員歷任分會長の要職にあり



藤 利一氏  
丹庄村の士 昭和五年近衛輜重兵大隊第一中隊入隊十二月上等兵伍長勤務命六年十一月熊本縣下特別大演習出張參加十一月歸休酒肴料二圓五十錢下賜精勤章善行證書下士官適任證書附與八年九月任輜重兵伍長一家四名の軍族を送り表彰せらる青訓指導員



田所 隆次郎氏  
北泉村の士 大正八年歩兵第六十六聯隊留守第一中隊入隊十二月上等兵九年四月伏木港發浦鹽港上陸尼市スハスカヤ各地戰闘參加及守備十月二十八日浦鹽斯德着ボセフリ港上陸彈藥局子會室羅南經清津港より宇品港上陸凱旋戰役の功に依り勳八等瑞寶章金百四十圓從軍記章授與第二種射擊徽章附與分會役員歷任理事たり

秩父郡ノ部



松本竹雄氏

長幡村の士 昭和五年野戦重砲兵第七聯隊第一中隊入隊七月看護卒十月栃木縣下特別砲兵演習参加十二月上等看護兵六年七月歸休精勳章二回善行證書附與分會役員

仲原吉松氏

長幡村の士 大正十五年歩兵第三聯隊第三中隊入隊十一月上等兵昭和二年十一月愛知縣下施行特別大演習参加同月歸休昭和四年勤務演習應召中十一月茨城縣下施行特別大演習参加御紋菓二回下賜精勳章善行證書附與分會旗手歴任役員青訓指導員たり

福島勝治氏

丹庄村の士 昭和二年朝鮮歩兵第七十六聯隊第三中隊入隊三年六月一等兵十月上等兵十二月伍長勤務命四年十月歸休射擊賞狀銃劍術賞狀計四回射擊徽章善行證書下士官適任證書附與分會評議員

戸谷久氏

藤田村の士 昭和四年歩兵第三聯隊第二中隊入隊十一月茨城縣下特別大演習参加十二月上等兵五年七月歸休精勳章二回善行證書下士官適任證書附與青訓指導員たり

新井公平氏



秩父町の士 埼玉縣立師範學校卒業大正十三年歩兵第一聯隊に短期現役として入隊昭和三年三月任官陸軍歩兵少尉叙正八位被十一月御大禮に付き地方賜饌の光榮に浴し大禮紀念章授賜同町小學校調導の職にあり鋭意兒童の教養に努められ青訓指導員囑託す

秩父町の士 大正四年各地方に参入隊西伯利亞大征伐に参加し勲七等功章授賜捷記本報附張三葉章授賜を命瑞濟も張昭三葉章授賜六等功章授賜し南昭和五年加功御大禮に付き地方賜饌の光榮に浴し大禮紀念章授賜同町小學校調導の職にあり鋭意兒童の教養に努められ青訓指導員囑託す

廣瀬國次氏

秩父町の士 大正七年各地方に参入隊西伯利亞大征伐に参加し勲七等功章授賜捷記本報附張三葉章授賜を命瑞濟も張昭三葉章授賜六等功章授賜し南昭和五年加功御大禮に付き地方賜饌の光榮に浴し大禮紀念章授賜同町小學校調導の職にあり鋭意兒童の教養に努められ青訓指導員囑託す

齋藤義三氏



秩父町の士 大正五年歩兵第六十六聯隊第十中隊入隊六年十二月上等兵命七年十一月下士適任證書附與八年四月臨時編成下令伍長勤務昇進九年七月任歩兵伍長職功に依り叙勲八等瑞寶章從軍記章一時金授賜除隊十年四月同町分會班長に就任分會向上の爲めに盡力せられ並に青訓指導員囑託さる

高野爲次郎氏

秩父町の士 大正十年一年志願兵として歩兵第六十六聯隊入隊十四年三月任陸軍歩兵少尉叙正八位被らる前同町分會理事勤現分會副長に就任し大に努力せらる

大島益吉氏

秩父町の士 大正十年一年志願兵として歩兵第六十六聯隊入隊十四年三月任陸軍歩兵少尉叙正八位被らる前同町分會理事勤現分會副長に就任し大に努力せらる

西長次郎氏





加藤傳次郎氏  
秩父町の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
第一中隊入隊十年十一月上等兵命十一年  
一月伍長勤務昇進十一月善行證書下士適  
任證書附與十五年任伍長同町分會理事の  
要職にあり前青訓指導員消防部長たり



横田嘉兵衛氏  
秩父町の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
第十二中隊入隊十一月上等兵命十一年八  
月十中隊編入大正十年度施行特別大演習  
に参加十一年十一月除隊善行證書附與  
同町分會第七班班長並に青訓指導員囑託せ  
らるる家具製造業經營さる



深田七兵衛氏  
秩父町の士 昭和三年十二月輜重兵第一  
大隊に幹部候補生として入隊七年三月任  
陸軍輜重兵少尉叙正八位被らるる青年團幹  
部昭和八年同町分會監事に就任専ら分會  
の爲めに盡力さる



近藤敬十郎氏  
秩父町の士 大正十五年工兵第一大隊第  
一中隊入隊元年十二月上等兵命昭和二年  
度愛知縣下施行特別大演習に参加二年十  
一月善行證書附與同町分會第七班班長たり  
分會のために盡力さるる同町衛生區長等の  
公職にあり



加藤平助氏  
秩父町の士 昭和三年歩兵第一聯隊第二  
中隊入隊十二月上等兵命四年七月歸隊除  
隊善行證書附與同町分會第八班班長に現  
任盡力さる秩父製鐵會社に勤務せらる



新井鍋吉氏  
秩父町の士 昭和三年野戰重砲兵第四聯  
隊第一中隊入隊十二月御大禮大觀兵式に  
參列御大禮大饗第一日御儀の際酒肴料下  
賜四年十一月水戸地方に於ける演習に參  
加善行證書附與され除隊前同町分會組長  
昭和八年四月第十一班班長たり前青年團評  
議員勤務せらる



新井晴治氏  
秩父町の士 比企郡明覺村出身昭和二年  
電信第一聯隊第九中隊入隊昭和二年八月  
一等卒に命精勤章附與除隊十一月上等兵  
命三年濟南事變の功に依り一時金授賜四  
年六月善行證書附與同町分會班長並に青  
訓指導員囑託す



相澤次郎氏  
秩父町の士 昭和五年獨立守備歩兵第四  
大隊第三中隊入隊六年六月上等兵命十一  
月侍從武官御差遣酒肴料下賜七年二月伍  
長勤務に昇進昭和七年侍從武官御差遣酒  
肴料賜ふ七年六月任歩兵伍長善行證書附  
與七月除隊同町分會第九班班長並に青訓  
指導員として盡力せらるる機械業經營さる



淺賀善吉氏  
秩父町の士 昭和五年臺灣歩兵第二聯隊  
第二中隊入隊十一月霧社蕃人討伐に參加  
六年五月澎湖島に於ける陸海軍聯合演習  
に参加六月上等兵命同日伍長勤務昇進六  
年度臺灣南洲下に於ける秋季演習に參加善  
行證書下士適任證書附與十二月除隊六年  
五月霧社事件勤務に依り一金授賜同町第  
八班組長青訓指導員前青年團副團長たり



雨宮連三氏  
秩父町の士 昭和六年近衛歩兵第一聯隊  
第七中隊入隊二月第一衛戍病院に轉屬七  
月陸軍士官學校に派遣上等看護兵に命原  
隊に復歸歸隊除隊精勤章二回善行證書  
附與同町分會第七班班長たり



新井和市氏  
秩父町の士 昭和六年近衛歩兵第一聯隊  
第一中隊入隊七年六月上等兵命同年明治  
節に守衛兵勤務酒肴料下賜善行證書附與  
七年二月原隊に在て滿洲事變に關する勤  
務に従事青訓指導員囑託す



守屋鈞義氏  
横瀬村の士 大正六年歩兵第六十六聯  
隊第一中隊入隊七年四月十一月上等兵命  
出動の爲め青森出帆浦鹽に上陸西伯利亞  
各地に於ける討伐並に戰闘に參加西伯利亞  
歸還戰功に依り叙勳八等白色桐葉章並に  
從軍記章同村分會各役勤務に依り現任  
歩兵伍長同村分會各役勤務に依り現任  
會長に就任盡力さるる並に青訓指導員囑託  
現教練主任の要職にあり



平沼 治氏  
 横瀬村の士 大正六年横須賀海軍入隊  
 軍艦防に於て第四種賞品授與八年七月南洋  
 射撃に於て第一種賞品授與八年七月南洋  
 群島に於て第一種賞品授與八年七月南洋  
 九年五月西伯利亞事件に關する勤務記章叙  
 八年五月一等水兵命功に依り勳章授與  
 八年白色桐葉章並に從軍記章戰捷記章  
 賜六月十月ベトロバウロスクに廻航十一  
 年六月砲術學校に轉勤十二月三等兵曹任  
 官退官す同村分會副長として分會の爲め  
 に努力さる



淺見 福太郎氏  
 横瀬村の士 大正七年歩兵第六十六聯隊  
 第十中隊入隊八月三月臨時編成下合隊  
 中隊編入五月獨守隊上陸守備隊着各入  
 の爲め横濱出帆大連に上陸守備隊着各入  
 の戦間に參加九月十二月上等兵命功に  
 月定期交代に依り歸隊善行證書下士適任  
 證書附與除隊功に依り從軍記章一士託  
 授賜同村分會副長に就任青訓指導員囑託  
 消防第二部長たり肥料商盛大に經營さる



加藤 嘉平氏  
 横瀬村の士 大正六年騎兵第十四聯隊入  
 隊せらる同村分會長に就任せられ分會の  
 向上事業の發展に努力せられ良く分會員  
 を指導し並に各團體の爲めに努力さる、  
 名士にして將來を囑望さる



中 猪之助氏  
 横瀬村の士 昭和二年騎兵第十六聯隊第  
 一中隊入隊昭和三年度岩手縣下に施行せ  
 らる特別大演習に參加酒肴料下賜十二月  
 除隊五年三月上等兵命功善行證書附與同村  
 分會監事及班長兼任盡力せらる同士の家  
 庭より四名軍人を奉公したる名譽の一家  
 にして表彰せらる



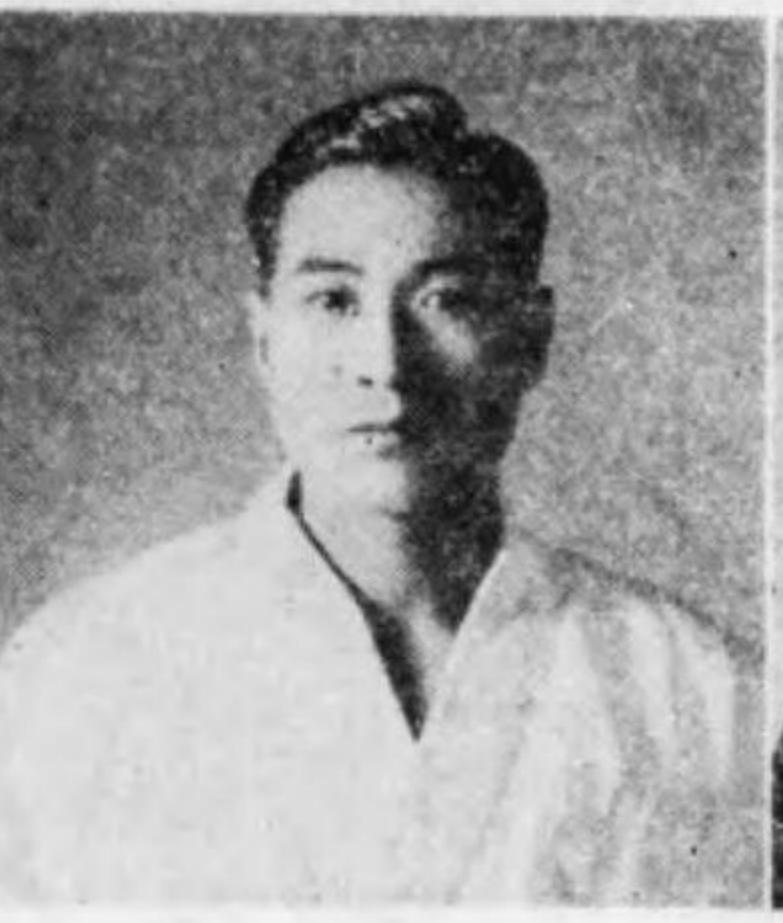
島田 伊作氏  
 横瀬村の士 昭和六年騎兵第一聯隊第一  
 中隊入隊十二月上等兵命功善行證書下士適  
 任證書並に精勤章三回附與前青年團役員  
 同村分會第六次議長評議員の要職にあり盡  
 力さる



横田 好一氏  
 横瀬村の士 埼玉縣立秩父農林學校卒業  
 昭和七年近衛歩兵第一聯隊へ幹部候補生  
 として入隊八年十月終末試験に及第十一  
 月除隊青訓指導員として盡力せらる近く  
 歩兵少尉に任官の士たり



關口 駒次郎氏  
 横瀬村の士 大正七年輜重兵第十四大隊  
 第二中隊入隊同年二月除隊前同村分會組  
 長現第三班長及理事たり一家より三名の  
 軍人を出したる名譽の家庭なり依て昭和  
 九年五月表彰授賜



加藤 吉兵衛氏  
 横瀬村の士 大正十四年騎兵第十三聯隊  
 第三中隊入隊五月騎兵學校に分遣無線通  
 信術卒業十五年十一月歸隊除隊同村分會  
 班長たり同村々會議員の名譽職にあり村  
 治の向上に努めらる士なり



大野 久治氏  
 横瀬村の士 大正十五年千葉縣津田沼鐵  
 道第二聯隊第八中隊入隊六月三十日教育  
 修了の爲め除隊青年團幹事同村分會第六  
 班長評議員の要職にあり



梅澤 馨氏  
 高篠村の士 大正六年歩兵第六十六聯隊  
 第二中隊入隊七年十一月上等兵命八年三  
 月動員下合西伯利亞出征四月青森出帆浦  
 鹽に上陸哈爾濱附近勤務進ボチヤレオ  
 チエリニコフカ附近討伐シロキニコ  
 リスクウズリスキー各地の戦間に參加  
 内陸に凱旋す十月任歩兵伍長善行證書  
 附與除隊功に依り叙勳八等白色桐葉章  
 並に從軍記章戰捷記章一金授賜同村分會  
 班長に就任分會の爲に盡力せられ消防救  
 護班同村々會議員村治の向上に努めらる



水野 政太郎氏  
 高篠村の士 大正七年歩兵第二十七聯隊  
 第十中隊入隊八年四月同隊在て戦役に關  
 する勤務に従事五月留守第十中隊に編入  
 同年度札幌地方に於ける秋季演習に參加  
 大正九年度上川支廠管内に於ける秋季演  
 習に參加十一月除隊西伯利亞事變の功に  
 依り從軍記章授賜同村分會評議員たり



坂本 金平氏  
 高篠村の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
 第九中隊入隊十年十一月上等兵命同十年  
 度特別大演習に參加酒肴料下賜十一年十  
 一月善行證書附與除隊前同村分會組長現  
 評議員として盡力さる

烏場覺太郎氏

高篠村の士 大里郡折原村出身埼玉縣立師範學校卒業大正十三年步兵第一聯隊に入隊歩兵軍曹に任官除隊同村分會理事分會の向上に努力され並に青訓指導囑託青年團修養部々長の各要職にあり高篠村小學校訓導公民學校教諭奉職さる

町田宗太郎氏

高篠村の士 大正十三年步兵第六十六聯隊機關銃隊入隊十四年五月歸休除隊善行證書下士適任證書附與前分會班長勤務せられ現分會副長に就任し極力分會の向上に努力せられ並に青訓指導員囑託す同村役場に奉職せられ銳意事務に盡すし消防小頭等の要職にあり八年六月任步兵伍長青訓教練主任たり



船戸菊太郎氏

高篠村の士 昭和四年步兵第七聯隊第三中隊入隊五年十一月善行證書附與歸休除隊入隊二年二月動員下合原隊補充隊第二中隊に編入宇品出帆上海に上陸同地及江灣鎮各地の戦間に参加し五月内地歸還旋す七月六日上賜勲章叙勲八等瑞寶章並に從軍記章一授賜同村分會第一班長たり機織業經營せらる

西澤太次郎氏

高篠村の士 昭和六年步兵第十九聯隊第十中隊入隊七年二月動員下合同隊歩兵砲隊に編入同月宇品出帆上海に上陸河北附近警備上海各地に於ける戦間に参加し五月内地歸還除隊戦功に依り叙勲八等白色桐葉章並に從軍記章授賜同村分會役員就任盡力さる荒物雜貨商經營す

白井伊助氏

高篠村の士 大正十三年步兵第六十六聯隊第三中隊入隊十四年五月歸休除隊伍長勤務命善行證書下士適任證書附與入間郡所澤小學校及小手指小學校等に奉職同村高等小學校に轉校高篠小學校に奉職同村分會班長現任せられ同村圖書館書記公民學校助教諭囑託さる

小崎寅次郎氏

高篠村の士 大正十年步兵第六十六聯隊第十一中隊入隊十二年九月關東大震災の際戒嚴勤務に従事十一月歸休除隊同村分會評議員として盡力さる

内田忠一氏

尾田蒔村の士 大正十年野砲兵第二十聯隊第七中隊入隊十一年八月野砲重砲兵八聯隊に編入十二年九月關東大震災の際戒嚴勤務に従事十一月善行證書下士適任證書附與除隊昭和二年任砲兵伍長大正十年度及十一年度通信優等徵章附與前青年團長同村分會前副會長現分會長に就任盡力さる消防第二部長前青訓指導員たり

島崎藤作氏

尾田蒔村の士 大正十年步兵第六十六聯隊へ幹部候補生として入隊十四年四月任陸軍歩兵少尉叙正八位被同村分會各役員勳績昭和六年四月分會長に就任銳意分會の爲めに努められ青訓教練主任青年團常務理事其他公職にあり現に同村小學校に奉職さる

宮下島藏氏

尾田蒔村の士 大正十三年步兵第六十六聯隊第二中隊入隊十二月上等兵命十四年五月歸休除隊善行證書八年五月下士適任證書附與同村分會々計主任及班長並に青訓指導員囑託盡力さる



前原玉三氏

尾田蒔村の士 昭和三年近衛歩兵第一聯隊第二中隊入隊十二月大禮觀兵式參列四年三月輕機關銃隊修業四年度茨城縣下に施行せらる特別大演習に参加十二月上等兵命同日伍長勤務昇進特別恩賜金下賜五年五月善行證書下士適任證書附與除隊同村分會班長青訓指導員青年團監事たり

市之瀬利喜氏

槻川村の士 大正十三年步兵第六十六聯隊第十一中隊入隊通信術卒業十二月上等兵命十四年五月歸休除隊善行證書八年六月下士適任證書附與青訓指導員囑託前同村分會副長にして現分會長に就任せられ分會員の指導と分會事業の向上に盡力さる

神田榮助氏

槻川村の士 大正十二年步兵第六十六聯隊第二中隊入隊上等兵命十三年十一月除隊善行證書附與青訓指導員囑託努力せられ前分會監事勤績せられ現分會副會長同區々長の各重職にある士なり





野口吉廣氏  
 槻川村の士 昭和六年獨立守備歩兵第三大隊に入隊七年十二月上等兵命初年兵教育掛り助手上等兵候補者教育助教を命ぜらる八年十一月伍長勤務昇進獨立守備隊に在て滿洲事變に關する勤務に従事し昭和九年五月任歩兵伍長除隊九年四月滿洲國健國功勞章授賜射擊徽章善行證書附與同村公民學校教師囑託せらる



福島太郎氏  
 槻川村の士 昭和二年歩兵第七十七聯隊へ幹部候補生として入隊六年三月任陸軍歩兵少尉叙正八位被同村青年聯盟總裁消防小頭の要職にあり同村公民學校囑託教師拜命さる



野口字之吉氏  
 槻川村の士 大正十三年近衛野砲兵聯隊第一中隊入隊十二月上等兵命十四年十一月善行證書附與特別恩賜金下賜除隊す同村分會各役員勤続せられ現在理事及班長たり昭和九年一月帝國在郷軍人會長鈴木閣下より表彰狀昭和七年地方馬一齊調査委員として感謝狀各授與さる



西山正太郎氏  
 三澤村の士 昭和八年歩兵第一聯隊第十中隊入隊十二月上等兵命九年一月伍長勤務に昇進九年九月同隊在り滿洲事變に關する勤務に従事し第一種射擊徽章九年七月善行證書並に下士適任證書附與除隊す青訓指導員青年團役員たり雜貨商經營さる



山中一正氏  
 久那村の士 昭和三年歩兵第一聯隊第十一中隊入隊精勤章附與四年度水戸地方に施行特別大演習に参加十二月上等兵命同日伍長勤務昇進五年七月善行證書下士適任證書附與昭和七年十月任歩兵伍長同村分會副長に就任分會事業の向上に盡力され並に青訓指導員囑託青年團副團長たり



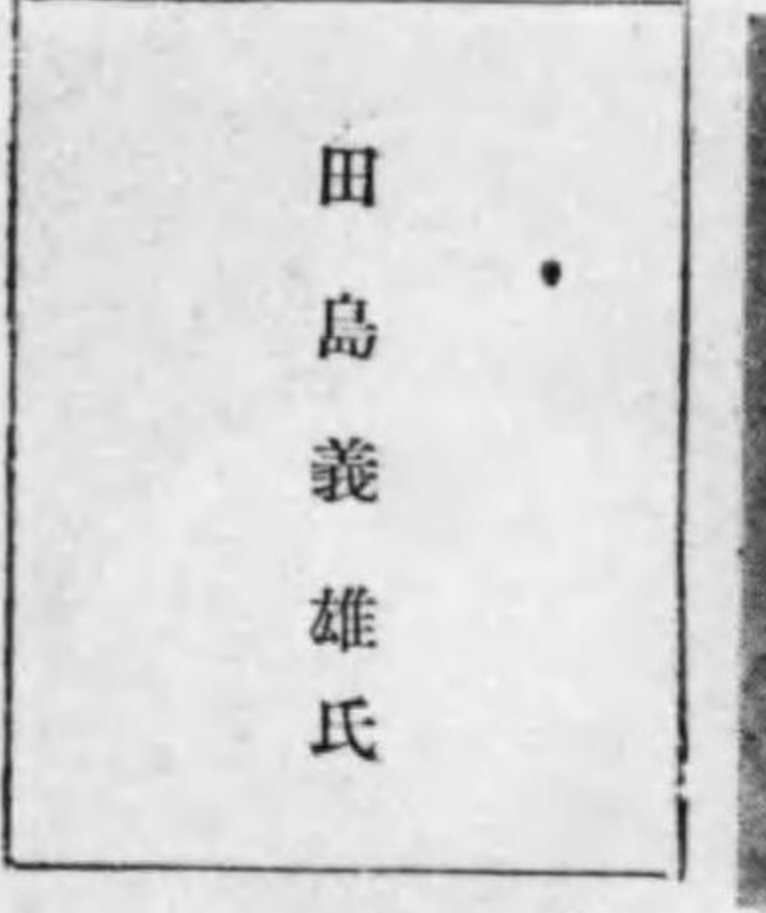
石渡清一氏  
 久那村の士 昭和二年歩兵第一聯隊第六中隊入隊上等兵命三年十一月除隊善行證書下士適任證書附與五年八月任歩兵伍長同村分會長に就任し分會の爲めに努力し前役場に奉職現信用組合主事消防小頭並同村會議員等の公職にあり銳意村治の向上に努められ青訓教練主任囑託さる



堀口寛一郎氏  
 原谷村の士 任海軍機關少佐秩父郡聯合分會長に就任推されて現に同村々長となり銳意村治の向上に努めらるゝ名士なり



關根種次氏  
 三澤村の士 昭和二年近衛工兵大隊に幹部候補生として入隊六年三月任陸軍工兵少尉叙正八位被昭和四年四月同村分會長に就任良く分會の爲めに盡力せられ並に青訓主任指導員囑託消防小頭たり機織業を盛大に經營せらる



田島義雄氏  
 三澤村の士 昭和五年歩兵第一聯隊第五中隊に入隊六年七月歸隊除隊善行證書附與同村分會副長に就任せられ並に青訓指導員囑託前青年團役員地方馬一齊調査員等各要職にあり



大森健吉氏  
 久那村の士 昭和二年歩兵第一聯隊第一中隊入隊昭和二年度特別大演習参加十二月上等兵命三年十一月善行證書附與歸隊除隊す昭和五年十一月下士適任證書附與同村分會班長現任せらる



(カットは秩父郡中川村分會役員の一部)  
 同村は堀口第四代分會長を得支部管内模範分會と稱せられ遠近各町村分會の視察多く青年訓練所も模範訓練所として縣より推舉せられ分會又訓練所共今日の定稱あるは各員の一糸亂れぬ協同尙堀口四代分會長の全く自己を忘れての努力すくなくからず分會の事業は總て國家觀念の高調愛郷の精神涵養を深め特に忠魂碑禮拜主義の基に殊に護國の英靈なる林中將閣下の御揮毫を仰ぎ各戸に趣意書と共に添て配附日夜各戸で禮拜するなど他に類例なき模範たるもの記者は當分會をして記載したきこと澤山あるも紙面の都合略す



堀口辰三郎氏

中川村の士 大正六年騎兵第十八聯隊入隊大正八年西伯利亞出征戦功に依り叙勲八等白桐葉章並に從軍記章捷記章勲任職現任長正十二年同村分會長に就任引續き現任並に青訓指導員囑託する士に力を盡され自己を省りみず本職を完了しは支那支隊下の模範分會及青訓所たり昭和六年聯合分會理事分會及青訓所あり昭和十二年川村閣下安藤聯合支隊長表彰大國在郷軍人會總裁官殿下より有功章御親授を賜る同村役場奉職さる

三上重衛氏

中川村の士 昭和二年歩兵第五十七聯隊へ幹部候補生として入隊昭和六年任陸軍三等軍醫叙正八位被らる士は醫學士及經濟學士にして秩父郡中川村に三上醫院經營せらる同村小學校同村分會長に就任埼玉縣方面委員等及各公職にある村内に於ける名士たり

坂本芳太郎氏

中川村の士 大正五年歩兵第六十六聯隊第三中隊入隊大正八年四月動員下令原隊留守隊に應召西伯利亞に出征し戦功に依り叙勲八等瑞寶章並に從軍記章授賜除隊同村分會前副長に就任現會計係として盡力せらる帝國在郷軍人會長鈴木閣下より功勞章川村閣下より表彰授與す



新井重勝氏

中川村の士 大正十年近衛歩兵第四聯隊第六中隊入隊十一年八月機關銃隊編入十一年十一月歸隊除隊善行證書附與前分會組長及理事現分會副長に就任され分會の爲めに盡力せられ帝國在郷軍人會長鈴木閣下より表彰せらる



平野才一氏

中川村の士 大正十一年輜重兵第十四大隊第二中隊入隊同年八月三十日除隊同村分會前評議員現分會班長として盡力さる滿糸仲買業經營せらる

山中次作氏

中川村の士 大正十年歩兵第六十六聯隊第六中隊入隊十二月上等兵命十一年十一月歸隊除隊善行證書下士適任證書附與昭和二年愛知縣下に施行せらる特別大演習に参加同村分會監事の重職にあり中川信用組合に奉職さる

坂本次郎氏

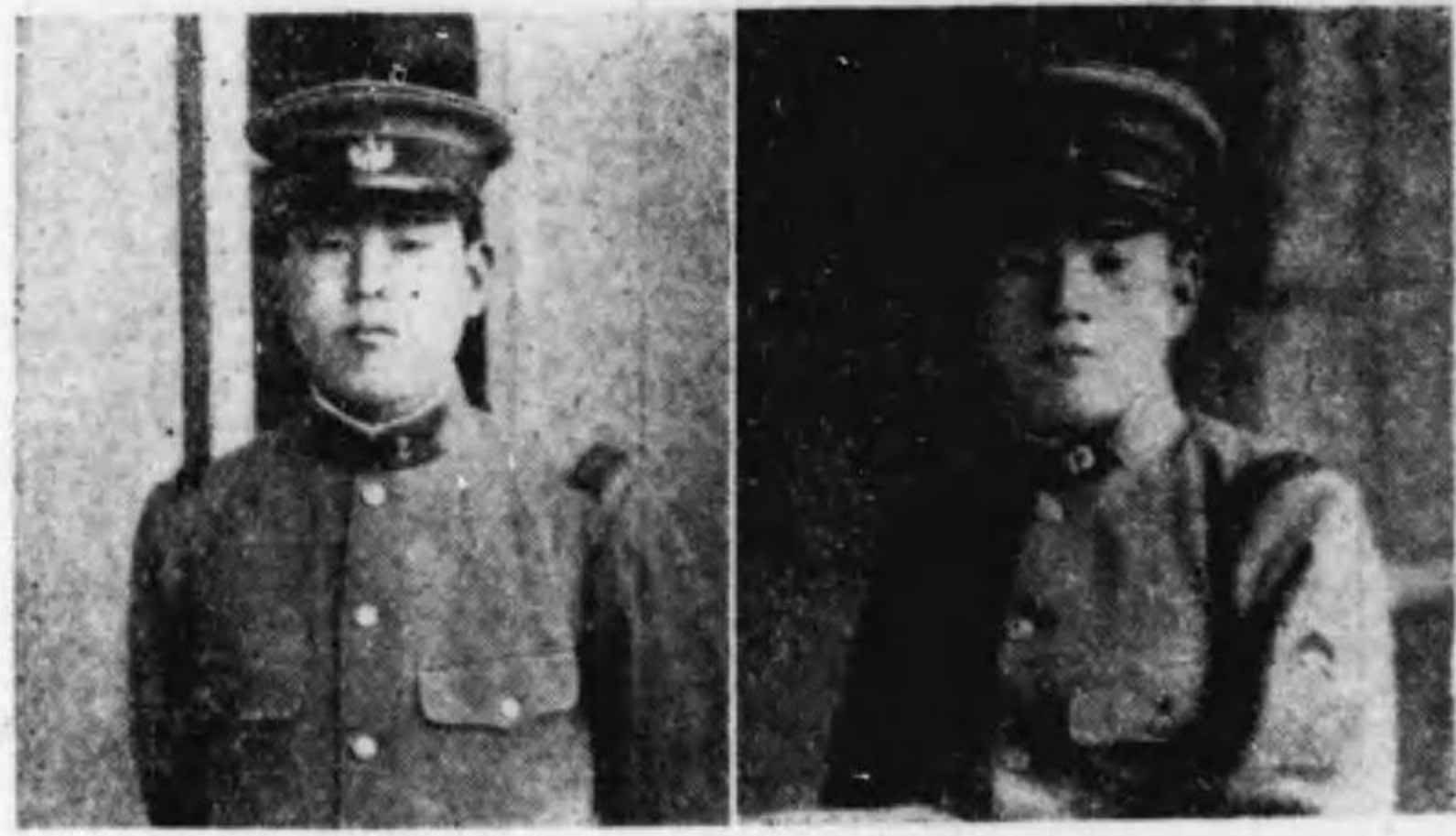
中川村の士 大正十二年歩兵第七十四聯隊第七中隊に入隊十四年十月善行證書下士適任證書附與除隊善行證書昭和二年同村青訓指導員囑託指導員として安藤閣下より表彰昭和八年模範分會員として帝國在郷軍人會長鈴木閣下より聯隊區支隊長より各表彰さる指導員退職に際し村より腕時計贈呈せらる將來囑望さる士なり

淺海邦治氏

中川村の士 昭和五年十二月歩兵第七十三聯隊入營六年十月歩兵上等兵同日伍長勤務命七年八月善行證書下士適任證書附與除隊同村青訓指導員分會評議員たり

黒澤珍次氏

中川村の士 昭和五年六月近衛歩兵第二聯隊入營六年八月歩兵上等兵命同年十一月三十日歸隊除隊善行證書附與同村青訓指導員分會評議員たり



今井貞太郎氏

中川村の士 昭和五年六月歩兵第七十三聯隊入營六年八月上等兵命十一月三十日善行證書附與除隊同村青訓指導員分會評議員たり

淺海寛氏

中川村の士 昭和七年六月近衛歩兵第四聯隊入營八年六月歩兵上等兵同日伍長勤務命八年十一月三十日善行證書下士適任證書附與除隊同村青訓指導員分會評議員たり

山野富吉氏

中川村の士 補充兵にして克く分會の向上に努力せられ現に監事の要職にあり嚴父は同村助役の公職にあり



古川龍太郎氏

中川村の士 補充兵にして同村分會理事の重職にあり克く分會事業の向上發展に努力せられ聯合分會より表彰さる

新井好正氏

中川村の士 分會役員として盡力せらる



小池又五郎氏  
影森村の士 大正十一年一年志願兵として歩兵第六十六聯隊に入隊大正十三年三月任陸軍歩兵少尉叙正八位被らる同村分會各役員勤続せられ現分會長として努力され消防部長たり酒類を盛營せらる昭和三年御大禮の際地方賜饌の光榮に浴し大禮紀念章を賜ふ

戸塚義英氏

影森村の士 大正六年騎兵第十四聯隊入隊第九年十一月任騎兵長十二月任騎兵少長進級十二年五月交通修習の爲め電信第一聯隊へ分遣十二月八月關東大震災の際一應勤務に従事十二月八月關東大震災の際一應勤務に従事十二月八月關東大震災の際一應勤務に従事



新井六太郎氏

影森村の士 大正九年横須賀海兵團入隊十年十月第四期潜水學校練習生として入隊十一年五月第四期兵科練習生教育卒業十二年九月關東大震災救援任務に従事し十五年五月海軍三等兵曹に任官同日除隊す同村分會第四班評議員の要職にあり

山中佐市氏

影森村の士 大正十三年歩兵第六十六聯隊第九中隊入隊八月天津駐劄歩兵隊として派遣九月用品出帆唐沽上陸駐屯地着十三年十二月上等兵命十四年四月交代に依り内地歸還除隊す現に同村分會副長に就任盡力せらる洋品店經營せらる



大野章次氏

影森村の士 昭和二年近衛歩兵第三聯隊へ一年志願兵として入隊六年三月歩兵少尉任官叙正八位被らる同村青訓指導教練主任同村分會各役員勤続せられ現監事兼評議員の要職にあり現青訓第一部及第二部教練主任囑託す



岩田善次郎氏

影森村の士 昭和二年歩兵第一聯隊第三中隊入隊二度施行特別大演習に参加十二月上等兵命伍長勤務に昇進三年七月除隊善行證書下士適任證書附與昭和五年十一月任陸軍歩兵伍長青訓指導員並に同村分會第六班長兼評議員等各要職にあり



福島金綱氏

野上村の士 大正十三年歩兵第六十六聯隊第九中隊入隊昭和二年三月任官歩兵少尉叙正八位被昭和九年三月任歩兵中尉叙從七位被昭和三年同村分會副長同七年分會長に就任盡力せらる並に青訓指導員郡聯合分會評議員青年顧問たり村内に於ける名士にして將來を囑望さる



村田通三氏

野上村の士 大正十二年歩兵第六十六聯隊第十中隊入隊十二年九月關東大震災の際戒嚴勤務十二月伍長勤務命勤章三十二年十一月善行證書並に下士適任證書附與震災慰勞金授與除隊す同村分會各役員勤続せられ現分會副長に就任盡力せらる秩父郡特産銘仙緋織本製造家秩父郡二業組合幹事たる名望家なり



落合通江氏

野上村の士 大正九年歩兵第六十六聯隊第九中隊入隊十年十二月伍長勤務命勤章二回十一月八月善行證書並に下士適任證書附與歸休除隊十五年五月任伍長被らる同村分會各役員勤続せられ班長並に青訓指導員消防小頭畜産組合評議員及區長なり村内に於ける名士にして牛乳業盛營せらる



淺見貞政氏

野上村の士 大正十三年輜重兵第七大隊入隊同年九月三十日歸休除隊す同村分會評議員六ヶ年勤続盡力せられ農事に従事し精勵





柳井辰己氏

野上村の士 大正十五年近衛輜重兵大隊  
第一中隊入隊十二月上等兵命昭和二年八  
月精勤章附與せられ十一月歸隊除隊す同  
村分會旗手評議員現在第三班長として分  
會の爲めに盡力され農事に従事精勵さる

村田壽作氏

野上村の士 昭和二年歩兵第一聯隊第七  
中隊入隊二年度特別大演習に参加十二月  
伍長勤務命精勤章三年七月善行證書並に  
下士適任證書附與歸隊除隊青訓指導員同  
村分會盛事たり

淺見清治氏

野上村の士 大正十年近衛騎兵聯隊第二  
中隊入隊十一年四月英國皇太子殿下御來  
朝の際に於ける師團觀兵式に參列精勤章  
善行證書附與大正十二年九月關東大震災  
の際戒嚴勤務特別恩賜金下賜せられ十二  
年十一月上等兵命歸隊除隊す九年一月鈴  
木莊六閣下より賞狀授與同村分會役員勤  
績せられ現班長に就任盡力さる



黒澤桑三郎氏

國神村の士 大正七年歩兵第六十六聯隊  
入隊八年四月西伯利亞出征十年十二月任  
官歩兵軍曹叙勳八等白色桐葉章並に従軍  
記章授賜十三年十一月除隊さる大正十五  
年同村分會長昭和八年分會長再任現在就  
任盡力せらる同村役場吏員社會教育委員  
として大に村治の向上に努め青訓指導員  
等囑託す馬一齊調査委員たり

國神村の士 昭和五年歩兵第一聯隊第十  
一中隊入隊十二月伍長勤務命精勤章六年  
七月善行證書並に下士適任證書附與除隊  
す昭和八年任官陸軍歩兵伍長青訓指導員  
青年團副團長の要職にあり

野原孝次氏



樋口村の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
第十中隊入隊十年十一月上等兵命十一年  
五月伍長勤務命昇進十一月十二日任歩兵  
長十二年九月關東大震災の際戒嚴勤務に  
從事十二月十二月軍曹に進級善行證書並に  
災慰勞金授賜精勤章十四年四月善行證書  
並に事務適任證書附與せられ除隊す前同  
村分會副團長に就任し現除隊す前同  
爲めに盡力せられ消防小頭青訓指導員囑  
託さる

前澤通仲氏

樋口村の士 大正九年歩兵第六十六聯隊  
第八中隊入隊十年九月陸軍歩兵學校教導  
隊に分遣十年近衛師團假設敵演習並に  
東京府下神奈川縣下施行特別大演習に參  
加酒肴料下賜十一年八月上等兵命十一年  
七月善行證書並に下士適任證書附與除隊す  
青訓指導員同村分會各役員勤績せられ現  
分會副分會長に就任盡力さる

澤野嘉子吉氏

樋口村の士 大正九年十二月歩兵第六十  
六聯隊第九中隊入隊十年十一月酒肴料下  
賜十一年八月除隊す同村分會評議員多年  
勤績盡力され秩父聯合分會競技會に出場  
埼玉縣競技會出場銃劍術に於て優賞狀授  
與秩父角力協會小結たり

野原岩雄氏

樋口村の士 大正十五年騎兵第十五聯隊  
第三中隊入隊精勤章二回昭和二年十一月  
善行證書附與四年十二月騎兵上等兵命同  
村分會評議員現任せられ分會事業の向上  
に盡力さる



女部田新六氏

上吉田村の士 大正九年野砲兵第十三聯  
隊第五中隊入隊十年度東京府下神奈川縣  
下施行せらる特別大演習に参加十年十二  
月上等兵命十一年十一月善行證書並に下  
士適任證書附與除隊同村分會各役員勤務  
せられ現分會副團長に就任盡力さる土木建  
築材木商の士なり



車田文吉氏

上吉田村の士 大正六年歩兵第六十六聯  
隊へ幹部候補生として入隊十年三月任歩  
兵少尉叙正八位被勳同村分會副團長に就  
任二年村會議員八月推されて同村助役とな  
り大に村治の向上に努め昭和二年分會長  
四期並に聯合分會評議員將校團幹事の各  
重職にあり昭和七年三月任歩兵中尉叙從  
七位被勳社會教育委員たり同縣知事より表  
彰狀聯合支部教育委員より感謝狀麻布聯隊司令  
各部より在郷軍人會長鈴木閣下より功勞章  
各授與さる

新井鍋重氏

上吉田村の士 大正六年歩兵第六十六聯  
隊第三中隊入隊八年三月第十四師團臨時  
編成下令九年一月上等兵命戰功に依り叙  
勳八等白色桐葉章並に一金從軍記章授賜  
特勤章大正九年十二月善行證書附與除隊  
す同村分會班長現任さる

落合友衛氏

上吉田村の士 同村分會各役員就任せられ現理事として分會の爲めに貢献せられ野上村に於て眼科醫院經營せらるゝ士にして縣下に於ける名士なり

新井武一氏

上吉田村の士 昭和三年歩兵第一聯隊第二中隊入隊十一月御大禮大饗第一日御儀の際酒餼料御下賜上等兵命精勤章四年七月善行證書附與せられ除隊す同村青訓指導員囑託せられ盡力さる

加藤弘氏

倉尾村の士 大正十五年近衛歩兵第三聯隊第一中隊入隊昭和四年三月任歩兵少尉叙正八位被青訓指導員並に同村分會各役員勤続せられ八年八月分會長に就任大に分會の爲めに努力さる

淺香肇一郎氏

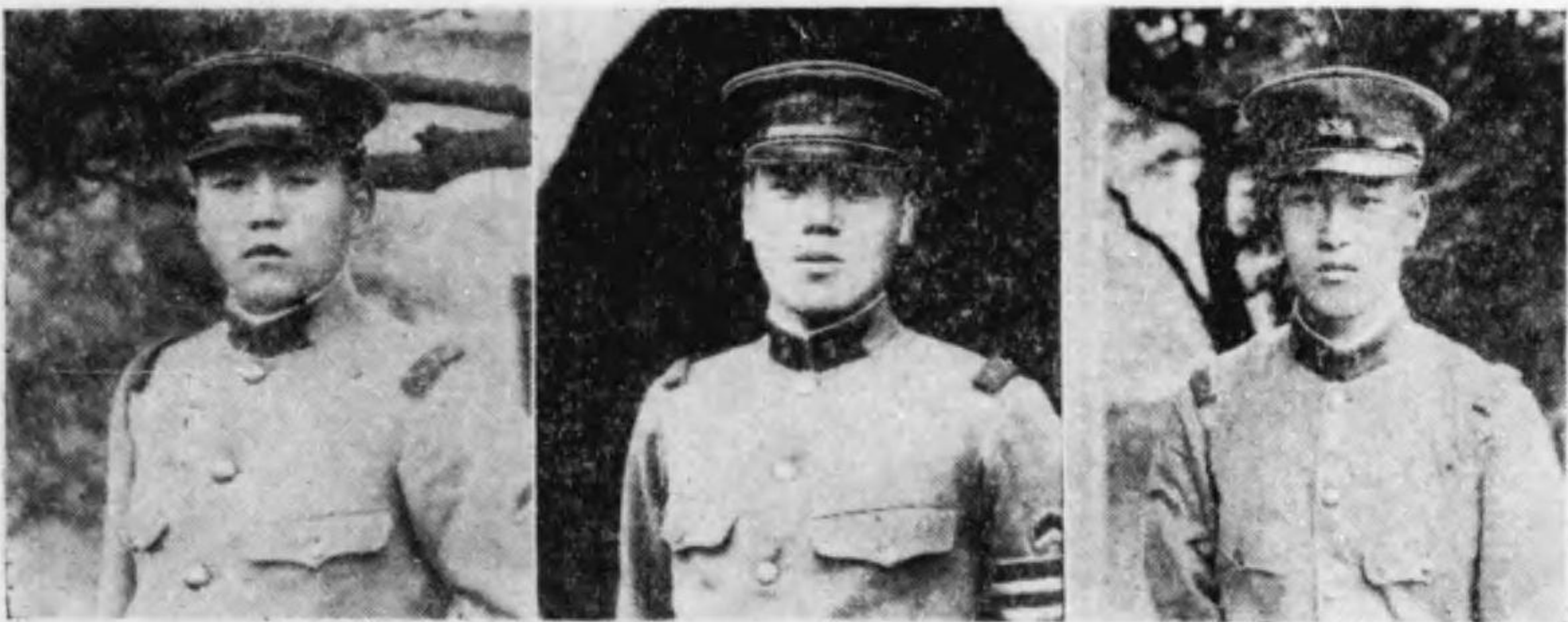
倉尾村の士 昭和三年近衛歩兵第一聯隊第二中隊入隊十一月御大禮大饗第一日御儀の際酒餼料下賜十二月大禮觀兵式参列四年二月皇后陛下成子内親王殿下御同作葉山御用邸御駐紮に付儀仗衛兵勤務酒肴料下賜六月上等兵命精勤章四年十一月善行證書並に下士適任證書附與歸隊除隊同村分會班長理事前青訓指導員囑託さる

齋藤肇氏

倉尾村の士 昭和三年歩兵第一聯隊第一中隊入隊十一月御大禮大饗第一日御儀の際酒餼料下賜精勤章四年七月善行證書並に下士適任證書附與上等兵命歸隊除隊昭和八年九月同村分會副長に就任せられ並に青訓指導員として盡力さる同村消防小頭たり

黒田仁重氏

倉尾村の士 昭和四年歩兵第一聯隊第一中隊入隊四年度施行特別大演習に参加十二月伍長勤務命精勤章五年七月善行證書並に下士適任證書附與昭和七年任官伍長上吉田村青訓指導員囑託盡力さる



宮田至氏

倉尾村の士 分會役員として盡力せらる

大久保領一郎氏

兩神村の士 同村分會長として公共に盡力せらる

守屋宣久氏

兩神村の士 昭和四年近衛野砲聯隊第七中隊入隊昭和八年三月任陸軍砲兵少尉叙正八位被らる同村分會副長に就任並に庶務係り青訓指導員囑託す



關口政光氏

倉尾村の士 昭和六年歩兵第一聯隊第十中隊入隊六年十二月伍長勤務命六年七月精勤章七年七月善行證書並に下士適任證書附與歸隊除隊す昭和九年九月任伍長青訓指導員同村分會理事及會計の士なり

黒田昶氏

倉尾村の士 昭和六年歩兵第一聯隊第五中隊入隊十二月上等兵命精勤章三回七年七月善行證書並に下士適任證書附與せられ除隊す青訓指導員青年團長同村分會理事の要職にあり

強矢虎之助氏

倉尾村の士 未教育補充兵にして現同村分會副長就任せられ倉尾團長五ヶ年西部青年團副團長農事組合長同村第一區長等の各重職にある村内に於ける名望家なり







守屋八郎氏

兩神村の士 昭和三十八年歩兵第六十六聯隊  
留守隊第一中隊入隊八年五月上等兵命  
一第六大隊に編入同隊八年五月上等兵命  
御差遣酒肴料下賜功に依り一時從武官  
精勤章三回勲功に依り勲功章を賜ふ  
理事に就任並に各年五月善行證書附與  
各部長國勢に調査員として現職に在り  
員の各職にある名士たり



高橋覺治氏

兩神村の士 昭和三十八年臺灣歩兵第一聯隊  
第七中隊入隊四年六月陸軍歩兵學校教導  
隊に分遣十二月上等兵命五年五月原隊復  
歸精勤章二回五年五月善行證書附與歸休  
除隊七年十一月通信班成績優秀に付き聯  
隊長閣下より表彰狀授與同村分會理事青  
訓指導員囑託さる



坂本松市氏

兩神村の士 昭和三十八年歩兵第七十三聯隊  
第三茂山守備隊要員として入隊茂山着國  
境警備勤務四年六月上等兵命精勤章四年  
十一月善行證書附與歸休除隊同村分會班  
長理事現任盡力さる

近藤完二氏



三田川村の士 明治四十二年一年志願兵  
として歩兵第六十六聯隊入隊明治四十五  
年二月任官陸軍歩兵少尉正八位叙せらる  
大正五年同村分會長に就任し銳意分會向  
上に盡力せられ現任たり秩父郡醫師會理  
事健康診断醫三田川村倉尾村々醫兩村小  
々學校醫訓指導員商議員青年團顧問同村  
々々會議員消防組救護長等各重職にある士  
なり

落合仁作氏

三田川村の士 大正五年歩兵第六十六聯  
隊第八中隊入隊六年十一月上等兵命精勤  
章三回勲功に依り勲功章を賜ふ  
射撃に於て八年度留守隊特別射撃に於て  
各成績より特別射撃に表彰され大正六年一  
閣下より特別射撃に表彰され大正六年一  
合分會長より特別射撃に表彰され大正六年一  
調査員同村分會事務長として分會の爲め  
秩父銘仙座布團地專業經營さる

強矢智萬氏

三田川村の士 大正六年歩兵第六十六聯  
隊第十二中隊入隊七年十一月軍旗衛兵命  
八年三月第十四團團臨時編成下令出動に  
參加す九年十一月戰役の功に依り叙勲八  
等白鳥桐葉章從軍記章授賜精勤章附與歸  
休除隊す同村分會班長として分會の爲め  
盡力せらる



猪俣邑利氏

兩神村の士 昭和四年野砲兵第一聯隊第  
七中隊入隊五年一月上等兵命精勤章二回  
五年六月善行證書附與歸休除隊す同村分  
會理事に就任し並に青訓指導員囑託す



根岸清平氏

兩神村の士 昭和五年歩兵第七十三聯隊  
第二中隊入隊六年六月上等兵に命精勤章  
六年十一月善行證書附與歸休除隊同村分  
會理事及會計並に青訓指導員囑託盡力せ  
らる前青年團副團長たり村内に於ける名  
士なり

富田好恵氏

太田村の士 分會役員として公共に盡力  
せらる

黒澤五兵衛氏

三田川村の士 大正十年歩兵第六十六聯  
隊第八中隊入隊十二年九月關東に於ける  
大震災の際戒嚴勤務に従事精勤章十二年  
十一月善行證書附與歸休除隊同村分會班  
長消防部長區長代理の要職にある士なり

強矢丑五郎氏

三田川村の士 大正十年騎兵第十四聯隊  
第四中隊入隊精勤章十三年十一月善行證  
書附與歸休除隊同村分會副班長として分  
會向上の爲めに盡力せらる現農事に従事  
し精勵せらるゝ有力の士なり

大木繁藏氏

三田川村の士 大正十三年歩兵第六十六  
聯隊第三中隊入隊十二月上等兵命十四年  
四月善行證書附與歸休除隊す同村分會班  
長現任前青年團團長青訓指導囑託盡力せら  
る消防組喇叭班長たり同縣知事並に秩父  
郡聯合分會長殿昭和五年第十四回聯合武  
術競技會優秀に依り麻布支部長坪井閣下  
殿等より各表彰狀授與さる



黒澤源三郎氏  
三田川村の士 大正十五年野戦重砲兵第三聯隊第二中隊入隊十二月上等看護卒命精勤章昭和二年七月善行證書並に下士適任證書附與歸休除隊四年九月陸軍三等看護長任官同村分會前班長昭和八年分會副長に就任並に青訓指導囑託消防小頭區長の公職にあり



黒澤邦雄氏  
三田川村の士 騎砲兵大隊に入隊し騎砲兵伍長に任官す同村分會役員現任盡力せられ青訓指導員囑託す村内に於ける名士たり現在農事に従事し精勵せらる



福島福一郎氏  
三田川村の士 昭和三年騎砲兵大隊第一中隊入隊七年三月任砲兵少尉叙正八位被らる同村分會副長に就任せられ並に青訓指導員青年團長の各要職にある村内に於ける名士にして現在福島同族合名會社小鹿野町事務所勤務せらる

黒澤茂利治氏



三田川村の士 昭和四年横須賀重砲兵聯隊第三中隊入隊十二月上等兵命精勤章皆勤章五年十一月善行證書並に下士適任證書附與歸休除隊同村分會副班長の士なり



栗原朝藏氏  
三田川村の士 昭和四年歩兵第一聯隊第六中隊入隊四年度施行の特別大演習に参加十二月伍長勤務命精勤章五年七月善行證書並に下士適任證書附與除隊す昭和七年任官歩兵伍長同村分會第一副班長並に青訓指導員囑託盡力せられ前青年團長の士なり

近藤昌一氏

三田川村の士 昭和七年近衛歩兵第一聯隊第六中隊入隊八年四月天長節の際儀仗衛兵服務酒肴料下賜八年六月上等兵命同日伍長勤務昇進昭和八年小銃射撃徽章精勤章八年十一月善行證書並に下士適任證書附與歸休除隊す同村青訓指導員囑託盡力さる

井上周吉氏

長若村の士 大正九年十二月歩兵第六十六聯隊入營十年四月滿洲獨立守備隊編入五月歩兵第六大隊編入十二年三月卅一日善行證書下士適任證書附與除隊大正十二年消防小頭昭和四年六月部長就職現同村分會長の要職に在り

豊田重直氏

長若村の士 大正七年歩兵第六十六聯隊第十二中隊入隊八年三月第十四師團臨時編成下令出征し戦功に依り叙勳八等白色桐葉章並に従軍記章授賜同九年十二月善行證書附與歸休除隊同村分會班長幹事理事勤績せられ現分會副長に就任盡力せられ前區長たり

田島伊平氏



小鹿野町の士 同町分會長に就任分會の向上に盡力せられ並に青訓指導員四ヶ年囑託す消防部長農事組合長の公職にあり功勞章授與さる戦功に依り勳八等白色桐葉章授與さる

村上利吉氏

小鹿野町の士 大正九年一年志願兵として歩兵第六十六聯隊へ入隊同十三年三月任陸軍歩兵少尉叙正八位被らる同町分會長にして昭和六年再度分會長に就任分會の向上に務められ會員の信望厚く將來を囑望せらる大正十四年郵便局長に就任現在に至る

山中菊太郎氏

小鹿野町の士 大正六年歩兵第六十六聯隊第六中隊入隊機關銃術卒業八年三月第十四師團臨時編成下令機關銃隊に入隊出征大正九年十二月善行證書附與歸休除隊戦功に依り叙勳八等功七級金鷲勳章授賜せらる同村分會幹事消防小頭區長代理等の重職にある町内に於ける有望の士たり瓦業經營さる



北葛飾郡ノ部



杉田伸次郎氏  
小鹿野町の士 大正七年歩兵第十五聯隊入隊九年十二月任歩兵伍長同十一年軍曹に進級九年十二月戦役の功に依り叙勳八等白色桐葉章一金並に従軍記章戦役記念章授賜十四年五月善行證書事務適任證書附與除隊す昭和八年歩兵曹長に任官す同村青訓指導員囑託六ヶ年勤務さる



高橋茂氏  
小鹿野町の士 大正十三年近衛歩兵第四聯隊機關銃隊入隊十四年度師團演習に参加特別恩賜金下賜十一月善行證書附與歸休除隊同町分會評議員及班長として分會の爲めに盡力さる



内田儀雄氏  
小鹿野町の士 大正十五年歩兵第一聯隊第一中隊入隊十二月伍長勤務命昭和二年一度施行特別大演習に参加第三期檢閲の際成績優秀に付き褒賞休暇一日基本射撃徽章精勤章並に昭和二年十一月善行證書下士適任證書附與昭和四年任伍長同町分會班長兼評議員並に昭和三年青訓指導員たり精米業の士なり

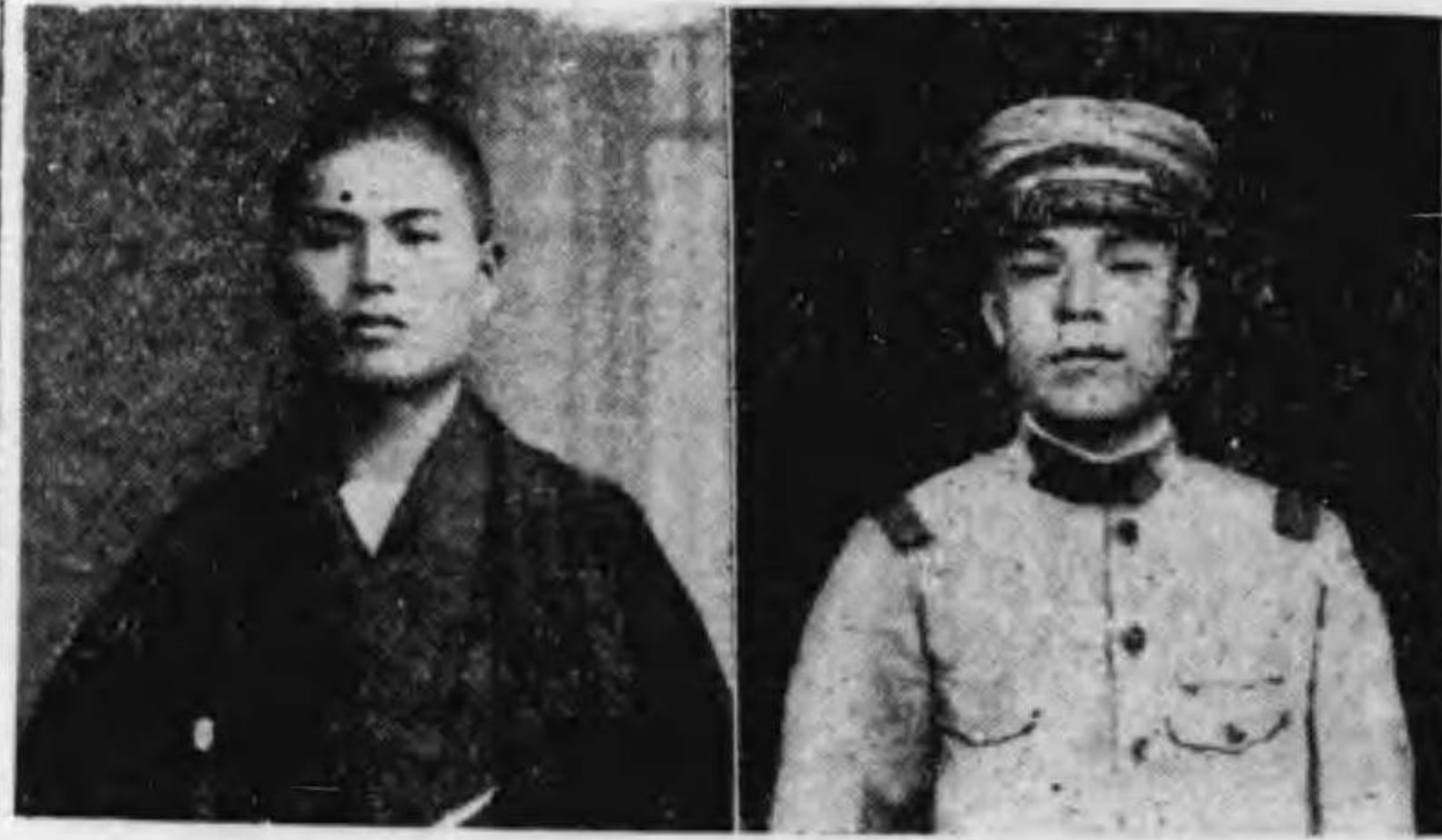


田村英一氏  
小鹿野町の士 未教育補充兵にして同町分會評議員青年團副部長たり荒物雜貨商經營せらる肥料同業組合役員たり



吉田松次氏  
小鹿野町の士 昭和二年歩兵第一聯隊第七中隊入隊昭和二年一度施行の特別大演習に参加三年七月善行證書附與歸休除隊す同町分會旗手並に青訓指導員囑託す

伊坂榮助氏



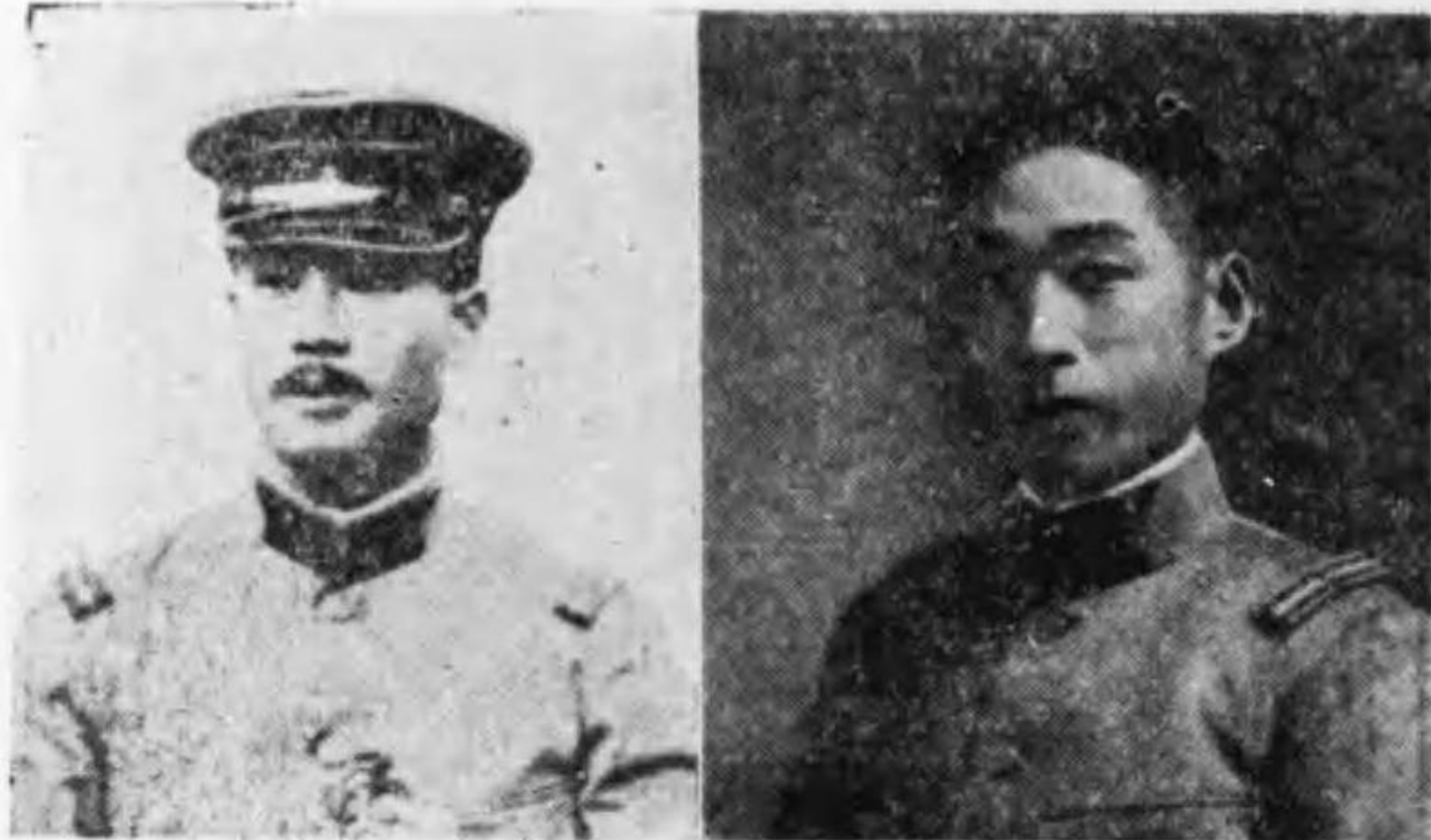
杉戸町の士 大正十四年工兵第一大隊第三中隊入隊昭和二年度關西地方施行特別大演習に参加十四年九月千葉工兵學校に分遣十五年九月原隊復歸昭和二年十一月除隊す同町分會旗手兼班長に現任さる昭和九年十一月特別大演習後高崎聯隊に於て御親閲の際に分會旗手として參列す

杉戸町の士 昭和二年野戰重砲兵第四聯隊第六中隊入隊三年十二月歸休除隊す三年十一月御大禮大饗第一日御儀に付き酒饌料下賜三年十二月善行證書附與青年團支部長同町分會班長現任さる

(舊姓吉田氏) 小山昌吾氏  
杉戸町の士 大正十二年野砲兵第二十五聯隊第七中隊入隊十四年九月選拔照準手命十四年十月歸休除隊昭和八年度勤務演習に應召同日補備教育の爲め砲兵學校高射砲隊に分遣九月十八日原隊復歸召集解除精勤章十四年十月善行證書附與さる

戸ヶ崎由太郎氏

小島三津太郎氏



杉戸町の士 昭和二年歩兵第三聯隊第七中隊入隊二年度愛知縣下施行の陸軍特別大演習に参加十二月上等兵命三年七月歸休除隊す善行證書附與青年會副支部長昭和四年同町分會副長に就任し分會向上の爲めに克く努めらる

山口梅之丞氏

幸松村の士 粕壁中學校出身大正十一年年志願兵として歩兵第三聯隊第八中隊入隊十一年十一月任官歩兵軍曹大正十四年三月任歩兵少尉叙正八位同十二年四月分會長に就任盡力せらるゝ人望家なり

村田光朗氏

幸松村の士 大正七年騎兵第十六聯隊第三中隊に入隊十年十一月任騎兵軍曹現同村分會副長に就任せられ清酒幸松本店に勤務せらる

高垣初五郎氏



幸松村の士 大正七年歩兵第七十三聯隊第四中隊茂山守備隊要員として入隊八年三月茂山着同地守備九年四月朝鮮騷擾民鎮定に勤務十一月間島聯隊本部と連絡の爲め發十一月歸營十年十一月除隊精勤章二回九年十二月善行證書附與十三年度勤務演習に應召上等兵命昭和三年度勤務演習に應召同村分會評議員並に青訓指導員嘱託農事振興會役員たるの士なり

品田廣吉氏  
幸松村の士 大正八年歩兵第三聯隊第十二中隊入隊九年十一月上等兵命十年十一月歸隊除隊精勤章十年十一月善行證書並に下士適任證書附與昭和四年度勤務演習に應召同村分會評議員並に青訓指導員として盡力せる埼玉縣知事山中閣下より表彰状授與す



吉田倉次氏  
幸松村の士 當郡南櫻井村の出身大正二年歩兵第三聯隊第二中隊入隊七月輕機關銃隊修業十二年十一月關東大震災の際東京南部警備隊に屬し戒嚴勤務に従事三年五月横濱警備隊として派遣同十五年任軍曹昭和二年度及四年度施行特別大演習に参加通信術教育助手器械係理委員助手に命十二月除隊同村分會評議員並に青訓指導員の要職にあり御大禮に付き儀仗衛兵勤務大禮記念章授與す

江川安右衛門氏

鈴木亮一氏



幸松村の士 大正十二年度徴兵補充兵たり同村分會評議員現任青年會支部長並に經濟更生委員たり

幸松村の士 大正十一年度徴兵未教育補充兵たり同村分會評議員警備團理事の職にあり盡力せらる

小川廣太郎氏  
幸松村の士 大正十五年騎兵第十五聯隊機關銃隊入隊十一月上等兵命二年十一月伍長勤務昇進除隊精勤章二年十一月善行證書並に下士適任證書附與同村分會評議員現任分會事業の向上に盡力せらる



中山瀧三氏  
幸松村の士 昭和三年横須賀重砲兵聯隊第一中隊入隊四年度茨城縣下に施行特別大演習に参加十二月御大禮觀兵式參列酒肴料下賜精勤章善行證書附與除隊同村分會評議員青年會役員消防組相談役たり



松本文明氏  
幸松村の士 昭和二年歩兵第三聯隊第十中隊教育召集の爲め入隊七月除隊同五年八月勤務演習の爲め原隊に應召せらる同村分會旗手たり分會の爲克く盡力せる



鈴木芳太郎氏  
幸松村の士 昭和三年騎兵第一聯隊第一中隊入隊四年十一月歸隊除隊四年度茨城縣地方施行特別大演習に参加同村分會評議員現任せられ分會の爲めに盡力せる



荒井愛太郎氏  
幸松村の士 昭和四年獨立守備歩兵第三大隊第三中隊入隊五年二月侍從武官御差遣酒肴料下賜六年五月除隊精勤章六年五月善行證書附與せられ同村分會旗手たり

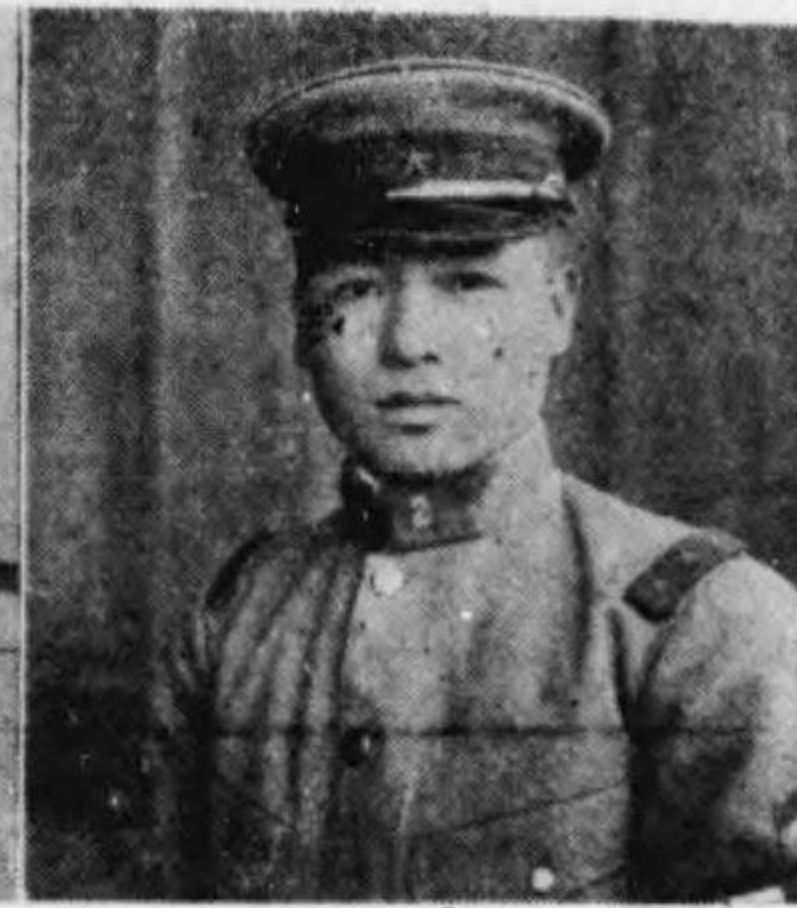


町田鐵五郎氏  
幸松村の士 昭和四年歩兵第三聯隊第一中隊入隊四年度茨城縣下に施行特別大演習に参加五年七月除隊七年度勤務演習に應召善行證書小銃第一種特別射擊章精勤章附與同村分會評議員青年會支部長農事振興會役員の各要職にある士なり



小川徳治氏  
幸松村の士 昭和四年臺灣第一聯隊第十一中隊に入隊露社善人事變に参加慰勞金下賜並に慰勞狀授與聯隊長殿より木杯授賜五年十一月除隊精勤章善行證書並に下士適任證書附與七年度勤務演習に應召消防小頭たり

長谷川吉十郎氏



幸松村の士 昭和四年十二月輜重兵第一  
大隊第一中隊入隊五年一月除隊寸同村分  
會評議員として盡力せらる

幸松村の士 昭和五年野戰重砲兵第二聯  
隊第五中隊入隊十二月上等兵命同日伍長  
勤務昇進六年十一月歸休除隊寸六年十一  
月善行證書下士適任證書附與昭和八年  
勤務演習に應召同村分會評議員青年會幹  
事警備團長の職にあり

池田幸一氏



幸松村の士 昭和六年輜重兵第一大隊第  
一中隊に入隊十二月關東大連陸軍監視隊  
に配屬の爲め字品出帆大連上陸船着混  
成第三十八旅團義州警備隊に配屬北嶺地  
匪賊大討伐に参加各地軍需品及友軍死體  
收容各地の戦間に参加し八月内陸地歸  
還除隊寸上等兵命七年三月御下賜品並  
酒肴料下賜十二月御紋章入御草入同品並  
下賜八年一月善行證書滿洲國建國記念章  
授與さる同村分會評議員現任せらる

茂木俊三郎氏



幸松村の士 昭和六年近衛歩兵第四聯隊  
第九中隊入隊青訓修了者檢定に合格七年  
十一月特別恩賜金下賜除隊九年九月歩兵  
砲備教育として近衛歩兵第三聯隊機關銃  
隊に應召十月上等兵命精勤章二回善行證  
書附與同村分會評議員現任盡力せらる

大串金太郎氏



幸松村の士 昭和六年臺灣歩兵第一聯隊  
第一中隊入隊十二月上等兵命八年五月歸  
休除隊寸精勤章二回八年四月善行證書附  
與せらる八年度勤務演習に應召青年團副  
支部長就任せらる

増田喜一氏



旭村の士 大正十三年歩兵第三聯隊第五  
中隊へ幹部候補生として入隊昭和二年三  
月陸軍歩兵少尉任官叙正八位被らる青年  
團長青訓指導員同村分會長の重任に就か  
れ銳意盡力せらる

宮崎利吉氏



旭村の士 大正四年歩兵第三聯隊第十二  
中隊入隊同村分會各役員永年勤績盡力せ  
られ現分會副會長に就任し分會事業の向  
上に貢献さる昭和五年四月一家より三名  
の軍人を奉公したる名譽の家庭として表  
彰狀授賜さる

岡田重道氏



旭村の士 大正五年野砲兵第十五聯隊第  
四中隊入隊六年四月習志野原に於ける演  
習及十一月秋季演習七年八月射撃演習に  
参加し七年度特別大演習に参加酒肴料下  
賜精勤章二回附與同村分會班長たり

岡田光造氏

旭村の士 大正六年十二月輜重兵大隊第  
二中隊入隊七年二月除隊さる前分會役員  
として勤績せられ現監事の要職にあり分  
會の爲めに盡力せらる

岡田利郎氏



旭村の士 大正八年歩兵第三聯隊第九中  
隊入隊九年四月歩兵第七十三聯隊要員と  
して轉入錦城に守備十月匪賊討伐に支那  
間島に出動歸還善行證書附與職功に依り  
金百三十圓並に従軍記章授賜同村分會班  
長たり

小林留吉氏

旭村の士 大正八年横須賀海兵團に入團  
九年五日軍艦八雲乗組を命十年八月横須  
賀發歐米沿岸警備十二月一等行狀進級十  
一年三月馬公歸着七月一等水兵命十一月  
滿期寸同村分會副會長に就任せられ分會の  
爲めに克く努めらる

榎本多門氏

旭村の士 大正十二年歩兵第三聯隊第七  
中隊入隊十二年九月關東大震災の際戒嚴  
勤務に従事十二月歩兵作業修習の爲め工  
兵第一大隊に派遣精勤章二回善行證書附  
與歸休除隊寸同村分會班長として分會の  
爲めに盡力せらる

稲葉長三郎氏



寺島卯之作氏  
旭村の士 大正十三年野戰重砲兵第四聯隊第三中隊入隊十二月上等兵命十四年十一月師團對抗演習に参加善行證書附與歸休除隊す同村分會班長の要職にあり



山崎安治氏  
旭村の士 大正十三年歩兵第三聯隊第三中隊入隊精勤章第二種射擊徽章並に善行證書附與除隊す昭和八年教育召集に應召瓦斯掛り要員として修得す同村分會班長就任分會の爲めに努力さる



鈴木嘉之吉氏  
旭村の士 大正十三年輜重兵大隊第一中隊入隊十四年一月除隊さる同村分會班長盡力さる



石山晃平氏  
旭村の士 昭和六年野砲兵第一聯隊第一中隊へ幹部候補生として入隊七年十月軍曹に進級銜會議可決昭和十年度砲兵少尉に任官の士なり同村青訓指導員として盡力さる



岡田元一氏  
旭村の士 昭和二年近衛歩兵第三聯隊機關銃隊入隊三年六月喇叭手命十一月御大禮大饗第一日御儀の際酒飲料下賜十二月大禮觀兵式に參列四年二月天皇皇后兩陛下葉山御用邸御駐紮の際儀仗衛兵服務酒肴料下賜精勤章善行證書附與同村分會班長現任せらる



鈴木三郎氏  
旭村の士 昭和二年歩兵第七十四聯隊第十一中隊入隊三年五月臨時編成下令出動龍山着第二十師團指揮に入り江界警備十月上旬上等兵命精勤章二回善行證書附與せられ四年五月歸休除隊さる



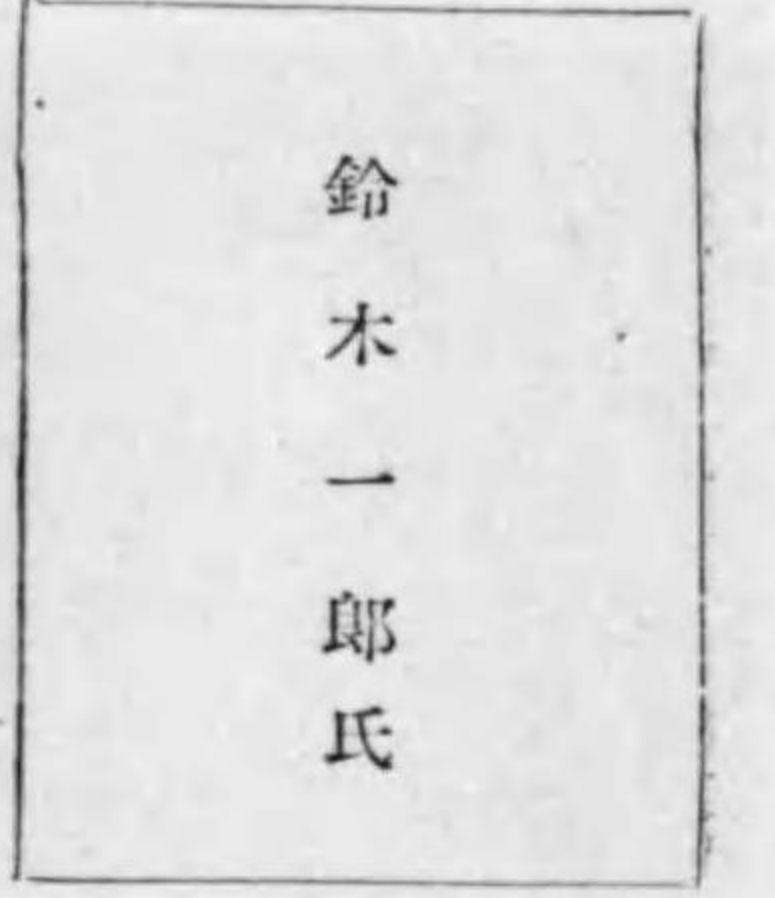
新井作一氏  
旭村の士 昭和二年歩兵第三聯隊第一中隊入隊十一月愛知縣下施行特別大演習に参加三年七月歸休除隊同村分會班長現任せらる



關根勝一氏  
旭村の士 昭和四年騎兵第十五聯隊第四中隊入隊五年十一月歸休除隊す精勤章二回善行證書附與せらる



田村初五郎氏  
旭村の士 昭和六年電信第一聯隊第八中隊入隊東軍司令部に轉屬無線電信要員に命十二月編入滿洲事變に關する勤務に従事七年六月除隊す上等兵命善行證書附與さる



鈴木一郎氏



大館一郎氏  
金杉村の士 大正十五年騎兵第二十五聯隊第一中隊入隊十五年愛知縣下に於ける騎兵特別演習並に秋季演習に参加十二月上等兵命精勤章善行證書並に下士適任證書附與同村分會役員たり



岡田伊太郎氏

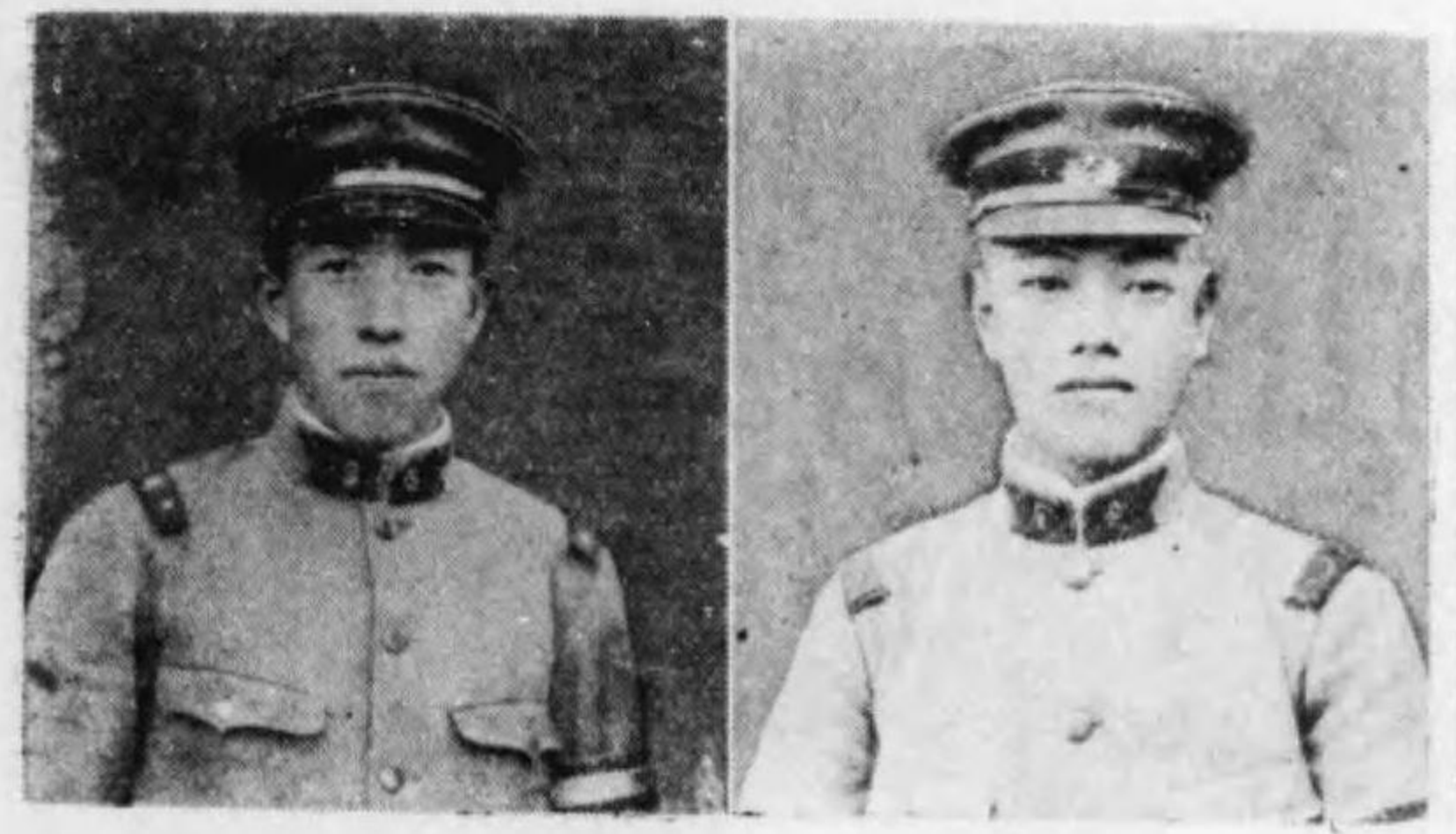
金杉村の士 大正十三年輜重兵大隊第二中隊入隊十四年度新馬掛り命善行證書附與同村分會監事現職さる

金子瀧一氏

金杉村の士 昭和二年歩兵第三聯隊第九中隊入隊 天皇陛下葉山御用邸御駐籠の際儀仗兵として派遣精勤章善行證書並に下士適任證書附同村分會副會長の重職にあり人望家たり

島田又一氏  
金杉村の士 昭和二年近衛歩兵第四聯隊機關銃隊入隊十二月上等兵命三年十二月御大禮觀兵式參列精勤章善行證書附與特別恩賜金下賜歸休除隊同村分會理事の重職に現任せらる

松本春吉氏  
金杉村の士 昭和六年歩兵第三聯隊第十中隊入隊十二月上等兵命第十一中隊編入善行證書附與同村青訓指導員として盡力さる



山崎米藏氏  
金杉村の士 昭和七年近衛歩兵第三聯隊第二中隊入隊二月東京衛戍病院に復歸七月陸軍戸山學校に派遣八年七月東京第一衛戍病院復歸上等看護兵命精勤章二回善行證書並に下士適任證書附與同村青訓指導員として盡力さる

本澤正平氏  
南櫻井村の士 大正七年十二月野砲兵第二十五聯隊第二中隊入隊八年度選拔照準手十一月上等兵命九年十一月伍長勤務昇進十二月臨時山砲兵第一中隊に在り支那龍井村各地に出動間島事件に出動す照準徽章精勤章二回善行證書並に下士適任證書附與九年度戰役の功に依り叙勳八等瑞寶章從軍記章授賜同村分會長に就任分會事業の向上に極力盡瘁せらる

細井壽一氏  
南櫻井村の士 大正九年工兵第十九大隊第二中隊入隊通信術修業十一月上等兵命精勤章下士適任證書附與同村分會班長及分會副長兼任せらる



富澤定吉氏  
南櫻井村の士 大正六年騎兵第十六聯隊第五中隊入隊七年度千葉縣下施行特別大演習に參加酒肴料下賜八年四月蹄鐵術修業十一月上等兵命精勤章善行證書附與除隊同村分會評議員並に班長たり

新井喜市氏  
南櫻井村の士 大正十四年歩兵第三聯隊第十一中隊入隊十二月上等兵命十五年十一月伍長勤務昇進精勤章善行證書並に下士適任證書附與昭和九年八月歩兵伍長任官同村分會役員たり分會の爲めに盡力さる

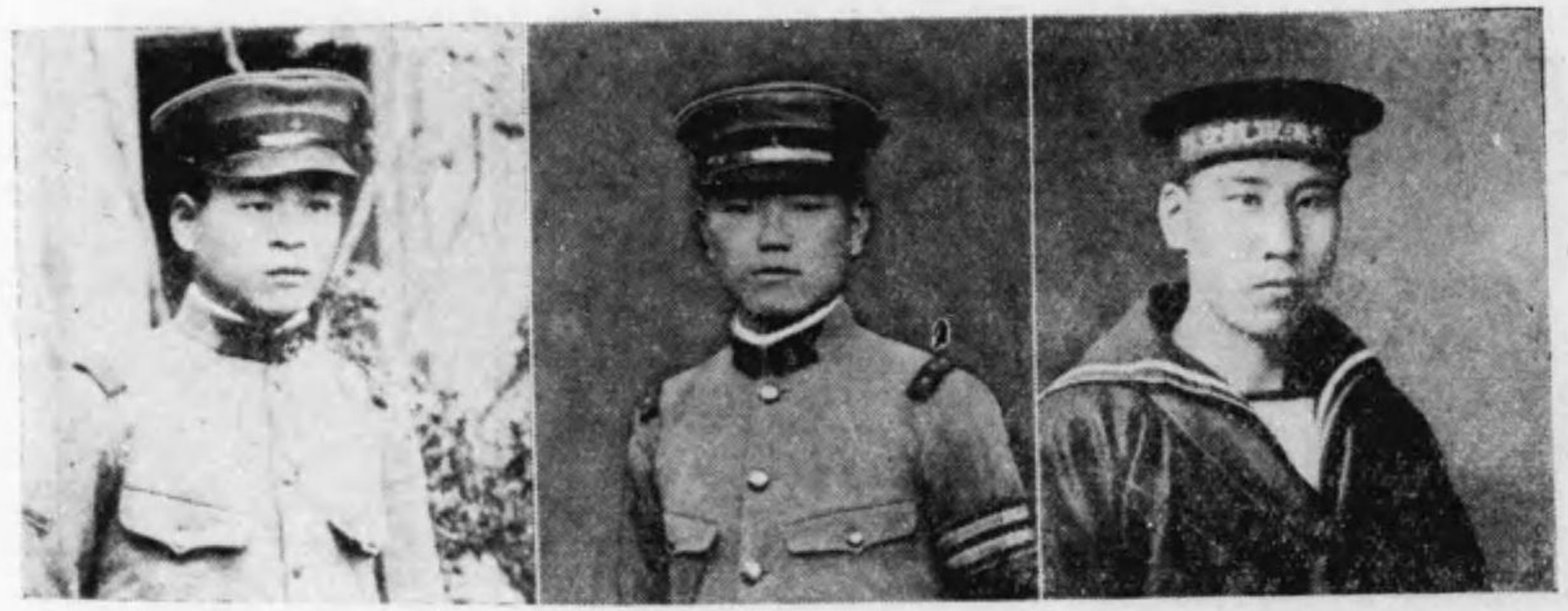
中田源一氏  
南櫻井村の士 大正十四年野戰重砲兵第一聯隊第一中隊入隊九月選拔照準手十二月上等兵命十五年二月歸休除隊す精勤章照準徽章善行證書並に下士適任證書附與同村分會各役員勤盡力せられ班長現任さる



中村幸次氏  
南櫻井村の士 大正十五年横須賀海兵團に入團昭和二年四月航空隊に轉勤九月帆風乗組を命三年十一月御大禮大饗第一日御儀の際酒饌料下賜四年四月秦皇島に向て大連發航海善行證書附與一等機關兵命滿期同村分會役員として盡瘁せらる

石川金平氏  
南櫻井村の士 昭和二年歩兵第三聯隊第十中隊入隊昭和二年愛知縣下施行特別大演習に參加十二月上等兵命三年五月伍長勤務昇進精勤章善行證書並に下士適任證書附與歸休除隊同村青訓指導員として盡力さる

小林庄藏氏  
南櫻井村の士 昭和三年歩兵第三聯隊第三中隊入隊十二月御大禮觀兵式參列四年度茨城縣下施行の特別大演習參加酒肴料下賜精勤章善行證書附與せらる







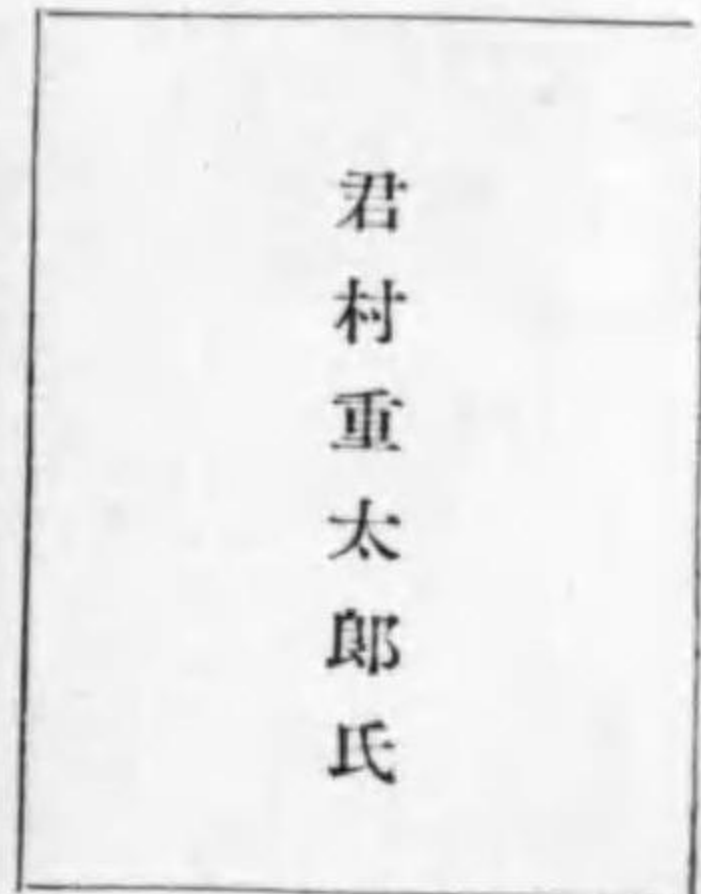
野口 袖一氏  
南櫻井村の士 昭和四年近衛歩兵第四聯隊機銃隊入隊四年度茨城縣下施行特別大演習に参加酒肴料下賜五年六月上等兵命七月埼玉縣下に於ける師團對抗演習に参加精勤章善行證書附與除隊す同村青訓指導員囑託さる



遠藤 剛一郎氏  
南櫻井村の士 昭和七年騎兵第十五聯隊機銃隊入隊七年十月一等兵命七年度特別騎兵演習に参加宮城縣下に出張八年十一月歸隊除隊精勤章善行證書附與せらる



島村 英治氏  
南櫻井村の士 昭和七年歩兵第三聯隊第一中隊入隊十月上等兵命精勤章二回善行證書附與せらる



君村重太郎氏

富多村の士 大正六年歩兵第三聯隊第九中隊入隊伍長勤務命精勤章善行證書並に下士適任證書附與同村分會長に就任克く分會向上に盡力せられ青訓指導員囑託同村消防部長消防聯合會評議員たり同縣消防協會總裁より表彰狀聯合分會長より功勞章埼玉縣消防協會長より功勞章授賜せらるゝ名譽家たり



小島 賢一氏  
富多村の士 大正十二年歩兵第三聯隊第七中隊入隊九月關東大震災の際戒嚴勤務に従事十二月上等兵命同日伍長勤務昇進十三年十一月歸隊除隊精勤章善行證書並に下士適任證書附與昭和五年同村分會副長に就任並に青訓指導員囑託せられ川邊小學校に奉職さる



柿沼 豊三郎氏  
富多村の士 大正五年近衛歩兵第三聯隊第十一中隊入隊七年一月馬扱ひ修習の爲め野砲兵第十三聯隊に分遣七年度特別大演習に参加酒肴料下賜歸隊除隊す同村分會理事の要職にあり



山崎 益太郎氏  
富多村の士 大正六年近衛歩兵第三聯隊第七中隊入隊七年度茨城縣下兩縣下施行特別大演習に参加し酒肴料下賜八年五月皇太子殿下御成年式に際し酒肴料下賜精勤章善行證書附與歸隊除隊す同村分會評議員現任せらる



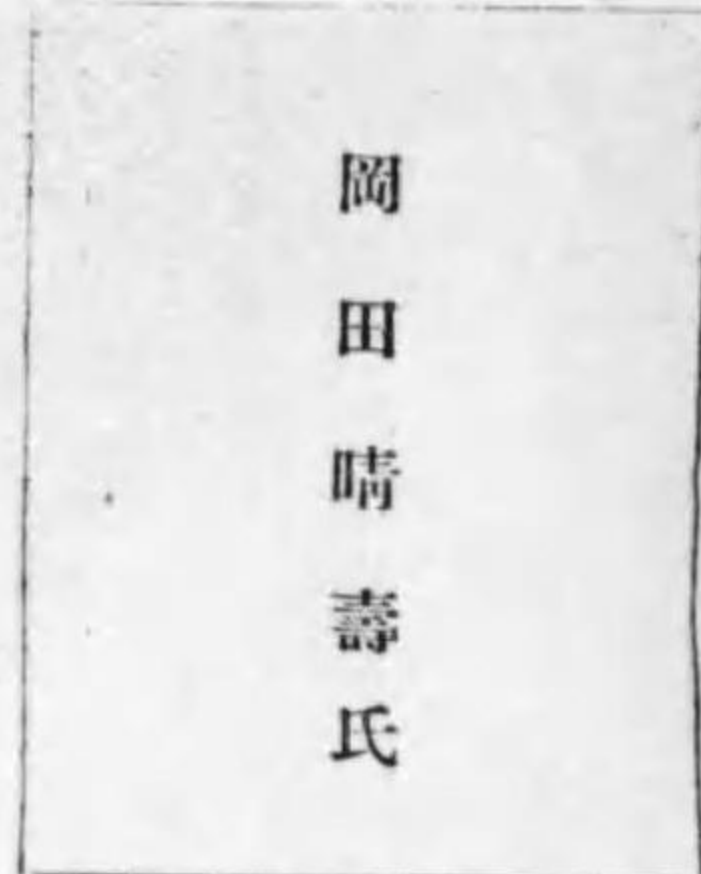
山崎 林之輔氏  
富多村の士 大正八年近衛歩兵第三聯隊第四中隊入隊九年十一月上等兵命十年五月伍長勤務昇進十年度東京府及神奈川縣下施行特別大演習に参加酒肴料下賜精勤章善行證書並に下士適任證書附與同村分會各役員勤績盡力せられ現理事の要職にあり



平野 清一氏  
富多村の士 大正十年近衛歩兵第三聯隊第七中隊入隊十一年四月英國皇太子殿下御來朝の際近衛師團觀兵式に參列十二年九月關東大震災の際戒嚴勤務に従事酒肴料下賜歸隊除隊同村分會班長として分會の爲めに盡力せらる

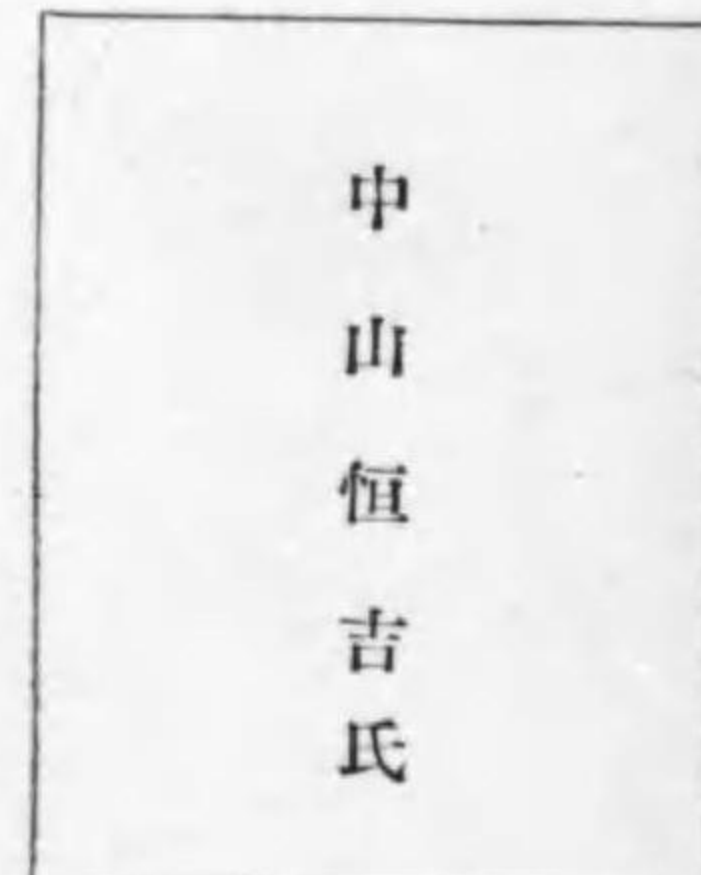


鈴木 高市氏  
富多村の士 大正十二年近衛輜重兵大隊第一中隊入隊靴工術卒業五月歸隊除隊す同村分會班長たり分會の爲に盡力せらる



岡田晴壽氏

富多村の士 大正九年歩兵第三聯隊第二中隊入隊十年度東京府及神奈川縣下施行特別大演習に参加十一年八月歸隊除隊酒肴料下賜同村分會監事の要職にあり盡力せらる



中山恒吉氏

富多村の士 大正十二年近衛野砲兵聯隊第五中隊入隊十二年九月關東大震災の際東京北部警備隊に囑し戒嚴勤務に従事十二月上等兵命十三年十一月歸隊除隊善行證書附與同村分會評議員に現任分會の爲めに盡力さる



小島孝五郎氏  
 富多村の士 大正十五年歩兵第七十三聯隊第七中隊入隊昭和二年十月上等兵命十二月伍長勤務昇進精勤章善行證書並に下士適任證書附同村青訓指導員囑託盡力さる



平野豊三郎氏  
 富多村の士 昭和二年近衛歩兵第四聯隊第九中隊入隊三年十一月御大禮大饗第一日御儀の際酒饌料下賜十二月大禮觀兵式參列四年五月特別恩賜金下賜精勤章善行證書附與除隊せらる



金子喜之氏  
 富多村の士 昭和六年歩兵第七十三聯隊第七中隊入隊七年四月混成第三十八旅團編成下令滿洲出動奉天着敦化寧安道橋築掩護東京城吉林省各地警備勤務羅南歸還十二月上等兵命八年五月歸隊除隊善行證書附與銃劍術競技會に於て賞狀附與せらる



筒井昌一郎氏  
 富多村の士 昭和六年近衛野砲兵聯隊第七中隊へ幹部候補生として入隊七年十一月軍曹に進級幹部候補生終末試験に合格近く砲兵少尉任官の士將來を囑望せらる



關根喜一郎氏  
 川邊村の士 明治三十七年歩兵第三聯隊入隊見習軍醫命三十八年一月任陸軍三等軍醫叙正八位被らる日露戰役の際歩兵第二十八聯隊付として出征十一月解隊職功に依り勳八等授賜同村に於て醫院開業前同村軍人團長現分會長に就任並に同郡聯合分會評議員として克く分會に勤め事業向上に盡力せらるゝ名士なり



堀江啓一郎氏  
 川邊村の士 大正十五年横須賀重砲兵聯隊第四中隊入隊觀測手命昭和二年陸軍重砲兵學校に分遣十二月任砲兵伍長三年十二月御大禮記念杯授賜十二月任軍曹十二月御大禮觀兵式參列除隊昭和七年二月動員下令上海に出動野戰兵器具要員として吳淞に上陸兵器廠に勤務し内地歸還す同村分會副長に就任並に青訓指導員として盡力さるゝ名士なり



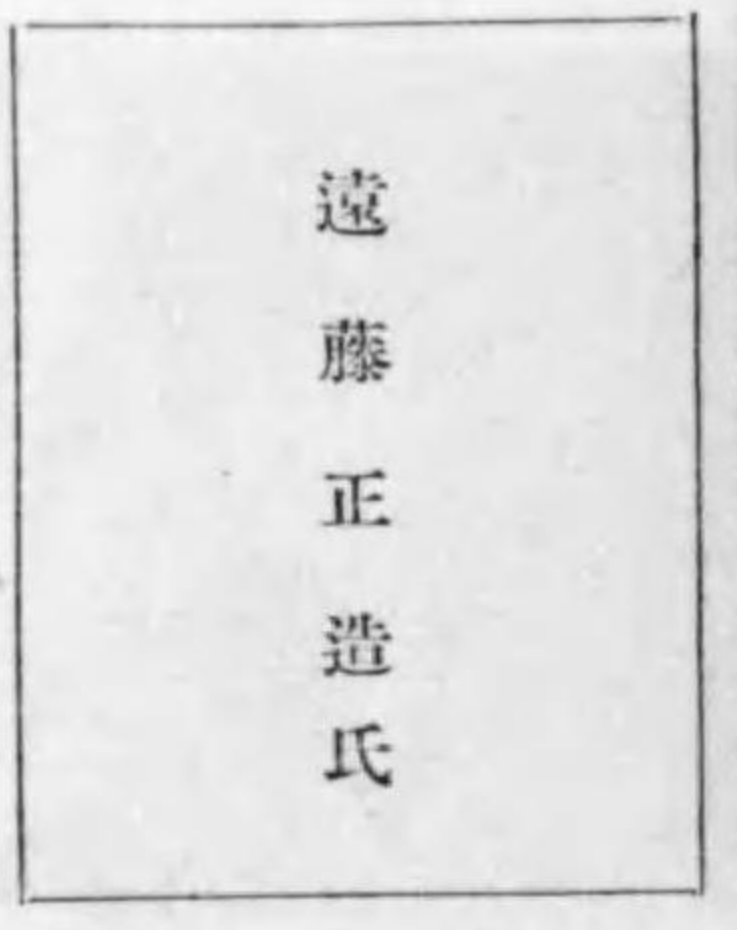
前島貞一氏  
 川邊村の士 大正十五年騎兵第二十五聯隊第二中隊入隊八月騎兵學校に分遣機關銃隊に編入昭和二年愛知岐阜兩縣下施行特別大演習に參加し十一月原隊復歸除隊第三種射擊徽章精勤章並に善行證書附與同村分會副會長の要職にあり盡力さる



遠藤進一氏  
 豐國村の士 大正六年近衛歩兵第三聯隊第八中隊入隊八年五月皇太子殿下御成年式に際し酒肴料下賜八年十一月歸隊除隊同村分會役員たり分會の爲めに盡力せられ同村々會議員に當選推されて村長に就任し農會長等の重職にあり銳意事務に盡力し村治の向上に務めらる



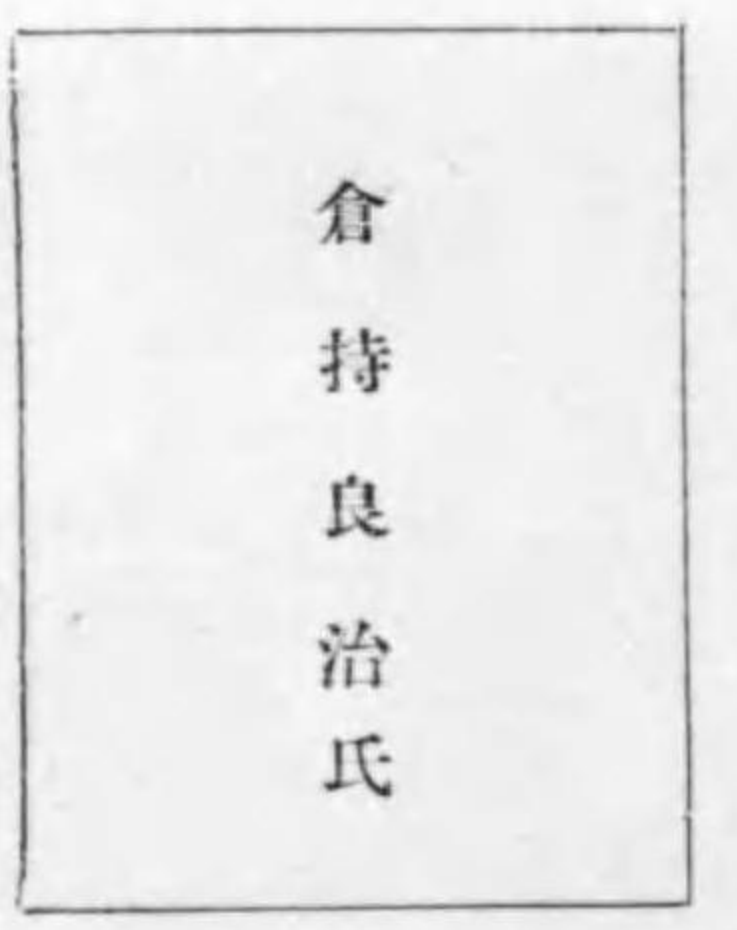
宇田川平治氏  
 川邊村の士 大正八年騎兵第十六聯隊第五中隊入隊十二月上等兵命十年度埼玉群馬縣下に於ける騎兵特別演習に參加十年十二月伍長勤務昇進馬術優等徽章善行證書並に下士適任證書附與除隊同村青訓指導員囑託せられ方面委員たり



遠藤正造氏  
 豐岡村の士 大正十五年歩兵第三聯隊第十一中隊入隊十二月上等兵命昭和二年愛知縣下施行特別大演習に參加精勤章善行證書並に下士適任證書附與昭和七年八月任歩兵伍長同村分會長就任銳意分會事業の向上に盡力せらる



島田正八郎氏  
 川邊村の士 大正十年野戰重砲兵第一聯隊第五中隊入隊十二月上等兵命十二年八月伍長勤務昇進九月關東大震災の際東京南部警備隊に屬し戒嚴勤務に従事精勤章三同善行證書並に下士適任證書附與昭和二年七月任砲兵伍長同村青訓指導員として盡力せらる



倉持良治氏  
 豐國村の士 大正九年歩兵第三聯隊第六中隊入隊十年度東京神奈川縣下施行特別大演習參加酒肴料下賜十一年四月進級十一月歸隊除隊十五年十二月上等兵命せらる同村分會各役員勤現評議員班長の各要職にあり



大澤 雄次氏  
豊岡村の士 昭和三年一月横須賀重砲兵聯隊第五中隊入隊十月通信手四年三月上等兵に命十二月大禮觀兵式参列四年度特別大演習に参加精勤章善行證書附與歸休除隊同村分會副會長の重職にあり分會向上に盡力せらる



新井 代三氏  
豊岡村の士 昭和四年歩兵第三聯隊第十一中隊入隊六年五月歸休除隊酒肴料下賜善行證書附與同村分會役員並に青訓指導員として分會の爲めに努力せらる



間中 長吉氏  
豊岡村の士 昭和五年歩兵第三聯隊第二中隊入隊六年十一月歸休除隊精勤章附與同村分會役員として分會向上に努力せらる



藤沼 清一氏  
豊岡村の士 昭和六年一月横須賀海兵團入團軍艦衣笠乗組を命十月愛宕に轉勤八年六月工機學校に分遣六月赤城に轉勤十月赤城聯合艦隊第一航空戰隊附十一月一等機關兵命滿期退團す



五井 基市氏  
三輪野江村の士 大正十三年騎兵第十五聯隊入隊十四年度計主勤務修習十一月上等兵命十四年度埼玉群馬東京附近施行團對抗演習に参加精勤章下士適任證書附與同村分會長に就任克く分會向上に努力せられ青訓指導員囑託さる



浮谷 徳三氏  
三輪野江村の士 大正十二年歩兵第七十五聯隊茂山守備隊要員として入隊茂山着國境警備勤務に従事し十四年十月善行證書附與歸休除隊同村分會副會長に就任し分會の向上發展に盡力せらる



蒲田 榮一氏  
三輪野江村の士 大正十四年近衛歩兵第三聯隊第六中隊入隊十一月喇叭手修業十五年十月師團衛生隊演習に参加酒肴料下賜善行證書附與九年度上等兵命同村分會副會長の要職にあり盡力せらる



上原 治助氏  
三輪野江村の士 大正十二年一月輜重兵第一大隊第一中隊入隊四月看護學修業十二年九月關東大震災の際東京南部警備隊に屬し戒嚴勤務に従事精勤章善行證書並に下士適任證書附與せられ十三年七月歸休除隊同村分會副會長たり分會の向上發展に盡力さる



鈴木 作次郎氏  
三輪野江村の士 大正七年歩兵第三聯隊第四中隊入隊八年九月臨事朝鮮派遣隊第二中隊編入釜山上陸錦州着會寧に着第十中隊轉入間島事件に参加精勤章附與間島事件の功勞に依り金百圓並に従軍記章授與す同村分會班長たり分會の爲めに盡力せらる



宇野 源藏氏  
三輪野江村の士 大正七年六月近衛輜重兵第一大隊第一中隊入隊八月航空隊に轉入八月釜山上陸黒龍江州滿州里着八年二月チタ飛行場根據地に於て威嚇飛行並に冬季研究飛行に従事し七月武市に着七月歸還凱旋す善行證書附與戰功に依り白色桐葉章並に金二百圓從軍記章各圖聯合記章授賜同村分會班長現任せらる



淺見 祐太郎氏  
三輪野江村の士 大正八年歩兵第三聯隊第九中隊入隊九年一月第八中隊に編入九月青島守備派遣六月侍從武官御差遣酒肴料下賜十年十月第十中隊編入替十一月歸休除隊同村分會役員たり盡力さる



南 仁三郎氏  
三輪野江村の士 大正八年横須賀海兵團に入團九年四月軍艦津輕乗組を命十一年二月小銃檢定射撃に於優等賞授與五月一等水兵命七月歸休同村分會班長たり



田村元次郎氏  
三輪野江村の士 大正十年近衛歩兵第三聯隊機關銃隊入隊十一月四月英國皇太子殿下御來朝の際近衛師團觀兵式に參列十二年三月 天皇皇后兩陛下葉山御用邸御駐轡に付き儀仗兵として派遣酒肴料下賜十二年九月關東大震災の際戒嚴勤務に眼し同月除隊す善行證書附與同村分會役員現任盡力さる



三木伊右衛門氏  
三輪野江村の士 大正十三年歩兵第三聯隊第十中隊入隊精勤章二回善行證書附與せられ除隊同村分會班長として盡力せらる



植竹春吉氏  
三輪野江村の士 大正十四年野戰重砲兵第七聯隊第一中隊入隊九月選拔照準手命十一月師團對抗演習に參加精勤章二回善行證書附與除隊す昭和三年八月上等兵命同村分會役員たり



小野澤仙藏氏  
三輪野江村の士 昭和二年橫須賀重砲兵聯隊第五中隊入隊九月馬取扱ひ修習の爲め野戰重砲兵聯隊に分遣十二月上等兵命大禮觀兵式に參列精勤章附與同村分會役員として盡力せらる



早川湊氏  
三輪野江村の士 昭和四年飛行第五聯隊第三中隊入隊四年度特別大演習に參加十二月上等兵命下志津陸軍飛行學校に分遣五年十一月原隊復歸精勤章善行證書附與除隊同村分會班長たり



互井詮一氏  
三輪野江村の士 昭和四年一月輜重兵第一大隊第二中隊入隊十二月進級五年十一月滿期同村分會班長たり分會の爲めに盡力さる



岡田藏之輔氏  
三輪野江村の士 昭和四年一月氣球隊第一中隊入隊八月通信手命九月軍用鳩取扱ひ修習十二月上等兵命精勤章四回善行證書附與せられ同村分會役員たり



秋葉善司氏  
三輪野江村の士 昭和五年騎兵第十五聯隊第二中隊入隊二月看護學修習の爲め習志野衛戍病院に通學十二月上等看護兵命精勤章三回附與同村分會役員として盡力せらる

遠藤政雄氏

靜村の士 縣立不動岡中學校卒業昭和三年歩兵第五十七聯隊に幹部候補生として入隊七年三月任官歩兵少尉叙正八位被らる昭和八年同村分會長に就任せられ克く會員の指導員と分會の向上に盡力せらるゝ村内名士なり

高橋誠一氏

横現堂川村の士 昭和二年近衛歩兵第三聯隊第九中隊入隊昭和三年六月善行證書下士適任證書附與除隊す昭和七年任歩兵伍長同村分會長に就任盡力せられ現に推されて同村收入役となり鋭意事務に盡瘁せられ村治の向上に務めらるゝ村内に於ける名望家なり

飯島亥十郎氏

吉田村の士 大正九年騎兵第十六聯隊第五中隊入隊同十年度群馬縣下施行特別騎兵演習並に特別大演習に參加十一年十一月伍長勤務命善行證書下士適任證書附與除隊す大正十五年任官騎兵伍長昭和五年同村分會副長現分會長に就任し克く分會向上の爲に盡力せらる

新井義雄氏

八代村の士 昭和元年野戰重砲兵第二聯隊第六中隊入隊三年十一月歸休除隊同村分會副會長に就任せられ克く分會員指導と分會事業の向上に極力務めらるゝ士なり



吉川町の士 大正六年近衛歩兵第二聯隊第七中隊幹部候補生として入隊す昭和三年三月陸軍歩兵中尉任官叙七位被らる大正十年同町分會長並に同郡聯合分會副會長大正十五年同郡將校團長に就任せられ各現任せらる昭和六年推されて同町々長に就任鋭意事務に盡瘁し町會議員衛生組合長農會長等の重職にあり克く同町自治の向上に務めらるゝ士なり

深井 誠一氏



吉川町の士 大正十年歩兵第三聯隊第三中隊入隊十一月上等兵命十一年九月伍長勤務昇進十二年九月關東大震災の際東京南部警備隊に屬し戒嚴勤務に従事十二年十一月歸隊除隊精勤善行證書並に下士適任證書附同町分會副長に就任盡力せられ並に青訓指導員囑託消防小頭青年會副會長たり昭和七年馬匹一齊調査につき荒木後藤閣下より感謝狀授與す

深井 鐵藏氏



吉川町の士 昭和四年近衛歩兵第三聯隊第六中隊入隊青訓修了者檢定に合格皇后陛下葉山御用邸御駐營に付き儀仗衛兵として派遣酒肴料下賜六年五月歸隊除隊八年度勤務演習原隊に應召上等兵命精勤善行證書附與青訓指導員囑託さる昭和九年度大演習後陛下の御親閲に参加す

島田 理助氏



吉川町の士 昭和四年近衛歩兵第四聯隊第三中隊入隊五年十一月特別恩賜金下賜歸隊除隊す同町分會監事就任並に青訓指導員囑託さる

酒井 長左衛門氏



吉川町の士 昭和六年近衛歩兵第三聯隊第二中隊入隊七月青訓修了者檢定に合格七年六月上等兵命十一月酒肴料下賜歸隊除隊す昭和九年九月歩兵砲補備教育要員として原隊機關銃隊に應召善行證書精勤章附與同町青訓指導員囑託す

中井 藤一氏



早稻田村の士 熊谷農學校出身大正十年歩兵第三聯隊第八中隊へ幹部候補生として入隊十四年三月任歩兵少尉叙正八位被らる同町分會長に就任盡力せらる

島山 宗治氏



早稻田村の士 大正十年近衛歩兵第三聯隊第五中隊入隊十一月四年英國皇太子殿下御來朝の際近衛師團觀兵式に參列十二月上等兵命天皇皇后陛下葉山御用邸御駐營に付き儀仗衛兵として派遣酒肴料下賜六年五月歸隊除隊八年度勤務演習原隊に應召上等兵命精勤善行證書附與青訓指導員囑託さる昭和九年度大演習後陛下の御親閲に参加す

淺香 良一氏



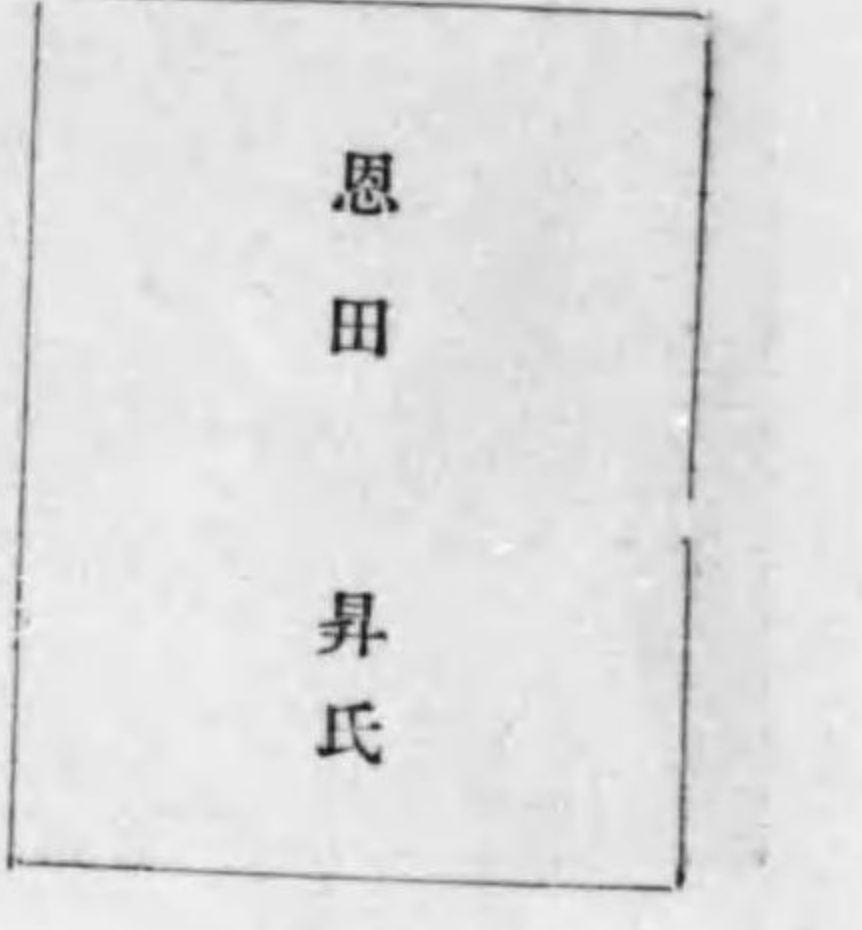
早稻田村の士 昭和二年近衛歩兵第四聯隊第九中隊入隊三年十一月御大禮儀仗兵として京都へ派遣十一月御大禮儀仗兵一日御儀に付酒饌料下賜十二月上等兵命四年五月特別恩賜金下賜除隊大禮記念章精勤章輕機第一種射擊徽章並に善行證書附與六年度勤務演習の爲め原隊に應召同町分會第三班長たり消防小頭農事組合幹事の要職にあり

長木 嘉吉氏



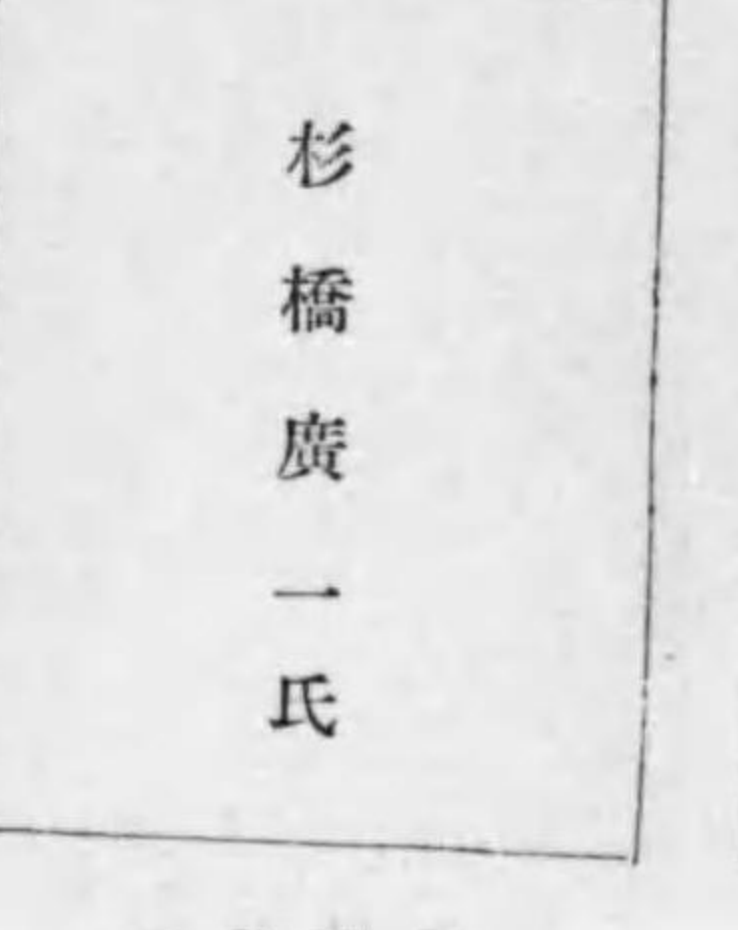
早稻田村の士 昭和三年歩兵第三聯隊第六中隊入隊十一月御大禮大饗第一日御儀に付き酒饌料下賜十二月大禮觀兵式參列四年度水戸地方施行特別大演習に參加十一月除隊精勤章二回善行證書附與同町分會第四班長現任せられ青年會評議員たり

宇田川 守一氏



恩田 昇氏

早稻田村の士 昭和五年度徵兵第一乙補充兵たり同町分會第二班長現任盡力せられ青年會支部長歴任さる



杉橋 廣一氏

早稻田村の士 昭和六年野戰重砲兵第一聯隊第二中隊入隊五月上等兵命善行證書附與歸隊除隊す青年會支部長同町分會第一班長現任せらる



高野 須龜之助氏

彦成村の士 大正十三年横須賀重砲兵聯隊第二中隊入隊精勤章善行證書附與同町分會班長現任盡力さる



田中政雄氏

彦成村の士 中央大學法科出昭和五年近衛歩兵第四聯隊第七中隊へ幹部候補生として入隊昭和八年三月任陸軍歩兵少尉叙正八位被らる昭和七年推されて同町分會長に就任鋭意分會の向上に務めらる



恩田千代治氏

彦成村の士 大正七年近衛工兵大隊第二中隊入隊八年度神奈川縣下施行の特別大演習に参加酒肴料下賜除隊さる昭和三年三月任工兵伍長同町分會理事事務勤盡力せられ現分會副長に就任さる



島根光春氏

彦成村の士 大正八年歩兵第三聯隊第十二中隊入隊十年度神奈川縣地方施行特別大演習に参加し歸隊除隊す昭和四年勤務演習の爲め原隊に應召十二月任歩兵伍長特別大演習参加酒肴料下賜精勤章善行證書附同村分會理事事務現分會副長に就任分會の爲めに盡力せらる



柴井作次郎氏

彦成村の士 大正十三年輻重兵大隊第一中隊入隊す同村分會役員として分會の爲めに盡力せらる



鈴木鷹之助氏

彦成村の士 大正十五年歩兵第三聯隊第十一中隊入隊昭和二年愛知縣下施行特別大演習に参加酒肴料下賜二年十一月歸隊除隊す同村分會班長青年團役員同窓會役員たり



中村正雄氏

彦成村の士 昭和五年野戰重砲兵第七聯隊第二中隊入隊五年度栃木縣下に於ける特別砲兵演習に参加十二月上等兵命六年七月歸隊除隊精勤章善行證書並に下士適任證書附同村分會班長青年支部長たり

山崎信次氏



石川周三郎氏

松伏領村の士 大正十年騎兵第十六聯隊第二中隊に入隊同村分會理事事務勤盡力せられ現分會副長に就任分會事業に努力せられ青年會幹事消防小頭經濟更生委員の各重職にあり

齊藤留吉氏



松伏領村の士 大正十年野砲兵第十六聯隊第四中隊入隊十一年七月通信衛卒業十一年八月同聯隊解散に付き野戰重砲兵第七聯隊に編入十二年九月關東大震災の際東京南部警備隊に屬し戒嚴勤務に従事千葉警備隊に轉勤同年十一月歸隊除隊分會班長現任せらる



増田四三郎氏

松伏領村の士 大正十二年歩兵第七十三聯隊第一中隊入隊十四年十月歸隊除隊昭和八年度勤務演習の爲め歩兵第三聯隊に應召せらる同村分會理事の重職にあり盡力せらる

大隅惠助氏

松伏領村の士 大正十三年鐵道第一聯隊第一中隊に入隊同年度上等看護兵命精勤章善行證書附昭和八年度勤務演習の爲め近衛歩兵第四聯隊に應召同村分會班長勤務現理事の要職にあり青年會支部長消防救護班長たり

山崎正巳氏



松伏領村の士 大正十四年近衛輻重兵大隊第二中隊へ幹部候補生として入隊同村分會監事副長に就任盡力せられ並に青訓指導員青年團長の要職にあり各盡力せらる



鈴木善次郎氏  
松伏領村の士 昭和四年横須賀重砲兵第一中隊に入隊四年後施行特別大演習に参加五年二月重砲兵學校に分遣練習生隊に入隊十一月歸休除隊精勤章善行證書附與同村分會班長たり



横川長吉氏  
松伏領村の士 昭和六年臺灣歩兵第一聯隊第一中隊入隊七年十月上等兵命精勤章二回善行證書附與八年度勳務演習に歩兵第一聯隊に應召同村分會班長たり



吉田照之助氏  
松伏領村の士 昭和六年近衛歩兵第三聯隊第十一中隊入隊青訓修了者檢定に合格喇叭手命八年五月上等兵に昇進歸休除隊精勤章善行證書附與同村分會班長たり



石川善次郎氏  
松伏領村の士 松戸農學校卒業熊谷實業教員養成所出身昭和六年横須賀重砲兵聯隊第五中隊へ幹部候補生として入隊昭和十年度歩兵少尉任官の豫定(銜會議可決)現在入間郡柏原小學校に奉職せらる



鈴木岩次氏  
戸ヶ崎村の士 大正七年歩兵第三聯隊第十中隊入隊大正八年九月青島守備隊遣の爲め宇品出帆青島に上陸九年九月交代歸還十一月除隊守備勤務に付き酒肴料下賜精勤章善行證書附與青訓指導員同村分會副長現分會長に就任分會向上に盡力せらる消防小頭たり昭和七年馬四一齊調査につき後藤荒木閣下より感謝狀授與せらる



阿永寅松氏  
戸ヶ崎村の士 大正七年工兵第十五大隊第一中隊に入隊九年十月間島事件の爲め局子街軍春方面に出動十月上等兵命十一月歸休除隊精勤章善行證書並に下士適任證書附與間島事件の功に依り叙勳八等瑞寶章授賜同村分會副長に就任盡力せられ消防部長青年會支部長歴任せらる鈴木莊六閣下より表彰狀授與せらる



角田初造氏  
櫻田村の士 昭和二年近衛歩兵第四聯隊第九中隊入隊三年十一月御大典に付き京都儀仗兵に差遣葉山御用邸御駐紮の際儀仗衛兵として出張精勤章善行證書並に下士適任證書附與さる大禮記念章授與現同村分會評議員消防小頭の要職にあり



(舊姓持田氏) 鈴木貞三氏  
八木郷村の士 大正四年野砲兵第十五聯隊第三中隊入隊五年十一月上等兵命六年十二月任砲兵伍長大正七年度栃木茨城縣下施行特別大演習参加八年六月第一大隊附本部書記命十一月砲兵軍曹進級大正八年十一月秋季演習に参加八年十一月滿期除隊す同村分會副長に就任盡力せられ消防部長の要職にあり



尾崎金一氏  
櫻田村の士 昭和五年騎兵第十四聯隊第三中隊入隊五年十一月歸休除隊昭和八年度勳務演習に應召近衛騎兵聯隊に入隊す精勤章善行證書附與せらる



諏訪徳太郎氏  
櫻田村の士 分會役員として盡力せらる

# 帝國在郷軍人會摘要

## 總裁宮殿下令旨

帝國在郷軍人會組織成リ茲ニ 天長ノ佳節ヲトシテ本部ノ發會式ヲ舉ク。惟フニ在郷軍人ハ國民ノ精華ニシテ軍ノ編成之ニ頼ルモノ頗ル重大ナリ。是ニ於テカ統一指導ノ下ニ其團體ヲ組織シ、以テ在郷軍人ノ本分ヲ淬勵スルノ必要極メテ切ナリトス。是レ即チ本會ノ組織ヲ見ルニ至レル所以ナリ。自分各員相依リ相助ケテ益々軍人精神ヲ發揮シ、其技能ヲ修養シ以テ本會設立ノ趣旨ヲ貫徹センコトヲ望ム

明治四十三年十一月三日

帝國在郷軍人會總裁陸軍大將大勳位功二級 貞 愛 親 王

## 令 旨

帝國在郷軍人ノ發達ハ夙ニ世ノ矚目スル所ニシテ其ノ大成ヲ待ツコト一日ノ故ニアラス且現下歌米各國ノ實情ト我國ノ情勢トニ考フレハ在郷軍人ニ要望スヘキモノ更ニ多キヲ加ヘ小康ニ甘スルヲ容サス載仁茲ニ總裁ノ任ヲ繼承シ切ニ重責ヲ思ヒ日夜精勵進運ヲ開拓シテ國防ノ完備ニ資セント欲ス諸子深ク此ノ意ヲ體シ忠良健實以テ上聖諭ニ奉對シ下國民ノ信賴ニ副ハムコトヲ望ム



大正十二年五月八日

帝國在郷軍人會總裁

元帥陸軍大將大勳位功二級 載 仁 親 王

### 帝國在郷軍人會設立ノ趣意

必任義務兵役ノ法實施以來、在郷軍人ヲ主腦トスル尙武團體漸ク其ノ勢ヲ加ヘ現時各市區町村殆ント其ノ設立ノ見サルナキノ盛況ヲ呈スルニ至リタリ。而シテ此等ノ團體ハ主トシテ在郷軍人ノ品位ヲ高メ國民ノ軍事思想ヲ啓發スルニ努メ、以テ過去數回ノ戰役ニ以テ貢獻スル所尠少ナラストス。然リト雖モ其設立及經營ハ從來全ク各郷個々ノモノニ屬シ、其ノ目的及行動ニ關シ、連繫統一以テ之ヲ指導シ、之ヲ振作スルノ機關ナシ。加之將來軍ノ編成ハ在郷軍人ノ精銳ヲ必要トスルコト愈々切實ナルヲ以テ復タ之ヲ現時ノ狀態ニ放任スルヲ許サ、ルニ至レリ。依テ茲ニ各市區町村ニ於ケル在郷軍人ノ既設團體ヲ糾合シ、其ノ目的ヲ定一ニシ、其ノ行動ヲ整齊ニシ、尙ホ未タ其ノ備ヲ見サル地方ニ於テハ其ノ設立ヲ獎勵シ、以テ在郷軍人ヲシテ地方良民ノ模範タラシムルト同時ニ益々軍人精神ノ鍛練ト、軍事智識ノ増進トヲ圖リ併セテ會員ノ相互扶助慰藉ノ方法ヲ講セシメントス是レ帝國在郷軍人會ヲ設立スル所以ナリ

### 會長ノ宣言

帝國臣民ノ武士的精神ニ富ムハ一國ノ精華トシテ宇内ノ稱揚措カサル所ナリ。最近戰役ニ大捷亦首トシテ之ニ因由スルヤ論ヲ俟タス。而シテ帝國軍ノ要素タル在郷軍人ニ在リテハ一屬此ノ精神ヲ發揚シ軍事ノ智識ヲ増進シ

砥礪淬磨、以テ皇室ノ屏翰タリ國家ノ干城タル負荷ヲ堪フルコトヲ期スルハ蓋シ當然ノ義務也近時各地ニ勃興セル在郷軍人ノ團體ハ概シテ上述ノ目的ヲ有スト雖モ統一、指導其機關ヲ缺キ、隨テ其ノ効果顯著ナルヲ得ス時ニ或ハ其ノ行動正鵠ヲ失フノ虞ナキ能ハス。仍テ本官等相圖リテ帝國在郷軍人會ヲ設立シ、總裁貞愛親王殿下ノ旨ヲ奉シテ、之カ糾合指導ノ任ニ膺ラントス。其目的他ナシ。在郷軍人ヲシテ善ク軍人タルノ本分ヲ盡サシメントスルニアリ。即チ明治十五年軍人ニ賜リタル勅諭ノ精神ヲ奉體シテ軍事能力ヲ増進シ、相互ノ親睦ヲ悖フシ、其ノ品位ヲ高メ各自ノ業務ニ精勵シ、以テ國民ノ最良模範タラシメン事是ナリ。本會々員ハ一意専心此ノ趣旨ヲ遵奉シ規約ノ定ムル所ニ從ヒ、至誠以テ本會ノ發達ヲ期セサルヘカラス、萬一本會々員ニシテ此ノ團結力ヲ利用シ政治ニ干與スルカ如キ事アラン乎、實ニ軍人會設立ノ本旨ニ乖戾スルノミナラス、弊害ノ及フ所實ニ測ルヘカラサルモノアラントス、是レ最モ慎戒ヲ要スル一事ナリ。茲ニ本部ノ發會ニ臨ミ各員ノ努力ヲ前述ニ切望スト云爾

明治四十三年十一月三日

帝國在郷軍人會々長

陸軍大將正三位勳一等功一級子爵

寺 内 正 毅

### 會老の式辭

總裁殿下ノ令旨ヲ拜シ感激措ク能ハス。今ヤ國運益々皇張シ、干城ノ任務愈々重ヲ加ヘタリ。吾人軍人タルモノハ、上下ヲ問ハス、出張ヲ論セス、鞠躬士道ヲ修メ、孜孜技能ヲ磨キ、事ニ戒軒ニ從テハ、國事ノ柱礎タリ退テ郷黨ニ處シテハ後進ヲ薰化シ以テ、國民ノ儀表タリ。陛下ノ股肱タルニ愧チサル事ヲ期セサル可ラス吾人會員相率キテ令旨ヲ奉體シ、能ク本會ノ主旨ヲ全フスルヲ得ハ庶幾ハ國民皆兵ノ實ヲ舉ケ、我國ノ基礎ヲ固フ

四  
スルヲ得ン是獨リ 至尊覆載ノ恩ニ奉對スル所以ナルノミナラス、抑モ又國家ノ福祉ニシテ予ノ諸君ト與ニ行カント欲スル所ノ道ナリ茲ニ發會ニ方リ聊カ一言ヲ述ヘテ會員ニ告ク

明治四十三年十一月三日

帝國在郷軍人會々老元帥

陸軍大將正二位大勳位功一級公爵 山形 有朋

### 在郷軍人一般

宇内ノ大勢東洋ノ状態ニ稽フレハ帝國臣民ハ夙夜淬勵大ニ國運ノ興隆ニ贊襄セサルヘカラス近時歐州ノ戰亂ハ國民皆兵ノ事實ヲ證シ軍人精神ノ益々民心ニ洽ク軍人思想ノ愈々郷閭ニ漲ルノ必要明ニス夫レ在郷軍人ハ舉國皆兵ノ楨幹ニシテ國家富強ノ中堅ナリ勤儉ヲ旨トシ文弱ニ流レス土道ヲ重ンシ武事ヲ尙ヒ產ヲ治メ業ヲ興シ軍隊教育ノ本義ヲ貫徹シ富國強兵ノ基礎ヲ堅實ニシテ上ハ優渥ナル 聖旨ニ對ヘ下ハ同胞ノ倚信ニ副ヒ以テ軍人ノ本分ヲ全フセンコトヲ期スヘシ

右訓示ス

大正五年九月二十五日

海軍大臣 加藤友三郎  
陸軍大臣 大島 健一

陸海軍大臣ハ今回宇内ノ大勢ト國家ノ現状トニ鑑ミ在郷軍人ノ方ニ抱持スヘキ覺悟ニ就テ訓示セラレタリ惟フニ國家ノ前途愈々大事ナラントスルノ秋ニ方リ民國漸ク浮華輕佻ノ風ニ趨リ軍隊教育ノ精神ト相反スルノ傾向

アルハ洵ニ痛歎ニ堪ヘサルナリ殊ニ憂慮スヘキハ近時農村疲憊ノ現象アルコト是レナリ蓋シ都會ニ於ケル奢侈ノ風地方ニ浸淫シ儉素ノ美風ヲ破壞シテ人心ヲ萎靡セシメタルト農家徒ラニ新奇ヲ街ヒ究理ニ走リテ實行ニ力メス勞力ヲ惜ミ若クハ餘力ヲ利用シテ殖産ヲ圖ラサルトニ因ルコト多キヲ信ス之カ振興ハ焦眉ノ急務ニシテ其方法ハ大ニ勤儉貯蓄ノ美風ヲ鼓吹スルト共ニ産業上ノ進歩改良ヲ圖リテ收穫ヲ増加シ有利ナル副業ヲ營ムニ在リ故ニ本會員タルモノハ努メテ産業上ノ智識ヲ涵養シテ躬行率先他ヲ誘導シ郷黨ノ信賴ヲ厚クシ以テ農村ノ振興地方ノ開發ニ貢獻スヘキナリ是レ即チ軍隊教育令ト軍隊内務書トノ精神ニ合致シ良兵良民ノ趣旨ヲ徹底セシムル所ニシテ分會設立ノ意義茲ニ始メテ其全キヲ見ルヘシ此事タル主トシテ地方公官史ノ指導誘掖ニ待タサルヘカラス是ヲ以テ今回特ニ關係諸省彼此協力シテ獎勵セラルルコトトナレリ各會員宜シク以上ノ主意ヲ體シ地方公史ノ指導ニ從ヒ精勵之カ實行ニ任シ大ニ其成績ヲ舉ケンコトヲ望ム若シ夫レ地方ニ於テ從來此種ノ計畫或ハ團體ノ存在アルモノアルハ進ンテ之ト協同シテ其効果ヲ全クスヘク必シモ新規特殊ノ活動ヲ求ムルノ主旨ニアラス要ハ質素勤儉ノ美風ヲ振作シ生産力ノ増進ヲ圖リ以テ時勢ノ要求ニ應スルニ在リ而シテ漁村又ハ市街地方分會ノ如キ亦以上ノ主意ニ基キ殖産上工業適當ノ方法ヲ攻究シテ實行スルヲ必要トス

大正五年九月二十五日

帝國在郷軍人分會長伯爵 寺 内 正 毅

## 帝國在郷軍人會規約

### 第一章 總 則

- 第一條 本會ハ帝國在郷軍人會ト稱ス
- 第二條 本會ハ皇族ヲ總裁ニ奉戴ス
- 第三條 本會ハ最高ノ顧問トシテ會老ヲ置キ總裁之ヲ囑託ス
- 第四條 本會ハ陸軍大臣及海軍大臣ノ監督ヲ受ク
- 第五條 本會ハ事務所ヲ東京市ニ置キ之ヲ本部ト稱ス
- 第六條 本規約中郡、市、町、村トアルハ各左記下欄ノ地ニ相當ス

島司ヲ置キタル島嶼小笠原島ヲ除ク  
 島司郡長ニ準スヘキ者ノ管轄區  
 北海道及樺太ニ在リテハ支廳長ノ管轄區

市  
 東京市、京都市、大阪市、名古屋市ニ在リテハ區  
 小笠原島  
 町村

- 第七條 島司、郡長若クハ之ニ準スヘキ者又ハ北海道及樺太ニ在リテハ支廳長ノ管轄區内ニ於ケル町村長ニ準スヘキ者ノ管轄區
- 第七條 本規約中將校同相當官トアルハ陸軍將校同相當官及海軍士官特務士官ヲ、下士兵卒トアルハ陸軍下士兵卒及海軍下士官兵ヲ併稱ス

### 第二章 目的及事業

第八條 本會ハ 聖旨ヲ奉體シテ軍人精神ヲ鍛練シ軍事能力ヲ増進スルヲ以テ本旨トシ延テ社會ノ公益ヲ圖リ

風教ヲ振作シ恒ニ國家ノ干城國民ノ中堅タルノ實ヲ舉グルヲ目的トス

- 第九條 前條ノ目的ヲ達スル爲本會ハ左ノ事業ヲ行フ 但シ本會ノ目的ニ適合スル他ノ事業ヲ行フコトヲ得
- 一、勅諭、勅語、詔書ノ拜讀式ヲ行ヒ又三大節及廉アル宮中ノ式典當日ハ遙拜式ヲ行フコト
- 二、軍人精神ノ鍛練、軍事學術ノ研究及演練並體育ヲ行フコト
- 三、過去戰役ヲ記念シ戰役死亡者及公務ニ起因スル死亡者ノ祭典ヲ幫助シ且其ノ遺族並公傷病兵ヲ憂遇スルコト
- 四、會員ヲシテ應召準備ヲ整頓セシムルコト及召集事務ヲ幫助シ又ハ徵兵検査並簡閱點呼ノ際參會者ノ指導ニ協力スルコト
- 五、現役兵又ハ補充兵トシテ入營スル者及補充兵ニシテ未タ入營セサル者ノ軍事教育ヲ行ヒ且入退營(團)者ヲ送迎スルコト
- 六、青年團員及少年團員誘接並指導ニ協力スルコト
- 七、風教ノ改善ニ協力シ、社會公益事業ヲ幫助シ且公安ノ維持並非常時ニ於ケル救護事業ヲ援助スルコト
- 八、會員ノ一致和諧ヲ圖リ延テ社會ノ融和協調ノ美ヲ助成シ併テ會員相互扶助ノ途ヲ讓スルコト
- 九、會員及其ノ家族並現役者休業者ハ會員中ニ含ムノ家族ヲ必要ニ應シ扶助シ又會員及現役者休業者ハ會員中ニ含ムノ葬儀ニ會葬シ尙其遺族ヲ慰藉スルコト
- 十、精神修養、軍事及一般智識ノ増進並團體、會員ノ指導連絡ノ爲講演ヲ行ヒ雜誌及圖書等ヲ發行スルコト
- 第十條 本會ハ第八條ノ目的ヲ以テ組織セラレ聯合支部以下各團體ヲ聯合統一スルモノトス
- 第十一條 本會ハ本會ノ事業ト其ノ目的又ハ種類ヲ同ウスル事業ヲ行フモノ在ルトキハ成ルヘク之ト協同シ若ハ之ヲ幫助スルモノトス

### 第三章 組織

第十二條 本會ハ聯合支部及聯合支部ヲ組織セサル支部並ニ支部ヲ組織セサル聯合分會又ハ分會ヲ以テ組織ス  
第十三條 聯合支部ハ各師管ノ區域内ニ在ル支部ヲ以テ組織ス朝鮮ニ在リテハ各師團管轄區域内問島及渾春ニ在ル  
管内ニ合ムニ、臺灣、關東洲及滿洲ニ在リテハ各軍管轄區域内ニ在ル支部及支部ヲ組織セサル聯合分會又ハ分會  
ヲ以テ聯合支部ヲ組織スルコトヲ得

第十四條 支部ハ聯合隊區ノ區域内ニ在ル聯合分會及聯合分會ヲ組織セサル分會ヲ以テ組織ス

兩聯隊區ノ區域ニ互ル大ナル市ニ在リテハ必要アル場合ニ於テハ聯合支部長ノ承認ヲ經テ聯隊區ノ區域ニ依  
ラス當該市内ニ在ル聯合分會又ハ分會ヲ以テ別ニ支部ヲ組織スルコトヲ得朝鮮、臺灣、關東洲、滿洲、支那其ノ  
他外國ノ領土ヲ稱ス以下ニ準シ海外地ニ在リテハ特ニ定ムル區域内ニ在ル聯合分會及聯合會ヲ組織セサル分會ヲ以テ支部ヲ組織スルコトヲ得

第十五條 聯合分會ハ各郡ノ區域内ニ在ル分會ヲ以テ組織ス

工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所又ハ海多地等ニ在リテハ必要アル場合ニ於テ特ニ定ムル區域内ニ在  
ル分會ヲ以テ聯合分會ヲ組織スルコトヲ得

第十六條 分會ハ各市町村ノ區域内ニ在ル會員ヲ以テ組織ス

工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所等ニ在リテハ其ノ所屬ノ會員ヲ以テ又海外地ニ在リテハ其ノ地居住  
ノ會員ヲ以テ分會組織スルコトヲ得

第十七條 前二條ノ外必要アル場合ニ於テハ支部長ノ承認ヲ經テ郡ニ在リテハ數個ノ聯合分會ヲ、市町村ニ在  
リテハ數個ノ分會ヲ設ケ又當該市町村毎ニ一個市ニ在リテハ一個又ハ數個ノ聯合分會ヲ置クコトヲ得

第十八條 海外地ニ於テ聯合支部ヲ組織セサル支部及支部ヲ組織セサル聯合分會又ハ分會ハ會長ニ直屬スルモ  
ノトス

第十九條 大ナル市ノ聯合分會又ハ分會ノ必要アル場合ニ於テハ聯合支部長ノ承認ヲ經テ協同事業ノ處理スル  
爲聯合會ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ聯合會ニシテ直屬支部ノ系統ヲ異ニスル場合ニ在リテハ其ノ協同事業ノ處理ハ所屬聯合支部長ノ統制

ニ基キ關係支部長ノ協同監督ヲ受クルモノトス

第二十條 前條ノ規定ニ依リ聯合會ヲ設クルトキハ關係聯合分會又ハ分會ノ協議ニ依リ聯合會規約ヲ定メ所屬  
ノ支部長又ハ聯合支部長ノ承認ヲ受クルモノトス

聯合會規約ニハ聯合會ノ名稱、協同事業、役員及費用支辨ノ方法等ヲ定ムルモノトス

第二十一條 分會ハ行收區劃又ハ小學校通學區域若ハ交通等其ノ地方ノ情況ニ從ヒ班ニ區分シ班ハ更ニ最寄若  
干ノ人員ヲ以テ組ニ區分セルコトヲ得

聯合分會若ハ分會ハ地方ノ情況ニ應シ必要アル場合ニ於テハ海軍出身正會員ノ爲其ノ組織内ニ海軍班ヲ設置  
スルコトヲ得

第二十二條 聯合支部以下各團體ノ稱號ハ概ネ左記例稱ニ從フ

聯合支部

師管稱號、朝鮮ニ在リテハ師團司令部所在地名臺灣ニ在リテハ軍名、關東州及滿洲ニ在リテハ滿洲ノ名稱

ニ從ヒ

帝國在郷軍人會第何師管(龍山)(臺灣)(滿洲)聯合支部

支 部

聯隊區司令部ノ各個所等ノ名稱ニ從ヒ

帝國在郷軍人會何支部

聯合分會

郡市又ハ工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ名稱ニ從ヒ

帝國在郷軍人會何郡(那何部)(市)(市北部)聯合分會

帝國在郷軍人會何工場(鑛山)(會社)(運輸事務所)(保線事務所)(車庫)聯合分會

分 會

市町村又ハ工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所等ノ名稱ニ從ヒ  
 帝國在郷軍人會何市(町)(村)分會  
 帝國在郷軍人會何工場(鐵山)(會社)(運輸事務所)(保線事務所)(車庫)分會  
 外地ニ於ケル團體ハ前項ニ依ルノ外通常其ノ區域内ニ在ル著合ナル土地又ハ其ノ事務所所在地ノ名稱ヲ冠  
 シ且前記ノ例稱ヲ適用スルモノトス

### 第四章 會 員

第二十三條 本會ノ會員ハ正會員特別會員名譽會員ノ三種トシ其ノ區別左ノ如シ

- 一、正會員
- (一) 豫備役後備役退役將校同相當官准士官、豫備役後備役下士兵卒、歸休兵、補充兵、海兵豫備員、第一國民兵役ニ在ル者及六週間陸軍現役ヲ終リ第二國民兵役ニ在ル者
  - (二) 前項ニ依リ會員タリシ者ニシテ其ノ役ヲ除キ前項ニ該當セサルニ至リタル者ノ中尙引續キ正會員タルコトヲ希望スル者
- 二、特別會員
- (一) 現役將校同相當官ニシテ本會又ハ聯合支部以下各團體ヨリ推薦セラレタル者
- 三、名譽會員
- (一) 本會ヲ除キタル者ノ中功績顯著ニシテ本會又ハ聯合支部以下各團體ヨリ推薦セラレタル者
  - (二) 在郷軍人ニ非スシテ特ニ本會ニ助力ヲ與ヘ又ハ功勞アリタル者若ハ其ノ協力ヲ受クヘキ者ニシテ本會又ハ聯合支部以下各團體ヨリ推薦セラレタル者
- 第二十四條 會員ノ所屬ハ左ノ區分ニ依ルモノトス
- 一、正會員ハ住所ノ分會ニ屬ス 但シ本籍地以外ニ住所ヲ有スル者ハ住所ノ分會ニ屬スルノ外本籍地ノ分會ニモ屬スルコトヲ得

分會ニモ屬スルコトヲ得

- 二、工場、鑛山、會社及鐵道、軌道ノ各個所等ニ在ル正會員ハ當該分會ニ屬ス 但シ前記分會ニ屬スル外住所又ハ本籍地ノ分會ニモ屬スルコトヲ得
  - 三、特別會員及名譽會員ハ其ノ推薦セラレタル團體ニ屬ス
- 第二十五條 分會ハ會員名簿ヲ備付ケ其ノ移動ヲ朋ニスルモノトス必要アル場合班ニ於テモ亦同シ
- 第二十六條 會員ニシテ住所又ハ分會所屬ヲ變更シタルトキハ之ヲ關係分會ニ通知スルモノトス
- 第二十七條 特別會員及名譽會員ノ推薦ハ豫メ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ行フモノトス

### 第五章 資産及會計

第二十八條 本會ノ資産ハ本會直屬ノ財産及聯合支部以下各團體所屬ノ財産ヨリ成リ其ノ區分左ノ如シ

- 一、本會直屬ノ財産
    - (一) 御下賜金
    - (二) 財團法人帝國在郷軍人會財團ヨリノ補助金
    - (三) 寄附ニ係ル動産及不動産
    - (四) 本會ノ事業ヨリ生シタル收入
  - 二、聯合支部以下各團體所屬ノ財産
    - (一) 御下賜金
    - (二) 聯合支部以下各團體ノ所有ニ屬スル財産及其ノ財産並事業ヨリ生スル收入
    - (三) 聯合支部以下各團體ノ受ケタル補助金、寄附ニ係ル動産及不動産、直屬系統ノ團體ヨリノ醸出金並分會ニ在リテハ會員ヨリ醸出シタル會費
- 第二十九條 本會直屬ノ財産中左ノ各號ノモノハ本會ノ基本財産トス

一、御下賜金 其ノ利子及本會評議員ノ決議ニ依リ其ノ費途ヲ定メタルモノヲ除ク

二、寄附ニ係ル動産及不動産 寄附者ヨリ其ノ費途ヲ示シタルモノヲ除ク

三、前二項ノ外本會評議員ノ決議ニ依リ基本財産ニ組入レタルモノ

第三十條 本會直屬ノ基本財産ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス 但シ御下賜金以外ノ財産ハ特別ノ事情アル場合ニ於テ本會評議員總員ノ半數以上出席シ其ノ出席議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ之ヲ消費スルコトヲ得

第三十一條 本會直屬ノ基本財産ハ本會評議員ノ決議ニ依リ財團法人帝國在郷軍人會財團ニ其ノ保管ヲ委託スルコトヲ得

第三十二條 本會直屬ノ財産ノ管理ニ關スル規程ハ前四條ニ定ムルノ外本會評議會ノ決議ニ依リ別ニ之ヲ定ムルモノトス

第三十三條 聯合支部以下各團體所屬ノ財産ノ管理ニ關スル規程ハ各所屬評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム 但シ御下賜金ハ通常基本財産ニ組入レルモノトス

第三十四條 分會ハ所屬評議會ノ決議ニ依リ會員ヨリ會費ヲ釀出セシムルコトヲ得

第三十五條 支部以下各團體ハ各所屬評議會ノ決議ニ依リ直屬系統ノ團體ヨリ事業費ヲ釀出セシムルコトヲ得

第三十六條 本會ノ經費ハ本會直屬ノ基本財産以外ノ財産ヲ以テ又聯合支部以下各團體ノ經費ハ各所屬ノ基本財産以外ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨スルモノトス

第三十七條 會計年度ハ毎年四月一日ヨリ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十八條 翌年度ノ豫算ハ其ノ年度開始前各所屬評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

前年度ノ決算ハ翌年度終了前各所屬評議會ニ提出シ其承認ヲ經ルヲ要ス

### 第六章 役員及顧問

第三十九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一名
副會長	一名
監事	各若干名
理事	各若干名
評議員	各若干名

第四十條 聯合支部以下各團體ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一名
副會長	一名
監事	各若干名
理事	各若干名
評議員	各若干名

前項ノ外第二十一條ノ規定ニ依リ班(組)ヲ設ケタル場合ニ於テハ同班(組)ニ各長一名及同副長若干名ヲ置クコトヲ得

第四十一條 役員ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ囑託又ハ推薦スルモノトス

一、本會

會長及副會長ハ會老ノ諮詢ヲ經テ總裁之ヲ囑託ス

理事及監事ハ東京及其ノ附近ニ現住スル正會員及特別會員中ヨリ會長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

審議員ハ東京及其ノ附近ニ現住スル會員中ヨリ會長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

評議員ハ内地ニ在リテハ支部ヨリ各一名ヲ當該支部評議員ニ於テ其ノ所屬評議員正會員タル支部副長中ヨリ選舉シ朝鮮、臺灣、關東洲及滿洲ニ在リテハ聯合支部ヨリ各一名ヲ當該聯合支部評議會ニ於テ其ノ所屬

評議員及正會員タル聯合支部副長中ヨリ選舉シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス 但シ選舉ノ方法ニ關シテハ別ニ會長ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ外鎮守府管區内ヨリ海軍出身ノ正會員タル評議員各二名ヲ選出シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス 前項ノ評議員ハ鎮守府管區内ニ在ル各支部評議會ニ於テ其所屬評議員及正會員タル支部副長中ヨリ海軍出身ノ正會員代表者一名ヲ選舉シ其ノ代表者ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ代表者ヲ選舉スルニ當リ支部評議員及正會員タル支部副長中ニ海軍出身ノ正會員在ラサルトキハ各支部評議會ニ於テ當該支部内ノ聯合分會及聯合分會ヲ組織セサル分會ノ海軍出身正會員タル役員中ヨリ一名代表者ヲ選舉ス

前項ノ代表者ヲ選舉スルニ當リ支部内ノ聯合分會及聯合分會ヲ組織セサル分會ノ役員中ニ海軍出身ノ正會員在ラサルトキハ當該支部内分會ノ海軍出身正會員タル役員中ヨリ一名ノ代表者ヲ選舉ス

前二項ニ依ル選舉ノ方法及選出區域等ニ關スル細部ノ規程ハ別ニ會長ニ於テ之ヲ定ム

二、聯合支部  
聯合支部長ハ内地ニ在リテハ師團司令部附少將ニ、朝鮮ニ在リテハ師團司令部所在地ノ現役將校官中ヨリ臺灣、關東洲及滿洲ニ在リテハ軍管轄區域内ノ現役將官中ヨリ會員ノ推薦ニ依總裁之ヲ囑託ス

聯合支部副長ハ聯合支部評議會ニ於テ聯合支部内ノ特別會員中ヨリ一名其ノ他ハ正會員中ヨリ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス  
理事及監事ハ聯合支部ノ五會員及特別會員中ヨリ聯合支部長之ヲ囑託ス  
評議員ハ各支部評議會ニ於テ其ノ所屬評議員及正會員タル支部副長中ヨリ選舉シ聯合支部長之ヲ囑託ス其ノ選舉スル人員ハ聯合支部長ヨリ概ネ正會員ノ數ニ應シ豫メ各支部ニ配當ス  
前項ノ外支部ヨリ選出セラレタル本會評議員本條第一號第五項ニ依ル海軍出身ノ正會員タル本會評議員ヲ除クハ當該所屬聯合支部ノ評議員タルモノトシ聯合支部長之ヲ囑託ス

三、支部  
支部長ハ内地ニ在リテハ聯隊區司令官ニ、朝鮮、臺灣、關東洲及滿洲ニ在リテハ聯合支部長ノ推薦シタル現役左官ニ其ノ他ノ海外地ニ在リテハ支部評議員ニ於テ支部内ノ正會員及特別會員中ヨリ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

第十四條第二項ノ規定ニ依リ支部ヲ設ケタル場合ニ於ケル支部長ハ當該關係聯合支部長之ヲ兼スルモノトシ會員ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

支部副長ハ支部評議會ニ於テ支部内ノ特別會員中ヨリ一名前項支部ニ在リテハ二名其ノ他ハ正會員中ヨリ之ヲ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

理事及監事ハ支部内ノ正會員及特別會員中ヨリ支部長之ヲ囑託ス  
評議員ハ各聯合分會聯合分會ノ設ケナキ所ニ在リテハ分會ノ評議會ニ於テ其ノ所屬ノ評議員聯合分會長同副長分會長及同副長中ヨリ選舉シ支部長之ヲ囑託ス其ノ選舉スル人員ハ支部長ヨリ概ネ正會員ノ數ニ應シ豫メ各聯合分會聯合分會ノ設ケナキ所ニ在リテハ分會ニ酒當ス

四、聯合分會  
聯合分會長及聯合分會副長ハ聯合分會評議會ニ於テ聯合分會内ノ正會員中ヨリ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

理事及監事ハ聯合分會評議會ニ於テ聯合分會内ノ正會員及名譽會員中ヨリ推薦シ聯合分會長之ヲ囑託ス 海軍班長及同副長ヲ設ケル場合ニ於テハ同班内ノ正會員ニ於テ當該正會員中ヨリ推薦シ聯合分會評議會ノ承認ヲ經テ聯合分會長之ヲ囑託ス

評議員ハ各分會評議員ニ於テ其ノ所屬評議員、分會長及同副長中ヨリ選舉シ聯合分會長之ヲ囑託ス其ノ選舉スル人員ハ聯合分會長ヨリ概ネ正會員ノ數ニ應シ豫メ各分會配當ス

五、分會

分會長及分會副長ハ分會評議員ニ於テ分會内ノ正會員中ヨリ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス  
理事及監事ハ分會評議員會ニ於テ分會内正會員及名譽會員中ヨリ推薦シ分會長之ヲ囑託ス  
班長、同副長及組長、同副長ヲ設クル場合ニ於テハ同班(組)内ノ正會員ニ於テ當該正會員中ヨリ推薦シ分  
會評議會ノ承認ヲ經テ分會長之ヲ囑託ス

評議員ハ分會ノ總會ニ於テ分會内ノ正會員中ヨリ推薦ス

第四十二條 本會及聯合支部以下各團體ニ顧問ヲ置クコトヲ得顧問ハ各團體評議會ニ於テ會員中ヨリ本人ノ承  
諾ヲ得テ之ヲ推薦シ會長ノ報告ニ依リ總裁之ヲ囑託ス

第四十三條 役員及顧問ハ名譽職トシ會長、副會長、特別會員タル役員及顧問ハ任期ヲ定ムルコトナシ  
前項以外ノ役員ハ其ノ任期ヲ三年トス 但シ再任ヲ妨ケス又ハ補闕者ノ任期ハ前任者殘任期間トス

第四十四條 役員交代ヲ行フ場合ニ於テハ後任者ノ就職スル迄ハ仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十五條 囑託ニ係ル役員ハ第四十三條ノ任期ニ依ルコト、ナク必要ニ應シ任期ヲ解カル、コトアルヘシ

第四十六條 會長ハ會務ヲ總理シ及本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務代理ス

第四十七條 聯合支部長、支部長、聯合分會長及分會長ハ各所屬ノ團體ノ會務ヲ統轄シ及之ヲ代表ス

副長ハ各所屬團體ノ長ヲ補佐シ其ノ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第四十八條 會長ハ本會評議會ノ決議力其ノ權限ヲ超シ法令ニ背キタルトキ又ハ決議カ公益ヲ害シ若ハ本會ノ  
目的ヲ遂行スル爲著シク不適當ト認メタルトキハ審議會ニ諮問シ當該評議會ノ決議ニ依ルコトナク之ヲ決議  
スルコト得

第四十九條 聯合支部長以下各團體ノ長ハ名所屬評議會ノ決議力其ノ權限ヲ超エ法令ニ背キタルトキ又ハ決議  
カ公益ヲ害シ若ハ本會ノ目的ヲ遂行スル爲著シク不適當ト認メタルトキハ直屬上級團體ノ長ノ意見ヲ聽キ當  
該評議會ノ決議ニ依ルコトナク之ヲ決議スルコトヲ得

第五十條 理事ハ各所屬ノ長ノ命ヲ承ケ當該團體ヲ執行ス  
第五十一條 監事ハ各所屬ノ長ノ命ヲ承ケ當該團體ノ經理ノ整否ヲ監査ス

### 第七章 審議會、評議會及總會

第五十二條 本會ニ最高ノ諮問機關トシテ審議會ヲ置ク

審議會ハ左ノ事項ヲ審議スル所トス

一、本會評議員ニ提出スヘキ事項中重要ナルモノ

二、本會評議會ニ於テ決議セル事項中第四十八條ノ規定ニ依リ再議ニ付スヘキ事項

三、本會評議員ヲ招集スルニ違ナキ臨時ノ重要事項

第五十三條 審議員ハ議長、副議長各一名及審議員ヲ以テ組織シ、議長副議長ハ審議ノ互選トス

第五十四條 審議會ハ會長ノ諮詢ヲ待テ開會シ諮問事項ニ付意見ヲ答申スルモノトス

會長、副會長、本本理事及同監事ハ審議會ニ出席シ意見ヲ述ブルコト得

第五十五條 本會及聯合支部以下各團體決議機關トシテ左ノ役員ヨリ成ル評議會ヲ置ク

本會評議會 本會評議會

聯合支部評議會 正會員タル聯合支部副長、聯合支部評議員

支部評議會 正會員タル支部長、正會員タル支部副長、支部評議員

聯合分會評議會 聯合分會長、聯合分會副長、聯合分會評議員、海軍班ノ設ケ在ル聯合分會ニ於テハ其ノ  
班長

分會評議會 分會長、分會副長、分會理事、分會評議員

第五十六條 本會評議員ノ決議スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一、規約ヲ設ケ又ハ改訂スルコト



- 二、本會ヲ通シ統一處理ヲ要スル事業ニ關スルコト
  - 三、財産ヲ以テ支辨スル事業ニ關スルコト
  - 四、年度豫算ヲ定ムルコト
  - 五、決算報告ノ承認ニ關スルコト
  - 六、財産ノ設置及處分ニ關スルコト
  - 七、基本財産ノ設置及處分ニ關スルコト
  - 八、不動産ノ取得及處分ニ關スルコト
  - 九、其ノ他重要ナル會務
- 第五十七條 本會評議會ハ前條決議事項ノ外必要アル場合ニ於テハ聯合支部以下各團體ヨリ提出ノ意見中重要ナルモノニ付討議シ其ノ結果ヲ會長ニ答申スルモノトス
- 第五十八條 會長ハ第五十二條第二項第三號ニ依リ處置シタル事項ハ次回評議會ニ提出シ其ノ承認ヲ經ルヲ要ス
- 第五十九條 聯合支部以下各團體ノ約議會ニ於テ決議又ハ討議スヘキ事項ハ本規約中特ニ定メタルモノノ外第五十六條及第五十七條ニ準シ之ヲ定ムルモノトス
- 第六十條 本會、聯合支部及支部ノ評議會ニハ、長及副議長各一名ヲ置キ當該評議會議員ノ互選トス
- 第六十一條 聯合分會及分會ノ評議會ノ議長ハ當該所屬ノ長ヲ以テ之ニ充ツルモノトス
- 第六十二條 各評議會ハ議長ノ外定員ノ三分ノ一以上出席スルニ非ラレハ會議ヲ開クコトヲ得ス 但シ本規約中及聯合支部以下各團體ニ於テ特ニ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第六十三條 各評議會ノ議事ハ出席議員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス 但シ本規約中及聯合支部以下各團體ニ於テ特ニ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第六十四條 本會評議會ハ毎年一回會長ニ於テ之ヲ招集ス招集日時及會議ノ事項ハ開會ノ日ヨリ三十日前ニ到

着スヘク通知スルモノトス但シ急ヲ要スル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

- 第六十五條 聯合支部以下各團體ノ評議會ハ各所屬ノ長ニ於テ必要アル場合ニ於テ之ヲ招集スルモノトス
  - 第六十六條 前諸條ニ規定スルノ外評議會議事等ニ關スル事項ニ特ニ必要アル場合ニ於テハ各所屬評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得
  - 第六十七條 會長、副會長 聯合支部長、同副長、理事及監事ハ各所屬ノ評議會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得
  - 第六十八條 分會ハ毎年少クモ一回總會ヲ開キ役員ノ推薦及會務ノ報告等ヲ爲スモノトス
- 聯合分會以上ノ團體ニ在リテハ必要ニ應ジ總會ヲ開クコトヲ得

## 第八章 監督

第六十九條 聯合支部以下各團體ハ左ノ區分ニ從ヒ各其ノ監督ヲ受ク  
聯合支部及支部

- 内地 各所管毎ニ師團長、鎮守府司令長官
  - 朝鮮 軍司令官及各管區毎ニ師團長、要港部司令官
  - 其ノ他ノ地 各管區毎ニ軍司令官、鎮守府司令長官、要港部司令官
- 聯合分會及分會

内地 關係聯隊區司令官、海軍人事部長

- 第七十條 本會及聯合支部以下各團體ハ組織系統ニ依リ各直屬ノ團體ヲ指導監督スルモノトス
- 第七十一條 本會及聯合支部以下各團體ハ各直屬團體カ其ノ權限ヲ超エ法令ニ背キタルトキ又ハ公益ヲ害シ若クハ本會ノ目的ヲ遂行スル爲著シク不適當ト認ムル事項ヲ決議シタルトキハ之ヲ取消サシムルコトヲ得

### 第九章 會旗及徽章

第七十二條 本會ニ會旗ヲ設ケ分會毎ニ一旗ヲ置ク此ノ會旗ハ奉送迎及集會等團體ヲ表示スル場合ニ之ヲ用ウルモノトス

第七十三條 本會ニ會員及役員ノ徽章ヲ設ケ各其ノ身分ヲ表彰スル場合ニハ之ヲ佩用スルモノトス

第七十四條 會旗及徽章ノ制式並徽章佩用ノ位置ハ附圖第一乃至第三ノ如シ

第七十五條 正會員タルノ身分ヲ表示スル場合ニハ成ルヘク軍服ヲ著用スルモノトス

### 第十章 表彰

第七十六條 本會ノ會員ニシテ其ノ功績顯著ナルカ又ハ其ノ行爲他ノ儀表ト爲リ何レモ優賞スヘキモノト認めタル者ニハ報告ニ依リ總裁ヨリ有功章ヲ授與ス

第七十七條 有功章ノ制式及其ノ佩用位置ハ附圖第四ノ如シ

第七十八條 第七十六條ニ該當セサル程度ノ者ニシテ左ノ各號ニ該當スル會員ニハ會長ヨリ賞狀ヲ授與ス

一、三年以上同一ノ分會ニ所屬シ此ノ間會員ノ模範ト爲リ特ニ表彰ノ必要ヲ認めタル者

二、役員ニシテ前後ヲ通算シ六年以上在任シ功勞尠カラサル者

三、不時ノ出來事ニ際シ義侠ノ動作ヲ爲セシ等特ニ表彰ノ必要ヲ認めラレタル者

第七十九條 分會又ハ其ノ以上ノ團體ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ會長ヨリ賞狀ヲ授與ス

一、會員ノ團結又ハ團體ノ結合鞏固ニシテ優良ナル成績ヲ擧ケ他ノ模範トナルヘキモノ

二、不時ノ出來事ニ際シ團體的義侠ノ動作ヲ爲セシ等特ニ表彰ノ必要ヲ認めラレタルモノ

第八十條 本會又ハ聯合支部以下各團體ニ金品ヲ寄附セシ者及會員ニ非スシテ本會ノ趣旨ヲ賛同シ功勞顯著ナル者ニハ會長ヨリ謝狀若クハ會杯ヲ贈ルコトアルヘシ

### 第十一章 雜則

第八十一條 本規約ハ本會評議會ニ於テ評議員總員ノ半數以上出席シ其ノ出席議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得且陸軍大臣及海軍大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第八十二條 本會ハ團體トシテ政治ニ干與シ又本會會員ハ本會ノ名目ヲ以テ政治ニ與干スルコトヲ得ス

第八十三條 戰時ニ在リテハ第二章第六章及第七章ノ規定ニ關シ會長ニ於テ必要ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 本部事務規程表彰ニ關スル上申手續、禮式及報告ニ關スル規定並在郷軍人出獄者、刑執行猶豫者起訴猶豫者、保護ニ關スル規程ハ會長ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第八十五條 本規約ノ外聯合支部以下各團體ニ於テ必要ナル規程ハ當該所屬ノ評議會ニ於テ之ヲ定メ聯合支部ノモノハ聯合支部長聯合分會及分會ノモノハ支部長ノ承認ヲ受クルモノトス

第八十六條 聯合支部以下各團體ハ本會ノ事業並改善事項ニ關シ意見アルトキハ順序ヲ經テ會長ニ上申スルコトヲ得

前項ノ上申事項中會長ニ於テ重要ト認めルモノハ第五十七條ノ規定ニ依リ本會評議會ニ提出シ之ヲ討議セシムルモノトス

### 附則

第八十七條 本規約ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本規約中聯合支部ニ關スル規定ハ會長ノ別ニ定ムル期日ヨリ之ヲ施行シ本會及支部ノ役員ニ關シテハ會長ノ別ニ定ムル期日迄仍從前ノ規約ニ依ルモノトス

第八十八條 從前ノ規約ニ依リ役員中任期アルモノハ其ノ就日ノ日ヨリ之ヲ起算シ本規約ニ規定スル任期滿了ノ日迄引續キ勤績スルモノトス 但シ本會又ハ支部ノ役員ニシテ其ノ推薦者若ハ選出方法カ本規約ニ依リ變更セラレタルモノニ係ルモノナルトキハ別ニ會長ニ於テ定ムル期日迄ニ之ヲ改選スルモノトス本規約ニ依リ新ニ設ケラレタル本會又ハ支部ノ役員亦之ニ準ス

## 帝國在郷軍人禮式規定

三三

第一條 本規定ハ帝國在郷軍人會ニ於テ行フヘキ禮式ニ付一般ノ準則ヲ示スモノナリ  
第二條 會員ノ敬禮ヲ分チテ各個ノ敬禮整列團ノ敬禮及會旗ノ敬禮トス  
第三條 各個ノ敬禮左ノ如シ

### 一、最敬禮

姿勢ヲ正シ先ツ受敬禮<sup>敬禮モ之ニ準シ以下同シ</sup>ニ注目シタル後體ノ上部ヲ前約四十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方  
向ニ保チ帽ハ右手ニ持チ其ノ內部ヲ右股ニ接セシム刀ヲ佩フルトキハ柄ヲ後ニテ左手ニテ環部ヲ握ルモノ  
トス

### 二、室内ノ敬禮

脱帽シ體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ受禮者ニ注目ス

### 三、室内ノ敬禮

軍服ヲ着用シタル者ハ帽ヲ脱スルコトナク姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ其指ヲ接シテ伸ハシ食指ト中指トヲ帽ノ  
庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊シクシ受禮者ニ注目ス軍服ヲ着用セサ  
ル者ハ室内ノ敬禮ニ同シ

第四條 會員ノ整列スル場合ニハ軍服ヲ着用シタルモノヲ第一團トシ否テサル者ヲ第二團トシ各團毎ニ階級ノ  
順序ニ整列スルモノトス

第五條 整列團ノ敬禮ハ指揮官ノ號令又ハ記號ノ下ニ各人ハ第三條ノ敬禮ヲ行フ 但シ特ニ規定アルモノハ此  
限ニアラス

第六條 會旗ハ會員室外ニ集合スル場合ニ限リ之ヲ樹ツ

會旗ノ捧持法ハ旗ノ鍔ヲ右股ヲ當テ右肘ヲ後ニシテ其拳ヲ肩ノ高サニシ旗頭ヲ僅ニ前方ニ傾カシム

會旗ノ敬禮法ハ旗手右手ヲ旗竿ニ沿ヒテ眼ノ高サニ上ケ旗鍔ヲ右股ヨリ離スコトナク右手十分前ニ伸ハス  
モノトス此場合ニ於テハ旗手ハ脱帽スルコトナシ

第七條 天皇(皇后)陛下ニ拜謁スルトキハ御座所ノ外ニ於テ敬禮シタル後御座所ニ入りテ後直ニ敬禮ヲ行ヒ更  
ニ進ミテ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ之ヲ終リタルトキハ退步シ御座所ノ出口ニ於テ敬禮  
シ御座所ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行ヒ後退去スヘシ

皇族殿下ニ拜謁スルトキ及御眞影ヲ拜スルトキモ亦前項ニ準ス

第八條 遙拜式ニ於テハ會員ハ皇居ノ方向ニ正面シテ整列シ分會長<sup>聯合分會長ヲ含ム以下同シ</sup>ハ隊列ノ中央前二歩ノ所ニ位置  
シ會旗ハ旗手之ヲ捧持シ其右側ニ位置ス

分會長ノ號令又記號ノ下ニ會旗ハ敬禮ヲ行ヒ會員ハ最敬禮ヲ行フ

第九條 勅諭捧讀式ニ於テハ分會長ハ其ノ指名シタル指揮官ヲシテ會員ヲ整列セシム  
指揮官ハ隊列ノ中央前二歩ノ所ニ位置シ會旗ハ旗手之ヲ捧持シ其ノ右側ニ位置ス

指揮官ノ號令又ハ記號ノ下ニ會旗及會員敬禮ヲ行フ

右終リテ後分會長ハ勅諭ヲ捧讀ス

會員ハ姿勢ヲ正シ軍服ヲ着用セサル者ハ脱帽セル儘拜聽ス捧讀終リタルトキハ會旗及會員ハ指揮官ノ號令又  
ハ記號ノ下ニ再ヒ敬禮ヲ行フ

第十條 天皇皇后兩陛下皇太子及皇太子妃兩殿下幸行啓竝停車場波止場等通御ノ際會員ハ一定ノ地區ニ於テ  
道路ノ一側又ハ兩側ニ整列シ分會長ハ鹵簿ノ來ルトキ翼ニ會旗ハ分會長ト會員トノ中間ニ位置シ奉迎奉送ス  
整列スルニ充分ニ地域ヲ有スルトキハ會員通路ノ一側ニ二列ニ整列ス

鹵簿隊列ヨリ約三步ノ所ニ達シタルトキ會旗及會員ハ分會長ノ號令又ハ記號ノ下ニ敬禮ヲ行ヒ且鹵簿ノ行進  
ニ伴ヒ頭ヲ右(左)ヨリ左(右)ニ轉シ目迎目送シ鹵簿隊列ヲ距ルコト約十五歩ニ及フトキ分會長ノ號令又ハ記  
號ニテ之ヲ止ム

三三

第十一條 皇族殿下御成ニ際シテハ分會長ハ兩三名ノ代表者ヲ指名シ之ヲシテ御旅館ニ伺候セシメ又停車場波止場若ハ御通路ニ參列シテ奉迎奉送セシムルモノトス  
御旅館ニ伺候スル場合ニハ備付ノ帳簿ニ記名シ又ハ名刺ヲ捧呈シ拜謁セララルヲ例トス  
停車場又ハ波止場ヨリ乗下車又ハ乗船上陸アラセラルル場合ニハ概ネ第十條ニ準ノ整列敬禮ス稱ニ停車場等ヲ通過アラセラルル場合ニハ代表者ノミ停車場構内ニ整列シ概ネ第十條ニ準シテ敬禮シ且隨行員ヲ經テ名刺ヲ捧呈スヘシ

第二項及第四項ノ場合ニ於ケル記名又ハ名刺ニハ在郷軍人會(聯合分會)代表者ナル旨ヲ肩書スヘシ

第十二條 會旗ハ軍旗ニ對シテハ敬禮ヲ行フモノトス  
第十三條 戰役死亡者ノ祭典ハ地方ノ狀況ニヨリ其儀式ヲ一定スルコト能ハサルモ拜神ノ場合ニハ神靈ニ面シ整列シ分會長ハ隊列ノ中央前二歩ノ所ニ位置シ會旗ハ旗手之ヲ捧持シ其右側ニ位置シ分會長ノ號令又ハ記號ノ下ニ會旗ハ敬禮ヲ行ヒ會員ハ最敬禮ヲ行フ

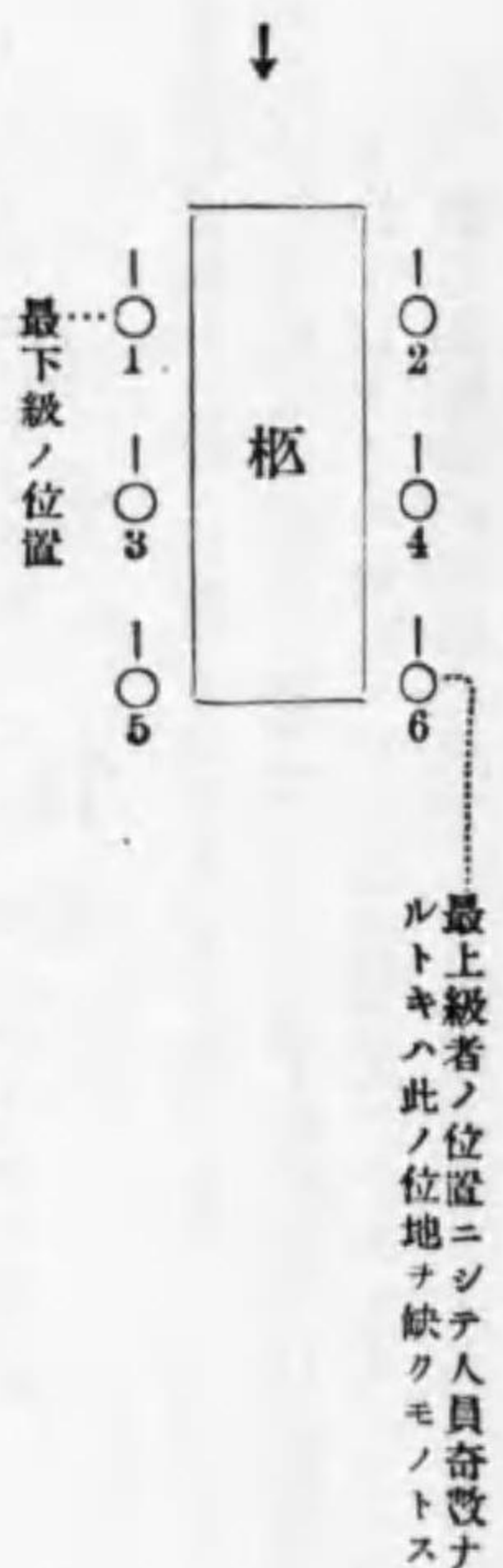
第十四條 會員ヲ爲サスシテ參拜スルトキハ神靈ニ對シ最敬禮ヲ行フ  
兩者共ニ之ヲ行フ能ハサル場合ニハ分會長ハ遺族ノ同意ヲ得テ會葬者差遣及總代會葬又ハ其一ヲ行フ 但シ陸軍ヨリ儀仗兵又ハ總代會葬ヲ差出サルル場合ニハ指揮官ハ豫メ衛戍司令官ノ指圖ヲ受ケ整列位置行進順序會葬祭場内ニ於ケル位置ヲ定ムヘシ

一、會葬者差遣

會葬者ハ分會長ノ命シタシ指揮官ノ下ニ會旗ヲ捧持シ先ツ喪家ニ至リ門前ニ於テ第十條第二項ニ準シテ整列シ柩ノ出ルトキ指揮官ノ號令又ハ記號ニ依リ敬禮ヲ行ヒ次ニ柩ノ衛護ヲ爲シテ葬祭場ニ至ル  
葬祭場ニ到着シタルトキハ會葬者ハ豫メ定メラレタル位地ニ就ク  
二、總代會葬

總代會葬ニ列スル人員左ノ如シ

將校同相當官 死者ト同官等及其ノ以下ノ將校ヲ通シテ若干名  
准士官以下 死者ト同階級及其ノ以下ノ者ヲ通シテ若干名  
總代ハ途上柩ノ兩側ニ隱行ス其ノ順序ハ最下級ノ者ヲ左側先頭トシ逐次左右交互ニ柩ノ兩側ニ隨ヒ最上級ノ者ヲ右側後尾トス  
總代ノ人員寄數ナルトキハ前項ノ順序ニ隨ヒ右側ノ一人ヲ缺クモノトス



三、諸列葬送

分會長ハ會員ヲシテ柩ノ通過スル道路上ニ堵列シ送葬セシム此場合ニ於ケル整列及敬禮ハ本條第一條ニ準ス

第十五條 前條ノ禮式ヲ行フハ分會ノ區域内及分會ノ區域外約三里以内ノ地ニ於テ晝間葬儀ヲ行フトキニ限リ同一ノ人ニ對シテ之ヲ行フハ一回限リトス

禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル中ヨリ其執行ヲ終ル迄若クハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間ニ於テ死亡シタルモノニ對シテハ前條ノ禮式ヲ行フコトナシ

第十六條 送葬ノ際會旗ハ副三寸長四尺ノ黒布ヲ旗竿ノ上端ニ附ス

總代中軍服ヲ着用シタルモノハ副三寸ノ黒布ヲ左腕ニ卷キ刀ヲ帶フルモノハ黒布ヲ以テ刀柄ヲ卷クモノトス  
 第十七條 數個ノ分會(聯合分會)一地ニ集合若ハ整列シ又ハ參列スルトキノ順序ハ其ノ所在行政區畫ニ基キ道  
 府縣廳郡市區町村名ノ順序職員録乙ニ依ル  
 前項ノ場合ニ於ケル集合場所及區域等ハ豫メ衛戍司令官ノ指圖ヲ受ケ又ハ地方官衛ト協議シ之ヲ定ムヘシ  
 第十八條 數個ノ分會(聯合分會)一地ニ集合又ハ整列參拜シ一致ノ行動ヲ要スルトキハ分會長中高級古參者一  
 時全隊ノ指揮ヲ執ルモノトス  
 第十九條 禮式施行ニ際シ特別會名譽會員及支部長ノ位置ハ分會之ヲ定ム  
 第二十條 本規定ニ於テ定メタル分會長ノ業務ハ時宜ニ依リ下級者ヲシテ代理セシムルコトヲ得  
 第二十一條 本規定ヲ實施スル爲メ集合スル會員ハ敬意ヲ失セサル限リ勉メテ質素ナル服裝ヲ爲スヲ本旨トス

### 本會ノ特典

帝國在郷軍人ニ與ヘラレタル特典左ノ如シ

- 一、天皇皇后兩陛下 皇太子及皇太子妃兩殿下 行幸啓並停車場等通御ノ際各地方ノ在郷軍人會員ハ儀仗兵ノ妨ト爲ラサル地區ニ於テ奉迎奉送ヲナスコト
  - 二、觀兵式觀艦式特別大演習等ニ臨御アラセラルトキハ差支ナキ限リ會員ハ式場内又ハ一定ノ地區ニ於テ拜觀スルコト
  - 三、皇族御旅行ノトキハ各地方ニ在郷軍人ハ敬意ヲ表スル爲メ代表者ヲ出スコト
  - 四、毎年時日ト人員ヲ定メ離宮及振天府建安府ヲ拜觀スルコト
  - 五、觀櫻、觀菊等ノ御宴ヲ催サレタルトキハ其後日ニ於テ毎年一定ノ人員ヲ限リ苑内ヲ拜觀スルコト
- 前項ノ特典ニ就キ會長ヨリ各支部ニ對シ通牒
- 一、觀艦式ヲ拜觀スル場合ニハ其都度海軍當局ニ願出テ其指揮ニ從フヘキコト

- 二、皇族御旅行ノトキ敬意ヲ表スル爲メ代表者ヲ出スハ兩三名ニ限リ且ツ御微行ノトキハ之ヲ略スルヲ常トスルコト
- 三、第四項第五項ノ特典ヲ附與セララルハ准士官以上ノ資格ヲ有スル者ニ限ルコト
- 四、第四項第五項ハ出願人員ニ制限アルヲ以テ拜觀時日ニ先チ各支部ハ豫メ其管内ニ於ケル志望人員ヲ調査シ本部ニ申出テ支部ハ支部ノ順序人員ヲ指定通知スルコト

### 停車場ニ於ケル奉迎送ニ就テ

特典第一項ニ依リ 天皇皇后兩陛下 皇太子及皇太子妃兩殿下ヲ初メ奉リ各皇族停車場御通過ニ際シ本會各支部分會ノ奉迎送ニ關シ本會會長ヨリ鐵道大臣ヘ交渉ノ結果各支部分會ヨリ代表者二名宛ヲ乗降場ニ出シ奉迎送ヲ爲シ得ルコトトナリ其他ノ會員ノ鐵道構内ニ於ケル奉迎送ニ就テハ其都度支部長又ハ分會長ト當該驛長ト協議ノ上決定スルコトトナリタリ是ニ就キ會長並ニ常務理事ヨリ地方長官並ニ支部長ヘ左ノ如キ書翰ヲ發セリ

イ、特典第三項ニ依リ 皇族殿下ニ對シ奉迎奉送ヲ爲ス場合ニハ成ルヘク代表者ノミニ止ムルコト

ロ、代表者以外ノ會員ノ構内ニ於ケル奉迎奉送ハ其所其他ノ關係上實施困難ナル場合多キニ注意スルコト

ハ、奉迎奉送ノ爲メ多數ヲ以テ停車場ニ出入シ又ハ整列スル場合ニハ統率者ノ指揮ノ下ニ齊整ノ行動ヲ爲スコト

ニ、總テ地方廳當事者及鐵道省當事者ニ對スル協議交渉ハ支部長分會長ニ於テシ會員各個ニ意見ヲ述フル等ノコトナキコト

ホ、地方廳當事者及鐵道省當事者ハ勿論奉迎奉送者ノ感情ヲ害スル如キ言動ヲ慎ムヘキコト

ヘ、會員中ノ將校同相當官ハ將校同相當官ノ資格ヲ以テ入場スルコトヲ得ルモノナルニ付右代表者トシテ入場スルハ差士ナケレハ准士官下士卒ノ内ヲ充ツルヲ有利トスルコト

## 射撃會執行ノ手續

二八

(本項ハ手續ノ大要ヲ示シタルモノニシテ各支部ニ依リ大同小異アレハ其ノ細部ニ關シテハ支部ニ照會セラレルヲ便トス)

- 一、射撃會實施ノ場合ニハ豫メ最寄軍隊(支部ヲ經テ)ニ申出テ軍隊教育ニ妨ケナキ限リニ於テ射撃場及射撃器具ヲ借用スルコトヲ得
- 二、射撃當日軍隊備付ノ現用歩(騎)兵銃ヲ借用スルコトヲ得
- 三、銃器ニ破損等ヲ生シタル時ハ支部長又ハ分會長ヨリ修理若クハ新調ヲ所在兵器支廠ヲ經テ砲兵工廠ニ願出テ其指示ニ從ヒ費用ヲ納入スルモノトス 但シ銃器ノ發送受領ハ總テ當該軍隊ニ於テシ又願書ハ便宜上當該軍隊ヲ經由スルコトヲ得
- 四、銃器ノ使用ニ關シ要スレハ當該軍隊ヨリ將校又ハ下士ヲ派遣シ指示セシムルコトアルヘシ此場合ニハ其指示ニ從フヘキ者トス
- 五、射撃用彈藥ハ一名若干發拂下ヲ受ルコトヲ得之カ爲ニハ支部又ハ分會ヨリ彈藥貸與方ヲ最寄軍隊ニ願出テ一時軍隊保管ノモノヲ使用シ射撃終了後實際發射彈數ヲ精算シ支部長又ハ分會長ヨリ其員數ニ對スル拂下願ヲ所在地兵器支廠ヲ經テ砲兵工廠ニ提出ス然ル時ハ該支廠ヨリ直接軍隊ニ戻入スルモノトス 但シ拂下願ハ便宜上當該軍隊ヲ經由スルコトヲ得
- 六、危險ヲ防ク爲實包ハ現場ニ於テ使用スルモノノ外拂下ヲ受ルヲ得ス之カ爲彈藥ノ出納支給ハ當該軍隊係官ニ於テ之ニ任スル者トス
- 七、射撃場ノ取締及危險豫防ニ關シテハ當該軍隊ニ就キ必要ノ指示ヲ受ケ在郷軍人會自ラ之ヲ實施スルモノトス 但シ軍隊ニ於テモ成ルヘク相當ノ補助ヲ與ヘラルル筈ナリ
- 八、射撃ノ實施ニ就テハ爲シ得ル限リ現行操典及教範ノ規定ヲ準用スルモノトス

九、分會等ニ射場ヲ有スルモノハ所轄警察署ノ許可ヲ受ケ概ネ前述ノ方法ニ準シ實施スルコトヲ得 此場合ニアリテハ彈藥ハ所轄警察署ノ證明ヲ添ヘ最寄軍隊ヲ經由シテ兵器支廠ニ願出スルモノトス

## 在郷軍人學科(各兵科各部)問答

問 豫備役下士服役期間の終期は如何

答 志願によらずして兵卒より下士に任ぜられたる者に在りては徵集年の十二月より、其他の者に在りては任官年の十二月より起算し七年四ヶ月に滿つる日とす 但し一年志願兵にして下士任官のものは入營の日より七年四ヶ月に滿つる日とす

問 後備役下士の服役期間の終期は如何

答 志願に依らずして兵卒より下士に任ぜられたる者に在りては徵集年の十二月より、其他の者に在りては任官の十二月より起算し十七年四ヶ月に滿つる日とす

問 豫備役、後備役、下士は如何なる場合に於て償勤するを要するや

答 犯罪の爲又は相當の事由なくして召集に應ぜず若くは其期に後れ又は召集中職役を離れたるときは其の年は之を服役期間に算入せず

問 在郷軍人の願又は届を出すとき特に心得置くべきことは如何

答 願又は届書の趣旨事柄を能く分明する様詳しく記載し又必ず徵集年、兵種、兵科、官等級、氏名を記し可成動等級をも記し本籍地聯隊區司令官宛のものは本籍地市、區、町村長を寄留地聯隊區司令官宛のものは寄留地市、區、町村長を經由して差出すものとす

二九

問 後備役下士及適任證を所持する後備役上等兵は其服役を繼續せんとするときの願出手續如何

答 年數を定め後備役満期一月前に本籍地所管聯隊區司令官に願出づるものとす 但し其繼續の最終期間は満四十五歳となる年の三月三十一日迄とす

問 十四日以上本籍地外に旅行、滞在、寄留又は外國に旅行若くは在留せんとする時の届出手續如何

答 召集又は軍衙の命あるとき之を通報すべき通報人を定め(通報人は成年者に限る)出發前連署を以て其行先を記し本籍地聯隊區司令官に届出づるものとす(將校に在りては寄留地聯隊區司令官にも)

問 外國に旅行又は在留の届出をなしたる者其届出の日より十四日以内に内地を離れざるときは如何にするや

答 十四日以内に本籍地聯隊區司令官に届出づるものとす

問 寄留地を變更し又は退去し或は旅行より復歸したるときは如何なる手續をなすや

答 十四日以内に寄留地變更届、寄留地復歸届、又は旅行復歸届を本籍地聯隊區司令官に差出すものとす

問 外國より歸朝したる者内地歸着の日より十四日以内に本籍地に復歸せざるときは届出方法

答 十四日以内に本籍地聯隊區司令官に届出づるものとす

問 召集通報人を變更するを要するときは如何なる手續をなすや

答 通報人死亡其他の事故に依り變更を要するときは更に通報人を定め十四日以内に連署を以て届出づるものとす

問 寄留地に於て勤務演習に應じ又は簡閱點呼を受くる許可を得たるもの旅行又は滞在の後寄留地に復歸したるものは如何なる手續をなすや

答 十四日以内に寄留地市、區、町村長を経て寄留地聯隊區司令官に届出づるものとす

問 本籍地外の聯隊區に寄留する者にして其地附近の軍隊に於て勤務演習を爲さんとする者は如何なる手續をなすや

答 其年の前年の十一月三十日迄に寄留地聯隊區司令官に願出許可を受くるものとす

問 寄留地に於て簡閱點呼を受けんとする者に如何なる手續をなすや

答 毎年三月三十一日迄に寄留地聯隊區司令官に願出で許可を受くるものとす

問 寄留地勤務演習及寄留地點呼參會の許可を取消さんとするときは如何なる手續をなすや

答 本籍地に於ける勤務演習又は點呼開始前に本籍地聯隊區司令官に願出づるものとす

問 已むを得ざる事故の爲め勤務演習召集の猶豫及簡閱點呼の免除を願出でむとすときの手續如何

答 其實を證明し市、區、町、村長の奥書證印を受け召集にありては令狀受領前本籍地聯隊區司令官に願出づるものとす 但し歸休中の者は願出づることを得ず

問 同一戸籍内に在る者の疾病危篤、又は死亡、本人居室の火災流失又は倒壊其他之に準ずべき天災の爲演習召集到着期日の延期を願出でんとするときの手續如何

答 令狀受領後召集期日迄の間に本籍地聯隊區司令官に願出づるものとす 但し疾病危篤の場合は醫師の診

斷書其他に係る時は市町村長又は警察官吏の證明書を添へ又寄留地應召を許可せられたる者にありては寄留地市、區、町村長を経て寄留地聯隊區司令官に願出づるものとす

問 在郷軍人他出寄留、旅行する際其家族に注意すべきことありや

答 其行先又は寄留、旅行地等を知らしめ置き何時にても召集又は軍衙の命あるとき直に通報し得る如く注意す

問 傷痍、疾病に罹り永久兵役に堪へざるときは如何なる手續をなすや

答 在職陸軍々醫の診斷書若くは醫師の病況書を添へ本籍地聯隊區司令官に届出づるものとす 但し病況書には必ず病名原因、經過、現症、療法及豫後を詳記するものとす

問 豫備役、後備役下士及下士適任證書を有する上等兵現役に服せんとするときは出願期限並に其手續如何

答 願書に原所屬部隊、現任命年月日、及現役満期の年月日現役に服したる年限、現役満期後の職業並に服役せんとする部隊等を記し現役満期後二年以内(歸休を命ぜられ豫備に入りたる者にありては一年以内)に

本籍地市、區、町村長及本籍地聯隊區司令官を経て服役せんとする部隊長に差出すものとする  
如何なる公職に在る者は勤務演習召集又は簡閱點呼を免ぜらるゝや

問 市、區、町、村長、同助役、収入役其他之に準ずべき者又は帝國議會、府縣會、郡、市、町、村會其他之に準ずべき者の議員となり開會中に在る者、及文官に任ぜられ餘人を以て代ふべからざる職に在る者は勤務演習簡閱點呼の爲め召集せらるゝことなし

問 市、區、町、村長、助役、収入役又は議會の議員となり又は罷めたるときは如何にするや

答 十四日以内に市町村長を経て聯隊區司令官に就職届又は罷職届を差出すものとする  
軍隊手牒を紛失したるときは如何なる手續をなすや

問 紛失又は亡失したる事由を詳記し市、區、町、村長の奥書證印を受け聯隊區司令官は「軍隊手牒再下附願」を差出し再下附を受くるものとする

不可抗力に依り紛失又は亡失したるときは自償金を要せざるも其他の場合には自償金(郵便代用にて差支なし) 貳拾參錢(外に送料貳)を添付するものとする

問 轉籍したる者は如何なる手續を要するや

答 轉籍したるときは十四日以内に轉籍地の市、區、町、村長を経て轉籍地聯隊區司令官に届出づるものとする

問 入夫婚姻、養子縁組及離婚、離縁、入籍、復籍、分家、廢家、絶家再興の場合如何なる手續をなすや

答 轉籍届の名稱を附し十四日以内に轉籍地の市、區、町、村長を経て轉籍地の聯隊區司令官に届出づるものとする

問 婚姻をなしたるときは如何なる手續をなすや

答 一ヶ月以内に本籍地市、區、町、村長を経て本籍地聯隊區司令官に届出づべきものとする

問 寄留、旅行、通報人其他の異動等の届出を怠りたるとき及び自己の居所を通報人に知らしめざる爲め召集

又は命令を通報し得ざるに至らしめたるときは如何に處分せらるゝや

答 十日以上の拘留又は五圓以上の科料に處せらる

問 寄留、旅行、轉籍、改氏名、死亡、官公吏就職罷職等の届出を怠りたる時は如何に處分せらるゝや

答 拘留又は壹圓以上の科料に處せらる

問 妻の死亡、新に恩給を受け若くは既得の恩給に異動ありたるとき位階、爵、學位の拜受並に返上、任官、免官、官公吏の就職職の場合には如何なる手續をなすや

答 一ヶ月以内に本籍地聯隊區司令官に届出づるものとする

問 氏名を改め又は船員となり若くは船員を罷めたるときの届出手續如何

答 十四日以内に本籍地市、區、町、村長を経て本籍地聯隊區司令官に差出すものとする

問 在郷軍人死亡せしときの届出方如何

答 病名變死及死亡の地を記したる届書を戸主(本人戸主なれば家族中家事擔當をなすもの)より十四日以内に本籍地市、區、町、村長を経て本籍地聯隊區司令官に届出づるものとする

問 在郷軍人所在不明となりたるとき又は所在不明せしときの届出方如何

答 十四日以内に戸主(本人戸主なれば家族中家事を擔當するもの)より警察官若くは憲兵の證明書を添へ本籍地市、區、町、村長を経て本籍地聯隊區司令官に届出づるものとする

問 在郷軍人所在不明中轉籍したる時の届出方如何

答 十四日以内に戸主(本人戸主なれば家族中家事を擔當するもの)より轉籍地市區町村長を経て轉籍地の聯隊區司令官に届出づるものとする

問 召集に幾種類あるや

答 充員召集、臨時召集、國民兵召集、演習召集、教育召集補缺召集及簡閱點呼とす

問 充員召集とは如何なる召集を云ふや

答 動員に當り諸部隊の要員を充足する爲め在郷軍人を召集するを云ふ



問 臨時召集とは如何なる召集を云ふや

答 戦時又は事變に際し必要ある時臨時に在郷軍人を召集するを云ふ

問 演習召集とは如何なる召集を云ふや

答 勤務演習の爲め在郷軍人を召集するを云ふ

問 簡閲點呼は何の爲めに如何なる年次に執行せらるゝや

答 在郷軍人を集合して軍人精神及軍紀風紀の弛張軍事教育の保持、在郷軍人心得知得の良否を點檢査閲し、在郷軍人の状態を良好に維持せしめんが爲め隔年毎に十二ヶ年即ち六回 但し未教育補充兵は徵集年の翌年より引續き四ヶ年執行せらる

問 充員召集、臨時召集、國民兵召集の令狀と演習召集、召教育集、補缺召集及簡閲點呼の令狀とは一見して識別することを得るや

答 充員召集、臨時召集、國民兵召集の令狀は淡紅色にして其他の令狀は白色なり

問 在郷軍人充員召集又は其召集の通報を受取りたるときは如何にするや

答 令狀を携へ指定の日時に到着地に到着し召集事務所に出づべし 但旅行中通報人より通報を受けたるものにして令狀の交付を受くる爲め到着を遅延する虞ある場合は令狀を携ふることなく直に出發す

問 令狀を受領したるときは注意を述べよ

答 令狀裏面に記載しある心得事項を熟讀し尙到着日時、到着地、召集部隊を記憶す

問 充員召集の通報を受けたる應召員にして指定の日時に到着すること能はざる者は如何にするや

答 其地所在の憲兵又は警察官吏に就き其通報を受けたる日時及出發日時の證明書を受け到着の上召集事務所に出づるものとす

問 充員召集令狀又は通報受領の際傷痍疾病の爲め出發すること能はざるものは如何にするや

答 令狀又は通報受領後二十四時間以内に聯隊區司令官に宛たる届書に醫師の診斷證書及令狀を添へ之を本籍地、區、町、村長に差出す

籍地市、區、町、村長に差出す

問 充員召集令狀を受けたる際傳染病豫防の爲め交通遮斷、離隔又は停留を命ぜられたる者は如何にするや

答 令狀又は通報受領後二十四時間以内に聯隊區司令官に宛たる届書に憲兵又は警察官吏の證明書及令狀を添へ之を本籍地の市、區、町、村長に差出すものとす

問 充員召集に應ずべき者令狀受領後出發迄の間に傷痍疾病の爲め若くは交通遮斷、離隔又は停留等を命ぜられたる爲め應召すること能はざるに至りたるときは如何にするや

答 傷痍疾病に係はる者は醫師の診斷書、交通遮斷、離隔又は停留を命ぜられたる者は憲兵又は警察官吏の證明書と共に令狀を添へ本籍地市、區、町、村長に差出すものとす

問 傷痍疾病又は交通遮斷、離隔、停留を命ぜられたる爲め應召し能はざる者其事故止みたるときは如何にするや

答 事故止みの旨を直に本籍地市、區、町、村長に届出づるものとす

問 充員召集の爲め應召途中にある者傷痍疾病に罹り到着を遅延するの虞あるときは如何にするや

答 直に醫師の診斷書を添へ召集部隊長に届出で出發することを得るに至りたるときは速に到着の上召集事務所に出づるものとす

問 充員召集の爲め應召途中にある者傷痍疾病の外止むを得ざる事故に依り到着を遅延する虞あるときは如何にするや

答 其他の郡長、市、區、町、村長、憲兵、警察官吏、船長、又は驛長の證明書を受け到着の上召集事務所に出づるものとす

問 充員召集に依る應召員非常事變に依り交通遮斷絶したる爲め到着地に到着し能はざる場合は如何にするや

答 其旨を最寄諸部團隊長（諸部團長なき地にありては郡市、區、町、村長、憲兵又は警察官吏）に届出づるものとす

問 充員召集に依る應召員召集を解除せられ歸郷を命ぜられたるときは如何にするや

答 解除せられたる日より十四日以内に本籍地に歸郷せざるときは本籍地市、町、村に於て召集其他軍衛の命あるとき之を通報すべき者(成年者に限る)を定め連署を以て同期日以内に本籍地町、村長及郡長又は市區長を経て本籍地聯隊區司令官に届出づるものとす

問 應召員の旅費は何れよりも支給を受くや

答 召集部隊に到着の上其部隊より支給を受く 但旅費を有せざる者は市、區、町、村長に申出で一時繰替を受くることを得

陸軍の法規は部隊に到着の上支給するを本旨とするが故に各自は平素より其考へを以て應召の際の旅費に充分なる金額を貯蓄し置くの心掛けを要とす

問 應召員は令狀の外如何なる必要品を携行するを要するや

答 軍隊手牒、勳章及記章、自己の印、旅費、風呂敷又は油紙(梱包用麻繩及木札共)乗車證明書(鐵道に依るものは當該市、區、町村役場より交付す)其他自己の日用品若干を携行するも妨げなし

問 故なく召集の期日に遅れたるときは如何に處分せらるるや

答 平時は十日、戦時若くは事變にありては五日を過ぐるものは陸軍刑法に依つて處分せらるる而して平時に在りては一ケ年以下戦時若くは事變に在りては二ケ年以下の禁錮に處せらる

問 簡閱點呼に故なく散會せざるときは如何

答 三日以上の拘留又は拾圓以上の科料に處せらる

問 豫後役各兵科下士の演習召集年次及日數如何

答 其の役に入りたる年の翌年より起算して豫備は第三年目後備は第四年目に各三週間とす 但し一年志願兵出身の各兵科下士は豫備は第二、第四年目に後備は第四年目に各三週間とす

問 豫後備役各部下士の演習召集年次及其日數如何

答 其の役に編入されたる翌年を第一年とし 豫備は第四年目に三週間後備は第二年目に二週間 但し一年志願兵出身者は第二、第四年目に後備第四年目に各三週間宛とす

問 豫後備役各兵科兵卒の演習召集年次及日數如何

答 其の役に編入されたる翌年を第一年として起算し豫後備共第三年目に三週間宛とす 但し各部下士適任證書を有する者の召集年次及其日數は各部下士に同じ、又衛生部兵卒の後備役に限り二週間とす

問 豫後備役補助看護卒の演習召集年次及其日數如何

答 豫後備役の第四年目にのみ三週間とす

問 教育を受けたる補充兵の演習召集年次及其日數如何

答 徵集年の翌年を第一年とし起算して第四年目に第三週間とす

問 勳章、記章又は賜金を拜受したるときは如何

答 一ヶ月以内に直接聯隊區司令官に「勳章」「記章」「賜金」拜受届出を差出す

問 賀表奉呈の手續は如何

答 位階勳等を有する者は官廳に奉職すると否とに拘はらず、東京以外の地方に在りて三大節(新年、紀元、天長節)に參賀し得ざる者は其當日「賀表」を直接宮内省式部職宛に差出す

問 勳章及從軍記章を佩用し得べき服装は如何

答 大禮服、通常禮服(軍服、燕尾服)を着用するときに佩用す勳六等功六級以下は紋付羽織、袴着用の際は佩用する事を得

問 有勳者異動届出は如何

答 式記各項の異動を生じたるときは十四日以内に直接内閣賞勳局に「有勳者異動届」を差出す

一、官等の任轉免、位階の叙奪其の他黜陟  
一、賞典及び責罰

- 一、從軍經歷
- 一、公私用外國旅行又は歸朝
- 一、本貫族籍轉換
- 一、改氏名
- 一、死亡

死亡犯罪の場合に在りては戸主又は家族中家事擔當者より届出づ

問 從軍記章所持者の異動届出は如何

答 改氏名、死亡、犯罪等の事故生じたるときは直接内閣賞勳局へ「從軍記章所持者異動届」を差出す

問 犯罪、死亡の場合に在りては戸主又は家族中、家事擔當者より届出づ

問 召集又は點呼の際、鐵道又は船舶に乘車乗船するときは如何

答 市區町村長より交付せられたる鐵道乘車證明書を鐵道係員に渡し且つ令狀に係印の認印を受け賃金の半額を以て乘車す(簡便點呼の際は往復券を請求するを便す往路片路のみ請求し)若し鐵道乘車證明書を失ひたる時は直に其の券面、乘車區間、番號等を發行市區町村長及最寄停車場に届出づ、不明となりたる時は發行市區町村長に返付す

問 日本郵船會社、大阪商船會社所有の汽船に在りては賃金の二割引にて乘船することを得

問 召集又は點呼令狀を亡失したるときは如何

答 市區町村長の奥書證印を受け聯隊區司令官に「令狀再下付願」を差出し再下付を受く

應召又は參會期日に切迫し餘日なきときは再下付を出願せず召集部隊又は點呼場に到着の上其旨届出づ

### 在郷軍人諸願届書式

現役下士志願に付御願  
 原 隊 何兵第何聯(大)隊  
 現官任命(現等級ニ進級) 何年何月何日  
 退 營 年 月 日 何年何月何日  
 現役ニ服シタル年數 何年何ヶ月  
 現役滿期後ノ職業 何々  
 服役希望ノ部隊 何兵第何聯(大)隊  
 本 籍 地 何々  
 現 住 地 何々

徵集年役種兵科部官等級 氏 名

右現役下士希望ニ付御採用被下度此段及御願候也  
 昭和 年 月 日

右 氏 名印

何兵第何聯(大)隊長殿

一、歸休兵、第一補充兵、及び豫備役後備役の下士兵卒にして内地より帝國外の地(關東洲及滿洲を除く)に旅行又は在留せんとする者は出發前左の様式に依り書面を以て本籍地の市區町村長を経て本籍地の聯隊區司令官に届出なければならぬ

- 外國旅行(在留)届
- 一、本 籍 地 府縣市區町村字番地
- 二、現 住 地 何々
- 三、徵集年、役種、等級、氏 名
- 四、行 先 何地

- 五、日 的 何々(官廳ノ命ニ付ルモノハ其ノ官廳名ヲ記スヘシ)
- 六、出發豫定期日及發航地 何年何月何日何地
- 七、歸 朝 豫 定 期 何年何月何日(不明)
- 右ノ通帝國外ノ地ニ旅行(在留)致スヘク候ニ付及届出候也
- 昭和 年 月 日 本 人 氏 名印

何聯隊區司令官殿

在郷軍人所在不明届

一本 籍 地 府縣郡市町村字番地(分明届)

二、現 住 地 何々

三、役種、兵種、徵集年、等級 氏 名

四、所在不明(分明)トナ 何年何月何日

五、所在不明ノ者ニ在リ 出漁遭難(何々)

テハ其ノ事實ノ要旨

右所在不明(分明)ニ付及届出候也

本籍地 府縣郡市區町村字番地

現住地 何

戸 主 氏

名印

昭和 年 月 日

何市區町村長殿

朝鮮、臺灣、關東洲又は滿洲に在留する在郷軍人に付ては右の届出は朝鮮に在りては警察署長、間島に在りては領事館、臺灣に在りては郡守、市尹、市廳長、關東州に在りては民政署長同支署長、滿洲に在りては警察署長、領事館を経て師團長又は軍司令官に差出すのである

船舶乗組(船舶乗組解雇)届

船舶の 名 何々丸  
 乗組(解雇)ノ時 水夫長 舵夫等)  
 本 籍 地 何々

徵集年役種官等級 氏 名

右船舶ニ乗組(船舶乗組解雇セラレ)候ニ付及御届候也

右 氏 名印

何聯隊區司令官殿

召集せられた者が召集に因つて家族が生活する事が出来ない場合には市長又は町村長及警察署長を経て召集の免除を召集事務長に願はるゝ事が出来る、併し乍ら此の願ひをする場合は一旦應召した後でなければならぬので軍事救護法などによりて救済の出来ない場合に限るのであるから眞に急迫の場合でなければならぬのである、此の願ひの書式は左の通りである

家事故障ノ爲召集免除願

召 集 部 隊 何兵第何聯隊(大)隊

本 籍 地 府縣郡市區町村字番地

徵集年役種官等級 氏 名

別紙の事故(別紙ニ何召集ニ應シ家族自活シ能ハサル事實ヲ詳記スル事)有之候ニ付何召集免除許可相成度市町村長(憲兵警察官吏)ノ證明書相添へ及願出候也

昭和 年 月 日

右 氏 名印

何縣第何聯(大)隊長殿

應召員傷痍疾病の爲め指定の日時に到着地に到ることの出来ぬ者は聯隊區司令官に宛てたる左記様式の届書に醫師の診断書を添へて直に本籍地市町村長出發後なるときは同に召集事務所へもに差出すべきである

(其一)

何々ノ爲到着遅延届

到着日 時 何年何月何日午前(後)何時

到着地 何々

召集部隊 何兵第何聯(大)隊

本籍地 府縣都市區町村字番地

徵集年役種官等級 氏 名

右何々ノ爲到着期日ニ到着地ニ到リ難ク候ニ付醫師ノ診断書(何々ノ證明書)相添へ及届出候也

昭和 年 月 日

右 氏 名印

何聯隊區司令官殿

(其二)

到着遅延届

到着日 時 何年何月何日午前(後)何時

到着地 何々

召集部隊 何兵第何聯(大)隊

本籍地 府縣都市區町村字番地

徵集年役種官等級 氏 名

右應召途中何處ニテ疾病ニ罹リ(何々ニ依リ)召集期日ニ到着地ニ到リ難ク候ニ付醫師ノ診断書(何々ノ證明書)相添へ及届出候也

昭和 年 月 日

右 氏 名印

何部隊長殿

應召員傳染病豫防の爲交通遮斷隔離又は停留を命ぜられ其の他止むを得ざる事故に因り指定の日時に到ることの出来ぬ者は聯隊區司令官に宛てたる届書に直に本籍地の市町村長出發後なるときは同に召集事務所へもに差出し且つ其の他市町村長、憲兵、警察官吏、船長又は驛長の證明書を受け到着の上召集事務所に出すべきである、其の届書の様式は左の通りである

到着遅延届

到着日 時 何年何月何日午前(後)何時

到着地 何々

召集部隊 何兵第何聯(大)隊

本籍地 府縣都市區町村字番地

徵集年役種官等級 氏 名

右應召途中何處ニテ傳染病豫防ノ爲何日間交通遮斷ヲ命セラレ(何々ノ事故ニ因リ)召集期日ニ到着地ニ到リ難ク候ニ付何々ノ證明書相添へ及届出候也

昭和 年 月 日

右 氏 名印

何部隊長殿

犯罪所在不明等の爲め指定の日時に到着地に到ることの出来ぬ者あるときは令状を受領したる者より聯隊區司令官に宛てたる左記様式の届書に憲兵又は警察官吏の證明書及令状を添へて直に本籍地の市町村長に差出すべきである

犯罪(所在不明)ノ爲不應召届

到着日 時 何年何月何日午前(後)何時

到着地 何々  
召集部隊 何兵第何聯(大)隊  
本籍地 府縣郡市町村字番地

徵集年役種官等級 氏

名

右犯罪(所在不明)ノ爲到着地ニ到リ難ク候ニ付憲兵(警察官吏)ノ證明書相添へ及届出候也

右召集通報人 氏

名印

(戸主又ハ家事擔當者)

何聯隊區司令官殿

諸種の事故に依り到着地に到ることの出来ぬ旨を届出たる者其の事故の止みたるときは直に左記様式に依つて本籍地市町村長に届出で直に戸召し到着の上召集事務所届出づべきである、但し召集事務所閉鎖後なるときは又は集合所に集合すべきときは召集部隊に到着すべきである

到着遅延事故止届

到着日時 何年何月何日午前(後)何時

到着地 何々

召集部隊 何兵第何聯(大)隊

本籍地 府縣郡市區町番字番地

徵集年役種官等級 氏

名

右召集ノ命令ヲ受ケ何々ノ事故ニ依リ未タ應召致サス候處今般事故止ミ候ニ付届出候也

昭和 年 月 日

右 氏

名印

何市(町)(村)長殿

演習召集到着期日延期願

到着日時 何年何月何日午前(後)何時(下士以上ニ在リ)

到着地 何々

召集部隊 何兵第何聯(大)隊

延期ノ事由 父某死亡(母某危篤等)

本籍地 府縣郡市町村字番地

徵集年役種官等級 氏

名

右演習召集ヲ命セラレ候處何々ニ依リ到着期日ヲ延期相成リ度別紙醫師ノ診断書(市町村長)(警察官吏)(何々ノ證明書)相添へ此段及御願候也

昭和 年 月 日

右 氏

名印

何聯隊區司令官殿

本籍地以外の聯隊區に寄留する者は願に依り寄留地師管内の軍隊にて演習召集を受けることが出来るのである前項の願出を爲す者は左記様式の願書を毎年十一月三十日迄に寄留地市區町村長を経て寄留地所管の聯隊區司令官に差出し許可を受くべきである

寄留地演習召集應召願

寄留地 府縣郡市町村字番地

寄留年月日 何年何月何日

本籍地 何々

徵集年(下士以上ニ在リ)役種官等級 氏

名

右何年度寄留地ニ於テ演習召集ニ應召致度候ニ付許可相成度及願出候也

昭和 年 月 日

右 氏

名印

何聯隊區司令官殿

前項の願出期日後に寄留し寄留地に於て勤務演習を爲さむとするものは情を具し市町村長より寄留に關する證明を受け寄留の日より十四日以内に願出することが出来る、其の願出手續は前項と同様である、但し此の願は許可せられざるがある

前二項の許可を得たる者本籍地に復歸し又は寄留換を爲したる爲め其の許可の取消を爲さむとするものは寄留地所管の聯隊區司令官に左の書式に依つて願出ることが出来る、此の場合には本籍地の勤務演習に應召せしめ得る者に限り許可せらるゝことがある

寄留地演習召集應召許可取消願

寄留地 府縣郡市町村字番地  
本籍地 何々

徵集年(下士以上ニ在リ) 役種官等級 氏

取消ノ事由 寄留換(本籍地復歸)

右寄留地ニ於ケル何年度演習召集應召許可取消相成度及願出候也  
昭和 年 月 日

何聯隊區司令官殿

寄留地に於て勤務演習を爲すことの許可を得たる者は本籍地に復歸し又は寄留換を爲すも許可の取消を許されたる場合を除く外其の許可を受けたる地に於て演習召集を受くべきである  
避くべからざる事故の爲演習召集の延期を願はむとする者は其の事實を證明し本籍地本籍地市區町村長を経て本籍地所管の聯隊區司令官に願出で許可を受くべきである  
但し其の願書には本籍地市區町村長又は關係ある官公署長の證明書を添付する必要がある、其の様式は左の通である

演習召集延期願

本籍地 府縣郡市區町村字番地

徵集年(下士以上ニ在リ) 役種官等級 氏

右何年度演習召集ニ召集セラルヘキ處(演習召集ヲ命セラレ候處)別紙(左記)理由ニ依リ何年 月 日ヨリ  
昭和 年 月 日ニ至ル間召集ノ延期許可相成度別紙市町村長(何々長)ノ證明書相添ヘ此段及願出候也

何聯隊區司令官殿

注意

- 一、召集令狀受領後ナルトキハ召集部隊(必要アルトキハ到着地ヲモ)到着地ヲ明示スヘシ
- 二、寄留地應召ヲ許可セラレタル者ナルトキハ其ノ旨ヲ明示シ且本籍地市區町村長ニ代ヘ寄留地市區町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

寄留地に於て簡閱點呼を受けむとする者は寄留地に於て勤務演習を受くる場合に準じ毎年三月三十一日迄に寄留地所管の聯隊區司令官に願出許可を受くべきである、其の願書の様式は左の通りである

寄留地簡閱點呼參會願

寄留地 府縣郡市町村字番地  
本籍地 何々

徵集年(下士ニ在リ) 役種兵種官等級 氏

右本年寄留地ニ於テ簡閱點呼ニ參會致度候間御許可相成度及願出候也

昭和 年 月 日

何聯隊區司令官殿

前項の願出期日後に於て寄留地簡閱點呼を受けんとするものは情を具して本籍地及寄留地の點呼執行期日の各二十日本籍縣區内にて受けんとするものは七日前迄に願出づることが出来る、但し此願は許可せられざることがある事故の爲參會することの出来ぬ者の届出に關しては演習召集の場合の規定に準ずるのである但し其の届書は參會日時迄に市區町村長に差出すのである  
直系尊屬妻子の死亡、重態又は同一戸籍内の者の死亡及天災等に依る不參の願出は演習召集到着期日延期の願出と同じである、其の様式は左の通りである

簡閱點呼不參願

參會 日 時 何年何月何日午前何時  
點呼 場 何々  
不參の事由 父某死亡(母某危篤等)  
本籍地 府縣都市區町村字番地

役種兵種官等級 氏 名

右簡閱點呼ヲ命セラレ候處何々ニ依リ不參許可相成度別紙醫師ノ診斷書(何々ノ證明書)相添へ此段及願出候也  
昭和 年 月 日 右 氏 名印

何聯隊區司令官殿

右事故に依り參會期日の變更を願出づる者は情を具し且參會期日及希望する變更期日を明記し市町村長を経て聯隊區司令官に願出るのである、其の様式は左の通りである

簡閱點呼參會期日變更願

本籍地(寄留地) 府縣都市區町村字番地  
參期ヲ命セラレタル 點呼場何々  
月 日

希望スル參會 點呼場何々  
月 日

役種兵種官等級 氏 名

右簡閱點呼參會ヲ命セラレ候處別紙(左記)理由ニ依リ左記希望ノ如ク參會期日ノ變更許可相成度此段及願出候也  
昭和 年 月 日 右 氏 名印

何聯隊區司令官殿

注意

一、希望スル參會日時及點呼場ニ數種アル時ハ之ヲ列記スルモ妨ケナシ  
在郷軍人補重輪卒以外の未だ教育補充兵を除くにして結婚したる時又は離婚したる時は一箇月以内に戸籍抄本を添へ本籍地所管の聯隊區司令官に届出べきである、其の書式は左の通りである

婚姻(離婚)届

婚姻(離婚)年月日 何年何月何日  
妻ノ名 何某  
本籍地 何々  
徵集年役種官等級 氏 名  
名印

右婚姻(離婚)致候間戸籍抄本相添へ此段及御届候也

何聯隊區司令部御中

昭和 年 月 日 右 氏 名印  
歸休兵、未入營現役兵及豫備役、後備役、下士兵卒及補充兵が婚姻を爲すには許可を受くることを要せぬのである



在郷軍人にして兵籍記載事項に異動を生じたるときは左記様式に依つて一箇月以内に本人本人届出を爲しあつたはさるより本籍地市區町村長を経て聯隊區司令官に届出べきである第四章四、五、七に依り届出たる事項は届出を要せざる家族中妻の死亡は之を届出べきものである

兵籍異動届

異動ノ時 何年何月何日

異動事項 家督相續ニ依リ戸主トナル(其他何々)

本籍地 何々

徵集年役種官等級 氏 名

名

右及御届候也

徵集年役種官等級 氏 名

右 氏 名

名印

昭和 年 月 日

何聯隊區司令部御中

軍隊手牒又は補充兵證書は常に大切に保持し萬一紛失又は盗難、焼失、流失したときは本籍地市區町村長を経て本籍地所管の聯隊區司令官に其再下附を左記様式に依りて願出べきである、軍隊手牒再下附の場合は不可抗力に依るもの、外代金を納附すべきである

軍隊手牒(補充兵證書)再下附願

事由 何々

右軍隊手牒(補充兵證書)再下附相成度及御願候也

徵集年役種官等級 氏 名

名印

昭和 年 月 日

何聯隊區司令官殿

在郷軍人式日の心得

一、三大節(新年、紀元節、天長節)には軍人に賜はりたる勅諭を拜讀し特に有勳者は左記雛形に依り賀表を差出すべし

(宮内省式部職宛とし書留郵便を以て差出すこと)

折目	折目	折目
年月日 官位勳氏名	謹奉賀新年	

折目	折目	折目
年月日 官位勳氏名	謹奉賀(天長節) 紀元節	

料紙大廣奉書ヲ用フヘシ 但シ美濃薄葉ヲ代用スルモ妨ゲナシ (横二ツ折)

二、敬禮、服裝、訪問、名刺交換會及人の迎接、談話、宴會等には軍服を着用の有無に係はらず萬事に注意を拂ひ軍人の品位を保ち公徳を確守し以て益々名譽を發揚すべし

三、「君カ代」の奏樂を聞く時は敬意を表すべし



通算スルモノトス  
 四、豫備役後備役准士官下士兵卒ニシテ士官勤務適任證書又ハ下士適任證書ヲ有スル者ノ演習召集ハ現官等級相當ノ召集回数年次及日數ニ依ル  
 五、本表ノ外必要ナル演習等ノ爲召集シ又本表日數ノ範圍内ニ於テ各年次ノ召集日數ヲ彼此融通スルコトアルヘシ  
 六、召集期間ハ時ヲ以テ計算ス

二、演習召集の召集聯隊は本籍地所在の師管内にある聯隊である、但し必要あるときは他の師管内にある聯隊に召集せらるゝ事がある、寄留地に於て勤務演習に應ずることの許可を受けたる者は寄留地所管の師團に召集せらるゝのである

附表第二

所管内ノ聯隊ニ召集スヘキ者ノ召集聯隊		區分	階級	召集聯隊
各兵科	上長官以下	士官	當該兵科ノ各隊	
經理部	准士官以下	准士官以下	各隊	
衛生部	士官准士官	士官准士官	師團司令部所在地ノ各隊	
	下士以下	下士以下	各隊	

獸醫部	士官	師團司令部所在地ノ騎、砲、輜重兵隊
	准士官以下	騎、砲、輜重兵隊
<p>一、師團長ハ演習召集ノ際特種ノ戰時職務ヲ有スル者ヲシテ之ニ適應スル勤務ヲ修得セシムル爲又ハ戰時充用上其ノ他必要アルトキハ師團内ノ他聯隊ニ召集シ其ノ勤務ヲ修得セシムルコトヲ得</p> <p>二、補助看護卒ノ召集聯隊ハ衛戍病院所在地ノ聯隊トス</p> <p>三、獸醫部下士適任證書ヲ有スル者ノ召集聯隊ハ獸醫部准士官以下ノモノト同シ</p>		

附表第三其一

電信隊又ハ飛行隊ニ於テ演習又ハ教育ノ爲召集スヘキ者ノ召集聯隊表	
聯隊	師管
電信第一聯隊	第一、第二、第三、第七、第八、第九、第十四、第十六師管
電信第二聯隊	第四、第五、第六、第十、第十一、第十二師管
飛行第一聯隊	第一、第三、第九、第十、第十四師管
同 第二聯隊	
同 第七聯隊	
同 第三聯隊	第四、第十一、第十六師管

同	第四聯隊	第五、第六、第十二師管
同	第五聯隊	第一、第二、第七、第八師管

備考

一、電信隊ノ無線及電氣中隊ニ於テ教育ヲ受ケタル者ハ電信第一條隊ニ之ヲ召集スルモノトス

二、飛行第七隊ニ召集スヘキ者ハ同聯隊ニ於テ服役シタル者トス

三、第一師管ニアリテハ飛行第七聯隊ニ召集スヘキ者ヲ除クノ外總テ飛行第五聯隊ニ之ヲ召集スルモノトス

附表第三其二

自動車ニ關スル教育ヲ受ケタル者ノ演習ノ爲召集スヘキ者ノ召集聯隊表	
聯隊	師管
近衛輜重兵大隊	第一、第十四師管
輜重兵第一大隊	第一、第二師管
同 第三大隊	第三師管
同 第四大隊	第四、第十師管
同 第五大隊	第五、第十一師管

同	第十四大隊	第七、第八、第十四師管
同	第十六大隊	第九、第十六師管
同	第十八大隊	第六、第十二師管

附表第三其三

他師管ニアル聯隊ニ召集スヘキ者ノ區分表								
召集師團	近衛師團	第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第七師團	第十二師團	第十六師團
本籍師管			重砲兵					
第二師團								
第三師團					重砲兵			
第五師團							重砲兵	
第六師團							山野戰重砲兵	
第八師團		山砲兵				重砲兵		
第九師團								重砲兵
第十師團					重砲兵			

第十一師團						重砲兵
第十四師團	野戰重砲兵	重砲兵				
第十六師團			野戰重砲兵			

備考

- 一 本表ニ示サ、ル砲兵科ノ者ニシテ當該師管内ニ該當召集聯隊ナキ時ハ適宜所管内ノ聯隊ニ召集スルモノトス
- 二、特別ノ必要アルトキハ關係師團長ノ協議ニ依リ前號又ハ本表ノ區分ニ準スル取扱ヲ爲スコトヲ得

# 陸海軍々事一班

## 兵役法の精神

一 兵役法の根本主義 帝國兵制の根本主義は國民皆兵である。従つて其の主要なるものは建國の歴史、國體民情、國勢等によりて自然的に決定せられたるもので、即ち國家は國民の團體にして、其の防護の名譽及び責任は、全國民の擧つて之を負ふべきものと爲すの理想、竝に建國の歴史及び之を宣明する憲法の條規に従ひ、國民皆兵を根本主義とし、均等なる必任義務の徵兵制を本體とし、義務志願兵制を併用し、速戰速決の要求より精兵主義を採用することに制定せられたものである。

## 陸軍服役の大意

一 滿十七歳から滿四十歳迄の男子は上下貧富の差別なく、齊しく兵役の義務を負担し國民としての本分を盡すと共に、一意奉公の任に當るの名譽を荷ふのである。

二 兵役は之を常備、後備、補充、國民の各兵役に區分し、常備兵役は之を現役及び豫備役に、補充兵役は之を第一、第二補充兵役に、國民兵役は之を第一及び第二國民兵役に區分されてある。

三 服役年限は左の通りである。

- 1、常備兵役 現役、二個年……滿二十歳に達した者又は兵役志願の者で検査に合格し現役兵として徵集せられた者が之に服する。
- 2、後備兵役 豫備役、五年四箇月……現役を終つた者が之に服する。十箇年……常備兵役を終つた者が之に服する。
- 3、補充兵役 第一補充兵役、十二年四箇月……現役に適する者で其年所要の現役兵員を超過した者の中所要の人員が之に服する。第二補充兵役、十二年四箇月……現役に適する者の中現役又は第一補充兵役に服せぬ者が之に服する。
- 4、國民兵役 第一國民兵役……後備兵役又は軍隊に於て教育を受けた補充兵で其の役を終つた者が之に服する。第二國民兵役……常備、後備、補充及び第一國民兵役でない者が之に服する。

四 幹部候補生 滿十七歳以上二十八歳未滿で配屬將校を附した學校（研究科、選科等の別科を除く）を卒業した者、又は配屬將校を附した高等學校の高等科と同等以上と認むる學校の第一學年の課程を終了した者の中其の配屬將校の行ふ教練を修了し其の檢定に合格し、且徵兵検査に於て現役兵たる資格を得たる者は幹部候補生を志願することを得、この志願者は現役兵と同じく指定された兵營に入營し三ヶ月の後部隊長の詮衡により幹部候補生を命ぜらる。

- 五 短期現役兵 満二十五歳迄に師範學校を卒業した者（小學校の教職に就く資格を失つた者を除く）が現役に服する場合は其期間は五箇月間、但し師範學校の教練を修了しない者は七箇月間である。
- 六 現役志願 満二十歳にならなくとも、満十七歳以上の者は志願に依つて現役に服することが出来る。
- 七 兵役免除 兵役に適せぬと認めらるゝ、疾病其の他身體又は精神に異常のある者は兵役は免除せられる。
- 八 入營、徵集延期 左に掲げる者は入營、徵集を延期せられる。
- 1、現役兵として徵集せられた者が入營の際疾病其の他身體又は精神の異常に依つて三十一日以内に治療の見込なく、尙勤務に堪へぬと認められた時は入營を延期せられる。
  - 2、中學校又は中學校の學科程度と同等以上と認むる學校に在學する者は、本人の願に依つて其の修業年限に應じて最大限満二十七歳迄徵集を延期せられる。
  - 3、満二十歳前から帝國外の地に在る者（支那露領沿海洲其他勅令で除外された地方に在る者を除く）は本人の願に依つて徵集を延期せられる。
  - 4、兵役の適否を制定し難い者は徵集を延期せられるが、適否の決定する迄は毎年徵兵検査を受けねばならぬ。
  - 5、犯罪者、家事故障の者は徵集を延期せられる。
- 九 徵集免除 徵集延期の第三項にある外國在留者で満三十七歳を過ぎても歸朝しない者、同第四項の者で満三十七歳迄猶徵集に適せぬ者及び同第五項の家事故障が三年を過ぎても猶止まぬ者は徵集を免除せられる。
- 十 徵兵は、師管及び聯隊區の區域に従つて徵集し、歩兵聯隊の兵員は其の聯隊區の壯丁を以て之に充て、其他の兵員は師管内の各聯隊區から徵集するのを通則として居る。
- 十一 體格の等位は毎年の徵兵検査で決定せられ甲、第一乙、第二乙、丙、丁、戊の六種に區分される。そして甲、第一乙、第二乙種は、現役及補充兵役に、丙種は國民兵役に服するのである。現役と補充兵役には定員があるから、抽籤で徵集順序を定められるのである。

十二 入營期日 現役兵（輻重兵特務兵を除く）は概ね徵集年の翌年一月十日に入營するのであるが、近衛、第十九、第二十の各師團及び獨立守備隊へ入營の者は徵集年の十二月一日（前期）又は徵集年の翌年の六月一日（後期）との二回に入營するのである。

輻重兵特務兵は毎年五期（第七師團は四期）に別れて入營するのである。

十三 召集には左の六種がある。

- 1、充員召集 動員に方つて、諸部隊の兵員を充足する爲め在郷軍人を召集するのである。
  - 2、臨時召集 戦時又は事變に際し必要あるとき、臨時に在郷軍人を召集し若くは平時に警備其他の必要に依つて歸休兵又は服役第一年度の豫備兵を召集するのである。
  - 3、國民兵召集 戦時又は事變に際し國民兵を召集するのである。
  - 4、演習召集 勤務演習の爲め在郷軍人を召集するのである。
  - 5、教育召集 教育の爲め第一補充兵を召集するのである。
  - 6、補缺召集 平時兵員の補缺を要する時歸休兵を召集するのである。
- 十四 簡閱點呼とは在郷下士官兵を一地に參會せしめて、之を點檢査閱教導するのである、

## 海軍服役の大意

○海軍服役の概要は次の通りである。

- 一 満十七歳から満四十歳迄の男子は總て兵役に服する義務のあることは陸海軍に何等の區別なく、その兵役は常備兵役、後備兵役、補充兵役、國民兵役に分ち、常備兵役は、之を現役及び豫備役に、補充兵役は之を第一、第二補充兵役に、國民兵役は之を第一、第二國民兵役に分つことも陸軍と同じである。
- 二 服役年限は次の通りである。

- 1、常備兵役 { 現役三年……満二十歳に達した者又は兵役志願の者で検査に合格し現役兵として徴集せられた者が之に服する。  
豫備役四年……現役を終つた者が之に服する。
- 2、後備兵役 { 五年……常備兵役を終つた者が之に服する。  
第一補充兵役一年……現役に適する者で其年所要の現役兵員に超過した者の中所要の人員が之に服する。
- 3、補充兵役 { 第二補充兵役十一年四箇月……第一補充兵役を終つた者が之に服する。  
第一國民兵役 後備兵役を終つた者が之に服する。
- 4、國民兵役 { 第二國民兵役 常備・後備補充及び第一國民兵役でない者が之に服する。
- 三 満二十歳にならなくとも満十七歳以上の者は志願に依つて現役に服することが出来る。そして徴兵として海軍に採用せらるゝ方法は凡て陸軍の場合と變りはない。
- 四 海軍には右の徴兵の外志願兵を徴募する。  
近年海軍の兵器機關等は著しく複雑になつて來たので、之を取扱ふには相當の技倆と、熟練が必要であるが徴兵は服役期間が短く、一人前になつた頃には現役を去る様になるので、重要な配置に就く者は、志願兵でなければ困るのである。従つて優秀な志願兵を得ると云ふことは國家のためにも大切なことである。即ち志願兵は我が海軍の中堅となり、その優秀なものは下士官となり准士官特務士官に進むのであるが、下士官兵から試験を受けて海軍生徒になり 士官に進む途も開かれてある。志願兵應募者の年齢は一般志願兵は満十七歳乃至満二十歳、掌電信兵は満十五歳乃至満十八歳、軍樂兵は満十六歳乃至満十九歳であるが、掌電信兵は高等小學校卒業其他は尋常小學校卒業程度で讀書算術の試験を受けなければならぬ。
- 五 志願兵と下士官の服役は徴兵と異なり次の如くである。  
尚現役兵から現役下士官に任せられたもので再服役を爲した者は志願兵の籍に入れられるのである。

志願兵	現役五年	豫備役四年	後備役五年
下士官	現役六年	豫備役四年	後備役三年

志願兵と下士官の現役は右の通りであるが更に服役を希望する者は、現役満期の前に二年を一期として、何回でも再現役を出願すれば詮議の上許されるのであるが、度々再現役をしても、下士官は四十歳迄で現役を終り四十五歳迄で全服役を終る。又兵は三十五歳で現役を終り、四十歳で全服役を終るのである。

六 現役を終つた者は、戦時事變の際に召集せられる。之を充員召集と云ひ、又平時演習のためにも召集せられる。之を演習召集と云ふ。尙海軍在郷軍人の状態、特に軍人精神及び軍事教育保持の程度、健康状態、召集に應ずる準備等を査閲し、必要の教訓を與へて其本分を全ふせしめる様に指導するため、一定の處に參會せしめて點呼を行ふのであるが、之を簡閱點呼と云ふのである。

### 軍人恩給救恤

- 一 軍人の恩給は次の七種ある。
  - 1 普通恩給
  - 2 増加恩給
  - 3 傷病年金
  - 4 一時恩給
  - 5 傷病賜金
  - 6 扶助料
  - 7 一時扶助料
- 二 普通恩給とは准士官以上の軍人在職十三年以上、下士官以下の軍人在職十二年以上又は平時戦時公務の爲傷痍を受け若は疾病に罹り、現役を退く者に給するものである。
- 三 増加恩給とは公務の爲傷痍を受け又は疾病に罹り、不具、廢疾となり現役を退くとき、普通恩給に加へて支給するものである。
- 四 傷病年金とは公務の爲永續性を有する傷痍を受け、又は疾病に罹り、不具、廢疾の程度に至らざるも勅令の定むる程度に達し之が爲一年以内で退職したるとき、又は下士官以下の軍人にして退職後一年以内に之が爲一種以上の兵役を免せられたる者に給するものである。
- 五 一時恩給とは准士官以上の軍人在職三年以上十三年未滿、又は下士官在職三年以上十二年未滿で退職

したるとき給するものである。

六 傷病賜金とは下士官以下の軍人公務の爲傷痍を受け、又は疾病に罹り、傷病年金を給せらるゝの程度に至らざるも、之が爲退職し、又は退職後一年内に一種以上の兵役を免せられたるとき給するものである。

本賜金は普通恩給又は一時恩給と併せ給することが出来る。

七 扶助料とは普通恩給を受け、又は之を受くべき資格を有する者が死亡した時、其遺族に給するものである。

八 一時扶助料とは第五條に掲ぐる職年数の者在職中に死亡したる時其遺族に給するものである。

九 軍人が従軍した時は、戦地では従軍一月に付三月戦地外では従軍一月に付一月半在職年を加算せらるゝものである。

其他戒嚴地境内の勤務外國鎮戍、滿洲國、臺灣、朝鮮勤務、邊陲又は不健康地の勤務等には勤務一ヶ月に付半月乃至二月在職年數を加算せらるゝものである。

### 軍旗の尊嚴

軍旗は一に聯隊旗と云ひ歩兵聯隊及騎兵聯隊に限り親授せらるゝもので、階下の御影と思惟すべき聯隊唯一の最榮貴重の標章であります。されば軍旗の榮辱は即ち國家の榮辱で、萬一之を敵手に委することあらば聯隊の不名譽之より甚だしきは千古雪ぐべからざる大恥辱であります。平時は之を隊の一室に奉置す。常に護衛兵を附し全聯隊の運動するときでなければ容易に之を出しません。若し出す時は故參少尉之を捧持し、四名の護衛兵を附し護衛兵の歩兵は着劍し、騎兵は抜刀して之を護衛するのであります。

### 陸軍禮式

禮式は之を分つて敬禮及儀式の二種とします。敬禮は又室の内外に依り或は軍人の間或は軍人と軍隊との間或は軍隊交互の間等によりて各特別なる規定があり上將校より下兵卒に至るまで皆之を遵奉し決して之を紊る者はありません。儀式には儀仗送迎及伺候式觀兵式禮砲式等あつて儀仗とは兩陛下又は高貴の人に儀仗の爲めに軍隊

を供奉せしむることを云ひ又兩陛下及高貴の人軍隊屯營地發着の時送迎の爲軍隊を整理するを迎送式と云ひ行在所又は旅館に將校の參伺するを伺候式と云ひます。觀兵式は天長節、陸軍始其他臨時の儀式に依り軍隊を集合し觀閲に供するもので之を閱兵式及分列式の二種に分ちます。禮砲式とは砲臺砲兵屯營の地に於て祝禮の爲め空砲を放發すること紀元節天長節又は臨時の祝日及兩陛下に對して百一發を放ち其他廿一發乃至十三發等放發數に種々なる區別があります。

### 海軍禮式

海軍に於ける普通の禮式は陸軍と大なる差はありません。今其特殊なるものを擧ぐれば禮砲、登桁禮式登舷登索禮式、軍艦に對する敬禮、滿艦飾及艦飾の五であります。禮砲は禮砲條例に従ひ軍艦に於て放發する空砲で兩陛下並に皇族外國の貴賓に對しては二十一發を放つ之を皇禮砲と云ひます。次に登桁禮式とは兩陛下並に皇族の軍艦に臨御せらるゝ時又は陸海軍將官の公務の時敬意を表する爲め各橋桁上に水兵を整理せしむるを云ふのであります。又軍艦の遠航を送り又は將士の歸朝を迎へん爲めに艦内の乗員を悉く上甲板に出し舷端に整理し綱索を攀ち登らしめ帽を上げ手布を振つて敬意を表することがある之を登舷登索禮式と云ひます。軍艦旗は陸軍の軍旗と同じく帝國の名譽を標章するものです。其之を昇降する時は喇叭を吹奏し將校兵卒盡く起立して姿勢を正して敬禮を行ふものであります。又滿艦飾は行幸啓の時又は大祭祝日に於て行ふもので各橋頭を亘り艦首より艦尾に至るまで旗旒を揚げ橋頂には軍艦旗を掲げて美麗に裝飾せるもので艦飾とは單に各橋頂に軍艦旗を掲げるを云ふのであります。

### 陸軍の編成

帝國の軍隊は近衛及十六箇師團より成り本州各地に屯在し又臺灣樺太の守備に任じ滿韓兩國に派遣されております。平時に於ける一師團の編成は通常左の通りであります。



歩兵 二旅團 四聯隊  
 騎兵 一聯隊 三又は五中隊  
 野戰砲兵 一聯隊 二大隊  
 工兵 一大隊 三中隊  
 輜重兵 一大隊 二中隊

此外近衛及第一の兩師團には騎兵二聯隊野戰砲兵三聯隊だけ多く隸屬されて各師團をなし猶近衛及第四師團には軍樂隊が置かれてあります中隊は平時に於ては若干の部隊に分ち之を給養班と稱してありますが戦時には班を廢して小隊とし小隊を又若干の部隊に分ちます歩兵砲兵工兵は凡て一中隊を三小隊に分けますが騎兵のみは特に四小隊として戰闘序列に於ては軍は通常若干師團騎兵旅團野戰砲兵旅團野戰電信隊後備諸隊若干及軍兵站部より成り時宜に依り之に徒歩砲兵及鐵道隊機關砲隊を附屬します而して師團は通例歩兵二旅團騎兵一聯隊野戰砲兵一聯隊工兵一大隊架橋縱列一箇彈藥縱列一箇輜重兵一大隊及野戰衛生部を以て編成するのであります各部

師團長	旅團長	聯隊長	大隊長	中隊長	小隊長	分隊長
中將	少將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉
					少尉	軍曹
					伍長	長

但工兵大隊長輜重兵大隊長は大、中、少佐とす

隊長の官位は普通右の通りであります但補缺の必要に際しては下級の者を以てすることもあります

### 海軍の編成

帝國の海岸及海面を分ちて五海軍區とし各海軍區に軍港を設け其軍港に鎮守府を置き以て警備の任に當らしめてあります鎮守府には海軍工廠海軍兵團水雷團病院監獄法術等悉く具はり海軍の策源地根據地にして出師の準備防禦の計畫海軍區の警備を掌り艦船の造營修理兵器及軍需品の供給を爲し大將又は中將を以て司令長官に補してあります軍港の所在地は第一海軍區横須賀第二海軍區吳第三海軍區佐世保第四海軍區舞鶴 猶對馬の竹敷

及澎湖島の馬公には要港部があります艦隊は軍艦二隻以上を以て編成し其編成若しくは任務の目的に依り又は差遣する所の海洋若しくは地方の名を冠し某艦隊と稱します

### 艦隊

艦隊には司令長官及司令官を置き其乗艦を旗艦と云ひます猶驅逐艦二隻以上を艦隊に編入する場合には之を以て特に驅逐隊を編成し司令官を置くことがあります又艦隊には必要に應じ水雷艇隊水雷敷設隊及運給病院船工作船等を附します  
 軍艦の艦隊に編入せられ又は警備練習測量其他特別の任務に服するものは凡て之を在役艦と云ひ其任務を解かれたるものを豫備艦と呼びます艦長は大佐又は中佐を以て之に充て小艦にありては少佐又は大尉を以てします又千噸上の軍艦には中佐若しくは少佐の副艦長を置くを例とします

### 陸軍新管區表

師管	第 一	第 二	第 三	第 四	第 五	第 六	第 七
聯隊區	麻布	甲府	本郷	佐倉	仙臺	福島	新發田
管	東京府	山梨縣	東京府	千葉縣	宮城縣	福島縣	新潟縣
轄	東京府	山梨縣	東京府	千葉縣	宮城縣	福島縣	新潟縣
區	麹町區	川越區	本郷區	北足立郡	南葛飾郡	南葛飾郡	南葛飾郡
城	神田區	北多摩郡	下谷區	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡
	日本橋區	比企郡	淺草區	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡
	京橋區	秩父郡	本所區	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡
	芝原區	小笠原島	深川區	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡
	麻布區		北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡
	赤坂區		北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡	北葛飾郡

第 一	第 二	第 三	第 四	第 五	第 六	第 七
大 阪	神 戶	堺	和 歌 山	廣 島	福 山	濱 田
大 阪 府	兵 庫 縣	兵 庫 縣	和 歌 山 縣	廣 島 縣	福 山 縣	濱 田 縣
西 宮 區	神 戶 市	神 戶 市	岸 和 田 市	山 口 縣	山 口 縣	山 口 縣
北 區	三 原 郡	三 原 郡	南 河 內 區	佐 波 郡	佐 波 郡	佐 波 郡
此 花 區	武 庫 郡	武 庫 郡	天 王 寺 區	厚 狹 郡	厚 狹 郡	厚 狹 郡
湊 區	川 邊 郡	川 邊 郡	浪 速 區	美 濃 郡	美 濃 郡	美 濃 郡
東 成 區	西 宮 市	西 宮 市	泉 北 區	那 賀 郡	那 賀 郡	那 賀 郡
東 淀 川 區	有 馬 郡	有 馬 郡	泉 南 區	那 賀 郡	那 賀 郡	那 賀 郡
西 淀 川 區	多 紀 郡	多 紀 郡	泉 南 區	那 賀 郡	那 賀 郡	那 賀 郡
	多 紀 郡	多 紀 郡	泉 南 區	那 賀 郡	那 賀 郡	那 賀 郡
	多 紀 郡	多 紀 郡	泉 南 區	那 賀 郡	那 賀 郡	那 賀 郡





海軍區劃表

名	稱	位	置
第一	海軍區軍港 橫須賀鎮守府	神奈川縣橫須賀市	青森縣、岩手縣、宮城縣、福島縣、茨城縣、千葉縣、東京府、神奈川縣、靜岡縣、愛知縣、三重縣、北海道及樺太の海岸海面
第二	海軍區軍港 吳鎮守府	廣島縣吳市	和歌山縣、大阪府、兵庫縣、岡山縣、廣島縣、山口縣、新潟縣、山形縣、京都府、福井縣、石川縣、富山縣、香川縣、大分縣、秋田縣、德島縣、高知縣、愛媛縣、郡界より以東の海岸海面
第三	海軍區軍港 佐世保鎮守府	長崎縣佐世保市	第二海軍區に屬するものを除きたる福岡縣の海岸海面及朝鮮の海岸海面

野砲兵第廿四聯隊	獨立山砲兵第第三聯隊	野戰砲兵第五聯隊	野戰砲兵第六聯隊	關重砲兵大隊	佐世保砲兵大隊	下知砲兵大隊	工知砲兵大隊	飛重砲兵大隊	輜重兵第四大隊	第十四師團	師團司令部	步兵第二十七旅團司令部	步兵第二十九旅團司令部	步兵第五十九聯隊	步兵第二十五聯隊	步兵第十八聯隊	騎兵第十五聯隊	野砲兵第十聯隊	工砲兵第十聯隊	輜重兵第十四大隊	
久留米	小倉	下關	佐世保	久留米	太刀洗	久留米	宇都宮	宇都宮	高崎	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	高崎	松本	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮
第十六師團	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部	步兵第九旅團司令部
京	大津	福知山	津	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京	京
步兵第七十五聯隊	步兵第七十六聯隊	步兵第七十七聯隊	步兵第七十八聯隊	步兵第七十九聯隊	步兵第八十聯隊	步兵第八十一聯隊	步兵第八十二聯隊	步兵第八十三聯隊	步兵第八十四聯隊	步兵第八十五聯隊	步兵第八十六聯隊	步兵第八十七聯隊	步兵第八十八聯隊	步兵第八十九聯隊	步兵第九十聯隊	步兵第九十一聯隊	步兵第九十二聯隊	步兵第九十三聯隊	步兵第九十四聯隊	步兵第九十五聯隊	步兵第九十六聯隊
會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會
寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南	寧南

# 青年訓練ニ關スル諸規程

青年訓練所令(勅令第七十號)  
(大正十五年四月十九日)

- 第一條 青年訓練所ハ青年ノ心身ヲ鍛練シテ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ以テ目的トス
- 第二條 青年訓練所ニ於テ訓練ヲ受クルコトヲ得ル者ハ概ネ十六歳ヨリ二十歳迄ノ男子トス
- 第三條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年訓練所ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 私人ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ青年訓練所ヲ設置スルコトヲ得
- 第五條 青年訓練所ノ訓練項目ハ修身及公民科、教練、普通學科、職業科トス
- 第六條 普通學科及職業科ノ科目ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第七條 特別ノ事情アルモノニハ文部大臣之ヲ定ムル所ニ依リ訓練項目ノ一部ヲ課セサルコトヲ得
- 第八條 青年訓練所ニ主事及指導員ヲ置ク
- 第九條 青年訓練所ニ於テハ訓練ヲ受クル者ヨリ費用ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限リニ在ラス
- 第十條 青年訓練所ハ地方長官之ヲ監督ス
- 第十一條 青年訓練所ノ設置發止、訓練ノ課程其ノ他必要ナル事項ハ文部大臣之ヲ定ム

青年訓練所規程 (文部省令第十六號)  
(大正十五年四月二十日)

- 第一條 青年訓練所ノ訓練期間ハ四年トス
- 第二條 青年訓練所ニ入所スルコトヲ得ル者ハ前年十一月三十日ニ於テ十六歳以上十七歳未滿ノ者トス但シ特

別ノ事情アルモノハ十七歳以上ニシテ入所スルコトヲ得

- 第三條 青年訓練所ノ入所期ハ毎年一月トス但シ特別ノ事情アルモノハ中途之ヲ入所セシムルコトヲ得
- 第四條 青年訓練所ノ訓練項目中普通學科並職業科ノ科目及其ノ程度ハ高等小學校卒業程度ヲ基準トシ地方ノ狀況ニ準シ實際生活ニ適切ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ授クルモノトス
- 第五條 青年訓練所ノ訓練時數ハ四年ヲ通シテ修身及公民科百時、教練四百時、普通學科二百時、職業科百時ヲ下ラサルモノトス
- 第六條 市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合區域内ニ於テ青年訓練ヲ受クルコトヲ得ル者概ネ其ノ區域内ノ公立實業補習學校ニ在學シ且地方長官ニ於テ當該實業補習學校ノ課程ヲ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認ムル場合ハ當該實業補習學校ヲ以テ青年訓練所ニ充ツルコトヲ得
- 第七條 現ニ學校ニ在學スル者若クハ相當ノ學力アリト認メラレタル者又ハ特別ノ事情アル者ニ對シテハ一部ノ訓練項目ヲ課セサルコトヲ得
- 第八條 現ニ學校ニ在學シ地方長官ニ於テ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムル者ハ之ヲ青年訓練所ノ訓練ヲ受クル者ト看做ス
- 第九條 兵立青年訓練所ハ當該市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ區域内ニ居住スルモノヲ入所セシムルヲ常例トス
- 第十條 公立青年訓練所ハ實業補習學校又ハ小學校ニ併置スルヲ常例トス
- 第十一條 青年訓練所ノ訓練ハ土地ノ情況ニ應シ適當ナル季節ヲ選ヒテ之ヲ行フコトヲ得
- 第十二條 私人又ハ工場、鑛山、商店等ニ於テ青年訓練ヲ受クルコトヲ得ル者ヲ多數ニ使用スル場合ニ限リ青年訓練所ヲ設置スルコトヲ得
- 第十三條 青年訓練所ヲ設置セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ公立青年訓練所ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立青年訓練所ニ在リテ其ノ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

- 一、名稱
- 二、位置
- 三、規則
- 四、青年訓練ヲ受クル者ノ概數
- 五、開設年月日
- 六、經費及維持ノ方法

前項第一號乃至第三號ノ變更ハ地方長官ニ開申スヘシ

第十四條 青年訓練所ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 青年訓練所ノ主事ハ所務ヲ掌理シ指導員ハ主事ノ指揮ヲ受ケ訓練ヲ擔當ス

第十六條 公立青年訓練所ノ主事ハ實業補習學校長又ハ小學校長ニ、指導員ハ實業補習學校又ハ小學校ノ教員

在郷軍人其補當ト認メタル者ニ地方長官之ヲ囑託ス

公立青年訓練所ノ主事及指導員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

私立青年訓練所ノ主事及指導員ハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十七條 青年訓練所ハ別表ノ様式ニ依リ青年訓練名簿ヲ調製スヘシ

第十八條 青年訓練所ハ訓練ヲ受クル者ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第十九條 青年訓練所ハ訓練ヲ受クル者ヲシテ青年訓練手帳ヲ所持セシムヘシ

青年訓練手帳ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 青年訓練所ハ青年訓練ノ課程ヲ修了シタル者ニ修了證ヲ授與スヘシ

附 則

大正十五年ニ限リ大正十五年七月一日迄ニ入所シタル者ハ同年入所シタルモノト看做ス

青年訓練ノ要旨及實施上ノ注意事項 (文部省訓令第八號) (大正十五年四月二十一日)

今回勅令第七十號ヲ以テ青年訓練所令ヲ公布セラレ文部省令第十六號ヲ以テ青年訓練所規程ヲ定メタリ仍テ茲ニ其ノ要旨ヲ明ニシ且之カ實施上必要ナル事項ヲ舉示セムトス

青年ノ心身ヲ鍛練シテ健全ナル國民善良ナル公民タルノ資質ヲ涵養スルハ我國內外ノ情勢ニ鑑ミ頗ル緊切ナルヲ覺ユ然ルニ現下青年教養ノ施設ハ逐年發達ノ趨勢ニアリト雖モ尙未タ十分ナラサルモノアリ是レ今回青年訓練ノ制ヲ定メ一般青年ニ對シテ適切ナル訓練ヲ行ハムトスル所以ナリ而モ本訓練ノ結果ハ兵役ニ服スル者ニ對シ在營年限ノ短縮ヲ伴フカ故ニ其ノ國家産業ノ進展ニ及ホスヘキ効果モ亦頗ル大ナルモノアルヘシ

本訓練ノ期間ヲ四年トシ前年十一月末日ニ於テ十六歳以上十七歳未満ノ者ヲ毎年一月青年訓練所ニ入所セシムルヲ以テ常例トシタルハ青年修養上最重要ナル時期ヲ稽ヘ且本訓練ヲ受ケタル者ノ入營期ヲ顧慮シタルニ由ル從テ中途入所スル者ニ就テハ其ノ事情ヲ精査シ以テ本施設ノ趣旨ヲ紊ルカ如キ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス

青年訓練ノ訓練項目ニ關シテハ別ニ其ノ要旨等ヲ明ニスヘシ之カ運用ニ就テハ深ク本施設ノ目的ニ鑑ミ從テ專門的知識ヲ與ヘムトスルカ如キ弊ニ陥ルコトナク且各項目相互ノ聯絡ニ力メ以テ訓練ノ效果ヲ完ウセンコトヲ要ス

訓練ノ時期ニ關シテハ青年ノ生業ヲ妨ケサルコトヲ期シ適當ノ季節ヲ選ヒテ之ヲ行ハシムヘシ而モ本施設ハ四年通シテ持續的ニ青年ノ心身ヲ鍛練スルヲ要旨トスルカ政ニ全課程ヲ一時ニ壓縮シテ之ヲ授タルカコトナキヲ要スルヤ言フ俟タス

訓練ヲ受クル者ニシテ相當ノ素養アルモノ等ニ對シ一部ノ項目ヲ免除スルノ途ヲ開キタルハ青年訓練ヲ受クルコトヲ得ル者ニシテ或ハ中等教育ヲ修了者又ハ中途退學者ノ如キ或ハ實業補習教育ヲ受ケタル者ノ如キ更ニ本施設ニ於ケル全部ノ項目ヲ授クルヲ要セサル者アルカ故ナリ而モ修身及公民科並教練ハ本施設ノ目的ニ鑑ミ他ノ項目ト同一ニ取扱フヘキモノニアラサルヲ以テ特ニ定ムル場合ノ外ハ之ヲ缺クコトナカルヘシ項目免除ノ

程度ニ關シテモ亦別ニ指示スル所アルヘシト雖モ之カ運用ニ就テハ本施設ノ趣旨ニ留意シ苟モ訓練ノ效果ヲ減殺スルカ如キコトナキヲ期セシムヘシ

本施設ト實業補習學校トノ關係ニ就テハ本施設ハ大體ニ於テ實業補習學校前期ヲ修了シタル者ニ對シ更ニ適當ノ訓練ヲ行ヒ實業補習學校ノ後期以上ノ課程ヲ修メタル者ニハ一部ノ課程ハ之ヲ缺クヲ得シムルコトトシ殊ニ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ區域内ニ於テ青年訓練ヲ受クルコトヲ得ル者概ネ其ノ區域内ノ公立實業補習學校ニ在學シ且當該學校ノ課程ニシテ青年訓練所ノ課程ト同等以上ナル場合ハ當該學校ハ之ヲ以テ青年訓練所ニ充ツルコトヲ得セシメ又現ニ學校ニ在學シ青年訓練ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムル者ハ之ヲ青年訓練所ノ訓練ヲ受クル者ト看做ス事トナシタルカ故ニ本施設ハ寧ロ實業補習教育ヲ補充促進スヘキモノタリサレハ兩者ハ相俟テ十分ノ效果ヲ収メムコトヲ期スヘク尙義務教育終了者ニ對シテハ成ルヘク高等小學校又ハ實業補習學校等ニ入學スルコトヲ獎勵シ以テ本施設ノ趣旨ヲ達成セシムルコトニ力ムヘシ

本施設ト青年訓練ヲ受クル者ノ多數ハ青年團員タルヘキヲ以テ本施設ハ青年團ノ修養機關ノ一ツトシテ相互聯絡ヲ密接ナラシメ以テ兩者ノ圓滿ナル調和的發達ヲ期スヘシ

本施設ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ爲スヲ本旨トスルモノニシテ私人ニ對シ之カ施設ノ途ヲ開キタルハ工場、鑛山、商店等ニ於テ多數ニ青年ヲ使備スル場合ニ限リ其ノ特例ヲ認メタルニ過キサレハ私人ノ施設ヲ認ムル場合ニ於テハ此ノ趣旨ニ顧ミ取扱上遺憾ナキヲ期スヘシ

本施設ニ對スル市町村長、主事、指導員ノ相互ノ關係ニ就テハ市町村長ハ本施設ノ全般ヲ管理シ主事ハ青年訓練所ノ所務ヲ掌理シ指導員ハ其ノ指揮ノ下ニ訓練ヲ擔當スルモノナルヲ以テ其ノ任ニ當ル者ハ學校教員タルト否トヲ問ハス等シク主事ノ命ヲ承ケ其ノ任務ニ服シ苟モ規律ヲ紊シ統一ヲ缺クカ如キコトナカラシムヘシ

青年訓練所ニ青年訓練名簿及出席簿ヲ備付ケシメ青年各自ニ手帳ヲ所持セシムルコトトシタルハ本施設ノ特質ニ鑑ミ特ニ平素ノ訓練ヲ督勵シ其ノ功程ヲ明ニセムコトヲ期シタルニ依ルサレハ之ニ關スル事務ハ此ノ趣旨ニ對シ遺漏ナカラシムコトヲ期スヘシ

本施設ハ市町村等ニ之ヲ強制スルノ趣旨ニアラスト雖モ之カ實施ハ時勢ノ實情ニ鑑ミ正ニ喫緊ノ事タルヲ以テ事情ノ許ス限リ進ンテ之カ普及發達ニ力ムヘク又青年ヲシテ不斷ニ其ノ修養ヲ勵ミ心身ヲ鍛鍊スルノ最緊切ナルヲ思ヒ自ラ進ンテ訓練所ニ入所セシムルノ風ヲ馴致スルト共ニ或ハ青年團ノ後援ニ依リ或ハ青年使備者等ノ協力ニ依テ其ノ徹底ヲ期スヘシ

本施設ハ創始ノモノタルヲ以テ今後之カ發達ノ基礎ヲ鞏固ニシテ所期ノ效果ヲ収メムカ爲ニハ地方ノ事情ニ應シ各般ノ事ニ亘リ細心ノ留意ヲ要スヘシ就中市町村長、主事、指導員其ノ他地方一般ヲシテ本施設ノ趣旨ヲ諒知セシメ協同一致以テ之カ完成ニ力メシムコトヲ要ス

以上ハ今回實施セムトスル青年訓練ノ施設上必要ナル事項ヲ指示シタルモノナリ地方長官ハ克ク此ノ本旨ヲ諒知シ本施設ノ實績ヲ収メムカ爲ニ遺算ナカラムコトヲ期セラルヘシ

青年訓練所ニ於ケル教練查閱ニ關スル件 (勅令第七十八號) (大正十五年四月二十三日)

陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ青年訓練所令ニ依リ設置シタル青年訓練所ニ於ケル教練ヲ查閱セシムルコトヲ得

青年訓練手帳様式 (文部省告示第二百六十五號) (大正十五年四月二十六日)

一、手帳ノ大サ等ハ左ノ通トス  
表裝ハクローストシ成ルヘク青色又ハ綠色ノモノニシテ水氣ニ堪ヘ且汚損シ難キモノヲ用フルコト



表

青年訓練手帳

↑ 四寸五分

← 六分寸二

現居住所 移轉シタル年月日	名氏	
	年月日生	原籍
現居住所	戸主ト	ノ關係
	年	月
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日

二、卷頭ニハ教育ニ關スル勅語ヲ奉記シ青年訓練手帳ニ關スル心得ヲ掲ケ假名ヲ附スルコト

裏

名氏

卒業(終了)ノ年月日 卒業(終了)シタル學校名及學年	學 歴	
	年	月
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日
年	月	日

三、訓練ニ關シ必要ナル事項ヲ記入スル爲左ノ各欄ヲ設クルコト

入所退所修了

青年訓練所名	年	月	日	年	月	日	年	月	日
入所年月日	年	月	日	年	月	日	年	月	日
主事印退所又ハ修了年月日	年	月	日	年	月	日	年	月	日

項目 身修及公料 教練 普通學科 職業科 合計 主事印 時數	年	年	年	年	年	年	年	年	年	計
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計
免除時數	年	年	年	年	年	年	年	年	年	計
免除時數	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計
免除時數	日	日	日	日	日	日	日	日	日	計
合計	年	年	年	年	年	年	年	年	年	計
合計	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計
合計	日	日	日	日	日	日	日	日	日	計

備考

四、各欄ノ紙數ハ適宜トスルコト

(参照)

青年訓練手帳ニ關スル心得

- 一、本手帳ハ訓練所ニ出席ノ際必ス携帯スヘシ
- 二、本手帳ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉記シ且訓練ニ關スル重要事項ヲ記載スルモノナレハ細心ノ注意ヲ以テ之ヲ取扱ヒ汚損又ハ紛失等ノコト無キヲ期スヘシ
- 三、本手帳中學歴欄及出席時數欄ハ青年訓練所ニ於テ之ヲ記入スヘシ 但シ出席時數欄ハ當該年次ノ終リタルトキ之ヲ記入スルモノトス
- 四、前項以外ノ各欄青年訓練ヲ受クル者ニ於テ適宜記入スルモノトス
- 五、居住所移轉等ノ事由ニ因リ退所スル場合ニ於テハ本手帳ヲ青年訓練所ニ提示シ出席時數其ノ他當該訓練所ニ於テ受ケタル訓練ニ關係アル事項ノ記入證明ヲ受クルモノトス
- 六、他ノ青年訓練所ニ入所シタルトキハ其ノ青年訓練所ニ本手帳ヲ提示スルモノトス
- 七、本手帳ヲ滅失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ新ニ手帳ヲ當該訓練所ニ提出シテ必要ナル事項ノ記入ヲ受クヘシ

青年訓練所訓練時數ニ關件スル件

(文部省令第一七九號)  
(大正十五年五月三日)

青年訓練所ニ本年七月一日迄ニ入所シタル者ニ對シ本年十二月迄ニ課スヘキ訓練項目ノ時數ノ程度ニツキ間合セノ向モ尠ラサルカ右ハ教練ニ就テハ百時ヲ標準トシ他ノ項目ニ就テハ七月以後ノ適當ナル季節ニ於テ適宜課スル様致度爲念此段通牒ス

追テ七月一日迄ニ入所シタル者ノ第二年次以後ノ各年次ノ訓練時數ニ就テハ四年ノ訓練時數ヲ一年次ニ平均シタル時數ヲ標準トシテ課スル儀ト御承知相成度

青年訓練所訓練要旨

(文部省訓令第十四號)  
(大正十五年五月四日)

青年訓練所訓練要旨左ノ通り定ム地方長官ハ本要旨ニ依據シ青年訓練所ヲシテ更ニ適切ナル課程ヲ作り以テ實績ヲ收メシメンコトヲ期セラルヘシ

青年訓練所訓練要旨

修身及公民科

修身公民科ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キテ道德上ノ思想及情操ヲ涵養シ時代ノ趨勢ニ鑑ミテ國民生活ニ必須ナル心得ヲ授ケ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ要旨トス  
修身及公民科ハ特ニ國家的觀念及立憲ノ本義ヲ明徴ナラシメ公民トシテ責務ヲ完カラシムルニ必要ナルコトヲ留意シテ之ヲ授クヘシ

注意

- 一、修身及公民科ヲ授クル際ニハ青年ノ年齢境遇ニ適應セシメ特ニ實際生活ニ適切ナル事例ヲ引用スヘシ
- 一、忠良賢哲ノ記念日、國民ノ記念スヘキ日及教訓ニ資スヘキ事件ニ偶當シタル場合等ニ於テハ之ニ因ミテ適宜教訓スヘシ

- 一、授業ノ際濫ニ時事ヲ批議スル等ノコトナカルヘシ

教練

教練ハ心身ヲ鍛練シ堅忍剛毅ノ精神ヲ重シシ協同ヲ尙フノ習慣トヲ以テ要旨トス  
教練ニ於テハ凡ソ左ノ事項ヲ授クヘシ

- 各個教練 部隊教練 陣中勤務 旗信號 距離測量 軍事講話等

注意

教練ヲ授クル際ニハ適宜體操ヲ課シ尙競技ヲ加フルコトヲ得

普通學科

普通學科ハ日常必須ノ智能ヲ増進セシムルヲ以テ要旨トス

普通學科ハ國語、數學、歷史、地理、理科等ニ關スル事項ニ就キ適宜之ヲ授クヘシ

注意

- 一、國語、數學、理科等ニ關スル事項ハ職業ニ適切ナルモノニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 一、歷史及地理ハ特ニ修身公民科トノ聯絡ヲ保チ我カ國體及國勢ヲ知ラシメ國民精神ヲ涵養スルニ必要ナル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

職業科

職業科ハ職業ニ關ス智能ヲ授ケ職業ニ對スル趣味ト勤勞ヲ重ニスル習性トヲ養フヲ以テ要旨トス  
職業科ハ農業、工業、商業等ノ中ニ就キ土地ノ情況ニ適切ナル事項ヲ授クヘシ

注意

- 一、職業科ニ於テハ能率増進ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 一、職業科ニ於テハ成ルヘク實習ヲ指導シ且見學等ヲ爲サシムヘシ

青年訓練ニ關スル件

(文部省發普第一九二號)  
大正十五年五月七日

一、青年訓練ニ關スル事務分掌ニ關スル事項

- 一、青年訓練ニ關スル事務ハ社會教育ニ屬スルモノナルヲ以テ道府縣ニ於テハ教育ニ關スル事項ヲ主管スル課ニ於テ之ヲ處理セシメラルルハ勿論、既ニ地方社會教育職員制モ制定セラレタルニ就テハ青年訓練ニ關スル事務ハ同職員ヲシテ主トシテ之ニ當ラシムルコト
- 二、青年訓練ヲ受クル者ノ年齢ニ關スル事項

毎年十一月三十日ニ於テ十六歳以上十七歳未満ノ年齢ニ在ル者ヲ翌年入所スルコトヲ得ルモノトシ訓練ハ四年ヲ以テ修了スルコト

三、中途入所スル者ノ取扱ニ關スル事項

青年訓練所規程第二條及第三條ノ但書ニ依リ入所シタル者ト雖其ノ訓練ノ修了期ハ正規ニ入所シタル者ト同様トスルコト同但書ノ本旨ハ病氣、居住所移轉、學校ノ半途退學又ハ卒業其ノ他已ムヲ得サル事情アル者ニ限り中途入所ノ途ヲ開キタルモノナルヲ以テ之カ適用ニ就テハ慎重ニ取扱フコト

四、實業補習學校ヲ以テ青年訓練所ニ充ツル場合ニ關スル事項

(一) 青年訓練所規程第六條ニ依リ地方長官ニ於テ實業補習學校ノ課程ヲ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認ムルニ就テハ管理者ノ申請ニ依ルコトトシ、當該學校ニ於テ十六歳以上二十歳迄ノ青年ヲ概ネ収容シ且其ノ授業ハ青年訓練所ト同シク四年ニ亘ル場合ニ限ルコト

(二) 實業補習學校ヲ以テ青年訓練所ニ充テタル場合ハ別ニ青年訓練所ノ設置ヲ要セサルモ當該實業補習學校カ青年訓練所ニ充テラレタルモノナルコトヲ適當ニ標示シ且青年訓練名簿ヲ備付ク生徒ニハ青年訓練手帳ヲ所持セシメ其ノ修了者ニハ證明書ヲ交付スルコト

五、現ニ學校ニ在學シ青年訓練所ノ訓練ト同等以上ノ訓練ヲ受クル者ト

看做サレタル者ノ證明ニ關スル事項

青年訓練所規程第八號ニ依リ青年訓練所ノ訓練ヲ受クル者ト見做サレタル者ニシテ訓練ヲ受クルコトヲ得ル最髙年齢(二十歳以上二十一歳未満)ニ達スル迄當該學校ニ在學セル場合ハ其ノ學校ニ於テ本人ニ對シ第十五項第二號様式ニ準シ青年訓練所ノ課程ト同等以上ノ課程ヲ修メタルコトヲ明ニシタル證明書ヲ交付スルコト

六、青年訓練所項目免除ニ關スル事項

現ニ學校ニ在學シ當該學校ニ於テ青年訓練所ノ訓練項目ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ修ムル者ニ對シテハ當該項目ハ青年訓練所ニ於テ之ヲ免除スルコト

前項ノ場合ノ外青年訓練所ノ項目免除ニ關シテハ左ノ例ニ依ルコト

(一) 修身及公民科ハ一般ニ之ヲ課スルコト 但シ相當ノ素養アル者ニ對シテハ課程ニ適當ナル斟酌ヲ加フルコト

(二) 教練ハ一般ニ之ヲ課スルコト 但シ身體ノ情況ニ依リテハ課セサルヲ得ルコト

青年訓練所以外ニ於テ正課トシテ教練ノ授業ヲ受ケタル者ニ對シテハ主事ハ指導員ノ意見ヲ聞キ青年訓練所ニ於ケル教練時數ヲ左ノ範圍内ニ之ヲ減スルコト

- 1 現役將校ヲ配屬スル學校(尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル學校)ニ於テ第二學年程度(高等小學校第一學年修了程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年)迄教練ヲ修得スル者ニ對シテハ百時ヲ減スルコト
  - 2 同第三學年程度(高等小學校第二學年修了程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第一學年以下之ニ做フ)迄教練ヲ修得セル者ニ對シテハ二百時ヲ減スルコト
  - 3 同第四學年程度迄教練ヲ修得セル者及第五學年程度迄教練ヲ修得セルモ教練ノ檢定ニ合格セサル者ニ對シテハ三百時ヲ減スルコト
  - 4 同第五學年程度迄教練ヲ修得シ教練ノ檢定ニ合格シタル者ニ對シテハ全時數ヲ缺クコト
  - 5 商船學校ハ現役將校ヲ配屬スル學校ト見做スコト
  - 6 高等小學校卒業者、實業補習學校前期修了者其ノ他ノ學校第二學年程度修了者ニ對シテハ百時ヲ減スルコト
  - 7 地方長官ニ於テ青年訓練所ノ教練ノ課程ト同等以上ト認メタル教練ノ課程ヲ修メタル者引續キ青年訓練所ニ入所シタル場合ハ當該青年訓練所ニ於テハ其ノ入所以後ノ次年ニ配當シタル教練時數ヲ授クルコト
- 教練時數ヲ減少スル場合ニ於テモ成ルヘク各年次ニ平均シテ持續的ニ教練ノ授業ヲ受ケシムルコト

(三) 普通學科及職業科

- 1 實業補習學校後期以上ノ修了者及尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トシテ實業教育ヲ施ス中等學校第三學年修了程度(高等小學校第一學年修了程度ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ第二學年以下之ニ做フ)以上學力アル者ニ對シテハ普通學科及職業科ハ之ヲ課セサルヲ得ルコト
- 2 前號以外ノ中等學校第三學年修了程度以上ノ學力アル者ニ對シテハ普通學科ハ之ヲ課セサルヲ得ルコト

七、學校ノ課程ヲ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認ムル場合ノ取扱ニ關スル事項

青年訓練所規則第八條ニ依リ地方長官ニ於テ學校ノ課程ヲ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認ムルニ就テハ道府縣立學校ニ在リテハ學校長、市町村立學校ニ在リテハ當該市町村長、私立學校ニ在リテハ其ノ設立者ノ申請ニ依ルコト學校ノ課程ノ認定ヲ爲ス場合ニ於テ教練ニ就テハ當該學校所在地所管ノ師團長ヲ經テ青年訓練所ノ教練查閱官ノ意見ヲ聞クコト此ノ場合ニハ同查閱官ニ於テ當該學校ノ視察ヲ爲スコト

八、訓練查閱ニ關スル事項

教練查閱ハ青年訓練所ノ訓練ノ外青年訓練所ニ充テタル實業補習學校ノ教練及青年訓練所ノ課程ト同等以上ノ課程ヲ授クルモノト認メラレタル學校ノ教練ニ對シテモ行ハルヘキコト

九、青年訓練所ノ規則ニ關スル事項

青年訓練所ニハ凡ソ左ノ事項ヲ掲ゲシムルコト

- 一、訓練項目及其ノ課程ニ關スル事項
- 二、訓練實施ノ季節及授業日時ニ關スル事項
- 三、入所退所ニ關スル事項
- 四、課程ノ修了ニ關スル事項
- 五、青年訓練所設置廢止等ノ際公示ニ關スル事項